努力に勝る天才なし

ドリョクニマサルテンサイナシ

PART Ⅱ

好文学園女子高等学校
校長 延原 観司

表紙の写真

好文学園女子高等学校弓道場にて

射手　狩野智美

（弓道部17期主将 平成21年卒）

はじめに

今年で校長職に就いて8年目を迎えました。平成19年、校長に就任した時に入学し卒業後大学に進学した生徒は、今年から新入社員となりました。短大卒業後、保育士としてキャリアを積んでいる生徒もいます。特進コース1期生は今年6月に教育実習に戻ってきました。このように卒業生が各々の分野で目的に向かって元気に活躍していることを大変嬉しく思います。

グローバル化と少子高齢化が進み、競争の激化と非正規雇用比率が高まる中、高度成長期のような単線のキャリア形成は有効性を失いつつあり、進路指導にも幅が求められています。また、文部科学省の定めた学習指導要領では、国語科を中心に言語活動の重要性が叫ばれているにもかかわらず、SNSの発達が、Face to Faceのコミュニケーションを阻害し、子どものみならず大人の世界でもLINEやTwitterでのトラブルが後を絶ちません。科学技術の進歩が人間の幸せを増大してきたことは間違いありませんが、ここにきて、その弊害が目立ちます。学校にとって、教師にとって難しい時代になりました。

この度、好文木総集編、「努力に勝る天才なし」の続編を発行することになりました。

「森羅万象、売りか買いか」とは、総合商社トップの言葉ですが、私にとっては今や森羅万象が教育の種です。経営書を読んでいても、ドラマを観ていても、すぐに生徒の問題に置き換えて考えてしまいます。この続編では、私の考え方に変化を見出される向きも多いと思いますが、それは現場第一主義のなせる業であって、けっして改革意欲が後退したのではありません。正論が通れば、理屈通りに物事が運べば、決断は要らないのです。生徒も人なら、教師も人、思い通りにゆかないものです。押してもだめなら引くことも必要です。教育には「遊び」と「忍耐」が必要です。

私は就任以来、校長室をオープンにしてきました。職員室側のドアは常に開かれており、生徒が相談に来やすい環境を維持しています。昨年末には校長ポストも設置しました。校長室には、悩みの相談だけではなく、遊びに来る生徒も沢山います。校長室を訪れる生徒が、「悲しみを一つ減らし、怒りを一つ鎮め、そして少し希望を育てて行ける」そんな校長室であり続けることが、「好文のこころ」だと思っています。

平成26年10月吉日
好文学園女子高等学校
校長　延原 観司

目次

はじめに……1
151 嬉しい一言……4
152 梅雨を前に……5
153 修学旅行を考える……6
154 ヒゲの殿下ご逝去とAKB48総選挙 7
155 だてマスク……8
156 電車通勤のベネフィット……9
157 信なくば立たず……10
158 夏休み雑感～台北を訪れて……12
159 『鬼平』に学ぶ……14
160 大卒ニート3万人……16
161 変わる大学学園祭……19
162 タメ口が日本を滅ぼす……20
163 教師の条件……22
164 掃除から生まれたもの……23
165 好文学園クレド……25
166 人の世がまことにおもしろく……26
167 曲論のなかの正論……28
168 師走の衆院選に思う……30
169 大変な時代……32
170 総選挙結果に思う……35
171 二学期の終業式にあたり……36
172 2013年を迎えて……37
173 なんのためのクラブ活動か……40
174 「キャリア教育」考……42
175 センター試験前夜……44
176 伝統とは……45
177 ある朝の出来事……47
178 近づく卒業式に思う……48
179 マニュアル化と管理主義社会の足音 50
180 卒業生との語らい……52
181 卒業生の卒業公演を楽しむ……53
182 自分自身の物語を紡ぐ
～平成24年度卒業式式辞より～……54
183 卒業生からの手紙……55
184 事件は会議室で起こっている?……57
185 人生には損切りは向かない……58
186 吹奏楽部第一回定期演奏会……60
187 4月1日、東京にて思う……61
188 努力と試行錯誤を通じて希望をつくる
～平成25年度入学式式辞～……63
189 春風駘蕩、新年度スタート……64
190 ぼんやりとした不安……66
191 卒業生との食事会……68
192 年収1億円か100万円の時代……70
193 皐月……71
194 楕円の思想……72
195 ケイタイと絆……73
196 卒業生の声……75
197 バラが咲いた……76
198 英語教育を考える……77
199 就活における企業の本音……79
200 環境省のスーパークールビズに物申す 81
201 センター試験廃止へ!?……82
202 やさしい先生という評価は?……83

203 素直さの効用……84
204 「民間校長3か月で辞任」に思う……85
205 コミュニケーション・ツールの罠……86
206 トップの報酬……87
207 働く笑顔のあなたは美しい……88
208 IT革命の矛と盾……89
209 「いじめ防止対策推進法成立」に思う……90
210 第二の開国……93
211 夢と希望のちがい……94
212 短くなる夏休み……96
213 すべての道は生徒指導に通ず……97
214 バットマン・リターンズはご容赦を……98
215 現場から見えること……100
216 若手育成に寄せて……103
217 若手育成に寄せて2……104
218 ありがとう、演劇部……105
219 金木犀の香り……107
220 同窓会の思いを胸に……108
221 決して昔に戻さない……109
222 上海紀行……111
223 今蘇る上司の言葉……112
224 入試における人物重視論から考える……114
225 最近思うこと……116
226 寄り添う気持ち……117
227 「型」と「形」……118
228 民間人校長について……120
229 採用、再び成績重視へ……121
230 OPEN DOOR & OPEN MIND……122
231 小嶺流3つの目線……123
232 さよならキラキラワード……124
233 日本史、必修へ……126
234 新春雑感……127
235 センター試験日に思う……128
236 木組み、人組み……130
237 国語強靭化計画……131
238 新人研修始まる……132
239 先生といわれるほどの……133
240 如月のころ……135
241 NHK経営委員会と教育委員会……136
242 氷雨の朝……138
243 教員免許証……140
244 ユーフォリア……141
245 オリンピックを考える……143
246 IT化、欧米流の落とし穴……144
247 だてマスクに潜む危険……146
248 平成25年度卒業式式辞……147
249 卒業式を終えて……149
250 ビットコイン……150
251 若者の厳しい現実……152
252 新入社員のタイプ……153
253 ユニクロ店舗全員経営に学ぶ……154
254 平成26年度入学式式辞……156
255 卒業生の思いに……157
256 新学期始まる……159
257 春うららの休日……160

151
2012/5/21

嬉しい一言

先日、今年3月に特進コースを卒業した生徒がやってきました。今年の学校案内に、写真とコメントを載せてほしいと依頼したところ、快諾してくれたのです。校長室に入ってきた彼女は、満面に笑みをたたえ、現状にいかに満足しているかを語ってくれました。特進コースに入学時の成績は一番下だったのですが、3年間まじめに勉強し、クラブ活動にも参加し、教師になる夢を果たすべく、奈良教育大学に合格しました。国立大学ですから、真面目な生徒が多いようで、既に友達同士で、将来どんな教師になりたいか等を語り合っているそうです。彼女には最適の進路を確保できたと思いました。中学の時は、塾にも通ってはおらず、私学に進学することも考えていなかったそうですが、学校案内を見て本校に来たそうです。「好文学園に来て本当に良かったです。感謝しています。」と言ってくれました。これぞ教師冥利に尽きると言うもので、お金には代えられない価値だと思います。

残念ながら、人には能力の差があり、結果の平等を達成することはできませんが、各々が持つ潜在能力を100%引き出せるかどうかで、教育の真価が問われると思います。もっとも、個々人の潜在能力がいかほどのものかと言うことは、事前におおよその予測はつくものの、精一杯引き出してみて初めて分かる場合もあります。だからこそ、学校は、教師は、諦めることなく、生徒指導に精一杯の努力を傾けなければならないのだと思います。しかし、これは、言うは易し、行うは難し、なのですが、好文学園の教師陣がこの難題に前向きに取り組み、少しずつ成果を上げつつあると言うことは紛れもない事実です。

今年は、日中は夏日になっても朝夕は寒いぐらいの気温で、例年とは少し違う初夏を迎えています。ヒョウが降ったり竜巻が起こったりと、自然環境に変調をきたしているようで気にかかりますが、新校舎建設時に整備した校内の木々や草花は、4年目にしてようやく落ち着き元気になってきました。土壌の悪い所に植樹をしたので、枯れてしまった木もありましたが、肥料を入れたり薬を散布したり手を入れてもらいました。木が枯れると、退学した生徒とだぶり、大変悲しい思いをします。「もっと茂れ、どんどん伸びろ。決して枯れるな。」と、声をかけています。樹木を育てるとともに人を育てる難しさを痛感するとともに、日々の努力と積み重ねの大切さを噛みしめております。

152
2012/5/28

梅雨を前に

朝夕結構涼しいので、まだ冬布団のまま寝ています。寒がりだから特別かと思いきや、他の先生に聞いても同じように言われます。電力不足が心配される中、西日本は例年より暑いとの予報が出ていますが、異常気候の前兆かもしれないと思っています。

さて、昨年、酷評しました異常なクールビズ旋風に変化の兆しが表れたようです。新聞によれば、今年は、ブレザーや夏物スーツが売れているとのこと。また、今朝の新聞では、「クールビズは嫌いだ。なぜなら、だらしない男が増えるから。――――」と題した大手衣料品メーカーの一面広告が掲載されていました。まさに我が意を得たり。On―Offのけじめをつけるのは当然です。地域振興の一環だからと、マンガ付のTシャツで仕事をする地方のお役所などより、よっぽど民間の方がセンスがいいなと思いました。

昨日も昼から卒業生が二人訪ねてきてくれました。校長室のドアをノックし顔を覗かせて、「覚えていますか?」と。「うん、顔は覚えているけど名前が出ないな。」と申し訳なさそうに答えると、「顔は覚えてくれていたのですね。」と笑顔で部屋に入ってきました。まだ二年前の卒業生なのですが、次々に新しい生徒が入ってきますと、名前をすぐに忘れてしまい本当に申し訳なく思いますが、話し出すと、同級生の名前もどんどん出てきて、会話が弾みました。当然ながら当時の担任や教科担当の先生の話題になります。「あの先生は本当に家が好きだったようで、放課後になったらすぐに帰ってしまっていた。半日勤務の日でも、他の先生はお昼を食べてまだ仕事しているのに、さっさと帰っていなかった。」等と、教師の品評をしてくれます。いつもながらのことですが、生徒から見た教員の評価と我々管理職から見た評価とが結構一致しているのには驚かされます。生徒のために働いてくれているのか、とりあえず無難に仕事をこなそうとしているだけなのか、教師の背中が、生徒に語っています。職場や家庭での経験が豊富なほど教師としての力量も上がると思われがちですが、そうとも限りません。例え実体験が乏しくとも、イメージ（想像する）力があれば、それなりの対応が可能です。また、失敗しても本気で生徒に関わろうとしている教師の気持ちは時間がかかろうとも必ず生徒に通じます。失敗を恐れず頑張ってほしいと思います。失敗のない教師は何もしていないのではないかと思う時があります。

私はもう慣れっこになっていますが、考えてみれば、卒業生が直接校長室に訪ねてくる

ことは、普通はあまりないことでしょう。私自身、高校卒業後、一回も学校を訪ねたことはありませんし、校長室に行く理由など全くありませんでした。ですから、沢山の卒業生が校長室に来てくれることは、大変嬉しく有難いなと思います。今後も、卒業生が遠慮なく校長室を訪ねてくれる校長でありたいと思っています。それは常に現場に近いところにいて、生徒の声に耳を傾けている証だと思うからです。

153
2012/6/1

修学旅行を考える

今年もまた修学旅行の時期となりました。6月中旬から3班に分かれて、西表島と石垣島3泊4日の旅に出ます。この西表島と石垣島は今年で3年目です。西表や石垣の気候風土に触れながら、シュノーケリングやジャングルクルーズ、パイナップル狩りなど希望に応じてグループ毎に体験します。都会育ちの生徒達には、リゾートホテルで寛ぎながらも自然体験を満喫することが出来る良い機会だと思います。

私が本校に来た5年前は、修学旅行とは言わずに研修旅行と呼び、コースの特徴に合わせて行く場所は違っていました。例えば、総合コースは北海道、マンガ・アニメーションコースは東京そして、デザイン美術コースはフランスのパリ、情報コミュニケーションコース（現ITライセンスコース）はオーストラリアのケアンズなど国内と海外に分かれていました。あくまで研修を旨としていましたので、デザイン美術ではルーブル美術館とオルセー美術館の見学が、情報コミュニケーションはホームステイと現地語学学校での英語研修がプログラムされていました。私は先ず、海外について見直しをしました。海外に行くとなると、保護者の負担を考え、旅費をできるだけ安く抑える必要がありましたので、4泊6日でかつハイシーズンを外していました。「花のパリ」に12月に行き、フォンテーヌブロー城やモンマルトルの丘を散策するのはいかにも寒々しく、また、いかにデザイン美術コースの生徒とはいえ、絵をかくのが好きと言う程度の高校生が大半です。ルーブルで絵画鑑賞を楽しむためにはキリスト教文化の知識がなければなりませんから、大半の高校生にとってはガイドの説明を聞きながら一枚一枚見て歩くのは退屈なものだと思います。モナリザを見て、「意外に小さい絵なんだな」と思うのが関の山ではないでしょうか。これは私自身の経験です。オーストラリアの英語研修にしても日数が短すぎて慣れる間もなく終了となってしまいます。海外旅行が高根の花であった頃ならともかく、今時、

安いパック旅行が沢山ありますから、進学したり就職したりしてから時間を見つけて個人的に行った方がコストパフォーマンスは高いと考えました。また、テロやサーズそして原油価格の上昇によるサーチャージの高騰など不安定要因が重なった時期でしたので、思い切って海外はやめることにしました。翌年はコース別で国内に決めていましたが、新型インフルエンザの流行で取りやめとなり、当初予定時期を変えて全員で同じ北海道になりました。これを契機に、平成22年度から、研修の名目を取り除き、学年一緒の国内旅行に切り替え、西表島と石垣島になったのです。

修学旅行と言うのは旅行日数も限られるので、あまり研修や勉強と言うことを大上段に構えてみても効果が薄いと思います。英語の研修をするならその目的に合った少し長期間にわたる別立てのプログラムを組んで、希望者のみ参加が効果的です。従って、修学旅行は同級生と過ごす楽しい思い出の旅ということで良いのではないかと思っています。

154
2012/6/8

ヒゲの殿下ご逝去とAKB48総選挙

6月6日のテレビはAKB48の総選挙の話題で持ちきりで、NHKの午後9時のニュースでも取り上げていました。総選挙とは上手い命名ですが、要は少女タレントの人気投票に、大学生や社会人のいい歳をした大人が目の色変えて盛り上がり携帯片手に投票し、滔々とコメントしているのを見ると、平和と言うか、情けないと言うか。これをまた政治における選挙と比較して論じるマスコミもまた軽薄。バブル期ならいざ知らず、この期に及んでこのノー天気。

同日午後、ヒゲの殿下の愛称で親しまれた三笠宮寛仁殿下が66歳で亡くなられました。1991年に食道がんになられて以後21年間に16回ものがんの手術をされ、発声が困難になられたあとも電気咽頭で会話をされながらご公務をこなされたとのこと、その精神力と責任感には本当に頭が下がります。また、天皇陛下におかれても先日、ご高齢の上、心臓の手術直後にも関わらず、エリザベス女王戴冠60周年記念に渡英され恙なく日程をこなされてお帰りになられました。精神的にも肉体的にもさぞお疲れになられたことでしょう。風邪気味だからと委員会を抜け出して、秘書が薬を届けてくれるのをレストランでコーヒーを飲んで待っていたとかで問責対象になった防衛大臣がようやく更迭されましたが、比較してはあまりにも恐れ多いことです。

バブル経済崩壊から失われた20年、ホリエ

モンや村上ファンド事件に象徴される「お金を儲けて何が悪い?」という、開き直りとも取れる市場原理主義やオリンパスや東京電力に見られる旧態依然たる官僚隠蔽主義、民主党政権に見る政権獲得が目的化した呉越同舟無責任主義を見せられ続けてまいりました今、日本において唯一残されたノーブレスオブリージが皇室なのだと感じます。幕藩体制が金属疲労を起こした江戸時代末期には政治的思想的な見地から皇室への回帰が起こりましたが、私は道徳的な見地から人としてあるべき姿を示す人物を輩出する器として皇室の存在がクローズアップされることになるのではないかと思います。

昨日、1年生の全体集会を見ておりましたところ、三人の先輩たちのわずか50分間の話を姿勢を正して私語をせずに聞けていない生徒が多かったので、最近ではまことに珍しいことですが、ついにたまりかねて集会の最後にマイクを握りました。「三笠宮殿下は21年間に16回ものがんの手術をされ、それでも最後まで公務を果たそうとされた。君たちはわずか50分間の我慢が出来ないのか?」本当に久しぶりの一喝でした。真の矛先は教員の不徹底な指導に向けられたことは言うまでもありません。最初が肝心です。甘えかされ過ぎで、基本を徹底的に教え込まれてこなかった生徒には、時にはしっかりと叱り気づかせることが、けじめある教育だと思います。小学生の低学年から茶髪や金髪にさせていたり、電車に乗るなり、買ってきたばかりのコロッケを食べさせたり平気でやる親が増えています。なにせタトゥーをした市職員が現れ、それを個人の自由だと擁護する学者まで出てくるご時世です。その中で育てば、それが恥ずかしいことだとは気が付きません。それが染みついた常識となっているのを直させるのは教員にとっても大変な仕事です。でも、それをやるところに好文学園の存在意義があるのだと心得てほしいのです。

155
2012/6/13

だてマスク

今年は天候が不順なせいか、通勤途上でマスクをしている人を沢山見かけます。かく言う私自身も、なかなか咳が止まらずもう2ヶ月ほどぐずぐずしています。本校でもマスクをしている生徒が多いので、最初はやはり風邪が流行っているのだと思っていたのですが、どうやら必ずしもそうではない様なのです。最近、風邪や花粉症でもないのにマスクをすることが中高生の間で流行っているそうです。事情通の教員に理由を聞きますと、口元や鼻など自分の気に入らないところがあるとマスクで隠してしまうらしいのです。また、

マスクをしていると人に顔色を読まれないという安心感があるそうです。そしてマスクを付けることが癖になると、外すと他人から心まで見透かされるような気分になり、落ち着かなくなるとの指摘もあります。この「だてマスク」が若者のカルチャーになっているようで、気にかかります。自分の素顔を見せないというのは、他者とのコミュニケーションを拒否することにつながります。自分を閉ざしてしまう姿勢です。特に、学校は学ぶところであり、学びの姿勢は常にオープン・スタンスでなければなりません。コミュニケーション能力開発にも障碍となります。病気や怪我以外での不必要なマスクは外すように指導を始めてもらいました。風邪でマスクをせざるを得ない時でも、お客様にお目にかかれば、先ずマスクを外し、「風邪を引いておりまして、大変失礼ですがマスクをお許し下さい。」と言ってから話に入るのが社会人としての礼儀です。相手に顔を隠すことは非礼に当たると言うことを教えなければなりません。また、男性でもそうですが女性がマスクを中途半端に外して顎に引っ掛けている景色も、あまり見てくれの良いものではありません。

このところ、保健室の入り口には脱いだ靴がちゃんと揃えて置かれていますが、当初は雑な脱ぎ方で、それを見つけるたびに、生徒指導担当教頭が、揃えていたのです。今では生徒がきちんと靴を揃えて脱ぐようになったにもかかわらず、教員が出来ていない場合もあり、困ります。この場所は通用口からお客様が入られた真正面に位置しているのです。何年も前の話ですが、私が家に帰り玄関ドアを開けると、大きな靴が踵をこちらに向けたまま脱いで置いてありました。「誰だ、行儀悪いな」と思いましたら、娘の家庭教師に来てくれていた国立大学医学部の学生さんでした。方向を変えて揃えておきました。とても感じの良い青年でしたが、この靴のことだけは玉に傷でした。

夏になりますと、制服はブルーの半そでブラウスに変わりますが、派手な色や絵柄や模様入りのアンダーウエアーを着る生徒がちょくちょく出てきます。当然、その色や模様が浮いて出るので、目立ちますし、折角の清楚なブルーのブラウスを台無しにしてしまいます。以前、センスアップ講座を行っていた時には、講師の先生がいつも教えてくださっていました。この講師の先生がおられなくなったら、誰も注意しなくなったと言うのでは女子校の名が泣きます。女性の教員には率先して指導してほしいものです。もちろん男性の先生も遠慮なく。

こういったことは、初めに、「それはおかしいよ。」と、きちんと注意をして直させなければ、どんどん広がっていきます。また、わからないままそれでいいと思い込んでいますと、世の中に出て恥をかくことになります。「はしたない」とか「みっともない」という言葉を死語にしてはいけないと思います。もっとも、このようなことは、本来は学校で、それも高等学校で教えるべきものではないことはわかっているのですが。先生方、誠にご苦労様ですが、よろしくお願いします。

156
2012/6/30

電車通勤のベネフィット

会社勤務から学校勤務に変わり、この5年

間、マイカー通勤をしていました。さして遠方から通っているわけではないのですが、電車に比べて半分の時間なので、朝早く、夜遅い日が多いため、車に頼る生活が続いていましたが、マイカー通勤規定の整備を行うことをきっかけに、個人的にも健康管理とコストセーブを考えて電車通勤に切り替えました。

電車通勤を始めてほぼ1ヶ月になります。少し早めに出て、各駅停車に乗りますので、30分ほど座って本を読むことも出来ます。また、行き帰りに、生徒と一緒になるので話す機会も更に増えました。生徒の身になれば、駅のプラットフォームや電車の中で、校長先生と一緒になると、堅苦しいのではないかと思い、「おはよう」や「お疲れ様」と、声をかけるに止めていますが、中には積極的に話しかけてきてくれる生徒もいます。3年生の場合には、進路の話に及ぶこともあります。AO入試なら小論文があります。安きに流れる生徒もいますから、希望を聞けば、間髪を容れずに、適任者に補習を組みチャレンジさせるようにお願いをしたりします。私自身が、受験では大変苦労をしてきましたので、ついついおせっかいの虫が動き出してしまうのです。

校長室に、生徒と撮った一枚の写真を飾っています。校長として進路指導を手がけた第一号の生徒です。今年、大学を卒業し、コンサルティング会社に就職しました。今は、東京で一人暮らしをしながら研修期間を過ごしています。入学時より確実に満足度を高め、付加価値をつけて卒業させることができました。ただ、もっと早く彼女に出会えていたなら、更にとも思いますが。私が、平成19年大阪福島女子高等学校の校長に就任した時、彼女は3年生で、翌年、大阪福島の最後の卒業生として、卒業生総代として答辞を読んで巣立ってゆきました。この生徒のことは以前にも書きましたが、好文学園への架け橋となった思い出深い生徒です。この写真を見るたび、好文学園の使命と存在意義を確認しています。教員にとっては何度も廻ってくる高校3年間ですが、生徒にとってはただ一度限り。最近も、3年生の一部の進路指導における授業内容と補習体制の抜本的見直しをお願いしました。「あと数か月なのに」と考えるか、「あと数か月だから」と考えるかの差です。あと数か月しかないのだから、最後まで諦めさせず、諦めず、最も効果的な内容に変えて悔いの残らないようにしたいと言うのが私の思いです。教員の都合ではなく、あくまで生徒のために。

157
2012/7/14

信なくば立たず

昨年、大津市の中学二年生の男子生徒が自

殺した事件は、大津市教育委員会と男子生徒が通っていた中学校に警察の捜査が入るという重大局面を迎えました。また、市長のコメントは当然として、警察庁長官までがこの件につきコメントし、文部科学省が大津市に職員を派遣する事態にまで発展しています。事件の詳細は新聞やテレビの報道でご承知の通りですが、学校と教育委員会そして警察に対する信頼は大きく損われてしまいました。先生はいじめられているとの生徒の訴えを聞いていたとか、生徒死亡後に学校が実施したアンケートからもいじめの実態が浮き彫りになっていたなどの報道があり、学校や市教委の隠蔽体質が厳しく糾弾されていますが、最初に問われるべきは担任の責任です。生徒からいじめを受けているとの相談を受けていたにもかかわらず放置していたことが事実であるとすれば言語道断。教師失格の前に人間失格です。「弱いものをいじめるな、人に迷惑をかけるな」は最低限の道徳です。そして、いじめられている生徒を見かねて担任がだめなら他の教員に助けてくれるように働きかけた生徒はいなかったのだろうか。また、本当に他の教員は誰もこのいじめに気が付かなかったのだろうか。この生徒の自殺は不作為による殺人と受け止めるべきではないでしょうか。学校にも市教委にも警察にもその点に気づいていただきたいと思います。「国民の生活が第一」と言う小沢新党名にはわざとらしさとセンスのなさを感じますが、「生徒の命が一番」でない学校、教師がいるとしたら、学校に対する信頼は地に落ち、生徒と学校そして保護者が三位一体となる教育は成り立ちません。いじめ撲滅を謳うのはたやすいことですが、無くなるものではありません。弱いものをいじめるというのは、弱い人間の性なのかもしれません。大切なことは、常日頃からいじめは絶対に許さないと言うメッセージを発し、いじめに気付いたら、直ちに行動を起こすことです。担任は学年主任や生徒指導部長にその事実を速やかに報告し、いじめられている生徒の救済を第一に、第二にはいじめている生徒への指導を開始する。また同時に校長の耳にもその事実を入れる。悪い情報ほどいち早くトップの耳に入れる必要があります。ただ、いじめは見つかりにくい場合もあり、またいじめられている生徒が隠している場合もあります。だからこそ、日ごろから担任はクラスの生徒一人一人の変化に敏感になってくれなければなりません。校長、教頭など管理職も常に巡回を行い、生徒と話をし、異変を察知しやすい環境を作らねばなりません。異変の迅速な察知とホウレンソウの徹底です。

また、生徒の命にかかわるほどのことではなくとも、進路に関わる学力補充や進路決定等生徒にとって大切な案件において、「わかっていたならなぜもっと早く報告しなかったのか」と、言わざるを得ないケースがあります。

担当者ベースで交渉していることはよくあるのですが、そこで埒があかない場合に、諦めずにさらに上に事情を説明し、それでもだめならもう一つ上に陳情をと、その状況を変えるためにあらゆる手段を講じる努力をしなければ、本当に生徒のために必要だと確信しているとは言えません。最後は校長に直訴するぐらいの迫力がなければなりません。そこまでやって初めてベストを尽くしたと言えるでしょう。ただし、段階を踏まずに、何でもかんでも校長室にお願いに来ることは間違いです。やはり、自分の部署で最善を尽くし、同僚や上司を説得する努力が必要です。このような問題は、何も学校特有のことではなく、企業においても同様です。オリンパスや東京電力の例を持ち出すまでもなく、隠蔽体質やホウレンソウとPDCAの不徹底はどんな組織にもあることです。また、自社の都合ばかり押し付けるケースもありますが、これと似たことは学校現場ではしばしばみられます。教師の都合を優先しがちなのです。対外的な問題はそうもいかないのですが、生徒や保護者への対応において、「いままでこうやっていたから」と言う理由で、改善したほうが良いとはわかっていても、「次回から」と先延ばししがちです。しかし、今年の生徒は来年はもういないのです。この視点を忘れてはなりません。政治も経済も教育も「信なくば立たず」であり、信用、信頼は日ごろの仕事に対する真摯さの積み重ねから生まれるものだと思います。

158
2012/8/18

夏休み雑感～台北を訪れて

しかし、蒸し暑い夏です。意地っ張りで「やせ我慢のすすめ」を実践している私は、ネクタイを締めて上着を着て、駅まで20分の距離を歩いていますが、10分を超えると、首筋に汗がにじみだし、15分を超えると、ワイシャツの腕から袖部分がべっとりと肌に張り付きます。プラットホームに入ってくる電車が待ち遠しいのですが、これがまた、昨今の節電ブームのせいか、弱冷も弱冷で、降りるころになってやっと汗が引くという按配です。正直、車通勤から電車通勤に変えたのを後悔しないわけでもありませんが、毎日一定時間歩くことが健康に良いと思い、続けようと考えております。

さて、夏休み中に、息子が中国語の勉強をしている台湾の首都台北に行ってきました。商社勤務のころ、紙の抄造立ち合いで何度か訪れて以来ですから、27～28年ぶりの訪問でした。桃園国際空港は随分ときれいになっていました。かつては空港に降り立つと特有の臭いがしたものでしたが、今回は全く感じず、

ヒースローやジュネーブの空港と同じような臭いで、欧米化が進んでいる一端を感じました。大阪同様に蒸し暑い気候ですが、駅構内や電車の中、建物の中は冷房をガンガン効かせており、外にいては暑く、中に入れば寒いという状態で、久しぶりの故宮博物院もあまりの寒さのために早々に退館する羽目になりました。中国語を学んで八か月の息子でしたが、日常会話にはほぼ不自由はなさそうで、裏町や路地にもどんどん入って行き街の人たちと気さくに話している姿に接しますと、今更ながら「言葉」の持つ意味の大きさを感じずにはおられませんでした。尖閣諸島や竹島など領土問題において、近隣諸国とのトラブル（というか、先方が難癖をつけてきているわけですが、）が頻発しだした昨今ですが、台湾の人々はおおむね親日的な人が多く、非常に親切でした。交差点では信号が変わっても気にせず、尋ねた道を懇切丁寧に教えてくれました。おおらかな性格の人が多いように感じました。三越との合弁のデパートにも入りましたが、店員さんが結構多く、かなり積極的にお客さんに声掛けをしていました。息子の話では、台湾人は見る人がほとんどであまり物は買わないそうで、物を沢山買うのは旅行できている中国人だけだそうです。街では道路に寝転がっているホームレスと思しき老人もちょくちょく見かけました。日本同様、高齢化と経済の停滞が社会問題となりつつあるようです。とはいうものの、海外生活の長い息子も台北を大変気に入っておりました。英語はネイティブに近い息子ですが、ヨーロッパにいると何かにつけ人種差別を感じると言います。考えようによれば、人種差別は国際的ないじめともいえるのではないかと思います。しかし、そういうことを経験したり感じたりすることもまた机上の空論とは異なる現実の国際社会理解の上で役立つのだろうと思います。その点、同じアジア人とは付き合いやすいようです。ロンドンオリンピックでは日本人選手も欧米人に負けぬ体格の持ち主が増えてきているように思いましたが、貧弱な体格の私などは、言葉や文化、文明などの問題以前に、それだけで気後れしてしまうレベルで、我ながら情けないなと思います。

台湾は17世紀にオランダ領となり、歴史の表に出てきます。その後、明朝後半から清朝にかけて中国に領有され、日清戦争後は日本の統治下に入ります。敗戦により蒋介石率いる中華民国国民党が入り統治を開始しますが、1947年2月28日には抵抗する原住民を大量に殺戮した2・28事件が起こり、独裁政権下で1991年まで戒厳令が敷かれます。国民党下で蒋経国総統から政権を受け継ぎ、民主化推進に邁進した元総統の李登輝氏によれば、台湾は歴史的に、台湾人としてのアイデンティティが醸成されにくい状況が長く続いたあと、日本の統治下において、台湾総督府の後藤新平民政長官を中心に、教育や産業振興に力を入れたお蔭で近代化が成し遂げられたとの思いが強く、その前の清朝時代、その後の国民党独裁政権時代と比較して、

日本に対する感情が、長い独自の歴史を持つ韓国とは違うのだと言います。新しい世代の現在の馬英九政権は親中政策を推進しており、李登輝氏にとっては懸念されるところのようです。1972年、日中国交正常化の時、時の中国首相周恩来氏が田中角栄首相に対して、その功を称え、「水を飲む人は井戸を掘った人の恩を忘れない」との言葉をかけました。李登輝さんは戦前から日本で教育を受け、大変な日本贔屓の方で、台湾近代化の基礎を開いた日本に対して、井戸を掘った恩を忘れずにいてくださる貴重な親日家の代表であり、有難い存在だと思います。

今回の旅では度々地下鉄を利用しましたが、地下鉄の切符が大変おもしろく、写真のようなプラスチック製の小円盤なのです。乗る時は改札の機械にカードと同様に当てて通過し、降りるときは穴に入れて出ます。このような体験も旅の楽しみの一つです。ボケを防止するためには料理を作ることと旅行に行くことがいいと、何かで読みました。理由は、ともに計画を立て実行していく中で判断を迫られることがある創造的なものだからとのこと。しかし、今回の台湾への旅行は、息子に頼りっきりでしたから、ファーストフードを買って食べたようなものでボケ防止にはならなかったかなと思います。

159
2012/8/21

『鬼平』に学ぶ

7月末、新任教員の研修会を行い、教務主任と生活指導主任からそれぞれ話をしてもらった後、私からも少し付け加えて話を致しました。「みなさんに夏休みに読んでほしい私の推薦図書を二つ紹介したいと思います。一つは、これまでも度々例に出してきましたが、ピーター・ドラッカーの『マネジメント』です。企業、学校を問わず組織である限り、仕事のやり方は同じです。成果をあげるためにどうすべきかこの本を読み学んでください。」新任のみなさんは、一生懸命メモを取ろうとペンを走らせています。私が、その様子を見ながら一呼吸おいて、「さてもう一つは、池波正太郎の『鬼平犯科帳』です。」と言った瞬間に、みんな「えぇー」という表情で顔を上げました。傍に控えていた老練の理事さんと生徒指導担当教頭はクスクス笑っています。ご両人は、常日頃、私が「教育は義理と人情と浪花節だ」と言っていることをよく御存じだったから、さもありなんと思われたのでしょう。私は意外な面持ちでこちらを見つめている新任教員の皆さんに、「探索の手順や裁きの基準など、見方を変えれば生徒指導を行う上での教員間の連携や情報収集、生徒理解など様々に、大変役に立つと思います。」と申し上げました。

みなさんもご存じのとおり、『鬼平犯科帳』は、時代小説では藤沢周平と人気を二分する

池波正太郎の代表作の一つで、江戸時代中期、放火や押し込み強盗を取り締まるために幕府が設けた特別警察、火付盗賊改方の長官、長谷川平蔵を主人公に描いたシリーズものです。研修が終わった後で、ある新卒の教員は、「ドラッカーの次は誰の著書だろうかと、経営学者や大学教授の名前を頭に浮かべていたので、本当に驚きました。」と言っていました。また、1年の学年主任さんにこの話をしたところ、「大岡越前はどうですか?」と聞いてきたので、「うぅん、それはちょっと違うんだよな、鬼平にはもっと深みがあるんだよ。」と答えました。鬼平の魅力は、市井の人々の日常における悲しみや苦悩に寄り添いながら善悪の狭間に揺れる人間模様を実に巧みに描き出しているところにあります。また、配下の与力や同心のみならず元盗人だった密偵にまで、細やかな気遣いをする鬼平の優しさは、こんな上司になら進んで仕えたいと思わせます。最近は真面目だけれども世情に疎い教員が多くなってきました。専門書を読むことも大事でしょうが、観念論に囚われず、生徒や保護者の気持ちを理解するためには、人情の機微に長けた鬼平から学ぶことも必要だと思うのです。テレビドラマでは、主役の長谷川平蔵役を、八代目・松本幸四郎（後の白鸚）、萬屋錦之介、丹波哲郎、中村吉右衛門の各氏が演じてきましたが、私はやはり洗練された上品さを感じる中村吉右衛門の鬼平が一番好きです。

この私の「鬼平」観を補強するような本に出合いました。集英社新書から発売されている『池波正太郎「自前」の思想』です。評論家の佐高信氏と法政大学教授で近世文学が専門の田中優子さんの対談形式になっています。佐高氏は、「本の表紙だけ替えても中身が変わらなければ意味がない」と言って首相の座を蹴った元外相の伊東正義氏が熱烈な鬼平ファンだったことを例に、「池波正太郎の作品に惹かれる人たちには、その自前の思想を持っている人が多いように思う」と書いています。そして佐高氏は、自立と自前は全く違うと言います。自立はそれまで自分が属していた共同体や世間から飛び出していくというところがあるが、色々な状況を受け入れてこそ、自分の人生であると思っているのが自前だと。田中優子さんは、自前の思想で大切なことは「他人と比較しない」ことだと言っています。悩んだり迷ったりしながらも現実から逃避せずに、また流行に流されずに、何か一本筋を通した生き方をすることが自前なのでしょう。政治学者の姜尚中氏が、『続・悩む力』のなかで、「過去を振り返らず、将来を考えよというが、過去こそがその人の歩んできた確かな道であり、それを肯定しなければ将来はなく、先ず目の前のことを一つ一つこなしてゆくことこそ生きる上で大事なのではないか」と言うような趣旨のことを書いていますが、この考え方も自前の思想に繋がるのではないかと思います。伊東正義氏いわく、「大岡越前だって下情に通じている点は同じだが、鬼平の下情の通じ方に、ちょっとひねった近代性がある」と、私がうまく表現できなかったことを見事に言い当てておられ

ます。佐高氏は、「鬼平には、失敗した人間に対する池波さんの考え方や姿勢も見えてきます。鬼平は自分が若いころに無頼を経験しているからこそ、他人の失敗に対して寛容になれるんです。人は失敗をするものだという思いが最初にある。」と言っています。私が『鬼平』に強く惹かれる最大のポイントはここにあるのだろうと思います。盗みは犯罪であり善悪を問われれば、当然ながら悪であることは言うまでもありませんが、鬼平の物差しには融通無碍なところがあります。鬼平は、その名の通り兇賊に対してはまさに鬼となって厳罰をもって臨みます。一方で、盗人として守るべき「盗みの三ヵ条」、①盗まれて難儀をする者からは盗まないこと②人を殺めぬこと③女を手込めにせぬことを守る盗人に対しては、情状酌量して時には見逃してやることもあれば、密偵としてそばに置くこともあります。これを佐高氏は、「マイナスの中にプラスを探す」と表現しています。教育の要諦もまた正にここにあると思います。貧しさからあるいは災難から、世をすね、人を恨んで悪の道に入ってしまった盗人が、鬼平の情けに触れて改心し生かされた時、彼らは重い過去を背負いながらも新たな進むべき道を見つけて、火付盗賊改方の長官という肩書を持った官僚としての長谷川平蔵ではなく、義母から妾腹の子として蔑まれ本所深川界隈で放蕩三昧の日々を送り「本所の銕」と呼ばれた過去を持つ長谷川平蔵その人に恩を感じて生きて行きます。彼らと鬼平との間には心と心が触れ合う真のコミュニケーションが成り立っているのです。

160 2012/9/4 大卒ニート3万人

二学期が始まると、3年生はいよいよ進路決定が本格化します。指定校推薦が決まり、AO入試や公募推薦入試が始まります。特進コース生は来年1月のセンター試験に向かってラストスパートをかけます。新聞ではこのところ、就活や大学教育についての記事が目立ちます。8月28日の日経は、「新卒ニート3万人」と題し、今春の大学卒業者約56万人のうち、正規雇用として就職が決まったのは63・9%にとどまり、就職も進学もしなかった学生が8万6000人、そのうち進学や就職の準備もせずに過ごしている者が3万3000人に上ると伝えています。また、ダイヤモンド社のビジネス情報サイトの「ニッポンの新しい教育」では、NPO法人NEWVERY理事長、山本繁氏とネットイヤーグループ代表、石黒不二代さんの対談記事「私立大学生の8人に1人が中退者になっていた！」を掲載しています。この対談

によりますと、四年制大学の年間中退者は私学で約6万人もいるそうです。国立大学での1万2000人と合わせると7万2000人となり、これは高校中退者と同数です。短大と専門学校の各々7000人と3万7000人を加えるとその数は11万人にもなります。授業内容と学生のレベルあるいは興味のミスマッチが原因と考えられますが、中退しやすい大学生の傾向を調べると、偏差値の高低と中退率はきれいな相関関係ができるようです。ちなみに上位層の大学では、

東大の中退率は1%、早慶が5%前後で、ハーバード大学は2%、イエール大学が3%、プリンストン大学が4%だそうです。日本の大学は入るのは難しいが出るのはやさしく、アメリカは入るのはやさしいが出るのは難しいと言われます。そうであるならもっとアメリカの中退率が高くてもよいはずですが、そうならないのは、ペーパー試験一辺倒の日本の難関大学とは異なる試験で入学したアメリカの一流大学生はやはりそれなりの学力と意欲を持っているということです。また、エッセイやボランティア活動など幅広い観点から学生を評価する力がアメリカの評価者には備わっているということでしょう。日本では本来は一人一人の能力や個性を適切に評価するためのアドミッション・オフィス方式の入学試験（AO入試）を、単に生徒確保のために使っている大学もあり、評価と言えるほどの内容がなく学生の質の低下を招いているという批判もあります。その上、私大の4割が定員割れとなれば、偏差値の高低と定員割れの相関関係は明らかで、規制緩和による大学と大学生の粗製乱造の付けが回ってきています。

私は昨今の大学国際化の議論に関し、初等教育、中等教育の見直しが先ではないかと考えていましたが、山本氏は「大学が変われば日本の教育が変わる」と言います。その理由は、今大学で学んでいる学生は10年後には親になり、子供の教育に従事します。親の役割は大変大きいので親になる前の大学生の時に変えるのが大切だということなのです。大学教育改革の課題に①カリキュラム②戦略（教え方）③学生に対するアメリカ並みの強い負荷の3つを挙げています。2つ目の教え方に関し、山本氏は次のように語っています。「教育機関では教える内容以上に教え方が重要です。教える内容が高度かどうかは学生の能力に左右されますが、同じレベルの学生をいかに成長させられるかどうかは教え方に大きく影響されます。しかし、今までの大学の多くは、教え方に対してほとんど投資や工夫をしてきませんでした。ですからこれからは、戦略と実行、カリキュラムと教員のティーチングメッソドの開発が、非常に重要なテーマです。」アメリカには教員のティーチングメソッドの開発を支援する「ファカルティ・ディベロッパー」という専門職が設けられているそ

うです。授業を持たない大学の専門職で、先生たちにプレゼンテーションやコーチング、パワーポイントの作り方、ディスカッション型の授業のやり方を教えたり、先生の授業をビデオに撮って個別にコンサルティングするなどの支援をします。大学の先生は研究が中心で教えることが不得意だという側面もあるのでしょうが、このことはレベルこそ違えども本校にも当てはまることです。難関大学受験者が全くいなかった頃は、教える内容も易しく教え方にも工夫を凝らさずともとりあえず授業はできていました。いや、本当は分からせるという意味ではできていなかったのですが、生徒にもわかろうとする意欲がなく諦めていたというのが正解かも知れません。わかろうとする意欲がない生徒にわからせようとする意欲のない教員が授業をしていたのでは、50分の時間を消費しただけで本当に授業を行ったことにはなりません。その典型が寝ている生徒が多い教員の授業なのです。ところが、モチベーションを高める施策を実施し、それに応えて勉強したい、ワンランク上の大学に合格したいという意欲が高まってくると、授業力が未熟な教員に対する生徒の不満が高まってきます。本校でもこのようなことが起こり出したということを私は良い変化だと捉えています。受験知識が豊富で授業力のある教員に後進の指導に当たってもらっています。この指導に真剣に取り組み授業を改善しようと悪戦苦闘中の若手や新任の教員が何人かおり、その努力が報われることを願っています。若い時に訓練されていない教員の中には、長年のやり方から抜け出すことが出来ず置いてけぼりになる人もいます。変化に対応できる柔軟性に欠けると言わざるを得ませんが、訓練されずに来てしまったことを気の毒にも思います。やはりどんな職業でも若い時に鍛えられることが将来につながることは間違いありません。生徒を育てる職ならば尚更のことです。

さて、高等教育の質の充実化が中等教育や初等教育を変えることになるのか、初等教育や中等教育を見直すことが高等教育を高等教育足らしめるのか、「知の衰退」に歯止めをかけるには、どうやらこの双方からの教育改革のスピードアップが欠かせないようです。先の見えない大学国際化の議論に業を煮やしたように、3日の日経新聞の大学欄には「東大よりハーバード～高校生、海外に熱視線」と題して、高校生や保護者が米国などの有力大学への進学に関心を寄せていると報じています。新卒ニート3万人の現実に加え、ソニー、パナソニック、シャープなど一世を風靡した日本企業のあまりにも早い衰退の速度を目の当たりにしますと、もはや大学さえ卒業すれば大丈夫とは言えません。東大や京大を出ても企業が求めるタイプにマッチしないがゆえに就職できない人もいますし、あえて高等遊民の道を歩む人もいます。高卒の就職となると更に限られ、アルバイトで繋ぐ方が気楽でいいという考えを頭から否定できないのが現状です。資格が取れてそれが職業に直結する場合を除くと、あまり偏差値が低い大学に行っても就職には役立たないとも言えます。大学と大学生のレベル、意欲、価値観がグローバル化の影響を受けて多層化、多様化しつつあり、単線思考の進路指導は益々機能しなくなってきたと感じます。

161
2012/9/26

変わる大学学園祭

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、今年の猛暑も秋分の日からぴたりと収まり朝夕は少し寒いくらい涼しくなり、秋の学園祭シーズンとなりました。9月24日の日経新聞は「大学祭で就活の練習」と言うタイトルで、大学の学園祭で「就活」を意識した取り組みが広がっていると報じています。昨年リクルートファッションをテーマにしたイベントを開いた大学では、ワイシャツの柄やネクタイの締め方、好感度の高い写真の撮り方まで百貨店の社員が指南したとのこと。ドラッカーは企業の目的を顧客創造だと言いましたが、その一端を垣間見るような話です。話は飛びますが、先日、本校にある生命保険会社が来て、いじめ保険やセクハラ・パワハラ保険を勧めて帰ったと聞きましたが、企業のたくましさもここまで来ると少し疎ましく思えます。さてその他、美容学校から講師を招き就活に活かせるメーキャップやスーツの着こなし講座を開く大学、論文や自己PRの書き方を教える講座を開く大学、ビジネスコンテストを開催して起業精神を発揮する文化を発信しようとする大学など、そのレベルは様々です。就活に有利だとみて学園祭実行委員に名乗り出る学生も目立ち始めたそうですが、敵もさるもので、単なるスタッフだっただけでは主体的に企画に加わっていないと思われ逆効果との指摘もあります。それにしても大学が就職予備校化したとの感を益々強く致します。

私が東京で浪人生活を送っていた1975年、松任谷由実、作詞作曲の「いちご白書をもう一度」という歌がはやっていました。「就職が決まって髪を切ってきた時、もう若くないさと君に言い訳したね」と言う歌詞が口をついて出てきます。70年安保後、連合赤軍によるあさま山荘事件などの殺伐たる事件を経て、学生運動が下火になりつつある時代でした。この歌詞の前に「僕は無精ひげと髪を伸ばして学生集会へも時々出かけた」と言うフレーズがあります。私はこの歌のリリースから暫らくしてようやく大学に足を踏み入れましたが、確かにキャンパスには学生運動の立て看板がまだまだたくさんありました。授業もそこそこに、友人たちと昼間は喫茶店でコーヒーを飲みながら、夜は居酒屋で酒を酌み交わしながらの談論風発の日々を過ごしていたころを懐かしく思い出します。あの頃は、就活は4年の夏からで、内定も10月後半が一般的でしたから、大学生活を謳歌した後に社会人への切り替え時が訪れました。一抹の寂しさと希望とが入り交り希望が勝った時代でした。

その後、1980年代は世界に敵なしの経済成長とバブルを経験し90年代に入りバブル崩壊により経済は急降下し失われた20年となりました。その間、余裕を失った企業はアメリカ流の経営に移行しようと即戦力となる学生を求め出したため、大学側も教養を退け資格や実践的な勉強に傾き、カタカナ文字の新学部が次々に出来ました。企業はまた、建前では論理的思考や創造性ある学生を求める反面、実態は依然年功序列の硬直した組織が多く、建前を信じて入社した学生の失望をかうケースもあり、彼らは外資系に転出しました。東大の学生の就職ランキング企業上位にも外資系金融機関が入りました。その外資も2008年のリーマンショックに続くユーロ諸国のソブリン危機による世界的な景気後退局面においてリストラを進めており元気がありません。高等教育もまた、東大が国際化のために秋入学移行を打ち出しましたが、5年後をめどと言うこれまたスピードの遅さは相変わらずです。その間、シンガポールや中国の大学は欧米の一流大学との提携を深め着々とワールドワイドの地歩を固めつつあります。論理的思考やコミュニケーション能力を養うために、専門知識偏重ではなく幅広い教養が必要だとの観点から、ハーバードなどアメリカの大学に倣い再びリベラルアーツ（教養）の重要さを指摘する声も上がっています。企業も大学も人を育てるという原理原則から外れ、理を求めず利を追うことに懸命で軸がぶれ右往左往しているように感じます。このような状況下、以前より少しは遅くなったとはいうものの、大学生は3年生の12月解禁の就活に、そろいのスーツ、そろいの化粧、そろいの論文片手に何十社も受けまわる日々が続いています。独創性とは程遠いように感じます。大学が就職への単なる通過点になっているように思えます。未熟ながらも批判的に物事を見ることが許されるのが大学生の特権ではないかと思います。不確実な世の中なのに「就職ならぬ就社に向かって右へ倣え」のような風潮は、小利口な小物ばかり作ってしまいそうに思えてなりません。大学の学園祭で就活の練習が行われるようになったというこの記事を、私は少し寂しい思いで読みました。

162
2012/10/4

タメ口が日本を滅ぼす

企業生活が長かった身からすれば、また自分の学生時代を振り返って、隔世の感を強くするものの一つが、多くの生徒が教師との会話に使う言葉であるタメ語（タメ口）です。タメ口とは、丁寧語を含まない話し言葉で、博打用語のぞろ目から来たものと言われています。ぞろ目は、同じあるいは対等または五分五分を意味します。1960年代に不良少年の隠語であったタメ語が1980年代に小中学校で一般に広がったと言われています。流行し出した時に学校教育においてきちんと対応しておれば良かったものを、生徒と友達言葉で話すことで、生徒との距離が縮まり相互理解や指導がしやすくなると短絡的に考えた節があったのではないかと推測します。やんちゃな子と話す時には確かにそういう一面もなきにしもあらずですが、日本語には丁寧語、尊敬語、謙譲語などの言語的なルー

ルがあり、それが文化の根底をなしているのですから、教育現場が自らこれを否定するようなことは本来あってはならないことだったと思います。タメ口が市民権を得たゆえに、生徒は自分と教師は対等だと勘違いし、義務はそっちのけで権利ばかりを主張する羽目に陥ってしまいその結果、指導がより困難になり、天に唾する結果となったのでしょう。何事も人から言われた通り無批判に受け入れるだけの主体性のなさに比べれば、自己主張を正しく行うことは良いことではありますが、そのためには知識が必要であり、読むことと聴くことが十分できていなければなりません。人としての基本を造らぬままで、人権教育を推進したために、曲解した人権意識を植え付けることにもなってしまったのではないかと思います。自由や平等あるいは人権と言う言葉を自己の我が儘を通すためにのみ振り回すことを許してきたのも教育の責任と言えましょう。基礎が出来ていない上に乗せられた借り物の民主主義社会は腰砕けになります。日教組全盛時代には、教師も労働者だとの理由から、良識ある企業人から見ればあまりにも一方的で硬直的な権利主張がなされました。例えば有給休暇の取得一つをとっても、仕事の状況を考えて他人に迷惑をかけない範囲での取得が社会人としての常識です。それは自己の職務に対する忠実さや責任感を示すものでもあると考えます。学校現場ともなれば企業より取得にはより一層の配慮が必要なことは誰にでもわかることでしょうが、昔はそれがわからない教師が沢山いたと聞きました。これでは生徒に真面な社会人教育はできません。教師も人間ですから過ちも犯します。特に熱心な教師ほど可能性が高いと言えます。しかし、「教師も人間ですから」という言葉を当の教師がいうことは言い訳がましく聞こえるだけです。そんなことは子供でも分かっていることです。むしろ、「人間だけど、教師なのだから」となるのが世間の見方であり、その覚悟こそどんな職業にも共通するプロ意識ではないでしょうか。

タメ口は長幼の序や師弟の礼を軽んじ、権威を失墜させるに止まらず、汚くきつい言葉が相手の感情を傷つけます。このような言葉が飛び交う社会は殺伐としてきます。いじめが起こる原因もこのあたりに潜んでいます。また、生徒のタメ口が教師に伝染することもあります。特に大学を卒業して間がない若い教師は生徒との年齢差も小さく売り言葉に買い言葉とならないとも限らず、注意が必要です。それこそ人間だれしも腹が立って感情あらわに怒りを表すことはありますが、教師は生徒の成長を助ける職業ですから、その目的のために心を込めて叱らなければなりません。言葉とはコミュニケーションの重要なツールであり、褒めるも叱るも言葉次第です。言霊というように言葉には魂が宿り、深層心理が現れるのだということを肝に銘じたいも

のです。

さて、学校教育の場でタメ口の常態化を招いた責任は重いと感じますが、はてさて、小学校からタメ口に慣れてそれが当たり前となり悪気なく使っている生徒にそれを改めさせるのは至難の業だと思います。しかし、教育現場において、言葉の持つ意味の大きさを正しく教えてゆかねばならないとつくづく思います。言葉にはその国のその民族の文化が宿っています。国際理解も確固たる自己がなければ成り立ちません。言葉を大切にしない民族は滅ぶと言っても過言ではありません。

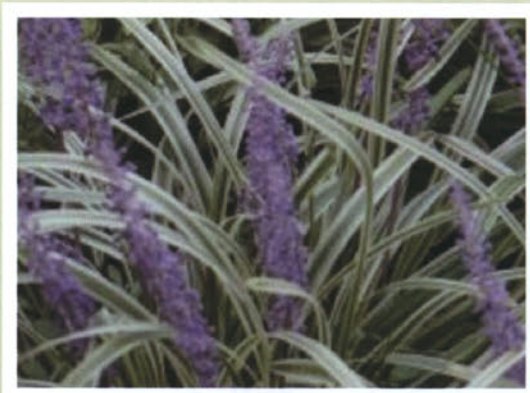
163
2012/10/5

教師の条件

教育現場のトップとして6年目を迎え、教師の条件が良くわかってきました。教師になるためには教員免許が必要ですが、教員免許を持っているからと言って教師として一人前とは言えません。教員免許は必要条件であっても十分条件ではありません。教師としての必要十分条件を大別すると次の三つになると考えています。①授業が上手でびしっと決められる先生（専門的スキル）②生徒指導に長けた先生（コミュニケーション能力）③校務分掌に汗をかく先生（協調性）。②が出来る先生は①が出来ますし、③もできるのが一般的ですが、中には①のスキルや③の意欲がもう一つと言う場合もあります。①については生徒のレベルによって受験指導ができるかどうかも問われます。出来具合が著しく悪い場合はその部分に黄色信号が点滅します。③はできるが①と②が出来ない先生というのはまずありません。すべてできない先生は教師としての仕事には不向きと言わざるを得ません。こう考えますと、教師として一番大切なことは②だということになります。即ち、生徒指導ができる人、コミュニケーション能力の高い人です。一般企業の採用条件を見ますとやはりコミュニケーション能力が上位に来ています。専門的知識はそれほど重要視されていません。教師は研究職ではないのですからそれなりの大学を卒業しておれば教科的には普通の授業はこなせます。受験指導となると本人も受験を経験している人の方が有利ですが、やる気の問題で研究すれば追い付けます。しかし、勉強が好きで教えることが好きだというだけでコミュニケーションが不得手であるならば、教師の仕事はできません。

教師として必要とされるコミュニケーション能力とは具体的にはどういうことなのでしょうか。生徒の状況を良く理解した上で、生徒に真剣に向き合い、生徒の成長を実現する能力です。向き合ったが全く実現できなかったり、出来ないことを生徒の責に帰した

りするようでは失格です。特に思春期の多感な生徒達と向き合うときには論理一辺倒ではダメなのです。琴線に触れるような温かさと思いやりが不可欠です。時間と手間を惜しんではこの仕事はできません。先ず、個々の生徒の事情を良く観察し検証することが必要です。指導内容も、叱る、慰める、励ます、相談に乗る等様々です。そのケースに応じて言葉遣いや話の内容を変えねばなりません。保護者対応においては、顔が見えない電話での応対は言うに及ばず面談時においても話し方



や言葉の端はしにその人の気持ちが表れているということを忘れてはなりません。また生徒や保護者が求めていることを的確に掴んでいなければなりません。教師は沢山の引き出しを持っていないと務まりません。そしてそれを支えるのは何と言っても情熱と誠意です。私は、スキルが未熟でも情熱を傾けて誠意をもって生徒に取り組んでいる若手には向う傷は問いません。一方、キャリアを重ねていても情熱を失えば、この仕事はやめるべきだと思います。一般企業ならやる気がなくなっても業績が上がらず昇進や給与に影響するに止まり、自己責任で済みますが、教師は子供の将来を左右する仕事ですから、半端な気持ちでやってはいけない職業なのです。

164
2012/10/24

掃除から生まれたもの

この度、「大阪府私立高等学校がんばった学校支援事業」における社会貢献、ボランティア活動部門に応募しましたところ、本校の清掃活動を中核としたボランティア活動の取り組みが優れた実績を残していると認められ支援補助を頂戴出来ることとなりました。この制度は、当時の橋下大阪府知事の肝いりで出来たもので、学ぶ力ナンバー1、「夢」と「希望」をはぐくむ学校オンリー1、職業教育ナンバー1の3つのカテゴリーに分かれています。本校が対象となった社会貢献、ボランティア活動は、「夢」と「希望」を育む学校オンリー1のカテゴリーに属しています。選考理由に

は、「清掃活動（全校生徒１０００人が参加）を中核としたボランティア活動や地域交流事業の取り組みを行っており、年々規模が拡大している。また、大阪市環境局長から美化運動功労者表彰を授与されるなど、地元の自治体等からもその貢献を評価されている。」と記されております。

この清掃を中心としたボランティア活動の切っ掛けは、以前にも書きましたように、平成19年の学校見学会に遡ります。学校の横を流れる神崎川沿いの歩道がたばこの吸い殻やごみであまりに汚いので、中学生や保護者にこんな道を通ってきていただいたのでは気の毒だと思い、生徒指導部長に声をかけて私も手伝って一部の運動部の生徒と一緒に掃除をしたのが始まりでした。少数のクラブ生で始まった清掃は、今では全校生徒１０００人が参加して行われる規模にまでなりました。週3回のペースで、生徒6人のグループが3班で18人が年間１５０日ですから延で２７００人、そして教員は延４５０人の動員となっています。阪神千船駅から学校までとＪＲ御幣島駅から学校までが清掃区域です。また、大阪市の「まち美化パートナー」制度に登録し、国交省の「ボランティア・サポート・プログラム」事業にも団体登録しており、定期的に御幣島駅の地下道の壁の大掃除も実施しています。清掃以外にも天然芝のグランドを使っての近隣女子小学生を対象とした好文ＣＵＰキックベースボール大会の開催、市内中学生対象のバレーボール大会の開催、地区のＰＴＡのママさんバレーへの体育館貸与、盆踊り大会練習場の提供などなど学校施設の地域への開放を進めています。

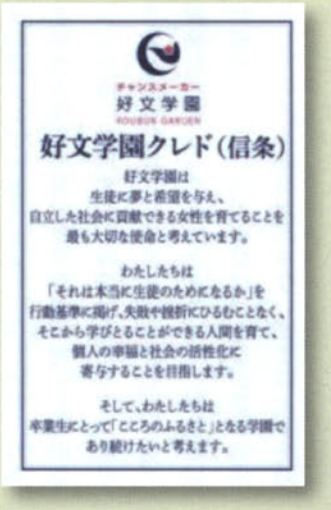
また、吹奏楽部や合唱部が地域の様々なイベントへ率先して参加しており、警察や自治会、老人会など地域の皆さんから大変喜んでいただいており、生徒たちの励みとなっています。当然中には義務感で清掃に参加している生徒もいるでしょうが、通りがかりの方からお礼を言われて嬉しかったと素直に喜びを語る生徒も大勢います。地区の敬老会から敬老の日の集まりの場所が狭いので困っているとの相談を受けて、学校のレストランをお貸ししました。少林寺拳法部が演武を披露するとともに合唱部が懐かしい歌を披露しま

した。お年寄りの方が大変喜んでくださったと、目を輝かせて話してくれた生徒もいました。あらゆる分野でコミュニケーション能力が大事だと言われています。能力開発のプログラムやセミナーも沢山あります。しかし、人と人との関わり合いが希薄になっている現代においては、コミュニケーションとは先ずはこのような一昔前ならごく当たり前であったことから始まるのではないでしょうか。社会貢献やボランティアというと、こちらから相手に何かをしてあげるという意識が先に立ちますが、実は双方向のコミュニケーションの場であり、与え与えられるものだと考えることが出来ます。チャンスメーカーをスクール・メッセージとしている好文学園はコミュニティの一員としてこのようなステージを大切にして行きたいと思います。そして、これらの活動の成果は多くの教員の不断の努力の賜物だと感謝しています。教師が変われば学校は本当に変わるものなのだということを痛感いたします。

165
2012/10/26

好文学園クレド

世界的な高級ホテルの一つリッツ・カールトン・ホテルの従業員は、クレドと呼ばれる名刺サイズの四つ折りになったラミネートカードを常に携帯しています。カードの表面は「クレド」、「従業員への約束」、「モットー」、「サービスの3ステップ」から成り、裏面は20項目にわたる「ザ・リッツ・カールトン・ベーシック」といわれる行動指針が記載されています。「クレド」には次のように書かれています。「リッツ・カールトン・ホテルはお客様への心のこもったおもてなしと快適さを提供することを最も大切な使命とこころえています。 わたしたちはお客様に心あたたまる、くつろいだそして洗練された雰囲気を常にお楽しみいただくために最高のパーソナル・サービスと施設を提供することをお約束します。リッツ・カールトンでお客様が経験されるもの、それは、感覚を満たすここちよさ、満ち足りた幸福感そしてお客様が言葉にされない願望やニーズをも先読みしておこたえするサービスの心です」 ここにはリッツ・カールトン・ホテルがお客様にとって何を提供しどんなホテルであるべきか即ち理念や使命そしてサービス哲学が凝縮されています。私がこのクレドを最初に知ったのは１９９７年、リッツ・カールトン・ホテル大阪が開業の直前に、ある経営者の会でホテル開業準備室の方からお話を伺った時だったと思います。その時は「このような明確な理念を掲げて従業員が一丸となってお客様に奉仕できるのはさすが一流ホテル」と感心し羨ましく思ったものでした。15年の時を経て、今、「好文学園クレド」を作成することになろうとはその時には夢想だにしませんでした。平成19年本校


チャンスメーカー
好文学園
KOUBUN GAKUEN

好文学園クレド（信条）

好文学園は
生徒に夢と希望を与え、
自立した社会に貢献できる女性を育てることを
最も大切な使命と考えています。

わたしたちは
「それは本当に生徒のためになるか」を
行動基準に掲げ、失敗や挫折にひるむことなく、
そこから学びとることができる人間を育て、
個人の幸福と社会の活性化に
寄与することを目指します。

そして、わたしたちは
卒業生にとって「こころのふるさと」となる学園で
あり続けたいと考えます。

の校長に就任することが決まった時、「こんな学校にしたい」という思いを込めて、「自立した、社会に貢献できる女性を育てる」を使命とする一連の教育方針を制定し学校改革を始めました。教職員の足並みを揃えるのにはかなり骨が折れましたが、5年が経過し教職員の中に教育方針がほぼ浸透するとともにこれに共鳴する新たな仲間たちも増えてきました。そこで、今回、同じ感性、同じ価値観を持っていれば、ごく自然に受け入れられるものであり、心の羅針盤となるものとして「好文学園クレド」を作りました。（財）日本私学教育研究所編で日本教育新聞社から出されている「教師生活24時間」という本があります。副題には「初任者におくる教師の心得、教職員必携の実務書」とあります。鍋蓋組織に慣れきった教員集団には残念ながら社会人としての基本姿勢が出来ないまま数十年を過ごしてしまったという人もおり、この本はそのような人には頂門の一針となる実によくできた本でしたので、この春、全教員に配布しました。「好文学園ベーシック」に記載した25項目にはその多くのポイントが反映されています。好文学園では専任教諭のみならず、常勤講師も非常勤講師もすべての教職員がこのクレドカードを常時携帯し、振り返りつつ日常の教育活動に活かしてゆくことになります。これが私たちの決意なのです。

166
2012/10/29

人の世がまことにおもしろく

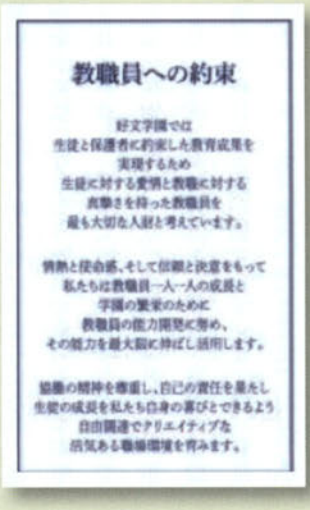
齢80歳の石原慎太郎東京都知事が知事を辞職し新党を旗揚げすると緊急記者会見を行い、停滞しきった政界が俄かに騒々しくなってきました。「最後のご奉公」とやむに已まれぬ大和魂のなせる業か、「老人の暴走」か、評価は分かれるところですが、記者会見での官僚批判に見る舌鋒の鋭さは、橋下大阪市長と共通するところがあり、痛快な面もありますが、はてさて、人の世はそのようにくっきりすっきり行くものかどうか。

「つくづくと、ばかばかしく思うのだよ、久栄」いつであったか平蔵が、妻女におもわず零したことがあった。「このように、一生懸命にはたらかなくてもよいのだ。よい加減にしておいて、他の人に交替してもらうのが、もっともよいのさ。これではおれも、とうてい長生きはできまいよ」「では、よい加減にあそばしたなら、いかがで」「できれば、なだが、どうもいけない」「なぜ、いけませぬ？」「この御役目が、おれの性にぴったりはまっているのだ。これはそのまことにもって、困ったことだ」「まあ」「他のだれがやっても、自慢ではないがおれほどにできまい。なればこそやめられぬ。これはな、久栄。なにも悪党

どもを征伐して諸人の難儀をふせぐ、などという偉そうな気持からではないのだ。つまりは、その」「この御役目がお好きなので」「いや、そうではない。好きではないが、やめられぬという理屈ではわからぬことだ。つまりはその、盗賊相手にはたらく御役目へ、おれはどっぷり足をとられてしまっている。いまのおれとくらべて見て、以前に、いろいろとつとめた他の御役目なぞの味気なさを思い出すと、ぞっとしてしまうのだ」「まあ、そのようなことを」「そのとおりだ。いずれも堅苦しく肩ひじを張っておつとめをする役目で、なんの新しさも感動もなかった。それにくらべると、いまおれがしていることは、日に日に新しい。いろいろな人間たちの、いろいろな心とふれあい、憎みながらあわれみ、あわれみつつ闘わねばならぬ。四十をこえて長谷川平蔵、人の世がまことにおもしろくなってきて、な」なのだそうである。（鬼平犯科帳（六）池波正太郎　礼金二百両　から抜粋　文春文庫）

私が鬼平犯科帳のファンだということは以前の好文木でも申し上げました。当初はテレビドラマのみでの鬼平とのコンタクトでしたが、じっくりと小説を通して付き合うようになると更に感慨深く、学校現場における日々の出来事が重なり合うようになりました。それはたぶん、どちらにも信賞必罰の厳しさとともに失敗や挫折を味わった人間に対する理解と励まし、言い換えれば不条理なる存在である人間とのコミュニケーションという共通したテーマがあるからではないのかと思います。鬼平の片腕である与力、佐嶋忠介や同心、沢田小平次、木村忠吾などの顔が、クラブ指導や学校行事そして生徒指導にと365日ほとんど休みも取らず走り回っている管理職、自らの意識改革と若手育成に試行錯誤しながらも頑張っているベテラン・中堅教員、先輩に厳しくOJTで教育されながら腐ることなく一生懸命生徒に関わろうとしている若手教員らの顔とだぶって浮かんできます。しんどいのに本当によくやってくれるなと頭が下がります。何かと批判されがちな学校の先生ですが、本校のみならず他校を見てもプライベートを犠牲にして生徒のために頑張っている教員は沢山いるのです。そしてこういう人たちも、「一生懸命はたらかなくてもよいのだ。よい加減にしておいて、他の人に交替してもらうのが、もっともよいのさ。」との思いも当然あるのでしょうが、なぜかそうせず、あえて苦しい道を選んでいるようです。私は五十をこえた時、この御役目につきましたが、同じ価値観の仲間と同じ目的を持って働けることが何より有難く思えてきました。そしてまた、「人の世がまことにおもしろくなってきて、な」とつくづく感じるのであります。

長谷川平蔵は実在の人物で、十代将軍家治の時代、特別警察である火付盗賊改方長官として活躍する一方で、石川島に人足寄場を設け無宿人や犯罪者の社会復帰にも貢献したそうです。若年寄配下で治安維持を担う先手組組頭が本来の役職で火盗改メは加役（臨時）なのですが、これが彼の本役になってい



教職員への約束

好文学園では
生徒と保護者に約束した教育成果を
実現するため
生徒に対する愛情と教職に対する
真摯さを持った教職員を
最も大切な人財と考えています。

情熱と使命感、そして信頼と決意をもって
私たちは教職員一人一人の成長と
学園の繁栄のために
教職員の能力開発に努め、
その能力を最大限に伸ばし活用します。

協働の精神を尊重し、自己の責任を果たし
生徒の成長を私たち自身の喜びとできるよう
自由闊達でクリエイティブな
活気ある職場環境を育みます。

るわけです。旗本として決して大身とは言えぬ400石取りの平蔵は、幕府から下される役扶持では十分な捜査が出来ず、この役目についてからは家に伝わる書画骨董を売り、捜査の費用に充てており家計にゆとりがなくなったと池波正太郎は小説に書いています。にもかかわらず、配下の与力や同心、元盗賊の密偵たちにも細やかな心配りをする平蔵の人柄が大きな魅力の一つです。自らも着流しに編み笠で市中見廻りに出て時にはおまさや小房の粂八など元盗人であった密偵とともに見張りもする鬼平は、若き日に無頼の日々を送ったことがあるだけに世情に通じ、兇賊に情け容赦なく振われる愛刀、粟田口国綱の一撃は、一生懸命に生きようとする者に対する優しさの裏返しと言えます。事件が解決したあとに平蔵が漏らす一言には、無常観と温かみが感じられます。その根底には「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角にこの世は住みにくい」という漱石の諦観に通じるところがあるようにも思えますが、漱石よりもっと前向きでほのぼのとした諦観が読後に心地よさをもたらせてくれます。

167
2012/11/16

曲論のなかの正論

秋が足早に去って行き木枯らしとともに冬の到来を感じる今日この頃です。それにしても近年は心地よい季節が短くなってしまいました。蚊がいなくなったと思えばもう冬です。今年も残すところ1か月半になって、衆議院の年内解散と投票が決まりました。TPP解散か野田おろし回避解散か、後世では何と呼ばれるのでしょうか。ついに民主党と言う呉越同舟の政党が沈みます。しかし、どうもそのあとの政権も不沈空母とはなりそうもなく、政界も当分波高しで、日本経済には暗雲が低く垂れこめた状態が続きそうです。

田中真紀子文部科学大臣の大学認可をめぐる騒動は、ゲームが進行中に突然ルールを変えようとしたところに無理がありましたが、ゲームのシステムそれ自体を変えることは必要だろうと思います。規制緩和の弊害で大学がまさに乱造された結果、子供たちは大して勉強しなくとも大学に行けるようになり、補助金が無駄になるような質の低い大学生が生まれています。橋下大阪市長が学力が全国でも低い大阪の教育を立て直す一環として、小学校の土曜授業の復活を宣言し、数校で試験的な土曜日の実施が始まっていますが、私は学力は「量×質×意欲」だと考えており、いかに良い内容で多くの時間をかけても意欲がなければ学力の向上は達成されないと思います。この意欲はインセンティブを与えることによって生まれます。志望大学に合格したいから見たいテレビを諦めて勉強するという場合は正のインセンティブ、落第させられたくないから勉強するというのは負のインセン

ティブです。大学数の増加と指定校推薦制度や本来の趣旨から外れて生徒確保に主眼を置いたAO入試制度などがこの正のインセンティブのハードルをぐっと下げてしまいました。18歳人口の大学進学率が15％未満の時代、大卒はエリートでしたが、戦後の高度成長に比例して大学数の増加と進学率が15％を超え50％に向かって上昇していったとき、大学の大衆化（マス化）が進行しました。私が大学に進学した1970年代はまさに大衆化の途上でした。戦前の大学生と比べれば東西古今の古典への造詣の深さには格段の差があります。「きけわだつみの声」に紹介されている学徒出陣の若者の日記や手紙を読むと、愛読書から彼らの教養の深さを知ることができ、わが身の不勉強を恥じ入るばかりです。1990年代以降の規制緩和による大学新設は更に進学率をアップさせることとなり、2009年に初めて50％を越え現在は56％になり、大衆化からユニバーサル化のステージに入りました。2人に1人が大卒で企業の採用も大卒中心に変わった現在、大学はエリート育成だけではなく、多くは産業社会で通用する人間を育てるという役割を担うこととなりました。その中で、ますますリベラルアーツ（教養）は軽んじられ、細分化された専門知識や技術の習得に比重が移りました。また、学生の確保がままならぬ大学では専門学校と同じような内容を教える学科を開設しているところもあります。本来の大学としての教育と研究の質を確保できない大学が増え、大学生の質が低下してきました。これにストップをかけようというのが田中文部科学大臣の意向であり、それは至極まともな考えであると思います。

本日11月16日の日本経済新聞は社会欄にて、「早大生2割減　20年後、人材育成策」とのタイトルで、早稲田大学の国際人材育成策が報じられています。これによりますと、早稲田大学はアジアの大学のリーダーになることを目指し、創立150周年を迎える2032年までの中長期計画「WasedaVision150」を発表しました。20年後に学部生を3万5千人と現在より2割減らし、少人数制クラスによる対話型、問題解決型の授業を増やし、全学生に海外留学を義務づけ、外国語で行う授業を全体の50％に引き上げる等々の新しい政策を打ち出しています。教育の質を高めるために、学部生は約9千人減の3万5千人、留年生を減らし、定員の削減や学部再編も進める一方で、常勤講師を2千人と2割増やし、討論・演習中心の授業の割合を75％に引き上げる予定です。早稲田においても今や一般入試以外での入学者が半数を占めており、35年前苦労して入学した卒業生の一人として私も複雑な思いを持っていましただけに、大学の新設認可にストップをかけようとした田中真紀子文部科学大臣の母校が、教育の質を高めるために20年後を目途とはいうものの学生数削減策を打ち出したことは評価に値すると考えます。東大の秋入学検討開始から端を発した大学のグローバル化戦略は、勉強しなくても大学に行ける時代の終わりの始まりになるのではないでしょうか。

2011年9月、中央教育審議会（中教審）が初等中等教育分科会の下に高等学校教育部会を設置し、高校教育での学力の保証などに関する議論を重ね、今年8月に「課題の整理と検討の視点」が取りまとめられました。このなかで、学習意欲の減退、とくに学力中間層の学習時間の大幅な減少が大きな問題とし

て取り上げられています。そして高校時代に身に付けるべき能力のコアをどう考えるかの議論では、幅広い教養やコミュニケーション能力と言った抽象論に混じり、基礎・基本的な知識として「読み・書き・そろばん」のレベルを上げる現場教員が多いことが、今の高校教育の現状を何よりよく物語っていると感じます。大学教育の改善とともに初等教育、義務教育段階の教育の改善が進めば、高校においても本来の高校らしい教育が取り戻せると思います。

168
2012/11/27

師走の衆院選に思う

今回の衆院選は14もの政党が入り乱れての闘いとなっています。6年で7人目の首相となることが確実な状況で、一昔前のイタリアのようです。政党名も「自由民主党」、「社会党」、「共産党」など政治思想や経済体制を示すものから、「減税日本」、「反TPP」、「脱原発」など個別の案件に対する賛否を表すものが増えてきました。ソビエト連邦の崩壊の後1992年、アメリカの政治経済学者フランシス・フクヤマ氏はその著書『歴史の終わり』において、イデオロギー闘争の最終的な勝者が民主主義であり自由主義であると述べました。今回、原発政策や減税についての考え方の違う「日本維新の会」が「太陽の党」との合併を発表したとき、「野合」だという批判が出ましたが、イデオロギー闘争華やかなりし頃の政治家である石原慎太郎氏にとっては、もはやイデオロギーの対立が無くなった今日的課題における相違はまさに小異にすぎなかったのでしょう。小沢一郎氏が新党「国民の生活が第一」を立ち上げた時は、白々しくもナンセンスな党名で、本校が行動基準と定めた「それは本当に生徒のためになるか」を校名にするようなものだと違和感をも覚えたものですが、いざ選挙となって、民主党から自民党や日本維新の会に鞍替えする脱党議員を見ると、満更でもないネーミングだと思えてきます。TPP交渉参加を踏み絵として党内意見の一本化を図る野田総理の手法を反TPP派の山田元農水大臣は民主主義に反する独裁だと憤慨していますが、執行部の方針に反対の議員が良く使う常套句で、郵政解散時の小泉総理に真っ向から挑んだ亀井静香氏も同じ批判をしていました。その亀井氏、自民党から出て国民新党を作り民主党と協力関係にありましたが消費増税をめぐる路線対立で国民新党を追い出され今回は、「反TPP」党結成と、ミクロ路線をひた走っています。トップの最終決定に社員が従わないような企業は組織としての体を成さず、決定、決断ができず崩壊してしまいますが、我が国

の最近の政党にはこの原則が当てはまらないのでしょうか。いや、そもそも民主党も国民新党も国民の生活が第一も多くが自民党出身者ですから、アメリカやイギリスのような二大政党制とは異なり、自民党を核とした保守政党が、案件ごとにチームを組んで離合集散する形態が常態化すると考えるのが妥当なのかもしれません。

民主党初代鳩山氏は「思い付きを言いっぱなし、やりっぱなしにする」無責任・無節操総理、二代目菅首相は危機管理ぶち切れ総理でしたが、三代目の野田氏に至ってようやく消費税増税やTPP参加など賛否はともかく組織としての方向を決定するというトップとしてふさわしい仕事をした総理が生まれましたが、それが民主党政権の幕引きとなると予測されるとは誠に皮肉です。その煽りを受けて鳩山氏が政界引退を余儀なくされたことは当然というべきでしょう。しかし、引退会見においてもなお、「弱いものを忘れないでほしい」などと宣う姿を見ると、「命を守りたい」を連呼していた頃となんら変わらず、使われるセンチメンタルな言葉とは裏腹に国民感情に最も遠いところにいる政治家だと思います。今度は友愛の研究所を作るそうですが、お金持ちが道楽で政治をしたような方でした。「巧言令色鮮し仁」という言葉がこれほど似合う政治家もいないかもしれません。政権交代による政治の活性化と経済の再生は大いなる幻想に終わりましたが、この3年間の民主党政権には組織の長としてどうあるべきか、反面教師として多くのことを学ばせてもらいました。①成算もないのに思い付きで理想に走った発言をしてはいけない。期待させただけ失望も大きく、無為無策よりその罪は大きい。②知識もないのに部下を馬鹿にして自分の思い付きでちょろちょろ動いてはいけない。任せるところは任せ部下を信用し、責任は自分が取ることを明言せねば人はついてこない。③言葉の大切さを認識しなければならない。言い逃れや詭弁を弄すると信用を失う。失敗学には事欠かなかった政権が終わりかけています。そして、次期首相に確実視される自民党の安倍晋三氏は、デフレ脱却に向けて2%のインフレターゲットの設定、日銀による外債購入など日銀法改正も視野に入れた大胆な金融緩和措置を講ずるアベノミックス（ABE：アセット・バブル・エコノミー）で景気浮揚を図ろうと意気軒昂です。しかし、この安倍さんが6年間で首相が7人目となるような短期政権の引き金になったというのもまた皮肉なものです。安倍さんの口先介入で円相場は78円台から82円台まで円安が進みました。日経平均も9000円台を回復しています。約80年前、世界恐慌下の1931年、金解禁による円高と財政緊縮、金融引き締めで日本は大不況に陥り、いわゆる昭和恐慌が起きました。政権は民政党から政友会に代わり、高橋是清大蔵大臣による積極財政で金解禁を放棄し、円安が進み、株価が急騰しました。時あたかも満州事変が勃発し日中関係が緊迫の度を増していたのです。財政規律のゆるみが軍事費拡大につながることになり、太平洋戦争へ突き進むことになったと言われています。現在の政治経済状況が昭和恐慌時に酷似していると懸念を表明する専門家もいます。国を挙げて、コミュニケーション能力と問題解決能力が問われているようです。

169
2012/11/30

大変な時代

『大変な時代』、これは1995年に堺屋太一氏が出版し、ベストセラーとなった本の題名です。少子化、グローバル化、ソフト化の波に洗われる日本の将来が大変厳しい時代になると予測していましたが、17年後の2012年、その通りの時代がやってきたと感じます。28日の日経新聞は、「学生確保へ はやる企業」と題して就活短期化2年目の現状を報じています。あまりにも早い就活開始時期が学業に影響するとの大学側の声に応じて、経団連が採用活動指針を見直し、従来の3年生の10月を2ヶ月遅らせて12月からとしたのですが、早くから活動する学生とのんびり派とに二極化してきたと就職情報会社の編集長は分析しています。この記事を読むと、短期化になった去年の就活戦線での学生のエントリー件数は一昨年比2割減の69社になったそうです。しかし、減ったと言っても69社、私ならどこの会社にエントリーしたか覚えられるのは10社程度です。インターネットのなかった時代に就職活動をした私は、先輩訪問や説明会に参加した会社は、5社ぐらいでした。実際に受験したのは第一志望と第二志望の2社のみで、幸い双方から内定を頂きました。当時は若干、売り手市場だったと記憶しており、内定を断って灰皿を投げつけられたと言うような話も聞きました。第二志望の会社で役員面接が終わり内定を頂けたとき、正直に第一志望の会社があることを話したら、「わかりました。あなたの成功を祈ります。でも、万一第一志望がだめだったら、いつでも当社に来てください。お待ちしていますから。」と有難い言葉をかけてくだ

さったことを覚えています。確か当時、人事担当の部長さんだったと思うその方は、そのあとその会社の社長になられたと記憶しており、今でもその第二志望だった会社には良いイメージを持っています。当時も面接でこう言ったら受けたとか、この会社はこんな学生を好むとか噂はいろいろ聞きましたが、インターネットがなかったので口コミの域を出ませんでした。就活ハウ・ツー本もほとんどありませんでしたし、エントリーシートの書き方がブログで紹介されている今とは違い、自己アピールの書き方など人に教わった覚えがありません。現在はとにかく情報過多の時代だと言えます。コロンビア大学のシーナ・アイエンガー教授は『選択の科学』のなかで、24種類のジャムと6種類のジャムを店頭に並べた時のジャムの売れ行きを例にとって、選択肢が多すぎると人は選ぶことが出来ないと述べています。就職が厳しい時代ですからとにかくたくさんエントリーしなければという気持ちはわかりますが、69社もの会社にエントリーできることが選択の自由の拡大と言えるのかどうか、IT化の進展は我々の情報へのアクセスを格段に容易ならしめ、選択の

自由を拡大したことは確かだと思いますが、そこには情報を取捨選択する力が必要とされ、それがなければ、逆に選択できないというパラドックスが生まれています。採用する会社側も人気企業であれば応募が何万人と来ますので、書類選考さえ時間がかかって大変なので、有名大学でなければ自動的に断るシステムを組んでいるところもあるやに聞いています。「学歴不問」が建前ですが、「学歴社会」が本音です。また、実体験のないまま知識だけで職種や企業の判断をしてしまう傾向も強まっていると感じます。2012年春卒業の大学生は約56万人でしたが、そのうち約13万人が安定雇用を確保できなかったと言われています。5人に1人の割合になります。企業の求人総数が2009年の約95万人から2013年には約55万人へ40万人も減少しているのですから、就活が大変厳しくなっていることは間違いなく、大企業や有名企業への就職は狭き門です。

私が1981年に総合商社に入社した時、当時40歳代前半だった課長代理が「僕らが入社した当時なら、この会社を退職したら、持ち家はもちろんのことそれ以外に貸家の一件も持てたものだが、僕らはローンで持ち家を買うのが精一杯だ。」と、ぼやいていたことを思い出しますが、今はその会社に入ることが相当ラッキーだと言う時代になりました。昔を懐かしむのは非生産的ですが、社会が豊かになればなるほど、高学歴化が進めば進むほど、競争が激化し、「大変な時代」になるのだと実感します。

Benesse教育研究開発センター発行の教育情報誌の大学教育特集では、大学の授業を一方的な講義形式からディスカッションやディベートを取り入れた主体的な学びに変える必要性を説く意見が多く掲載されています。興味深いのはアメリカNational Training Laboratoriesの調査結果から導き出されたThe Learning Pyramidです。授業から得た内容を半年後に調べたところ、定着率の高い順番に並べると、「他の人に教える」、「自ら体験する」、「グループ討論」の順番になったそうです。一方、最も定着率が低かったのはただ黙って講義を聞くという学習方法でした。能動的に授業に参加することが学習定着率の向上につながるということです。これは高校の授業に置いても全く同じことが言えます。

また、学びたい学問や就きたい職業が明確になっていない高校生にもっと情報を提供すべきとの意見もありました。現在の高校の進路指導では、1年生で就きたい職業を調べさせ、2年生でその職業に関係のある学部を調べさせ、3年生ではその学部を有する大学を調べ自分の学力に合った大学を決めさせるのが主流となっているが、職業と結びつく大学への進路指導には限界があり新たな切り口が必要だとも論じています。大学はまだしもそもそも高校のキャリア教育でいったいどこまで社会や企業の実態を教えることができ、正しい選択の材料を提供できるのでしょうか。ほとんどの教員は大学を出て教師一筋で企業経験がありませんから職業に結びつく大学への進路指導に限界があるというのは当然のことで、それを補おうとすれば、外部の力を借りなければなりません。しかし、「聴く、読む、書く、話す」という基礎力が著しく低下している中等教育に置いて、基礎力が確保できた上で発展的な学習としてなら成り立つのがキャリア教育であり、基礎基本を疎かにしたままではキャリア教育の効果は上がりませ

ん。この両立を要求される時代となり、過去の蓄積で食ってゆくことはできず、常に新しいことを勉強してゆかねばならない学校の先生にとってもまさしく「大変な時代」になりました。

Ｙａｈｏｏビジネスニュースは、フランスを始めヨーロッパおよびに日本における若者の失業率の高さを取り上げ、解雇規制が労働者を守る盾だが、その盾が若者の就職を拒む壁になっていると問題提起しています。24歳以下の失業率はフランスでは22％、イギリス19％、ギリシャやスペインに至っては50％を超えています。失業率の低い日本においても全世代平均の4・6％に対して若年失業率は8・2％と非常に高くなっています。特に日本の統計では失業者を「働く意思と能力があるのに仕事に就けない状態の人」に限っており、仕事探しを諦めた人が入っていないので、実際はもっと多いとの意見もあります。年金受給年齢の先延ばしにより、企業の定年を伸ばすようプレッシャーがかかっています。最近は60歳は老人とは言えずまだまだ働けますから、意欲と能力がある人が長く勤められることは歓迎されるべきことだと思います。しかし、意欲も能力もない人を定年まで雇い続けねばならず、意欲ある若者が雇えないというのであればこれは納得がいきません。そういえば、母校の小学校のスローガンに「一に体力、二に気力、三に学力、ぐんぐん伸びる」というのがありました。世の中が右肩上がりであった時代から停滞と大競争の時代になると、退職年齢を伸ばすという画一的な対応ではなく、職種に応じて、体力、意欲、能力のあるなしで判断するのが合理的ではないでしょうか。また雇用の流動化も覚悟して企業も人事政策を考えなければなりません。この場合、定年と言う概念が無くなります。雇う方も雇われる方も適度な緊張を持って臨む必要があるでしょう。　わが国でも昨今「業態見直しリストラ」が加速しており、解雇無効を求めて元社員が提訴に及んだ外資系日本法人の有名企業もあります。就業時間間際に上司に呼ばれ会議室に入ったら人事担当者がおり解雇を通告され、荷物を持って定時退社するように通告されたそうです。解雇が正当とされる判断基準は①会社にその必要性が十分あること②解雇回避の努力を十分尽くしたこと③人選基準に合理性があること④妥当な手続きを取っていること等が挙げられます。会社側の経営が立ち行かなくなりつつあり、社内での他部署での仕事も探したが見つからず、やむに已まれずやめて頂かざるをえない様な事態の場合にのみ解雇が認められるというのが今までのわが国での常識でした。しかし、変化のスピードが益々速くなり、ぎりぎりまで我慢していたら大企業ですら明日はないという世の中になり、この解雇基準も揺らいできているように感じます。以前、アメリカの大手銀行に勤めていたことのある知人に話を聞いたことがありました。銀行が経営不振に陥った時、ある朝出勤したら、彼の所属していたセクションの人の荷物が廊下に出されており、全員首になっていたそうです。２００８年のリーマンショック時、テレビニュースで段ボール箱を抱えた社員が次から次にビルから出てくる様子が映し出されていましたが、同じ光景がそう遠くない日に日本でも見られるようになるかもしれません。高度成長期に確立した終身雇用・年功序列賃金・企業内労組という安定した雇用システムに慣れてきた我々の働き方についての意識改革が必要となる「大変な時代」になったと言わざ

るを得ません。

170
2012/12/19

総選挙結果に思う

2009年11月6日の好文木「時に感じて涙をそそぎ」において、民主党の地滑り的勝利はバブルであると書き、いずれこのバブルははじけると言ってきましたが、ついに今回の衆院議員総選挙でこのバブルが崩壊しました。前回の総選挙では、リーマンショックの煽りを受け世界的な金融危機が招来され停滞する経済下での格差拡大がクローズアップされていました。小泉・竹中ラインの新自由主義的政策に批判が高まるとともに、安倍、福田、麻生と短命内閣に嫌気がさした国民の支持が、チェンジの掛け声とともに颯爽と登場したアメリカのオバマ大統領にあやかるがごとく「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズで登場した鳩山民主党に大挙して流れました。しかし、当初の威勢の良いマニフェストはどこえやら、大言壮語してはばからぬ宇宙人総理の迷走と呉越同舟の党内ガバナンスに破綻をきたした結果、鳩山、菅、野田のこれまた短命政権において、世論のスクリューは猛烈な逆回転を始め、今回の民主党の大敗と自民党の圧勝という結末を迎えました。そしていつか来た道、安倍内閣に戻ります。NHK大河ドラマ「平清盛」は、後白河法皇と清盛の権力争いを描く中に双六を絡めています。後白河法皇の曽祖父にあたり絶大なる権力を誇示した白河法皇が「朕の意のままにならざるものは、双六の賽、加茂川の水、山法師」と言ったことに起因するのでしょう。法皇と清盛が二つのサイコロを振って勝負する場面がしばしば出てきました。勝った方の望みを、負けた方が聞くという条件で最後の双六に臨み、勝った清盛が後白河法皇に出した望みとは、「もうこれで双六は最後に願いたい」というものでした。「もはや武士は王家の犬ではなく、これからは武士が覇を競い合う武士の世が来る」と清盛は言い残して去ります。人の世は、行きつ戻りつを繰り返す終わりなき双六なのかもしれません。民主党では現職の大臣が何人も落選の憂き目を見ました。3年前を思い出せばまさに驕る平氏久しからず、諸行無常の響きありです。猿は木から落ちても猿ですが、政治家は選挙に落ちればただの人。壊し屋の異名を持つ小沢一郎氏もついに進退窮まりといったところではないでしょうか。小沢さんは自民党幹事長時代に剛腕を振るい、新進党結成後も財界からの期待は大きいものがありました。保守本流のように見えていたのですが、民主党結成では日教組の親分と組み、民主党を割って出ては、「国民の生活が第一」などと歯の浮くような党名を冠し、選挙前には卒原発を掲げる日本未来の党に合流するなど、傍から見ると首尾一貫しない行動でした。大金を持っ

て博打をし、賭けるたびに元金を減らしてきたギャンブラーのように映ります。小沢氏につき従った議員は今回の選挙でみんな討死し、選挙前議席62は9へと壊滅状態となりました。策士策に溺れるという感を強くします。日本維新の会の橋下氏も石原氏と組むことで主張のぶれがみられます。君子豹変すと言いますが、ここがピークのように思えます。

ピーター・ドラッカーは、「リーダーシップとは目標を定め、優先順位を決め、基準を定め、それを維持するものである。」と述べています。そして、「リーダーシップは、カリスマ性に依存しない。カリスマ性はリーダーを破滅させる。」と言っています。「リーダーに関する唯一の定義はつき従うものがいるということ。」、「リーダーシップは賢さに支えられるものではなく、一貫性に支えられるものである。」さて、再登板の安倍自民党に国民が期待するのは景気回復と雇用拡大です。ユーロ危機も未だおさまらず、世界経済が不安定な中、デフレ脱却が急務とされ、経済成長と財政再建という難問に挑戦する新政権の行く手もまた波高しです。「成果を上げるための秘訣を一つだけ挙げるならは、それは集中である。成果を上げる人はもっとも重要なことから始め、しかも一度に一つのことしかしない。」ドラッカーは私たちの日常にも通じる実に含蓄のある言葉を沢山残してくれています。

171
2012/12/21

二学期の終業式にあたり

今日は二学期の終業式でした。朝の登校時、玄関ホールのクリスマスツリーの前で合唱部によるクリスマス・ミニコンサートが行われました。これも早や3年目になるのでしょうか、すっかり定着してきました。終業式や始業式は、登校した生徒が順次椅子を持って体育館に集合する方法を採用してから、開始時間が早まりました。抽象論に終始する長い話は誰も聞きませんので、校長講話は極力短くするように心がけています。今日は、先ず最初に合唱部へお礼を述べました。そしてそのあと、先日の成績会議でこのままでは進級がおぼつかない生徒が何人かいたことを念頭に、その生徒たちの顔を思い浮かべながら、終わりよければすべて良しで、一、二学期と上手くやれた人は気を緩めずに、上手くいかなかった人は諦めずに三学期を全うすることが肝要だという話をしました。特に上手くいかなかった生徒については、真剣に反省して進級を願うなら、学年挙げて補習などのサポートをし、結果もさることながら努力の跡を十分評価するつもりなのですが、この点は改めて担任からより噛み砕いで具体的なス

ケジュールを作って当該生徒に話を落とし込んでいただかねばなりません。今まで一生懸命に何かに取り組んだ経験がない生徒には、努力をさせて成功体験を積ませることが肝心です。成功体験がない子は自分に自信が持てず先を読んでは諦めることを繰り返しています。困難にぶつかると、何とかしようと足掻くことをせず、すぐUターンしてしまいます。この悪循環の鎖を断ち切るためにあの手この手の思案をするのが教師の仕事です。100%成功するとは限りません。成功率は50%と考えていたほうが良いでしょうが、それでもやろうとするのが教師魂と言うものなのでしょう。

鬼平犯科帳の次のようなシーンをふと思い出しました。部下の同心の不始末が表に出ることなく事件が解決した折、火付盗賊改方長官の長谷川平蔵が右腕とする与力の佐嶋に、部下の不始末が表沙汰になると自分も責任を問われることになるがそうならなくってよかったと語ったとき、長官にも保身の心があったのかと一瞬疑い失望を感じます。ところが、そのあと、「自分がお役御免になったら誰がこのような兇賊が跋扈する江戸の治安を守れるのか、誰にもできまい。」と言い、「もう悪党を追っかけまわしての生活にはほとほと疲れる。いつまでこんなことをしていなければならないのかとも思う。本当は早くお役御免になってのんびりと暮らせたらどれほどよいかと思うのだが、しかしそのような暮らしはもうとうに諦めている。」と寂しげに言うのを見て、佐嶋は一瞬でも長官を疑ったことを恥じ入るのです。世の中には声高に正義を唱え肩肘を張って生きているように見える人もいますが、平蔵の使命感にはそのような息苦しさがありません。「人は悪いことをしながらも良いことをし、良いことをしようと思いつつも悪事を働くものよ。」とつぶやく平蔵の言葉には、人間の性と言うものに対する暖かい抱擁を感じるとともに、読み手として安らぎを感じます。

172
2013/1/9

2013年を迎えて

昨年末誕生した自民党安倍総理の掲げるいわゆるアベノミクス効果か、久しぶりに、円安・株高で新しい年を迎えました。毎年年初には企業トップやエコノミストの間で、株と為替の予想が行われますが、ゴールドマン・サックスのジム・オニール会長は、円は過大評価されており、今後12ヵ月から24ヵ月の間に1ドルが100円から120円になるだろうと予想しています。私もまた以前から、国の財政状況、少子高齢の人口問題、巨大地震発生リスクなどの要因から一方的に円高が進むことには懐疑的で、中長期的には円安になるだろうと考えてきた一人です。かつて商社に勤務していた頃、月に何回か開催される財務部主催の為替検討会に出席し、その内容を課長に報告していました。商社マンにとって為替は避けて通れません。丹羽宇一郎元伊藤忠商事社長は、その著『人は仕事で磨かれる』のなかで、「様々な情報を集めて分析し、決断を下す。経営者に必要な決断力は、相場によって養われたと言っても過言ではない。」と述べておられ、「森羅万象売りか買いか」と表現されています。私も当時の本部長から、「少しは株でもやって相場観を身につ

けなさい」とアドバイスされたものです。さて、30年前を少し振り返ってみましょう。当時１９８２年、1ドルは一時２５０円をつけました。76～77円が88円になって円安、円安と騒いでいるのは、東京スカイツリーの上から街を眺めているような感じがしてなりません。そして日経平均は約８０００円、ＮＹダウは約１０００ドルでした。それ以降アップダウンを繰り返しながらも円は上昇し、２０１１年には最高値を更新し一時75円を付け、２０１２年には80円平均での推移になりました。一方、日経平均株価は約９０００円、ＮＹダウは１３０００ドルです。ＮＹダウは13倍になったのに、日経平均はピーク時の１９８９年には３９０００円と5倍近くになったもののその後の失われた20年で下落を繰り返し、結局は12・５％しか上昇していないのです。もうアメリカはダメだとの論調がありますが、この結果を見ればダメなのは日本じゃないかと思えます。

好文木を書き始めて最初に迎えた新年２００８年の1月11日付「年頭所感」を読み直してみますと、元旦の日経新聞一面トップ記事「沈む国と通貨の物語」に触れていました。日本の地盤沈下と円の価値の低下についての特集でしたが、その後、論に反し円高はさらに加速しましたが、一方で財政は悪化の一途をたどり景気も回復しないまま今日に至っています。そして民主党バブルがはじけアベノミクスによる期待先行で、上述のように年末から円安・株高に若干の軌道修正がなされたといったところでしょう。口先介入の効果は、長続きはしませんので、揺り戻しも来るでしょうが、財政の拡大が続くにもかかわらず成長路線が見い出せないとなれば、本格的に円安へのオーバーシュートが起きるかもしれません。一方アメリカは昨年から脚光を浴びだしたシェール革命で世界のエネルギー供給地図を塗り替え、２０２０年にはサウジアラビアを抜いて世界一の産油国になると言われています。それにしてもアメリカと言う国は、軍事力での優位性が揺るぎかければ金融での優位を作り出し、それがまたはじけたとなれば今度はエネルギー革命と、優位性を確保するための手を次々に打ってくるものだと感心させられます。その開拓精神と言うか革新性は、世界に冠たる高等教育のレベルの高さと無関係ではないと思います。教養教育を大事にするもののアカデミズムに偏ることなく実学に力点を置き、産学協同の教育システムを作り上げたアメリカの時代はそう簡単には崩れないように思えてなりません。日本は勤勉で繊細で頭もいいのですが、大胆性に欠けるように思います。一方のアメリカは結構アバウトなのですが、リーダーシップを発揮します。冬休み、この相違を感じさせられる本に出合いました。

『採用基準』（伊賀泰代著、ダイヤモンド社）は、世界的なコンサルティング会社マッキン

ゼーで12年間採用マネジャーを務めた著者が書いた本ですが、マッキンゼーに入るためのノウハウ本ではありません。マッキンゼーがどういう人材を求めているかということを軸に、ポジションの如何にかかわらずすべての人にとって満足ゆく人生の鍵を握るのはリーダーシップだと説いているのです。リーダーシップ養成に貢献しているのが、ビジネススクールです。パスポートを取得しているアメリカ人の割合は日本人に比べて格段に少ないと聞くと意外に思うかもしれませんが、アメリカと言う国は国内でも時差があるぐらい大きく多様性に富んでいるので、海外旅行経験者は少ないと言われています。「敵を知り己を知れば百戦危うからず」とでも申しましょうか、ビジネススクールでは世界中から優秀な学生を集め大学の評価を上げるとともに、その中で切磋琢磨させることでアメリカ人学生に世界を教えるという役割を担っています。さて、マッキンゼーの採用基準ですが、大枠ではグローバルに統一されており、1リーダーシップがあること2地頭がいいこと3英語が出来ることの三つだそうです。このうち、日本人の優秀な人が持っているのは2だけであり、残り二つは絶望的に欠けていると言います。条件のトップに上げられている「リーダーシップ」について、日本人の多くは、リーダーは、一つの組織に一人か二人いればよく、そのリーダーの指示に従って他の人間は動けばよいのだと考えがちです。リーダーでもないのにでしゃばった言動は慎むべきとの考えもあります。メンバー全員がなまじリーダーシップを発揮しようものなら収拾がつかなくなるとの危惧もあるでしょう。しかし、「船頭多くして船山に登る」ということわざにおける船頭をリーダーだと解釈するのは間違いだと著者は言います。ここでの船頭は自分の主義主張を押し通そうとする単に

強引な人にすぎず、成果達成を優先するのがリーダーシップのある人であり、「リーダーとは和を尊ぶ人ではなく、成果を出してくれる人」であると考えています。この点はまさに、私が校務分掌の長に、機会あるごとにお願いをしているところです。では、リーダーシップとは何か？　リーダーのなすべきタスクとして、1目標を掲げる2先頭を走る3決める4伝える、この四つが挙げられています。これらは管理職の仕事で、自分たちはその方針に従って粛々と業務をこなしさえすれば良いと考えてしまうと、自分に与えられた業務範囲のことにしか目に入らず、他者、他部門との協働の姿勢は生まれません。そして、木を見て森を見ざるがごとき結果となり、成果も達成できず最も大切なものをも失ってしまうことにもなりかねません。本校においても、行動指針に掲げている「それは本当に生徒のためになるか」の趣旨はここにあります。自分の仕事の範囲を狭く限定せず、あらゆる角度から生徒の成長に資する行動をとっていただきたいと考えています。著者はまた次のような極めて卑近な例を出してリーダーシップを説明しています。マンションの管理組合の

会合でみんなが持ち寄ったお菓子が会合終了後も残っていた場合に、「このお菓子、持って帰りたい人はいますか。お子さんがいらっしゃる方、どうぞお持ち帰りくださいな」と声を上げる人が、リーダーシップのある人だと。何らかの問題に気がついた時、「それを解決するのは、誰の役割（責任）か」と考える人と、それを説くのが誰の役割であれ、「こうやったら解決できるのでは？」と自分の案を口にする人との二通りのタイプがあるが、後者の人をリーダーシップがあるというのだとも言っています。全く同感です。廊下を歩く生徒の服装が乱れていても注意せずに行く教員に「なぜ注意しないのか」と聞くと、「それは生徒指導の仕事ですから」と言うのと同じです。「それは教務の仕事でしょう」とか「それはクラブ顧問の問題でしょう」等などこういうことは学校現場でもよくあることです。みんなが正しくリーダーシップを発揮すれば、侃侃諤諤の議論が起きたとしても、成果を求めて一致団結することが出来ます。これこそが本当の意味でのチームワーク、「和」ではないでしょうか。「リーダーシップとは、学び、鍛えるべき資質である」という著者の言葉を胸に、新たな年に挑戦したいと思います。

173
2013/1/10

なんのためのクラブ活動か

昨年12月、大阪市立桜宮高校で2年の男子生徒が自殺した問題で、生徒が所属していたバスケット部の顧問の体罰が明るみに出て大きな問題となっております。亡くなられた男子生徒のご冥福を心からお祈りするとともに、ご家族の皆様に衷心からお悔やみを申し上げる次第です。私は2011年4月21日付の好文木「クラブ活動を考える」において、クラブ活動に対する私の考え方を述べておりますが、この機会に改めて「なんのためのクラブ活動なのか」をもう一度明らかにしておきたいと思います。

私は小さい頃から運動と音楽は苦手で（といって、決して勉強が得意だったわけではないのですが）避けて通っておりましたが、ゴルフに凝っていた父に指南を受けていた時期がありました。もともと運動神経がない私なので、あれこれ言われても要領がつかめず上達しませんでした。フェアーウエー上ですらクラブの握り方からスウィングの角度まで口やかましくいわれると緊張して体が固まり余計にミスが出ました。「お父さん、少し放っておいてあげたほうがいいのではないですか」とキャディさんが助け船を出してくれたこともありました。商社に入り、部のコンペなどに参加した時も、ティーショットであれ

これ考えすぎてしまい、いつまでたってもクラブを振らないので、「いつ打つんだよ」と声がかかるほどで、ストレス発散のはずが逆にストレスがたまるので、結局ゴルフは煩悩の数の108を切ることが出来ないままやめました。ところが、40歳を過ぎたころ、息子のお蔭でテニスを始めることが出来ました。当時小学生だった息子をテニススクールに送り迎えをしていたのですが、「お父さんもテニスやられたらどうですか?」とのコーチの勧めで始めて約15年になります。健康のために始めましたし、週一回ですからそんなに上達はせず、まさに参加することに意義を見出すテニスではありますが、今では私にとっては数少ないストレスが発散できる楽しい趣味の一つになっております。ついでながら、音楽についても「もしもピアノが弾けたなら」と思うのですが、今からではもう無理です。

さて、本題に戻りましょう。「クラブ活動を考える」でも書いたのですが、元ラグビー日本監督の平尾誠二さんから伺ったお話が強く印象に残っております。平尾さんは、「スポーツは楽しむもので、苦痛であってはならない。楽しむ中から創造性が生まれる。日本のシゴキでは選手は育たないし、世界を舞台には勝てない。」という趣旨のお話をされたのです。プロは試合に勝ってナンボの世界ですから、勝たなければ意味がないといえるかもしれません。もっとも阪神タイガースのように負けても人気のあるチームもあり、お客さんに夢や希望を与えることもプロスポーツの大事な役割だと思います。しかし、高校のクラブ活動は勝つことが目的ではありませんし、観客に夢や希望や満足を与えるために

やっているものではありません。結果としてステークホルダーに夢や希望を与えたとしても、本来の目的は、生徒一人一人の人間としての肉体的・精神的な成長に資するためのものでなければなりません。試合に勝つということは、挫折や失敗を乗り越えて栄冠を掴むという成功体験を通じて、失敗や挫折に容易にはめげない、そして教科書のない社会に出た時、自分の頭で考えて難局に立ち向かってゆける耐性を身に付けさせるための通過点だと位置付けるべきではないでしょうか。先の好文木で取り上げたマッキンゼーの採用基準であるリーダーシップ（目標を掲げ、先頭に立ち、決断し、伝達する力）を養う絶好のトレーニングの場でもあると思います。私は上述の通りいわゆる運動の苦手な生徒でしたので、スポーツに打ち込み、毎日毎日厳しい練習に励むクラブ生達と身を粉にして指導してくれている顧問の先生達を、尊敬のまなざしを持って応援しております。競技であり、試合であり、闘いなのですから、厳しい指導がエスカレートする場合も無きにしも非ず、怒鳴ることもありますが、それはあくまで生徒を生かすものでなければなりません。生徒を

不幸せにするようでは、例え生徒への思いがあってやったのだと言っても、生徒のために行ったこととは言えず、結局は自分の満足のためにやったのではないかということになってしまうのではないでしょうか。本校でも、沢山の生徒たちが運動部のクラブ活動に参加していますが、みんな、その競技が好きだから、やりたいからやっているのであり、無理にやらされているわけではありません。それでも時には、クラブ内での人間関係のもつれからクラブが嫌になってしまう生徒も出ますが、競技自体を嫌になるのではありません。好きで入ったクラブなのに、嫌いになってしまうとしたらそれはあまりにも残念なことです。ですから、好きな競技に参加できないような状況をどう解決するかは顧問の教師の腕の見せ所となります。顧問は当該生徒の話を十分に聞き取り、他のクラブ生にも話をし、お互いのコミュニケーションがスムースに取り結べるように最大限の努力をします。ほとんどは顧問が解決してくれていますが、時には各クラブを統括する生徒指導部長の力を借りることもあります。顧問の指導不足が明らかな場合には、私の方からそれを要請する場合もあります。クラブ活動は学校教育の一環であって、顧問だけが権限を持っている独立不可侵なものではありません。もちろん顧問を信頼して任せていますが、風通しは常によくしております。学校は生徒を一人前の人間に育てるための機関であり、楽しいばかりではゆかないのが現実でありますが、生徒を守るという重大な使命があるということを決して忘れてはならないと改めて肝に銘じた次第です。

174
2013/1/17

「キャリア教育」考

15日の読売新聞によれば、高校生の進路意識を高めるために、文部科学省は高校の普通科で「キャリア教育」を必修化する検討を始めたとのことです。日本の高校生の自主的な勉強時間が国際的に見て少なく、将来への目的意識を持たせることで、学習意欲を高めたいという理由からだと言います。この記事の中で、財団法人日本青少年研究所の調査で、授業と宿題以外の勉強を「しない」と答えた割合が、高1から高3で日本では38・3％から28・9％と日米中韓の4か国で最も高いと述べています。文科省はキャリア教育の内容を具体的に示し、早い段階からの進路意識付けを必要と考えており、授業は高1段階で週1時間程度とし、授業内容は①自分自身について考える②様々な職業などについて学ぶ③将来の生き方や進路について考えるとし、ディベートやグループでの意見交換を通して学ぶことを想定しているそうです。また、記者は、高校生が、目的意識を持たないまま進学・就職していく現状は、大学の質の低下や就職後の早期離職の原因と指摘されているとも述べています。キャリア教育とは、社会人として職に就く際に必要な能力や態度を育成するための教育のことで、近隣の企業や商店での就業体験を実施している小中学校もあります。先進的な学校では企業と組んで商品開発を行っているところもあり、就職難が続く昨今、キャリア教育はちょっとした流行のような感もあります。本校では、数年前から、一部のクラスで、世の中の仕組みを知るため

にわかりやすく経済を教えるパーソナルファイナンス講座を行っております。経済学の始まりはイギリスですからテクニカルタームは英語で表記し、歴史や文化などにも言及するとともに、タイムリーな話題にも触れるので、かなり横道にそれる授業になっています。また来年度に向けて準備をしている好文白熱教室は、ハーバード白熱教室に倣い、論理的思考力とプレゼンテーション能力を養おうとするもので、プロジェクトチームの面々はテーマや教材の選択に骨を折ってくれています。とにかく若いうちに、知識のシャワーとことん考える習慣を身に付け試行錯誤させることが大切だと考えての試みで、キャリア教育というよりは多分に教養講座の意味合いを強く持たせたものにしています。

私はこの読売の記事を読んで、「『総合的な学習の時間』はいったいどこへ行ったのか?」と思いました。文科省のホームページには、次のように書かれています。「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応し、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断しよりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどを狙いとすることから、思考力、判断力、表現力が求められる知識基盤社会の時代においてますます重要な役割を果たすものである」と、大変意欲的な目標を掲げています。これも学校によってうまく利用しているところと形骸化しているところがあり、新たにキャリア教育を必修としても同じことになるのではないでしょうか。大学卒業後すぐに教師となりビジネス社会の現状に疎い教員に有効なキャリア教育を期待するのは少々酷です。外注が主流となれば、コンサル会社等を利するだけです。将来の進路目標を持ち、向学心を高めるために、高校においてキャリア教育を必修とするというのは、少々安直に過ぎるように思います。

高校生が目的意識を持たぬまま進学や就職をするので大学の質が低下し早期離職者が増えるというのも一見尤もと思えますが、逆の見方もできます。まず、受験競争の激化に対する批判を受けて、文科省は高邁な思想の下、ゆとり教育に舵を切りました。基礎学力が固まってこその教養にもかかわらず、義務教育段階での勉強量が激減し、学力低下を招くだけの結果に終わりました。その上、90年代には規制緩和により大学の新設が相次ぎ、大学全入時代を迎えました。少子化の進展は、需給バランスを大きく崩し、大学は学生獲得に躍起となり、入学のハードルがぐっと引き下げられるとともに進学率は50%を超えました。大学の質の低下は至極当然の成り行きと言えます。また、不景気が長引く中、企業の求人数は減り続け、大卒の就職率は低下し、「大学は出たけれど」の状況が生じました。そこで、キャリア教育で就職率を高めている大学が脚光を浴びるようになったのです。目的意識がなく向学心に欠ける生徒が増えたの

は、ひとえに広い意味での勉強に手を抜いてきたからではないでしょうか。基礎基本を固めることなく小手先のテクニックで新しい試みをしても成果は出ないと思います。

企業は独創性のある人材やチャレンジ精神ある人を求めると言いますが、日本人は安全志向が強く横並び意識がありますので、みんな同じリクルートスーツで金太郎あめのような受け応えになりがちです。こういう質問にはこう答えてはいけないなどブログで様々な就活都市伝説が生まれます。キャリア教育も筆記試験もなかった時代に入社してきた年代の人たちが、仕事を通じて磨かれてきた自身のキャリアを棚に上げて、「コミュニケーション能力があって、独創的な考えが出来、リーダーシップを発揮できて――――」などと突然アメリカ流の即戦力型で新入社員に高い要求をするのは無い物ねだりではないか、そんなスーパービジネスマン、それも新卒者で、いるわけないじゃないかと思うのは私の僻みでしょうか。大卒者の就職率が低下している中で、花盛りの就活コンサルティングビジネスが、その意図に反して結果として企業の求めるグローバル人材とは対極にある画一的な学生を作り上げてしまうのではないかとも懸念いたします。そして、この情報過多の時代、選択肢が多ければ多いほど迷い選択できず、成功体験がないまま挫折を繰り返せば自信喪失感が増幅されるという負のスパイラルに陥る若者が増えているというのも頷けるところです。就活で何社も何社も落とされると、自分は世の中から必要とされていないのではないかと思い悩み鬱になってしまう学生もいると聞きます。また、「難関大学を出てもニート」とか「非正規雇用の博士」などとニュースで取り上げられれば、勉強しても意味がないと短絡的に考える若者が出てきてもおかしくはありません。「一流大学から一流企業」に代表されるキャリアパスが有効性を喪失した現代、就活でのハウツーものではない、「生きる意味」を自問自答することが本当に必要とされており、それはあえてキャリア教育という単位を設けずとも、進路指導や通常の教科の授業において、（特に社会や国語では）教員の創意工夫によって十分に達成可能ではないかと思うのですが。

175 2013/1/18 センター試験前夜

寒さが一段と厳しくなり、今日は小雪もちらほら舞っていました。明日、明後日と2日間に亘って行われるセンター試験を前に、特進コース3期生となる3年1組、16名の激励会を行いました。私をはじめとし関係する教員が各々激励の言葉を述べるこの会も3年目となりました。いわゆる進学校ではない学校の特進は名ばかりで内容が伴っていないケースもあるのですが、本校は違います。特進チームの教員たちは、大手予備校の河合塾のアドバイスを受けて、シラバス、教材、授業法などを学んできました。その成果が、1期生と2期生合わせて28名中、和歌山大学、大阪府立大学などの中堅国公立に10名の合格者を出したことに表れていると自負しています。中学校までは全く受験体制の外にいた生徒たちが3年間で一人前の受験生になるのですから、見違えるほどの努力をしています。

先生たちの話が進むにしたがって、涙ぐむ生徒が何人か見られました。3年間一生懸命やり通し決戦を前に、お世話になった先生方の温かい言葉に、つい感無量となったのでしょう。私は一人一人に大阪天満宮の合格祈願の「通り抜け鉛筆」を配り、健闘を祈りました。担任の石田先生は、受験に定番のチョコレート（商品名から「きっと勝つ」にかけたもの）をみんなに渡してくれました。桜の花びらをアレンジしたデザインの中に文化祭でのクラス写真と、「みんな一緒だよ！焦らずいつも通りにね！ガンバレ！祥一より」というメッセージが印刷されていました。「祥一」って聞きなれない名前だったので、誰のことかと担任さんに伺うと、「ずいぶん前に校長先生が各クラスに植木鉢の花をプレゼントしてくださいましたが、歴代のクラスで水やりをして今のクラスにも受け継がれ、私の名前の一字と3年1組の一をとって名付けたのです。」との答えが返ってきました。そういえば校長に就任した6年前、今とは違う古ぼけた校舎と緑や花も少ない何とも殺風景な学校を少しでも和ませたいと思い、すべてのクラスに小さな花の鉢をプレゼントしたことがありました。日夜受験勉強に明け暮れながらも、プレゼントした私が忘れかけていた鉢植えを今もって大事に育ててクラスのマスコットにしてくれていたとは、感激しました。みんなが帰った後、教室に入ってみると、ありました植木鉢が。今は葉っぱだけですが元気そうです。春にはきっとまたきれいな花を咲かせてくれることでしょう。冬来たりなば、春遠からじ、彼女たちの成功を心から祈るとともに、石田先生の3年間の尽力に一足早くお礼を申し上げたいと思います。

176
2013/1/21

伝統とは

伝統とは、広辞苑によれば、「ある民族や社会・団体が長い歴史を通じて培い、伝えてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術など。とくにそれらの中心をなす精神的あり方」のことを指します。大阪市立桜宮高校の体罰事件に関し、橋下市長は「桜宮の悪しき伝統は断ち切らねばならない」、「校長以下全教員の総入れ替えが必要」と述べて、教育委員会との全面対決の様相を呈しています。桜宮高校の存在を否定するともとれる厳しい言葉と方

針に、在校生や受験生、保護者からは反発の声が上がっています。部外者の私としてはこの件にコメントすることは差し控えさせていただきますが、この橋下市長の過激ともいえる言葉を聞いたとき、昔、日経ビジネスで読んだある会社のことが頭を過ぎりました。センサー大手のキーエンスと言う会社です。一般の人には馴染みの薄い会社かも知れませんが、1974年に現会長の滝崎武光氏により設立されたファクトリー・オートメーションの総合メーカーで東証一部上場の超優良会社です。当時のその日経ビジネスの記事には、キーエンスには社史がないということと、本社ビルのあちらこちらに化石が置かれていることが書かれていました。「社史というものは過去の実績でしかない。それがいかに立派なものであっても将来を約束するものではない。化石を置くのは、過去の栄光に酔いしれて改革を怠れば化石になるという戒めを込めている」というような内容の滝崎社長（当時）のインタビューが紹介されていました。大変鮮烈な印象として未だに脳裏に焼き付いています。企業の寿命は30年と言われ、新陳代謝の激しいビジネス社会の会社組織と、教育機関である学校とを同列に論ずることは妥当ではありません。利益の追求を目的とする企業では、今年の流行は来年にはもう通用しないなどということは日常茶飯事であり、顧客の求める商品開発が必要となりますが、この考え方は人造りには当てはまりません。しかし、学校業務は変化に乏しく、どうしてもマンネリ化しやすく、組織的な仕事の習慣が身についていないため、波風を立てることを極端に嫌う傾向が企業に比べて強いのではないかと思います。変えなければならないことについてさえ、変える必要がないという空気が充満しやすくなり、いつの間にか肝心の人造りの理念や原理原則が忘れ去られてしまうという欠点を抱えているのではないでしょうか。以前、本校の校長室には歴代校長の写真が掲げられていました。校長が替わるたびに前任者の写真を掲げる慣わしでした。私は、なんだか権威主義的に感じるとともに、キーエンスの話を思い出し、大先輩の校長方には申し訳ないと思いつつもすべての写真を取り外させていただきました。ずらっと並んでおられる十数人の歴代先輩校長の写真に見下ろされていますと、背水の陣で、時には過去を否定して改革を断行せねばならぬその矛先が鈍ると思ったからです。「集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」、これは私の母校の校歌の一節で特に気に入っている部分ですが、学校の伝統は斯くありたいと思います。

177
2013/1/29

ある朝の出来事

今朝、いつもの電車で千船駅に到着し改札を出たら、ある3年生の生徒に出合いました。こんなに早く来る子ではないので、「えらい早いな」と声をかけると、「今日はテストやから勉強するために早く来たんよ。数学頑張って○○先生喜ばせたいから」と、たいそう殊勝なことを言います。そのまま二人で話しながら千船大橋を一緒に渡って学校まで来ました。途中、「私もここまで来たよね」感慨深げに言いました。この子との付き合いは、彼女が1年生の時、廊下で生徒指導の先生に注意されたのに腹を立て悪態をついていたのを見かけたのが始まりでした。生徒指導部長が別室に呼んで注意をして落ち着きましたが、私もその場で一緒に話をした記憶があります。どうも学校や教師というものに嫌悪感を抱いている風でしたが、その後も服装の指導などを通じて関わるうちに次第に心を開いてくれるようになりました。遅刻や欠席が多い時期もあり心配しましたが担任が引っ張り今を迎えることが出来ました。私も会えば二言三言でも話しかけて側面からサポートしてきました。この子はダンスが好きで、学校の外のダンススクールに入っています。2年になったある時、担任が、「今日、あの子のダンス公演があるので、行ってきますわ」と報告に来たので、場所を聞くと、なんと私の家のすぐ近くでしたので、「そんなら僕も一緒に行くわ」ということで、二人そろって見

に行きました。複数のダンス教室の競演でなかなかどうしてレベルの高いステージでした。「本人はプロになりたいらしいのですが、上には上がいるので難しいと思うと言ってるんですけどね」と担任が言いますので、「そうかも知れないけど一生懸命やってるんだから」と話しながら帰途につきました。スーツ姿のちょっと場違いな感じのおじさんが前列に陣取って見ていたので、さすがに本人も気が付いたようで、翌朝、「昨日はなかなか良かったよ」と声をかけると、「びっくりしたわ。先生何で来たん?」と照れ臭そうに聞いてきました。なんでも、担任には見に来るなと言っていたようです。この担任さんはちょっとぶっきらぼうなところがあるので、生徒も最初はとっつき難く敬遠しがちですが、実はなかなか生徒思いで温かい心を持っているのです。そしてこれがまだだんだん生徒にもわかるようになるのですから教育というのは面白いのです。私は彼のことを信頼を込めて「スルメ教師」と呼んでいます。生徒にも「この先生の味はちょっとやそっとではわからんよ。噛めば噛むほど味が染みてくるから」と言っています。この子にもかつて同じことを

言いましたが、2年生が終わる頃、彼女にもスルメの味がわかったようでした。昨年もちょっと大きな公演があったので、この2年次の担任と3年の現担任と3人で見に行きました。学校にはあまり気持ちは向いていなかったのですが、ダンスは一生懸命やっていました。何度もくじけそうになりながら、二人の担任に支えられてついにここまで辿り着きました。今朝の会話の口調は実に明るく軽やかで前向きさが感じられて大変清々しいものでした。寒い朝、ちょっぴり心が温まりました。

178
2013/2/1

近づく卒業式に思う

今日から2月、3年生は昨日で学年末試験が終わり、追試発表日の14日まで暫らく登校しません。3月1日の卒業式まで残すところわずかとなりました。ひょんなことから昨年末になって始めた数人の3年生との交換ノート、数ページでしたが、これももう終了です。ちょっとさびしい気がします。漢字の間違いを赤ペンで訂正しながら読みました。それぞれが将来に希望をもって前向きに歩み出そうとしていることがわかりました。卒業したくないと書いている生徒もおり、彼女にとって学校がとても居心地の良い所だったのだと思え嬉しくなりました。短い期間でしたが、楽しい交流が出来ました。昨日、帰りの電車のなかで1年生のある生徒と少し話をしました。各駅停車で西宮まで行き席に座ったまま、向かいのホームに入って来る直通特急を待っていたところ、いつも気にかけているその生徒がホームを歩いているのを見つけました。「同じ電車に乗ってたのか。西宮で降りるんだな」と姿を追いますと、すっと私が乗っている電車の一番先頭の車両に乗り込んできました。そこで、ちょっと話でもしようかと思い、席を立って前の車両に移動しました。「よぉ、こんばんは」声をかけると案の定驚いた表情で「え、なんでおるん?」私は電車を乗り換えるのをやめそのまま各駅停車で彼女が降りるまでの二駅ほどをたわいもない話をして過ごしました。この子は規則正しさを要求される学校生活にまだ馴染めていませんが、卒業まで担任とともに見守っていこうと思っています。今年度も担任とのコミュニケーションの件、授業内容の件、進路の件、クラブ指導の件などなど生徒や保護者から沢山の相談を受けました。期中にもかかわらず思い切って担当替えをしたケースもありましたし、我が儘を諭したケースもありました。生徒間の意思疎通のまずさからトラブルが発生することがよくある一方で、友達を気遣う生徒も沢山います。ある特進の生徒は、学校を休みがちになっていた他コースの友達を毎朝迎えて一緒に登校してくれました。お蔭でその子も立ち直り卒業出来そうです。他クラ

ブの後輩が倒れていたら助け起こし悩みを聞くとともに励ましてくれる生徒もいます。一生懸命やっている先生を気遣って、「余り仕事が過重にならないようにしてあげてください」と言ってきた生徒もいました。教員の熱意が生徒に伝わり気持ちが通い合う学校になりつつあると実感しています。本当にすべての基本はコミュニケーションだと痛感します。生徒同士、親子間、教師と生徒、教師と保護者、教師間、様々な人間関係の中での意思疎通が阻害される要因は沢山あります。言葉足らず、多忙、優先順位の間違いなどなど。ちょっとしたボタンのかけ違いが大きな問題に発展することにもなります。この阻害要因にいかに早く気が付き、それを取り除き、適切な判断が出来るようにするか、我々は常にこの感覚を磨かねばならないと思っています。昨年、ある生徒間のトラブルを多くの教員が協力して解決してくれたのですが、当該生徒がその結果にどうも納得していないように感じました。といいますのは、毎朝校門で挨拶をしているのですが、問題が解決したはずなのに態度がよそよそしく以前の明るさがありません。しばらく様子を見ていたのですが、腹を立てて投げやりになっているように見受けられ、これは「ちょっとまずい」と直感しました。その子が帰るとき呼び止めて話を聞こうとしたのですが、取りつく島がありません。いよいよおかしいと思い、振り切って帰ろうとする生徒を校門の外まで追いかけて、「話せばわかる」と必死で押しとどめ、ようやく横断歩道の手前で理由を聞きだすことが出来ました。涙ながらに訴えた生徒の話を十分聞いたのち、関係する教員らに集まってもらいもう一度事情を確認しましたところ、一連の指導の中で言葉足らずにより意思疎通がきちんとできていなかったことがわかりました。そこで、その生徒を呼んで改めて我々の気持ちを伝えるとともに間違った点はきちんと謝りました。その子に笑顔が戻りました。それ以降元通り元気に明るく登校しています。一生懸命にやっていても間違ってしまうことがあります。しかし、学校や校長や教師の面子を重んじて、一旦下した決定を覆すことを躊躇し、過ちを改めないようなことがあっては、職員室に掲げている「それは本当に生徒のためになるか」の看板が泣きます。「過ちては則ち改むるに憚ること勿れ」を教師自らが示すことも大切な教育であると思います。その姿勢あってこそ生徒との信頼関係が生まれるのだと思っています。

勉強でもスポーツでも良くできる生徒は一部で、出来ない生徒の方が多いのです。出来た生徒を褒めるのは当然ですが、私は出来ない生徒をへこませないことにより力を注いできました。勉強が苦手でテストの点数が取れず進級や卒業に不安を口にする生徒には、「大学受験の試験は、落とすためのものだが、高校の内部試験は進級させ卒業させるための試験だ。だから成績評価はペーパー試験の点数だけではなく平常点が加味されるんだ」と説明し、努力を促しています。社会に出ますと必ずしも努力が報われるとは限りません。世の中は不条理なものです。しかし、学校は努力したものが報われるコミュニティであり、またそうあるべきものです。なぜなら、努力により報われた経験があって初めて人は希望を見出し夢に向かって邁進できるからです。それが個人をそして社会を良くしてゆく原動力となるからです。原理原則を身に付けるのが学校教育であり、不条理な現実社会に対応できうる力を養う役割を担っています。競争

は必要です。向上心は大事です。理想は高く掲げたいものです。しかし、現実は厳しいものです。だからこそ、学校は常に弱者の立場に立たねばならないと私は思います。弱者の立場に立つとは、同情し甘やかすことではなく、立場、状況をよく理解したうえで、勇気と希望を与え、弱いながらも一歩一歩前へ前へ歩みを進めてゆく力を与えることです。昨今、学校を取り巻く様々な事件が世間の耳目を集めています。人間とは弱いものです。その弱き者たちにとって安心でき憩うことができ、そして勇気をもらえる場所であってこそ真の学び舎であると思います。「好文学園も斯くありたい」と思います。

179
2013/2/8

マニュアル化と管理主義社会の足音

大阪市立桜宮高校で体罰により生徒が自殺した事件が明らかとなって以降、他府県における同様の問題も次々に報道され、柔道のオリンピックの強化チームでも体罰とパワハラがあったとして顧問が辞任することになりました。私は桜宮のクラブ指導における問題は度を越した暴力と言わざるを得ず断じて認めるわけにはまいりません。教師の言動は子供を生かすためにあるべきところ、その逆になってしまったことは誠に残念です。但し、当該顧問の人格を否定するものではありません。当初はきっと生徒思いの熱心な教師であったのだろうと推察しております。この事件を通じて見えてくるのは、関係者それぞれが自分の利益を優先しすぎている構図です。桜宮高校の関係者を誹謗中傷する心無い人々には怒りを覚えますが、一方、「クラブが出来ない」とか「在校生のことも考えて」とか「進学に影響する」とか訴える在校生や保護者の言動にも違和感を覚えます。気持ちは分からないでもないのですが、生徒ひとりが自死を選ばざるを得なかったという事の重大性を我がこととして考えれば、果たしてどうなのでしょうか。また、学校のホームページに一言の哀悼の言葉もお詫びも反省も載せられていないのは残念です。府教委の陰山委員長でなくとも「本当に反省しているか疑わしい」と思われてしまいます。一般社会の常識からかけ離れていると感じます。もっとも、このような状態になるのも無理からぬところがあると思います。企業に置き換えれば、取締役会であるべき教育委員会は、事務執行責任者の教育長以外は非常勤で、CEO（最高経営責任者）の委員長も非常勤です。数多くの学校現場で何が起きているかを理解することは困難で、統治能力に疑問符がつきます。COO（最高執行責任者）たる校長は、短期政権が普通ですから、腰を据えての学校改革

は難しく、前例踏襲となったとしてもやむをえないところがあります。そんなCOO（校長）のいうことに耳を貸さない古参社員（教員）がいてもおかしくはありません。やはり構造的な欠陥があり、それを改善しなければ、一個人や一学校の責任を問うても抜本的な解決にはならないと思います。

一連の体罰問題を受けて、群馬県の教育委員会では体罰ガイドラインを作成し、体罰と教育的指導を具体的な事例を挙げながら解説していますし、広島県教委では体罰根絶マニュアルを作っています。現状を点検し、ケーススタディを行うことは必要だと考えますが、マニュアルと言うものは、一旦それが出来上がると、それに従って行動しさえすればよいという意識を産み、自分の頭で考えることを阻害する傾向を持つことは注意しなければなりません。今回の事件がきっかけとなり、学校における生徒指導の極端なマニュアル化が進むとすれば、それは「生徒のために」という熱い思いを持った多くの教師の志に水をかけることにもなりかねません。また、校長や教員が学校バッシングを恐れるばかり、一斉にリスク回避に向かえば、管理主義が横行する危険性も出てきます。

生徒指導と言うものは一筋縄ではゆかず、愛情と根気に加え豊富な経験から洗練されてゆくものです。生徒一人一人の環境、成育歴、性格は違いますし、指導すべき案件やその時の状況も異なります。機械で異物や欠陥品を自動的に撥ねるような無機質なものとは全く対極にある極めて人間的な仕事です。それだけに、生徒や保護者への十分な説明が欠かせません。本校でも時々、生徒指導に対する不満が生徒や保護者からも出ることがあります。多くは、「なぜ自分（自分の娘）だけいつも注意されるのか」、「他にも同じような子がいるのに、見逃されているのは不公平じゃないか」、「先生によって言う事が違う」、「えこひいきがある」などなど。残念ながら、教員間の共通認識にズレがあったり、情報の共有化が出来ておらず、生徒に不快な思いをさせてしまったりすることも確かにあります。指導者により、あるいは、対象の生徒により指導に大きな差が出ることはあってはならず、もし、そのようなことがあったなら、改善しなければなりません。しかし、ルール違反をした人が見逃されたからと言って自分のルール違反が許されるものではありません。私たちは「人のふり見て我がふり直せ」と教わったものですが、最近は、自分の非を棚に上げて、他人の非をあげつらう風潮があり、利己主義の蔓延を感じます。人の世は、ミスもあれば行き違いもあります。道理通りに運ばないのが現実です。世の中とはそういうものだという事を認識させることもまた大切な教育だと思います。教育は、家庭と学校と地域社会が協力して行わなければ成果は生まれません。読書離れ、コミュニケーション能力の低下、携帯を通じたトラブルなど生徒指導が複雑化している現代、ますます三位一体の協力関係が重要となっています。それぞれが自分の利益を第一に考え、保身に走ったり、エゴを通そうとしたりすればするほど、世の中はマニュアル化に頼ることとなり、延いては管理社会の出現を見ることになるでしょう。18世紀半ば、経済学が黎明期を迎えた時、個人の自由な利益の追求が社会全体を豊かにすると説いたアダム・スミスの考え方は「神の見えざる手」という言葉をもって表されましたが、資本主義が発展高度化した現在、行き過ぎた利己主義は他者を顧みることなく、

社会を劣化させつつあります。今回のいじめや体罰問題を通じて真に見直すべきはこの点にあるのではないでしょうか。

180
2013/2/23

卒業生との語らい

昨日の夕方遅く、現在大学2年の卒業生二人が学校に訪ねてきてくれました。その一人が作ってきてくれたパウンドケーキを美味しくいただきながら、私からもらった抹茶チョコレートがおいしかったことや校長室で一緒に食べたお弁当のことなど在学中の思い出を聞きました。2年ぶりに帰ってきた二人の顔を見た時は忘れていたのですが、そういえば、卒業式が近づいたある日、「校長先生と一緒に校長室でお昼ご飯を食べたいのですが、いいでしょうか」と聞いてきたので、快諾し、卒業生が経営している近くのお店からお弁当を買ってきて一緒に食べたことがありました。

そのあと、帰り道で夕食を一緒にすることにして場所をレストランに移しました。校長室ではそうそう話も進みませんでしたが、食事をしながらリラックスすると、会話も弾みました。彼女たちは、母校である好文学園をとても気に入っており、もう一度高校生活に戻りたい、あの制服を着たいと言っていました。また、私の好文木も読んでいるとのことでした。校長メッセージ「好文木」はブログ形式で公開していますので、テーマによってはあまり具体的に書けない部分もあります。その詳細や最近の学校での出来事などいろいろと質問がありました。ひとしきり説明を聞き、学校の先生の仕事の大変さを改めて感じてくれたようでした。○○先生は以前に比べると自信に満ちた立ち振る舞いになっていたとか、XX先生は相変わらず頼りなさそうとかいう教員評価もなかなか的を射たものでした。一人が、「悔いのない人生を送るためにはどうしたらいいですか」と尋ねました。私は予想外の大人の質問に一瞬たじろぎながらも、「一日一日を大切に生きるって言っちゃいたいところだけど、そんなこと普通の人間にはなかなか出来ないと思うね。」と言い、続けて「悔いだらけの毎日を送るのが人生かも知れないね。僕の人生もそうだから。ただ大事なことはその失敗から学び、それを次に生かそうと思いながら生きることじゃないかな。」と、自戒を込めながら答えました。話しながら、この子たちは私の娘と同じ歳なんだと気が付き、東京の大学に行ってからほとんど話もしていない娘のことが頭を過ぎりました。彼女たちは好文学園で学んだマナーを大学生活でも活かせているということや、最近ブログでも好文学園の良い評判が多くみられることなどいろいろ話してくれました。そして、「校長先生は、好文学園をどんな学校にしたいと思っているのですか」と尋ねられ

ました。この問いにはすかさず、「もしもう一度高校に行くとしたら、やはり好文学園を選びますと言ってくれる君たちのような卒業生であふれる学校にしたい」と答えることができました。楽しいひと時を過ごしレストランを出ると、外は相変わらずの寒さ。いつもなら、この例年にない寒さに辟易気味の私は「寒いな」とつぶやき肩を丸めるところ、「ご馳走様でした。とてもおいしかったです。有難うございました。また学校に行っていいですか。」と丁寧にお礼を述べる二人の笑顔に、私の背筋は自然と伸び、駅までの足取りも軽やかでした。

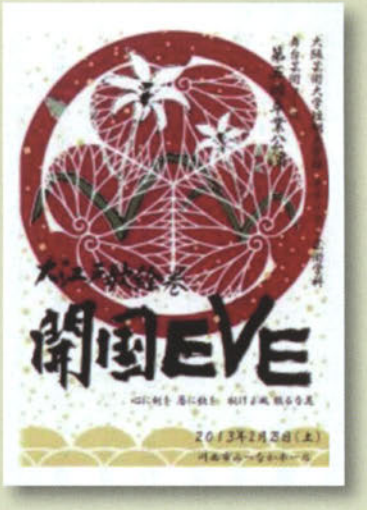
181
2013/2/25

卒業生の卒業公演を楽しむ

先週土曜日午後から、大阪芸術大学短期大学部・メディア芸術学科舞台芸術コースの第五回卒業公演を見に教員2名とともに川西市みつなかホールに出かけました。この舞台には平成23年3月に本校を卒業した生徒が出演していました。昨年、メディア芸術学科教授で女優の三林京子さんに本校で講演をお願いしたことは既にこの好文木でもご紹介いたしました。今年初め、三林さんからお手紙を頂き、この公演のお誘いを頂いたのです。出演した本校卒業生は体育コースで学びソフトテニス部に所属しマネージャーも務めた大変まじめな生徒でした。三林さんからのお手紙にも彼女が今回の公演のプロデュースに非常に貢献してくれたと書かれておりました。

「大江戸歌絵巻　開国ＥＶＥ」と題した幕末を舞台に、坂本竜馬や天璋院篤姫と市井の人々との開国に向けての葛藤を描いたお芝居で、なかなか見ごたえのある物でした。役を演じるというのはその役になりきるという事で、その人物の生い立ちや考え方を熟知せねばなりません。表現力は、声のトーン、動作、表情にかかっており、「目は口ほどにものを言う」の譬えの通り、目の動き一つで出来栄えが違ってきます。どこかで見たことがあるように思えた出演者も数人いましたが、それはＴＶでみた俳優とだぶったからで、それだけ演技力があった証拠ではないかと思います。卒業生も甘酒売りの役柄を生き生きと演じており、実に楽しそうでした。私の友人が、小学校から大学まで一緒で親しい役者さんに、五代目中村翫雀さんがいます。以前、その友人の縁で何度かお目にかかり食事をしながらお話をしたことがありましたが、その時、「鬘が似合いますよ。時代劇やってみたら」と言われたことがあります。実は今でもチャンスがあったら挑戦してみたいなと思っているのですが。

公演が終わり立ち上がったところで、見に来ていた数人の卒業生が声をかけてくれました。また、学期末試験中でしたが、演劇部の2年生の生徒も一人で見に来ていました。好文明華祭出演をきっかけに演劇部の活動にも



熱が入ってきているので今後を楽しみにしています。卒業生が活躍している場面に出会えることは本当に嬉しいことです。この機会をくださった三林さんに感謝いたします。

182
2013/3/5

自分自身の物語を紡ぐ

～平成24年度卒業式式辞より～

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。私は皆さんの入学式の式辞のなかで、「たくさん失敗、たくさん挫折、そしてたくさん感動を」という話をし、失敗から学ぶことの大切さを申し上げました。　長くもあり短くもあった3年間を終える今日この時、振り返って、みなさんの脳裏にはどのような思い出が浮かんでくるでしょうか。余裕をもってゴールできた人、途中で危うく挫けそうになりながらも辿り着いた人と様々でしょうが、それぞれの努力が報われ今日を迎えることができました。努力は本人の意欲と行動にかかっていますが、努力できる環境を整えてくれる多くの人々の存在を忘れてはなりません。両親や家族の励ましと協力、先生の熱意と理解、友人の応援などを抜きに語ることはできません。勉強でもクラブ活動でも「本当に頑張った」と思える時期があった人は、例え目標が100％達成できなかったとしても、「やるだけやった」という自分の努力に納得がゆき、清々しい気持ちでこの3年間を振り返ることが出来ると思います。

新校舎完成時に、憩いの場として造ったレストラン前の庭「テラスガーデン・パンセ」の名前は、「人間は考える葦である」という言葉を残した17世紀フランスの哲学者パスカルの随想録『パンセ』から採りました。このパンセの中でパスカルは次のようにも述べています。「情熱もなく、仕事もなく、楽しみもなく、精神の集中もなく、完全な休息状態にあるほど、人間にとって耐えられないことはない。」人は社会的動物であり、一人では生きてゆけません。仕事に就くということは一義的には生きる上で必要な収入を得るための手段です。しかし、それだけではありません。働くことで他者とのつながりができ、それを通して自分の存在意義が確認できるのです。4月から働く人はこのことを実感することでしょう。最近の大学生は就活で一人平均50社、60社にエントリーするのが当たり前で、筆記試験や面接をクリアーして内定を得るのはなかなか大変です。インターネット上では就活攻略セミナーや書籍の紹介が溢れています。私が就職活動をした30年前とは環境は様変わりで就職は格段に難しくなっており、本当に気の毒だなと思います。若し、私が今、大学生なら、かつてと同じ会社に就職できた

だろうか、自信はありません。1990年代初頭のバブル崩壊以降失われた20年と言われる長期経済停滞の中で、企業の採用人数が減少傾向となる一方で、高学歴化が進み大卒者の数が増加したことで競争が激しくなってきました。このような時代、夢を語り希望を抱くことは以前に比べ難しくなっているかもしれません。しかし、巷にあふれる不確かな情報に踊らされてはなりません。原理原則を外さぬ本物は必ず認められます。景気も病気も気の持ちようで変わるという側面があります。「悲観主義は気分に属し、楽観主義は意志に属す」と言えます。現実を直視し、困難を乗り越えてゆかねばなりません。仕事には「したいこと」、「できること」そして「すべきこと」の三要素があると言われます。「したいこと」が必ずしも「できること」とは限りませんが、「できること」と「すべきこと」は誰にでも必ずあるはずです。そして、どんな仕事でも大半は型通りのルーティーンワークが中心になるかもしれませんが、探せばどこかに創意工夫の余地があり、自分なりにそこを膨らませることで仕事を面白くすることができます。仕事を通じて自分を磨いてください。

みなさんは今まで学校内の様々なルールに縛られてきたと感じているかもしれませんが、一方では親に守られ先生に守られ、行くべき道も指し示してもらうことが出来ました。実に手厚く保護されてきたのです。今日からみなさんは学校のルールから解放されますが、教科書のない社会の中で自己責任の厳しさを知ることになるでしょう。困難に出会っても解決策は自分で見出さねばなりません。壁が立ちはだかる時、すぐに諦めずに、とにかく壁の前で精一杯もがいてみてください。挑戦して敗れた者には新しい希望の誕生が約束されますが、諦めて行動しない者には新しい人生の扉は開かれません。

「人生は舞台、人は役者、生きるとは自分自身の物語を紡ぐこと」です。好文学園で学んだ「やればできる」の精神を胸に「自分サイズの未来を拓く」べく邁進されることを祈念し、私の式辞といたします。

183
2013/3/5

卒業生からの手紙

3月1日、第64回卒業証書授与式が挙行されました。天気予報では晴れのち雨と出ており心配しましたが、式が終了し一段落するまでは雨は降らず、式に影響はありませんでした。273名の3年生が巣立ってゆきましたが、今年も実に良い卒業式が出来ました。来賓の方々からもお褒めを頂き嬉しく存じました。昨年から私も前日の予行演習にフ

ル参加していますが、何度もやり直しをするようなことはなく実にスムースに進行するようになりました。ここ数年間の教員の指導力のなせる業だと思います。当日の吹奏楽部の演奏に合わせた国歌、校歌と「蛍の光」の斉唱もいう事なし。ピアノ伴奏に合わせた「仰げば尊し」は卒業生と在校生が協力して三番まできっちりと歌い終えました。華やいだ中にも女子校らしい上品な式になったと思います。学校における最大のイベントはやはり卒業式です。3年間の集大成がこのわずか1時間半ほどの式典の中に凝縮されると言っても過言ではありません。型を身に付けること、TPOをわきまえることは一朝一夕にはできません。1年入学時からの教員の指導の積み重ねの成果です。

式が終わりますと、卒業生たちはクラスルームに戻り担任と思い思いの別れを惜しみます。保護者も教室に入りその様子をご覧になります。これが終わると、卒業生たちが職員室にやってきてお世話になった先生方にお礼を言ったり、寄せ書きを頼んだりします。校長室にも卒業生がやってきますが、これには二通りあります。以前から顔なじみと言うと変ですが、よく話をしたり気さくに校長室に来たりしていた生徒と、全く初めて校長室に来る生徒です。前者は、堂々と陽気に入ってきます。後者は遠慮がちに入ってきます。顔は知っていますが、私と初めて口をきく子もいます。メッセージや手紙を書いてきてくれる生徒もいて、それを読んで、「あの子は、学校のこと、私のことをこう思っていてくれたのか」と初めて知ることがあります。「自立した　社会に貢献できる女性に育てる」という本校の使命や、キャッチフレーズの「やればできるは魔法のことば」などが生徒の中に定着しつつあると感じる内容も多くなりました。そして、特に生徒指導でかかわったこともなく、ほとんど話をしたこともないにもかかわらず、私の行動を良く見ているなと感じることがあります。今年もある生徒が少し長めの手紙をくれました。大変まじめで優秀な生徒です。「好文学園が大好きで、本当ならずっといたい気持ちです」と書いてありました。これだけでも大変有難いことなのですが、続けて次のように書いてありました。「校長先生は沢山の生徒を見て、真剣に考え、話を聞いてくれる」、「いつも変わらない笑顔で迎えてくれていました」、「毎朝、笑顔で挨拶していただき嬉しかったです。顔を覚えてくれていたのが何より嬉しかったです」と。校長室にお願いごとや相談で来る生徒は沢山います。私なりに精いっぱい対応をしてきました。彼女からは相談を受けたことはありませんでしたが、多分そのことを傍から見ていたのか友達から聞いていたのでしょう。私は彼女が感じてくれたことこそが私の仕事だと思ってこの6年間校門に立ち続け生徒に接してきたつもりだったので、全校生徒１０００

人の中で、特別私が面倒をみたこともないごく普通の生徒が、私の思いをこのようにしっかりと受け取っていてくれたことに驚くとともに嬉しさがこみあげてきました。そして、「自信がなくなったときは校長先生の笑顔を思い浮かべます。迷ったり、助けが必要になったときは遊びに行かせてください。私の第二の家になってくれますか？　校長室をノックしても大丈夫ですか？　校長先生、大好きです」読み終えて、目頭が熱くなりました。そこまで思われるほど立派な人間ではないと、内心忸怩たるものがありますが、この生徒にとって好文学園が心の故郷となることができたと思いました。生徒からまた勇気をもらいました。ありがとう。本当にありがとう。あなたのような卒業生が一人でも多く出るような学校にするために、これからも頑張って努力してゆきます。

184
2013/3/9

事件は会議室で起こっている？

先月の毎日新聞になりますが、大阪府は、高校生の英語力アップのために、英語検定試験「TOEFL」で一定以上の成績を収めた学校に受験料や教材費を助成する制度を大幅に見直す方針を決めたと報じていました。助成実績が2年連続目標の50校を大きく下回る4校にとどまったことが理由です。府によりますと、助成を申請したのは、11年度8校、12年度5校で、申請が認められたのは両年度とも同じ私立校と専門学校各2校だけで、いずれも従来、英語力が高い学校だったとのこと。この制度の説明を受けた時に、私は、高1ギャップが拡大しており、中学校の英文法が十分マスターできていない生徒が沢山いるのに、TOEFL参加を謳っても手を挙げられる学校は限られていると予想しましたが、その通りの結果になっています。また、大阪市教育委員会は、市立中学校の夏休みは2014年度から現在より7日短い35日にするそうです。小中学校の土曜授業の復活も決定済みで、ともに授業時間を確保して学力向上につなげるほか、学校ごとの特色ある教育を充実させる趣旨です。土曜授業は復活であり、共働きが一般的となった保護者の支持も得られやすく、また各種取り組みを入れるにも適し、納得できますが、寒冷地でもないのに夏休みを1週間短縮する必要はないと思います。時間、量、お金をかければ、かけただけ学力向上が実現できるのは、ある一

定以上の意欲と学力を持っている層に限られます。民間から本校校長に就任した当初と比べ、私の考え方も生徒の実情を理解するにしたがって徐々に変わりました。勉強はしたいが、わからないからやる気を失いつつある生徒には、わかる授業、点の取れる授業、達成感が味わえる授業を展開することが必要で、これはまさに教師の授業力の問題です。しかし、意欲がなければ学力は上がらず、いくら詰め込んでも学力は向上しません。意欲を出させるモチベーション（動機づけ）こそが必要だと考え直しました。我々教師の最も大事な仕事は、生徒の心に火をつけること。即ち、勉強する意義がわからない生徒には、それをわからせて、やる気にさせることから始めねばなりませんが、これが至難の業で、通り一遍の説教話では全く埒があきません。生徒の置かれた環境に大きく左右され、目線のあった話をしないと空を切るだけに終わってしまいます。ここを動かさないと勉強には向かわず学力向上は実現できません。教師の人間力が試される部分です。生徒の悩みや苦労を想像できるか、理解できるか、気持ちを分かち合えるか。教師の育ちや経験に左右されると言えます。そのためには授業以前に生徒と向き合う十分な時間が必要です。就職難になれば、キャリア教育を行えと言う話が出ますが、猫の目のように変わる思い付きのような政策に振り回されて、肝心の生徒と向き合う時間が取れないようでは元も子もなくなります。教育には時間と遠回りが必要なのです。

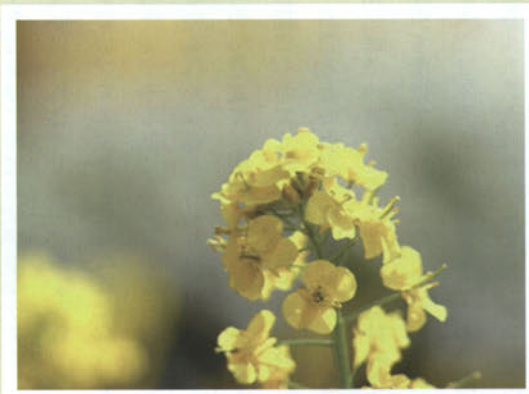
また、産経新聞記事では、ある私学で超勤手当未払があったというニュースを伝えており、「少子化で経営難――――私学、相次ぎ違反」との小見出しが付けられています。同じ教育現場にもかかわらず、公立にはそもそも残業と言う考え方がなく労基署は入らず、私学は私企業同様の扱いできっちりと残業認定をされるというダブルスタンダードが適用されていることには触れられていません。このことを、以前お越しになった維新の会の議員さんに申し上げたことがありましたが、「それは知らなかった」とおっしゃったぐらいでしたから、一般の方はご存じない方が多いと思います。制度と実態がかけ離れているというのは何も教育分野ばかりでありませんが、現場をもっとよく知る必要があります。形ばかりの学校視察では本当の姿は見えません。政治家や評論家、学者先生等の教育実習体験を取り入れてみたらどうかと思います。そうすれば少しは違った見方や方策が打ち出されるのではないでしょうか。「現場百回、事件解決の鍵は現場にあり」、「事件は会議室で起きているんじゃない。現場で起きているんだ！」青島君ならずとも、そう叫びたい教師も多いのではないでしょうか。

185
2013/3/16

人生には損切りは向かない

安倍政権になり、久しぶりに高い内閣支持率となっています。アベノミックスへの期待からか円安・株高が進んでいます。NY市場もリーマンショックから立ち直り、連日の史上最高値更新です。この好調がいつまで続くのかわかりませんが、潮目は昨年末からは確かに変わりました。株や為替の世界には「損切り」という言葉があります。「見切り千両、損切り万両」とも言われ、価格が買値を下

回ってきた時、それ以上の損失の拡大を止めるために、損を覚悟で売却することを言います。市場に精通した投資家は一旦損切りをしても再びタイミングを見て買いを入れ利益をものにします。一方、リーマンショックのようなインパクトの強い出来事が起こり市場が急変し大きく荒れた時には、「Wait and See」のスタンスをとれとも言います。あわてて動かずに成り行きを見極めろということです。1998年夏のロシア危機後の投資スタンス比較で、結局は何も動かずポートフォリオを維持した場合がその後のパフォーマンスが最も良かったという分析もありました。損切りをしても今度は買うタイミングを上手くつかめる人は少ないという証拠でしょう。相場と言うものは上がるにしろ下がるにしろ一本調子が永遠に続くということはありません。景気は循環するからです。下がったものは上がり、上がったものは下がるのですから、下がった時は辛抱して持ちこたえ、上昇に転じた時に売却すればいいのですが、なかなかこの我慢が出来ないのです。長期間、下落と低迷が続くと、永遠に状況が変わらないと思えてくるのです。逆もまたしかりで、1996年、クリントン大統領が再選され12月に株式市場が高騰した時、FRB議長アラン・グリーンスパンは「根拠なき熱狂」だと警鐘を鳴らしましたが、その後も株価は調整しながらも上がり続け、実際に住宅バブル崩壊で株式市場が暴落するのは2007年まで待たねばなりませんでした。市場の動きは人の心理によるところが大きいので、人の一生にも通じるところがあります。好文パーソナルファイナンス講座ではこの点に焦点を当てた授業を試みています。不遇の時期が続けば自信を無くし



気力が失せますが、調子が良い時は得意になり油断が出ます。「得意淡然、失意泰然」と言われるゆえんです。JALを再建した京セラ名誉会長の稲盛和夫さんは「世の中に失敗というのはない。何回でもチャレンジする限り失敗ではなく、諦めた時に初めて失敗になる。」と言います。景気同様に山あり谷ありの人生、一度や二度の失敗や挫折で諦めては損失が確定してしまいます。小さな失敗や挫折を繰り返しながらもそれに学び成功体験を積めば、自分に自信が持てます。そして、失敗や挫折に対する耐性が備わってきます。投資は短期なのか長期なのかで考え方や手法は異なる世界ですが、80年という人生には損失を確定するような損切りは向かず、長期投資のスタンスで臨むべきだと思います。

186
2013/3/21

吹奏楽部
第一回定期演奏会

3月16日（土）、本校吹奏楽部の第一回定期演奏会がクレオ大阪南にて開催されました。客席で演奏を聴きながら涙が溢れてきました。「これはまずい。3部の前に挨拶をしないといけないのに、また泣いちゃうかも。」どうも歳をとったせいなのか学校という所が感動させることが多いのか、涙もろくなって仕方がありません。本校の吹奏楽部は私が校長になった2007年に本格的に再始動を始めました。吹奏楽部は昭和58年にアンサンブル同好会として発足し、61年に吹奏楽部となりましたが平成17年には部員1名となり活動休止状態になっていました。ある程度の楽器は倉庫に残っていましたが、錆付いていたり壊れていたりとかなり酷い状態でした。そんな中で、ある3年生の生徒が私のところに吹奏楽をやりたいと言ってきました。当時の事務長に話をしたところ、「吹奏楽をやろうとすれば楽器に相当お金がかかります。途中で投げ出されたのでは困りますから、やめた方がいいですよ。」と忠告されました。しかし、折角生徒がやる気になっているものを無下に断るのもいかがなものかと思い、「来年の君たちの卒業式に、国歌と校歌を演奏することを目標にやってくれないか？」と言いましたら、頑張るとの返事。音楽担当の高先生と品川先生にその旨伝えたところ、気持ちよく顧問を引き受けてくれました。こうして、3年生3人、2年生5人、1年生3人の合計11人と言う少人数とぼろ楽器から吹奏楽部が活動を再開したのです。

約束通りその翌年の卒業式は吹奏楽部の生演奏で国歌と校歌の斉唱が出来ました。その後、よちよち歩き状態で校内イベントを少しずつこなしている時に、マツモト楽器さんの松本社長と知り合う機会を得ました。私の吹奏楽部に対する思いを良く理解してくださり、資金的に厳しい状況下での楽器の修理に随分と協力をしてくださいました。来るたびに顧問や生徒達を励ましてもくださいました。そうこうしているうちに地域のお祭りや運動会、警察のイベントなどから声がかかるようになりました。2008年には私学祭典に初めて参加を果たし、校外合宿も始めました。2009年には大阪府吹奏楽コンクール北地区小編成の部にて奨励賞を受賞、2010年同じく優秀賞を受賞しました。昨年2012年、松本社長のご紹介で指揮者の今西正和先生に定期的に本校の吹奏楽部を見て頂けることとなり、士気はいよいよ高まり、大編成の部に初参加が叶い銀賞を頂戴いたしました。そして先日ついに念願の定期演奏会開催に漕ぎ着けたのです。顧問や

生徒たちの熱意と頑張りが多くの方々からの支援につながったと思います。昨年からは吹奏楽部を本校の強化クラブとして5年計画で楽器の購入も始めました。吹奏楽部の復活は、「学園に花と緑と音楽を」というスローガンの一翼を担うものでありました。2007年校長就任時過去最低の757名まで減少していた生徒総数が、2012年、12年ぶりに1000名を回復し、消費収支も17年ぶりに黒字化する記念すべき年度であり、吹奏楽部の復活と学校改革とはまさに歩調を合わせてきたと言えます。私の中で吹奏楽部は学校改革のシンボルと位置付けられています。私は門外漢で演奏の上手い下手は良くは分かりませんし、本校の吹奏楽部のレベルもまだまだそんなに高いとは言えないと思っています。しかし、クレオ大阪南の会場にて、29名の部員が楽しげに精一杯演奏する姿を目の当たりにし、6年前の卒業式での少したどたどしさが感じられた演奏から良くここまで成長したなと思うと本当に嬉しくてなりませんでした。高先生と品川先生には本当に感謝しています。卒業生も沢山応援に駆け付けてきてくれました。受付を手伝ったり演奏にも加わったり、協力をしてくれました。クラブは顧問次第です。歴史あるクラブでもやる気のない顧問が見るとあっという間に廃れてしまいます。ゼロから出発したクラブでも顧問の熱意が生徒に伝わればクラブは活性化します。その良い例を見せて頂いたと思います。成績は二の次、結果であって、大勢のクラブ員が、上手い子も下手な子も精一杯力を合わせて楽しく活動できているクラブこそが理想のクラブだと思います。吹奏楽部はそこにまた一歩近づいてきたように思います。このような思いが巡る中での挨拶では、恥ずかしながらやはり声が詰まってしまいました。挨拶の後の第3部、今西先生のダイナミックな指揮のもと盛り上がりを見せる演奏を私は一番後ろで立ったまま感動しながら聴いていました。

187
2013/4/3

4月1日、東京にて思う

4月1日、学校の休みを利用し東京に参りました。4月から社会人として働くことになった息子とお世話になっている知人と三人で会食をする目的でした。新大阪駅には新入社員らしき若者が沢山いました。私たちのころは男性は紺かグレーのスーツが一般的でしたが、いつのころからか男女ともにスーツは黒が主流になりました。プラットフォームで東京行きののぞみ号を待っていたら、今年本校を卒業した生徒に声をかけられました。こういう時、とてもうれしく思います。黒の

スーツに身を固めた彼女はまだ卒業して1か月なのにすっかり大人の雰囲気でした。職場は大阪なのですが入社式は東京の目黒だそうで、少し緊張した面持ちでした。頑張ってと握手を交わしてお互い違う車両に乗り込みました。東京駅に着き、息子がお世話になっている親戚への手土産を大丸で買おうと思い八重洲口側の改札を出たのですが、大丸は増築工事中で休館、仕方なく日本橋の高島屋まで歩くことにしました。八重洲口から街に出るとカラスの軍団（黒づくめの新入社員たち）でいっぱいです。とある大手証券会社のビルの前は笑顔の若者で溢れていました。この会社の社員になれたことを通りすがる人たちにアピールしたいとばかりに見える若者もおりました。32年前、同じく春の暖かな空気に包まれ、当時完成したばかりの青山の新本社ビルに集合し、社章を初めて付けた入社式を懐かしく思い出しました。世界を股にかける商社マンとして働けるという期待よりも、不安の方が先に立っていたように思います。「友がみな我よりえらく見ゆる日よ」の啄木の心境でした。あの時代よりはるかに大企業への就職が難しくなった今日、喜び自慢したい気持ちは良くわかりますが、3年後に3割が居なくなり、社内競争で勝ち残れるのは一握りという現実に、複雑な気持ちで彼らを見つめていました。

東京の地下鉄は大阪より料金も安く便利なので、高島屋の地下から東西線に乗って茅場町まで行き、そこで銀座線に乗り換え銀座まで行き、そこで再度日比谷線に乗り換えて親戚宅のある広尾まで行き改札を出たのですが、さっぱり方角がわかりません。実はこの広尾、商社時代に住んでいた街なのですが、すっかり様子が変わっていました。勘に任せて歩き出すと全面ガラス張りの大きなビルが目に入りました。どこかの大企業が本社ビルでも建てたのだろうかと思い近づいてみると、「広尾学園中学校・高等学校」の看板がかかっていました。そういえば当時も学校があったなと思い出したのですが、何とも立派な変わり様に驚くばかりでした。戻ってから調べると、当時は順心女子学園という名前でしたが、学校改革を進め、平成19年に共学化し広尾学園に校名変更し、医進・サイエンスコースやインターナショナルコースを設置し、偏差値も年々上昇している立派な学校です。場所と言い成り立ちと言い本校とはずいぶんテーストに違いはあるようなのですが、ともに学校改革に邁進していると思うと、今度は「友がみな我よりえらく見ゆる日よ」等とは言ってはおられません。「彼も人なり我も人なり」と改めて闘志が湧いてまいりました。やはりたまには東京に出向き大いに刺激を受けねばならないと思いました。

188
2013/4/3

努力と試行錯誤を通じて希望をつくる

～平成25年度入学式式辞～

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

さて、今年の本校の一次入試、国語の第一問目は玄田有史さんの著書『希望のつくり方』の第二章「希望はなぜ失われたのか」の「高齢社会」という項目から出題されました。この本は岩波新書として出版されていますので、是非読んでみてください。このなかで、著者の玄田さんは、現状に飽き足らず見る「夢」や現状維持を望む「幸福」と「希望」との違いを述べています。「困難に出会い苦しい状況にある時、現状を変えたいという強い気持ちが生じ、未来に挑む原動力として人は希望をあえて持とうとする。希望が叶うのをただ願って待つのではなく、自分から動き出すことが必要であり、希望は自分でつくり出すものだ。」と述べています。人は、失敗や挫折経験が度重なるとやる気を無くしてしまい、「自分はどうせやってもできない」と諦めてしまいがちです。しかし、「失敗は成功のもと」と言います。失敗して諦める人と失敗を成功に変える人とはどこが違うのでしょうか。それは、失敗から学ぶ姿勢が有るか無いかによります。そしてその前提として、悩むことを放棄せず、学びから逃避しない覚悟がなければなりません。トヨタ、日産と並び日本の自動車メーカーのビッグスリーのひとつにホンダがあります。創業者の本田宗一郎は、小学校卒業後丁稚奉公を経てのれん分けで自動車修理工場を始め、幾多の失敗を繰り返しながらもそれを克服し、町工場を世界のHONDAに育て上げました。彼は「人生は見たり、聞いたり、試したりの三つの知恵で纏まっているが、世の中の技術者たちは見たり、聞いたりばかりで一番重要な〝試したり〟をほとんどしない。みんな失敗を厭うもんだから成功のチャンスも少ない。」と言って、技術者たちに失敗を恐れず挑戦し、失敗から学ぶことの大切さを教えました。昨今はIT革命の恩恵で、あらゆる情報が瞬時に労せず手に入りますので、ますます「見たり」、「聞いたり」だけで世の中がわかったと錯覚をしてしまいます。頭でわかったつもりでも実際にやってみれば違うということが沢山あります。やってみて失敗すればそこから学びまた新たな希望を作ることが出来ます。その繰り返しこそ人生と言うものではないでしょうか。私自身も今なお失敗と挫折を経験中であり、実感をもってそう言えます。

評論家の小林秀雄は「天才とは努力し得る才だ」というドイツの作家ゲーテの言葉を引用し、「凡才も努力はするが、できれば努

力せずに成功したいと考えるものだ。しかし、天才は容易なことを嫌い、自ら困難や障害を発見し、それに挑戦しようとする。そして、抵抗物のないところに創造という行為はない。」と述べています。何事にも前向きに努力できるという性質はもって生まれた才能なのかもしれないということです。玄田さんも「希望が持てないのは個人の心の持ちようのせいだけではなく、多くは生まれ育った環境による」と述べています。私は「努力に勝る天才なし」という言葉が好きです。「彼女は天才だから努力しなくともできるけれども、私は天才ではないから努力してもできない。」という言い訳は通らず、「天才ですら努力をしているのに、凡才の自分が努力をせずに一人前になれるわけがない。」と考えるべきだと思うのです。確かに、努力しようという意欲が生じやすい恵まれた環境とそうでない環境があります。しかし例え、不利な環境にあったとしても、その子に一条の光を当てて心に火をつけ努力を可能ならしむることこそが好文学園の存在意義であると信じて疑いません。

アベノミクス効果で先行きに薄日が差してきたとはいうものの、昨今の就活状況の厳しさは本質的には変わらぬグローバル化の進む世界共通の現象だと思います。特に日本では、高学歴化が進展し大学全入時代を迎え、以前ほど勉強しなくても進学が出来るとの安心感が広がったその一方で、厳しい競争社会の出現を見るに至りました。人間に代わってコンピューターやロボットが行う仕事の領域が拡大しています。勉強しなければ、「選択の自由」は保証されず、「自己決定権」も確保できません。即ち、自分の道を自分の意思で決めることが出来なくなります。また、マナーや社会常識に欠ければ共に働くに適した人材とは判断されません。好文学園は、生徒のみなさんが将来、自立して社会に貢献できる女性となり幸せな人生を送ることができるよう、勉強やクラブ活動を通じて様々な訓練の機会を提供してまいります。基礎学力をしっかりと身に付け、マナーと教養を習得してください。私たちは全力でみなさんを支えます。努力と試行錯誤を通じて希望を作り出してください。教育の成果は、家庭と学校が手を携え協力して初めて発揮することが出来ます。ご家庭におかれましても多感な時期を迎えるお嬢様とのコミュニケーションを密にされ、3年間の高校生活が有意義なものとなりますようご協力をお願いいたします。お困りのことがございましたら遠慮なく学校にご相談ください。好文学園の教職員の行動基準は、職員室の壁に掲げております通り「それは本当に生徒のためになるか」であります。生徒や保護者の皆様の悩みや相談にいつでも対応するために校長室は常にオープンにしております。いつでも気軽に校長室にお越しください。新入生のみなさんが思いも新たに好文学園での学びの活動に入り自分サイズの未来を拓くため挑戦し健闘されることを祈りつつ私の式辞といたします。

189
2013/4/9

春風駘蕩、新年度スタート

「花に嵐のたとえもあるぞ、さよならだけが人生だ」とばかりに、散り急いだ桜の花に、「花の命は短くて」との感慨にふける間もな

く、モミジやケヤキは早や若葉、シラカシは古い葉をパラパラと一斉に落としてワクラバと交代、シャクナゲの花も開き、一気に雑草が生えだし、拙宅の庭は急に騒々しくなってきました。冬場はうまい具合に自然と苔庭になり手入れが要らないのですが、日中は初夏の陽気で、例年より早く庭掃除の季節が来ました。黒田日銀のリフレ政策に期待を寄せる株式市場もこの季節の移り変わりの速さに歩調を合わせるかのように、円安・株高が急激に進み、昨年秋の1ドル78円が100円目前、日経平均は8800円台が13000円を超える状況で、一目散に春から初夏へと駆け上っている感があります。大手邦銀が外銀から米国での不動産融資事業を買収するという記事が昨日の日経新聞に載っていました。サブプライムローン問題から始まった世界的な金融危機で、つい最近まで総悲観主義に覆われていたのが嘘のようです。まさに「景気」は「気」からの言葉通りで、潮目が変わったという論調も散見されます。そんな中、昨日、イギリスのサッチャー元首相が亡くなったのニュースが流れました。レーガン、サッチャー、中曽根の三巨頭時代に、商社マンとして、東京で社会人のスタートを切った日々を懐かしく思い出しました。30年後、毎朝校門に立って生徒を迎えているとは夢にも思いませんでした。バブル経済の真っただ中で過ごした都のことは夢のまた夢、だから人生とは面白いものなのかもしれません。

さて、4月6日、爆弾低気圧の影響による台風並みの暴風雨との予報で危ぶまれた入学式も無事に終わり、358名の新一年生を迎え、総勢1068名からの新学期のスタートとなりました。始業式の8日、生活指導の教員とともにいつもよりは少し早目に校門に出たところ、残念ながら予期した通り、新一年生のなかには、茶髪の生徒、スカートを折り上げて短くしている生徒、リボンをせずにブラウスの第二ボタンまであけている生徒などが数人おり、早速注意をし直させました。入学説明会で話をし、制服の箱にも正しく制服を着用するようにとレターまで入れていたのですが、毎年何人かはこういった生徒がいます。鉄は熱いうちに打てと言います。高校生になってこれでは少々遅いと思うのですが、最初が肝心です。4月、5月は、世の中の良識とTPOをしっかりと仕込み、彼女たちの意識改革の時期だと位置付けています。二日目の今日も校門で止められた生徒はいましたが、昨日よりは少なくなっていました。明日から一泊研修ですが、ここで好文学園の教育方針がしっかりと叩き込まれることになります。ダメなものはダメ、「NOといえる学校」が好文学園のモットーです。今年も11名の新任教員を迎え3月28日と4月4日に研修を行ったあとOJTに移行しています。さらに職員室は活気づいています。「例年通りの予定行事を例年通りに終わらせるのではなく、モアー・ベターなパフォーマンスを残すよう」日々改善の一年のスタートです。

190
2013/4/19

ぼんやりとした不安

入学式、宿泊研修やオリエンテーション、健康診断など一連の行事が終わり、今週から新入生も平常授業に移行しました。花曇りの午後、教室を見廻りながら廊下の窓から校庭を眺めると、新緑の中、芝桜が見事に花をつけています。授業の合間を見て教員が交替で芝刈りと掃除をしてくれています。刈ったばかりの芝生の良いにおいが漂ってきます。古くて使い勝手の悪い家を改築して蘇らせるビフォーアフターというテレビ番組がありますが、古い卒業生が久しぶりに帰ってくると、学校の以前との変わり様に皆一様に驚きます。先ず、校舎が建て替えられて新しくなったこと、芝生のグランドが綺麗なこと、生徒がみんな挨拶をしてくれること、若い先生も増え職員室に活気があること、大抵この4つのことを挙げてくれます。「別の学校みたい。もう一度入りたいぐらい。」とも言ってくれます。昼休み、芝生に輪になって座ってお弁当を食べている生徒がいます。大の字になって気持ちよさそうに寝転がっている子もいます。放課後には、携帯電話で花壇の花の写真を撮っています。確かに、7年前とは雲泥の差です。教員の指導力と機動力も飛躍的に上がりました。学力向上や生活指導など年々改善を重ねています。しかし、「這えば立て、立てば歩め」の親心とでも言いましょうか、良くなればさらにもっとと欲が出てきます。欲が無くなったら進歩は止まります。

日経ビジネスに、「ブラック企業」の特集記事が載っています。副題は「今どきの若手の鍛え方」。激務の割には低賃金で過大なノルマと軍隊的社風に支配され、離職率は常に高止まりなど劣悪な労働環境を放置し利益追求を優先する会社が、ネット上で「ブラック企業」と呼ばれています。ネットの怖いところで、気に入らない点があれば何でもかんでもブラック企業呼ばわりされてしまうリスクがあり、企業側が相当神経質になっているようです。企業は濡れ衣を防ぐために、社員との対話の数を増やし、朝の挨拶、毎日一回の声掛け、悩みの相談、言葉づかいのソフト化などに気を使っています。一方、「新入社員事件簿２０１３」として、トンデモ社員の事例が紹介されています。欠勤の通知や嫌な仕事を断りたいときには母親が来社して代弁する。急ぎの仕事を頼んだら「急いだら間違いますけどいいですか?」と念を押された。得意先に行かせたら「むかついたんで喧嘩してきた」と意気揚々と報告。就業中に居眠りをしていたので注意したら「眠いから寝て何が悪いんですか」と逆切れ、などなど、我々の時代では考えられない様な非常識な新人が

年々増加しており、それを頭ごなしに叱れずなだめたりすかしたりの企業姿勢が垣間見られます。そんな中、ユニクロの柳井正・会長兼社長は、「改善すべきは改善するものの、基本的に若いうちは甘やかされず厳しく育てられた方が幸せ」と述べて、「ブラック企業」という言葉は、旧来型の労働環境を守りたい人が作った言葉だと言いますが、一理あると思います。「今どきの若者に合わせて接し方や教育方針を変えるつもりはないのか」という記者の質問に、「現場の社員は対応しており、新卒社員のサポート体制も整えているが、自分は変えない。トップが基準を下げたらだめだと思っているから。」と答えています。ここが大事なところだと思います。原理原則をブラさないことが肝心です。

自民党の教育再生実行本部は、「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言」として、英語教育の抜本改革と理数教育の刷新そしてICT教育の実現をあげており、国公立大学の入学・卒業の要件としてTOEFL等を義務化する考えです。また、高校段階でも英検二級以上全員達成を求めています。グローバル人材を養成し国際競争力を付けることも必要ですが、出来る人間は放っておいても自分で勉強しますし力を付けます。本当に再生すべきなのはその他大勢の教育です。就活時、卒業証書に成績によるランクが付き、それが就職を左右する欧米とは異なり、大学の成績はほとんど評価対象となっていません。だから大学生は勉強しません。全入時代の大学には勉強せずとも入学が可能で、高校時代の勉強量も減っています。義務教育では落第がないので、勉強せずとも進級・卒業が出来ます。構造的に勉強しなくても良くなっているのです。この構造的欠陥を変えることが先決だと思います。ゆとり教育や核家族化、長期にわたる不況等の影響もありますが、過保護・過干渉あるいは超放任主義により甘やかされた若者が沢山います。また、人間関係を取り結ぶことが極めて不得手な子供が多くなったように思います。メールでのやり取りは出来ても直に話が出来ません。集団生活が出来ず我慢や遠慮が出来ません。人の気持ちを忖度することが出来ません。人との付き合い方がわからない子供が増えると人間社会は成り立たなくなります。また、みんながみんな勉強に向いているわけではありません。早く働いたほうが自分を活かせる場合もあるでしょう。中卒、高卒、大卒がそれぞれ働く場所があり、それなりにステップアップしてゆけた時代から、嫌でも勉強しなければならず、勉強して高学歴を手に入れても、どんどんコンピューターに仕事を奪われてゆくので、もっともっと勉強しないといけないしんどい時代になり、努力と言うコストと成果と言うパフォーマンスが釣り合わなく感じられてきているのかもしれません。向上心を煽るにはハードルは少し高めが良いと思いますが、高すぎると逆効果になります。躾も学力も低下しているにもかかわらず、科学技術の進歩が速く要求される努力のレベルが上がっているので、ギャップがますます大きくなってきているように思います。基礎がぐちゃぐちゃになっているのにその上に最新鋭の超高層ビルを建てようとしているようなもので土台無理があります。

このように、技術の発達は、子供たちを、我慢や忍耐よりもリセットボタンを押す衝動に駆りたて、言葉の重要性は失われ、貧弱な言語能力がコミュニケーションを阻害しています。そしてまた情報技術の進展は単純作

業のみならず知的作業と考えられていた仕事の領域をも次第に浸食し出しており、技術革新による生産性の向上が失業を生んでいます。アメリカでリーマン・ショック後の若者が失業率の高まりに抗議した運動「ウォール街を占拠せよ」のスローガンとなった〝We are the 99%〟が、景気が回復しても構造的に定着する可能性があると思います。ある写真フィルムメーカーのテレビCMで、「美しい人はより美しく、そうでない人はそれなりに」というのが流行ったのは1979年でした。この年に共通一次試験が始まりました。そして日本経済は花の80年代、バブル経済に向かって助走を開始しました。今、バブル崩壊後失われた20年、「そうでない人はそれなりに」もならなくなってきました。親の代より豊かになれると思っている若者が日本も含めた先進国では減少しており、あきらめムードが広がっています。不透明感を増す世界情勢に加えて、地震と原発の不安を抱える日本にあっては、芥川龍之介ではありませんが、将来に「ぼんやりとした不安」を感じることが多くなりました。だからこそ、生徒達への指導は原理原則を守りブレルことなくきっちりと行わなければなりません。厳しい環境でも生きてゆける強い精神力を養うことが最優先課題だと思います。

191
2013/4/22

卒業生との食事会

先週土曜日、3年前の卒業生二人と会いました。Aさんは短大を出て昨年から保育士として働いています。Bさんは4年制大学の4回生。Aさんから、「Bさんが就活で悩んでいて、校長先生のブログを読んで、相談に乗ってほしいと言っているのですが、一緒に会ってくれますか?」と連絡をもらったのが2週間ほど前でした。二人とも「保育されコース」いや「保育コース」の出身者で、本校に入学してきた時は、生活指導で随分とお世話をさせて頂いた子たちです。夕方、待ち合わせ場所のハービス・エントに少し早目に行って待っておりましたら、ほぼ時間通りに元気な顔を見せてくれました。予約していた店に入り、久しぶりの再会を祝して乾杯したあと、料理を食べながら話を聞きました。Bさんはかなりの数の会社にエントリーしたそうですが、筆記で落とされたり、面接も1次まではいっても次に続かなかったりで、すっかり自信を無くしていました。パソコンでエントリーすると、自分の時は「応募多数につきお待ちください」という画面が出るのに、友人でいわゆる有名大学に行っている子の時は、すぐにエントリーでき、やっぱり大学で区別されていると嘆いていました。6月まで

やって決まらなかったら諦めようかと思うと言いましたので、私もAさんも口をそろえて、就職も縁だから最後まで諦めずに粘るように言いました。当初希望の仕事での内定がなかなかもらえないので、かなり幅を広げてしまっているようなので、「いろんな業種・職種を手当たり次第に受験するのではなく、自分の興味のある業種と職種に的を絞れば、モチベーションが上がる。一生その会社で働くと思うとなかなか決断できないので、First Jobは仕事力を磨く場所と考えたほうが、気持ちが楽になる。」とアドバイスしました。

一足先に社会人となって働いているAさんは、日常の仕事内容を聞かせてくれました。保育士も教師と同じで仕事量が多く、人間関係でも神経を使う仕事です。仕事場での年配の先生方への接し方や、子供や保護者とのやり取りを聞くと、なかなかよく気を使って考えてやっています。休みもあまり取れず働いているのですが、彼女の様子からは倦怠感を見て取ることはできませんでした。「世の中って理不尽なところがあるけど、それをとやかく言っても始まらない。自分に力を付けるための過程だと思うようにしている。結構勉強になることも多い。」と、実に前向きで学ぶ姿勢が出来ているなと感心しました。一流大学を出ても、嫌な仕事は親を通じて断るトンデモ新入社員がいるのですから、学歴そのものに意味があるのではなく、常に何からでも学ぼうとする姿勢が大事であり、それがその人の価値を高めるものだと思います。そのことに気が付いたような彼女の話を聞いていると、先生と生徒というより同じ大人の社会人としての先輩と後輩と言った感じで話が弾みました。私が就職して間もない頃、会社に行くと、来る日も来る日も上司から怒られるので、嫌になって風邪だと言ってずる休みしたことがあったと話をしたら、「へー、校長先生でもそんなことあったの」と、Bさんは驚いていました。正直、私にとってFirst Jobだった総合商社での仕事は、配属が希望の部門でなかったこともあり、そんなに興味を引く面白いものではなかったのですが、仕事の基本は叩き込まれたようで、その7年間の経験がその後の人生に大いに役に立ったと思っています。退職するとき、「君には随分と厳しく当たったが、悪く思わんでくれ。君の将来を思ってのことだった。君と一緒に仕事が出来てよかった。」と上司に言われた時、本当に嬉しく、そしてまた有難く思ったものです。こんなエピソードも交えて話に花が咲き、話題は尽きず、二件目にはしごとなりました。私の話がどれだけBさんの就活に役に立ったかはわかりませんが、就活疲れで萎えた気持ちを少しは和らげることが出来たのではと思います。

彼女たちは、正直なところ、高校入学時は、かなり手が掛かった生徒でした。身嗜みから口のきき方、授業態度など一から教えました。何度も話し込んで指導しました。最初はみんなかなり抵抗を示しましたが、我々は彼女たちをそのまま卒業させたのでは本校に入学した意味がないと考えていました。社会に出て恥ずかしくない女性に育てることが彼女たちのためになると思いました。それが教師としての使命だと考えました。1年で大きく変わり、3年で立派に卒業していった時のうれしさが、私の校長としての信念を造った原点だと思っています。その彼女たちが、「高校になるまでいい加減だったけど、好文でルールを守ることを教えられたことが、本当に良かった。好文の卒業生でよかったなと

誇りに思います。」と言ってくれました。一人は保育士として実社会で活躍し、一人は大学生から社会人になろうと努力しています。二人の変化率の大きさには驚きました。そして、人はその気になれば変わることが出来ると改めて思いました。彼女たちの言葉を聞いて、当時の上司の気持ちがわかったような気がしました。二人はJRで帰るにもかかわらず、阪急に乗る私を改札口まで送ってくれました。「また、ちょくちょく会おうよ。食事会をしよう。」とお互いに約束し、握手して別れました。彼女たちのような生徒を卒業生に持てたこと、心の底から良かったなと思いました。

192
2013/4/27

年収1億円か100万円の時代

一時は初夏の陽気となったもののその後季節外れの寒の戻りで体調を壊す教員や生徒が多くなっています。どうも最近は経済も自然もアップ・ダウンの幅が大きすぎると感じます。

ユニクロを展開するファーストリティリングの柳井正会長兼社長は4月23日の朝日新聞のインタビューに答えて、「世界同一賃金」を導入し、グローバル企業としての成長を目指すと述べ、話題になっています。店長候補として採用した全世界で働く正社員と役員がその対象となるのですが、現在の日本での賃金水準は欧米のそれに比べると低く、新興国に比べると高くなっているため、新興国の水準に合わせられると日本の賃金が下がるのではないかとの憶測を呼んでいるのです。柳井氏は、グローバル競争では将来、年収が1億円の人か100万円の人かに分かれ、中間層は無くなっても仕方がないとも述べています。グローバル企業の生き残り戦略の厳しさを痛感します。

機械化で生産性が向上すると人間でなければできない仕事が少なくなってきます。頭脳を使うクリエイティブな仕事か機械にはできないがマニュアル化された容易に代替がきく仕事かに大別され、その中間の仕事は機械化の進展とともにどんどん消えてゆくと考えられています。私は少し前に「ぼんやりとした不安」というタイトルの好文木のなかで、「努力のコストと成果のパフォーマンスが釣り合わなくなると逆にやる気を喪失させてしまうのではないか。ハードルは少し高いぐらいが良く、高すぎるのは効果が出ない」と書きました。競争は人にも企業にも成長を促す手段として必要だと考えていますが、競争の結果、上か下かで中がない両極端に分かれるとなれば、競争原理のメリットよりデメリットが目立ちはじめ、「努力しても報われない」感

が醸成され、意欲の喪失と妬みの感情が社会に蔓延する危険性を孕み、活性化とは逆の方向に向かうのではないかと危惧します。投資にはリスク分散が大切であることを示す「すべての卵を一つのバスケットに入れるな」という格言がありますが、グローバル化がどんどん進んでくると、アメリカの経済が悪化すれば、中国の輸出が伸びず、中国経済が不調になれば、日本やヨーロッパからの輸出が減り、日本もヨーロッパも経済が低迷し、先進国と中国が低迷すると新興国にもその余波が及び、世界同時不況に陥ります。国によっては、通貨、株式、債券価格がともに下がるトリプル安が起きます。リーマン・ショック後の世界がまさにこの状況であり、かなりの期間、従来型の投資スタイルによる国際分散投資は難しい状況が続きました。即ち、グローバル化とは「一蓮托生」という側面も併せ持っており、投資の世界だけではなく、私たちの働き方にもこれが現れつつあるということです。私は、やってもやらなくても給料が変わらず、年功序列で上がって行くシステムには反対の立場ですが、さりとてあまりにも極端な差がつく成果主義にも賛成できません。真面目でやる気のある人間の意欲まで失わせてしまう可能性があるからです。産業革命期のイギリスに起こったラッダイト運動（機械破壊運動）が頭を過ぎりました。機械化が本当に人々を幸せにするのだろうか考えさせられます。

193
2013/5/2

皐月

今日から5月、クールビズが始まるそうですが、今朝はコートを着て登校したいような冷たい風が吹いていました。4月中旬以降、気温の低い日が続いており、気象庁も低温注意報を出しています。季節が足踏みするのに歩調を合わせるように、急激に進んだ円安も1ドル100円を目前に足踏みし、97円台まで後戻りしています。

日差しは明るく温かく、樹木は芽吹き、花は咲き乱れるエネルギッシュなこの新緑の季節、私は大好きです。休日の一時、書斎の窓際で暖かい日差しを受けながら本を読むのが唯一の楽しみです。読むのに疲れ目を休めて庭に移すと、白い小さなアズキナシの花が風にハラハラと散っています。時折聞こえる鶯の声に耳を澄ませると、なぜか懐かしい記憶が蘇ります。しばし物思いに耽るのどかな休日の静かな一時が流れゆくのを愛おしくまた物悲しく感じる今日この頃です。

ゴールデンウイークが終わると、4月に新しく入った学生や社員が、新しい環境に適応できず精神的に不安定な状態になるいわゆる五月病といわれる症状に見舞われる人が出てきます。緊張から来る疲れ、期待外れによる失望感、失敗から来る挫折感や自信喪失

などなど、そのままうつ状態に入ってしまう場合もあります。長い休みで規律が緩み怠惰な生活癖に戻る生徒もいます。いずれにしても、自分を変えようとして挫折を味わう状況です。人は常に自分にとって居心地の良い場所に居られるものではなく、変化に対応しなければならずなかなかしんどいものです。理不尽と思える対応をされたり、不条理と感じる状況に遭遇したりする場合もあり、その対応や状況を責めたくなるのも尤もです。しかし、他人を責めるより自分を変えれば、人の見る目が変わり状況が改善されるものなのですが、なかなかそれが出来ません。自分に非が二割で相手が八割だと思うと、自分が折れるのは理に合わないと考えます。相手の方に圧倒的な非があるのだから、相手から謝るべきだと。世の中、理屈通りに行くなら、相手から謝ってくるのですが、そうはゆかないのが世の中。相手も自分が100%悪いのではないから自分から謝る必要はないと考えます。どちらにも一理あるように思えます。だから、理屈では解決しないのです。二割しか非のない方から謝れば、八割は自分に非があると分かっている相手は和解に応じると思います。理不尽や不条理を乗り越えるには「理」ではなく「恕」（思いやり、許す心）なのかもしれません。

漱石は神経衰弱（神経疾患の一種）であったと言われています。特に、ロンドン留学時には環境になじめず一時下宿に引きこもっており欝状態だったようです。帰国後1906年に発表した『草枕』の冒頭部分、「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかく人の世は住みにくい。」には、漱石の経験に基づく実感が籠っています。文豪ですら欝になるのですから、凡人ならなおさらでしょう。「おもしろきこともなき世をおもしろく　すみなすものは心なりけり」とは高杉晋作の辞世の句ですが、住みにくき世の中は心の持ちようでしか御しがたいのかもしれません。小さな庭の自然を眺めながら、小さな自分の小さな人生の出来事などは、悩むに足らずと思うべきだと分かりつつも思い悩むのが煩悩多き人間の性というものでしょうか。五月の木漏れ日はあくまで優しく降り注ぎます。

194
2013/5/15

楕円の思想

今週に入り朝でも駅まで歩くと少し汗ばむぐらいで、全国的に真夏日になっています。肌寒かった連休から一転、盛夏の陽気です。日本の特徴を説明するとき、四季があるということを挙げますが、最近は、春や秋がほとんどなく、冬と夏の二季の国になったように感じます。12日の日経の「〝正社員特権〟は永遠か」と題したコラムニスト平田育夫氏の記事は、経済のグローバル化やコンピューターの進歩で正社員の足場が揺らぎ始めたと述べています。若者の失業率が高まりつつある中、能力不足でも解雇されず高い給料を維持されている正社員への風当たりは強くなってきており、解雇規制の緩和論も出ています。米経済学者E・ブリニョルフソン氏の著書『機械との競争』は高度に知的な労働と肉体労働が残り、その中間の事務職が機械に置き換わると見ています。私たちは、グローバル化は

世界的な、国際的な視野に立つことだという風に思いがちですが、それは必ずしも国際的な共通認識を前提とするものではなく、ルールを決めたものの方式に従うというある意味、強権的な側面もあります。ですからグローバルスタンダードを盲信するのは如何なものかと思うのです。小説家の五木寛之氏はその著『無力MURIKI』のなかで、転換期には「楕円の思想」で中庸をゆけと述べています。「楕円の思想」は花田清輝という思想家が唱えた説だそうです。真円は中心は一つですが、楕円には二つの中心点があります。グローバル化は欧米化、特にアメリカンスタンダードの色彩が強く西洋的な合理主義が基盤になっていますので、「Yes」か「No」か、二者択一を迫り、極端に走るきらいがあります。これが二極化を産む原因であり、真円での発想と言えます。白黒はっきりするということは小気味よくわかりやすいものですが、人の世はそう簡単に割り切れるものではありません。仕事は苦しくもあり楽しくもあり、人は人を憎みつつも愛するということだってあります。人の気持ちと言うものは揺れ動くものです。過去を振り切って新たに出直すといえば勇ましいですが、過去があるから今があるので、過去を一切捨ててしまうということはできません。中心点が二つあり、その時々で力点が移動してゆきながらも一つの楕円を形成している「楕円の思想」は自己の考え方に柔軟さをもたらすとともに他者に対しても寛容になれるものだと思います。国と国の関係から家族、友人関係に至るまで、相互理解とは「白」か「黒」か、を明確にすることではなく、グレーゾーンに落ち着けることなのかもしれません。

195
2013/5/16

ケイタイと絆

最近の女子高生にとってケイタイは無くてはならない必需品で、ケイタイのない生活など考えられないというのが大方ではないでしょうか。電車に乗っている時も道を歩いている時もケイタイを触っている人を多く見かけます。音楽を聞いたりゲームをしたりしている場合もありますが、一番多いのは友達とのメールのやり取りではないでしょうか。電話ですと相手が出ないと要件は伝わりませんが、メールなら一方的にこちらの要件を相手に到達させることが出来る反面、メールを送っても返事がなかなか返って来ないと気になりますし、無視されたと思えば腹も立ってきます。これがエスカレートして喧嘩やいじめに発展するケースが後を絶たず、この手のひらサイズの文明の利器に多くの学校が頭を悩ませています。本校ではケイタイを持ってくること自体を禁止はしていませんが、①公

共の場や電車内など、他人の迷惑にならないよう、良識ある使い方をすること②登校後は、教室内で電源を切り、終礼終了後まで使用禁止とする③授業中の使用など、違反については指導の対象とするというルールを定めています。ケイタイの持ち込みを禁止したとしても、必ず持ってくる生徒がいます。それを防ぐためには持ち物検査をしなければなりません。それよりも、前向きに社会人としての良識を養うためにあえて禁止はせず、上記のようなルールに従った所持を認めたのです。1995年の阪神淡路大震災をきっかけに携帯電話が普及しましたが、当初は緊急時にも便利な機器という感覚ではなかったでしょうか。2011年、東日本大震災では「絆」という言葉が多用されました。中学生や高校生にも普及したケイタイも、このころには既に、友達との絆といった意味合いを持つようになっていたと思います。この「絆」という言葉を広辞苑で調べてみますと、そもそもは、馬・犬・鷹など、動物をつなぎとめる網を意味するもので、自由を束縛するものです。また、断つにしのびない恩愛とか離れがたい情実を表し、どちらかというとネガティブな響きがあります。震災時に使われた「絆」には、友情や思いやり、心のよりどころと言ったポジティブな意味が込められていました。おそらく、女子高生たちもケイタイを心のよりどこになるポジティブな機器として所有しているのでしょうが、知らず知らずのうちに精神的な自由を束縛されているのではないでしょうか。一人暮らしのお年寄りや女性を癒すロボットのペットが話題になりましたが、生身の犬や猫にはかないません。単なる情報の伝達はケイタイやパソコンのメールで十分ですが、人間の間における知覚・感情・思考の伝達であるコミュニケーションはFace to Faceで行わなければスムースな意思疎通は出来ないものです。面と向かって話をするというのは、特にトラブルを抱えている場合には嫌なものなのですが、「話せばわかる」場合もあり、少なくとも状況の更なる悪化は防げるかもしれませんし、和解できずともとことん話をした結果であれば、諦めもつくのではないでしょうか。この手間暇をかける努力をケイタイ文化が阻害しているように思えてなりません。また、私は友情や絆と言ったものにあまり大きな期待を抱かないほうが良いと思っています。相手に期待する前に自立することが大切だと思います。前述した『無力MURIKI』のなかで五木寛之氏も絆に幻想を抱かず、「絆を求めるのとは違う生き方を模索してきたつもりです。」と述べており、共感するところです。以前、好文木「人付き合いの要諦」において、今東光大僧正の句「人と契らば　浅くちぎりて末とげよ　もみじ葉をみよ　濃きがまづ散るものにそろ」を紹介しましたが、「君子の交わりは淡きこと水のごとし　小人の交わりは甘きこと醴のごとし」とも言います。醴とは甘酒のことで、ベタベタした深い付き合いをすると絆が正にしがらみとなり、もめると収拾がつかなくなり

ます。多くの人と礼を失せぬ程度のあっさりしたお付き合いが長続きの秘訣でしょう。

196
2013/5/17

卒業生の声

このところ卒業生と話をする機会が多くなりました。希望の大学に進学でき、将来の夢に向かって有意義に学生生活を送っている者、就職してバリバリ頑張っている者、逆に、現状に迷いを感じている者、就活で悩んでいる者等など状況は異なりますが、皆が一様に「好文学園が良かった」と言ってくれます。どこが良かったのかを尋ねますと、①先生たちが親身になって話を聞き相談に乗ってくれたこと②社会の常識やマナーを教えてもらえたことの二つを主な理由に挙げてくれます。一般的に大学や企業では本校と同じ面倒見の良さは期待できません。好文学園を評価してくれるのを大変うれしく思いますと同時に、本校で学んだことを活かして変化に対応し新しい環境に果敢に挑戦してほしいと思います。

卒業生の話によりますと、かつては評判の良かった大学でも授業中にお菓子を食べたり勝手にしゃべったりと、常識やマナーに欠けた学生が増えていると言います。彼女たちも、かつては授業態度に関して、私や他の先生から様々な注意を受けていたのですが、そこから学び大人に成長したわけです。ある生徒は、「私は好文で、目上の人にものを渡す時は両手を添えてと習いましたので、大学でも教授にレポートを手渡す時、両手で渡していますが、大抵の学生は片手でひょいって感じで渡すのです。」と言いました。「何故そうすべきなのか」理由をわかるようにきちんと説明して指導するように教員にはお願いをしてきましたが、この努力が実を結んできたと感じます。本校に入学すると、挨拶と正しい身だしなみの指導から徹底的に指導を開始します。学園生活の中では当然友達とのもめごとや教員との意思疎通が上手くゆかないこともありますが、そのようなトラブルを解決してゆこうと教員が主導的に動くことで生徒達も行きつ戻りつ徐々に成長してゆきます。在籍中はその成長度合いがそれほど顕著だとは思えないのですが、一旦卒業すると見違えるほど大人になる生徒が多いのです。それはたぶん違った環境になって初めて、他者と比べて自分たちが学んだことの正しさが明確に理解でき、適切な行動をとろうとするからではないかと推察します。即効性はなくともじわじわ効いてくる漢方の効果のようです。対処療法ではなく体質そのものが変わると言ってもよいでしょう。近隣の皆さんから学校が変わって生徒たちがとてもよくなったとお褒め頂くことが多くなった一方で、未だに時々電車の中や道でのマナーについてお叱りの電話を頂くこともあります。多くは高一ギャップ

の抜けきらない1年生です。そんな時は、積んでも積んでも崩れてゆく河原の石積みのように感じ、本当にがっくりくるのですが、それから3年、4年と経てば、卒業生たちからこのような感想を聞かせてもらえると考えれば、希望と新たな勇気が湧いてきます。「すべての生徒は無理でも、一人でも多くの生徒を一人前にするよう頑張ろう」そう思えてくるのです。在学中から指導したり相談に乗ったりしていた生徒だけでなく卒業してから初めてじっくり話をする生徒もいますが、ともに好文学園の教育方針を理解してくれています。これは教員が同じベクトルで繰り返し指導をしてきてくれたからだと思います。大学に進学しても就職しても、新たな悩みや迷いは次々に出てきます。卒業したらハッピー・エンドというわけにはゆきません。卒業生の話に耳を傾けながら拙い私の体験や思いを語ることで、少しでも彼女たちの前途にヒントを与えることができればこれに勝る幸せはありません。

197
2013/5/23

バラが咲いた

初夏を通り越して盛夏の域に達するような今日この頃、校庭を歩くと花や緑が随分育ってきたと実感でき、なんだかウキウキします。平成20年7月新校舎完成時、花と緑の学園をと、木を植えたり花壇を作ったりしたのですが、厳しい財政下では、都心の大型ビルやホテルのように立派な大木を移植する余裕がなく、桜にしてもクスにしても小ぶりで葉も少ないものしか入れることが出来ませんでした。ご近所との目隠しに植えたものの葉が茂るまでかなり年月がかかりそうで、最初は気休め程度にしかならなく申し訳ないなと思ったものです。そのクスもいまではそれなりにこんもりとした緑の空間を提供してくれています。特段に土壌改良もせず植栽した木は水はけが悪い場所では根腐れを起こして枯れてしまったこともありました。少し土を高く盛り直し再度新しい木を植えました。レストラン前のテラスガーデン・パンセでは何度植えても、もみじが枯れる場所がありました。ようやく4回目で根付きました。その点、クリスマスローズやホトトギスなどの草花は繁殖力が強く他を圧倒しています。ミニバラもいくつか植えたのですが、気が付くとほとんど姿を消している中で、この写真のバラだけがひときわ元気に真っ赤な花をつけています。直射日光が当らず少し日陰になる場所に植えたのが良かったのでしょうか。「バラが咲いた、バラが咲いた、真っ赤なバラが。　寂しかった僕の庭にバラが咲いた。」と、思わず口ずさみたくなるほど、今年はきれいに沢山花をつけています。好文学園もかくありたい

と思いながら短い好天の季節を楽しんでいます。

198
2013/5/27

英語教育を考える

23日の日経新聞によれば、政府の教育再生実行会議は、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成に向け提言素案をまとめました。大学改革とともに英語を小学校の正式な教科とすることなどが盛り込まれています。また、大学の入試・卒業判定に英語能力テスト「TOEFL」を活用することも提案されています。そこで先ず、国際社会で活躍できるグローバル人材の要件とはなにか考えてみました。①世界共通語である英語が業務上支障なく使える。②自分の考え方をしっかり持っている。③自国の文化や歴史を外国人にある程度説明できるレベルの理解がある。④外国の文化や歴史にも関心を持ち理解しようとする意志がある。⑤相手の立場や考えを理解したうえで自分の考えや立場を正確に伝え相手とのコミュニケーションを成立させ国際的な仕事が出来る。私はおおよそこのような5項目に集約できるのではないかと考えています。

次に、グローバル人材の条件の一つに上げられる英語力について考えてみたいと思います。私たちは中学から大学まで10年間も勉強しているにもかかわらず英語が満足に喋れないのは、受験英語に照準を合わせている文法重視型の英語教育に問題があり、リスニングとスピーキングを重視すべきだという意見がありますが、本当にそうなのでしょうか。私は文法重視の受験英語世代です。私の英語力の頂点はたぶん大学受験で予備校に通っていたころだったろうと思います。長文読解と和訳が得意でした。大学では、1年間ほど就活も兼ねて英会話学校に通った以外は特に英語の勉強はしませんでした。商社に入り、海外出張なども含め顧客とのコミュニケーションに英語を使いましたが、とりあえず業務に関する専門用語中心の会話は何とかこなせました。海外駐在をする前に退職しましたが、もし、駐在を経験していたならそれなりに英語でのコミュニケーション能力は付いただろうと思います。商社を退職してからは全く国内畑の仕事で過ごしてきましたので、英語を使う機会はほとんどなく、英語力は次第に退化してしまい、かろうじて読む力だけが残っています。一方、息子は中学1年生の2学期から、英国の教育制度に則ったスイスのボーディングスクールに留学し、Aレベルの試験をパスして英国の大学に進学し卒業するまでの10年間、英語で勉強と日常生活を送りました。さらに大学卒業後、1年間台湾で中国語を学び、今年4月から東京で、英語や中国語が役に立つ専門商社で働いています。そんな彼から、つい先日、「喋れるけれども書くことが今一だから、家に置いてきた英文法の参考書を送ってほしい」と連絡がありました。12歳から留学しネイティブに近い英語をしゃべることができますが、ビジネスで通用する英語となると、やはり英文法に返る必要があります。長年外資系企業で働き国際的ビジネスマンとして活躍している私の友人も、文法の重要性を強調しています。また、商社勤務時代にお世話になったアメリカの製紙会社日本法人の元部長さんからも、外国人とのコ

ミュニケーションにおける誤解やトラブルを避けるためには、日本語も含めた語彙力と文法、そして日米文化の差異の理解が大事だと教わりました。英語が上手に喋れるようになるには、英語漬けになるのが一番です。ただ、国内にいながらにしてその状況を作り出すことは極めて難しく、小学校から英語を勉強しても学校の授業だけでは効果は薄いと思います。韓国は既に小学校から英語が必修化されていますが、受験競争過熱気味で、他教科同様に塾が大流行で二極化が進んでいるそうです。また、TOEFLやTOEICは受験対策をすればある程度の点数がとれるようです。最近、TOEICの点数を採用の条件にする企業も増えてきたようですが、760点以上で採用しても実践ではさっぱり使いものにならないという声も聞きます。英語が出来ることはグローバル人材の必要条件ですが、十分条件ではありません。そして、ネイティブ・スピーカーのような流暢な英語が喋れることが必ずしも要求されるわけではありません。単なる「英語屋さん」では意味がないのです。私たちはオギャーと生まれた時から日本語を聞きながら育つので、1年もすれば言葉を話し出します。小学校に上がってから日本語の文法を徐々に学んでゆきます。学校教育で意識しながら学んだことがしっかり身に着けば、社会人になっても無意識の内にもきちんとした日本語の文章が書け、きれいな日本語が話せるようになります。これは英国人にとっての英語、フランス人にとってのフランス語でも同じではないでしょうか。母国語の教育をきちんとしないところに外国語に秀でた人は生まれません。

企業の海外展開は更に加速しており、外国への転勤や外国人とのコミュニケーションの機会は増えてきていますが、みんながみんなグローバル人材にならなければ生きてゆけないわけではありません。あらゆる分野での外国人の雇用が進み中小企業も含めて外国人労働者が多数を占めるようにでもなれば、日常生活で共通語としての英語の必要性は飛躍的に高まるでしょうが、しかし、ほとんどの国民が日本語だけで仕事し生活できている今の状況が容易に一変するとは考えられません。韓国人や中国人が欧米にどんどん留学し英語も喋れて日本人と比べるとグローバル化が進んでいるといわれますが、それは英語教育の問題と言うよりは、海外でアグレッシブに活躍したいと思う人間が多いか少ないかの問題ではないでしょうか。当然、日本人の中にもグローバルに活躍することを目指している人もいますが、そうしなくても十分に仕事ができ満足している人たちのほうが多数を占めているのではないでしょうか。アメリカ人やイギリス人がみなグローバル化志向でもないでしょう。アメリカ人の大多数はパスポートを持っていないとも聞きます。みんながウォール街やシリコンバレーで働いているわけではありません。世界の大学間での単位の互換性の推進や通年採用制の一般化など、大学や経済界と協力して、留学による人材交流

を容易にする施策を講じてグローバルに活躍したいと考える人々に政府が積極的に援助を行うこと自体は大変結構なことですが、それは一部の問題だと思います。上述したようにその効果への疑問もさることながら、全ての児童を対象とする小学校教育において、英語を正式教科化したり、大学入試・卒業認定にTOEFLを活用したりするというアイデアには首をかしげたくなります。国語力を含めた一般教養部分が酷く劣化しているなかで、即ち、土台が崩れつつある状態で、新たな課題を付加しても、混乱をきたすだけで、とてもコストパフォーマンス（費用対効果）も見合うとは思えません。

199
2013/5/31

就活における企業の本音

日経新聞によると、2014年大卒の就職活動に明るさが見えてきたようです。5月1日時点での内定率が前年比8・6ポイント増に大幅改善し39・3％（リクルートキャリアの調査結果）になったそうです。内定率上昇は大手企業が有望な学生の囲い込みに動いた結果だと報じています。また、企業は大学による選別を強める傾向にあり、人材コンサルティング会社による500社を対象とした調査の結果によると、重点的に学内説明会などを開催する「ターゲット校」を設定する企業が2011年卒の採用の33％から2014年卒では52％に急増しており、ターゲット数を20校以下と回答した企業が8割以上に上っています。

ビジネス誌プレジデントは、金融、流通、精密、化学、IT等各業種の人事担当者の話を載せています。本音が語られており、興味深いので一部を紹介します。英語教育でも論じたところですが、採用に当たりTOEICスコアが本当に必要かという点では、否定的な意見がほとんどです。「確かに英語力は必要だが、大事なのはビジネス英語で交渉が出来るかどうかだ。TOEIC800点以上あっても交渉できるわけじゃない。」（流通）また、「採用時の英語力と海外で商談をまとめる力は関係ない。欧米企業に製品を売り込み、実績を上げている営業マンがいるが、TOEICの点数は500点だ。要はビジネスセンスやコミュニケーション能力であって、点数とは関係ない。」（化学）「物怖じしないコミュニケーション能力と度胸、あとはどんなところにも飛び込んでいける力だ。」（精密）「語学力だったら外国人にかなわない。なぜ外国人を採るかと言えば、日本の学生は総じて元気がない。外国人の学生は、ハングリー精神、向上心の高さが日本の学生と全然違う。」（化学）次に大学の学力差についての議論では、「早慶やMARCHにしても昔に比べスクールカラーが全くなくなり、似たような学生が多い。」（流通）「最終役員面接

に上がってくる常連校は、早大、慶大、京大、阪大と言った有名校が大半だ。」（流通）「大学全入時代に入り、学力レベルも既存の上位校の序列が崩れてきているのではないか。大学時代に努力しているかどうかの差が大きく出てきている。」（金融）「実際に面接してみると、10年前の学生に比べてレベルが落ちてきていると感じる。」（精密）「最終面接に上がってくるのは確かに早慶の中の優秀層が多いが、全体としてみれば、大学のレベルが昔に比べて1ランク落ちていると思う。」（流通）「地方国立大学や旧帝大の元気のなさが目立つ。」（ＩＴ）など、ターゲット校においても以前に比べて学生のレベルが落ちていると感じています。また、最も重視している点は、「働く動機」（ＩＴ）、「社会人になって伸びしろがあるかどうか」（化学）を挙げています。「体育会系には魅力を感じている。」（ＩＴ）企業がある反面、「最近の体育会の学生が体育会系らしくなくなってきた。上下関係がなくなりフラット化、サークル化してきている。」（金融）「体育会系の学生には、上下関係など不条理な世界を経験しているので、会社やビジネスの不条理さにもついていけることを期待しているが、それがない体育会系の学生には魅力がない。」（流通）など、体育会系学生の変化も感じているようです。最後に、出世の法則は時代とともに変わるとしながらも、「グローバルに活躍する人材の資質とは、若手も含めて図太い人間だ。」（ＩＴ）、「出世している人は昔も今も変わらない。上が下した命令を自分のチャンスとして前向きにとらえている人だ。個人のキャリアを中心に考えている奴はダメだ。」（化学）「今まではプレーイングマネジャーでやってきたが、これからは自分で手を下すのではなく、人を育ててなんぼだ。」（流通）「いろいろな人をマネージできる人でなければ、これからは出世できない。」（ＩＴ）「人を纏める力が出世の大前提だ」（流通）等などますます試験の点数だけでは表しきれない能力が求められています。昔は「俺の背中を見ながらついてこい」とか「仕事のやり方は教わるものではなく、盗むものだ」などと言われたものですが、企業社会も男性社会から女性の進出も促進され、また外国人採用も増えてきました。正社員だけではなく派遣社員が多くなりました。スパルタ方式では人が育たなくなっており、様々な人材をまとめ上げて目的を達成する能力が管理職に求められています。学校現場においても全く同様のことが言えます。

このように見てきますと、その良し悪しは別として、基本的には今も昔も企業の採用スタンスはそう大きくは変わっていません。高学歴化とＩＴ化が進み、大量の大卒がエントリーしてくるため、ＳＰＩ試験の導入やＴＯＥＩＣ得点基準など足切りが厳格になりましたが、一般論として、偏差値の高い大学に入学した学生ほど勉強に努力をしてきたので学力が高く潜在能力があるとみなされます。多くの大企業はターゲット校、すなわち実質的には指定校制を採っているのです。最近は、大企業に入ったからといって一生安泰で定年まで過ごせるとは限らなくなりました。また、大組織ではなく小さな組織の方が早く仕事を覚え責任ある立場に立てるなどの理由から、中堅、中小企業への就職に積極的に向かう学生も出てきたようですが、まだまだ少数派です。大多数は依然として大企業志向です。あくまで大企業に入ろうとすれば、東大を頂点としたピラミッドの上位20校ぐらいの大学に入らなければほぼ可能性はないと

いっても過言ではありません。学歴社会は崩壊ではなく、ますます強固なものとなり、一定レベルの学校歴があることが大前提になったと解釈するのが正しいと思います。しかし、その選抜方法や基準は必ずしも企業の一線で活躍する人材を採用するに十分だとは言えないのが現状のようです。そして、英語力については、企業と政府の教育再生実行会議の認識にはずいぶんとギャップがあるということがわかります。点数主義を排し人間力を付けるべしと言いつつ、また新たな実利なき点数主義を付加しようとするところに矛盾を感じます。

200
2013/6/3

環境省のスーパークールビズに物申す

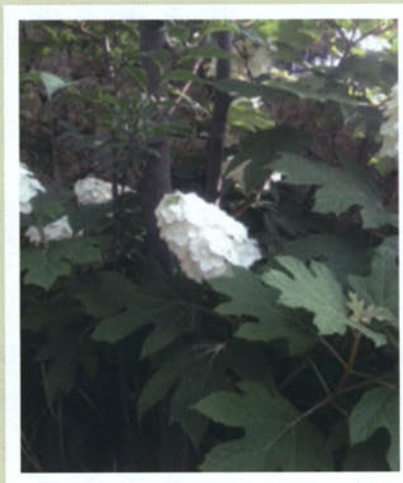
今年もまた、環境省のスーパークールビズが解禁となり、アロハシャツや短パンにスニーカーやサンダルでの通勤と勤務が始まったと報じています。省エネのためという名目でクールビズが始まりました。特に首都圏の満員電車通勤の凄まじさは、以前、東京にいた私には良くわかりますし、ほとんど亜熱帯化しつつある日本の夏の蒸し暑さもわかりますが、室温を　度に保つためにここまでしないといけないのでしょうか。世の中には、夏でも炎天下で働かねばならない人たちもいます。彼らが暑いからと言って好き勝手な格好で現場に入るでしょうか。危険防止のために現場に合った作業服を着こんでいます。メーカーの工場だってユニフォームに身を包んで

働いています。楽なオフィスでデスクワークしかしないのですから、暑ければ、上着を脱いで、ネクタイを外して、ワイシャツの第一ボタンをはずして、腕まくりすりゃいいじゃないですか。どうして、リゾートに遊びに行く格好をしなければならないのでしょうか。自分の子供たちは学校で制服に身を包んで、うとうとしながらも頑張って勉強しているんですよ。親が子供より楽してどうするんですか。学校でTPOを弁えよと教えられて帰ってくるのに、お父さんは役所でアロハシャツに短パンじゃどう説明するんですか。中央官庁の天下のエリート集団がやることとは思えません。ノーブレス・オブリージのかけらも感じられません。「エリートである自分たち中央官僚がラフなスタイルで勤務するのだから、みなさんもご遠慮なく」という尊大さが鼻につくのを通り越して、関西弁で言う「何をいちびってはんの?」と苦言を呈したい気持ちです。

201
2013/6/7

センター試験廃止へ！？

日経新聞の報道によれば、文部科学省は、大学入試センター試験を5年後をメドに廃止し、高校在学中に数回受けられる全国統一試験「到達度テスト」を創設して、大学入試に活用する検討を始めたそうです。その理由について、大学志願者の学ぶ意欲を引き出すことで高等教育の質を高め、国際社会で活躍するグローバル人材の育成につなげるためと述べています。また、90年にスタートしたセンター試験は共通1次と同様に年1回の実施で、受験生を1点刻みで振い落とす手段として使われ、基礎学力を測るという当初の目的が薄れているという批判があったとも述べています。難易度の異なる3種類の到達度テストを用意し、高校2年生以上の希望者を対象に年2～3回実施し、そのうち最高の成績を使うことができ、大学は必要に応じて筆記や面接などの2次試験を実施するという案です。文科省は海外の入試制度を参考にしているようですが、米国では大学進学適性試験「SAT」の成績に加えて、高校の成績や小論文、面接が総合評価されます。フランスの大学入学資格試験「バカロレア」や英国の「GCE－Aレベル」も、ペーパー試験だけではなく、エッセイや実験、面接など長期にわたる幅広い成果の総合評価となる制度であり、初等、中等教育もその前提で教育システムが組まれています。そして、常に正解を追い求めるだけではなく、多面的な考え方を共有し、その中から自分の意見を確立するという論理的思考に価値をおいています。マークシートのみのセンター試験では、知識の集積度を見るにとどまり、答えを導き出す過程の論理構成は全く見えず、書く能力も測ることが出来ません。しかし、本格的に欧米流に替えようとするなら、記述部分が重要となり、それも正解を見つけるだけではなく、いわゆるエッセイを書くことが出来なければなりません。そうなると、初等教育の段階から、英語よりもむしろ国語力の強化を図る必要があります。中等教育では各教科において、論理的思考を養う教材や指導法を採らねばなりません。これは大変望ましいことですが、このステージでの準備が整わないままで、大学入試の内容だけを変えてしまうと、意図した成果が出ないとともに小中高等学校において混乱が生じ、その隙間を埋めるのは民間教育産業と言うことになりかねません。到達度テストの内容やレベルの詳細が分からない段階ですが、欧米流の内容とレベルへ抜本的に改革するとしたならば、初等教育から高等教育までの一貫した教育理念が確立されなければなりません。大学入試に限って言えば、先ずはマークのみのセンター試験から、マークと記述を組み合わせた試験に替えることから始めて、その間にグランドデザインを完成するの



が現実的だと思います。

202
2013/6/11

やさしい先生という評価は？

「良薬は口に苦し」と言いますが、教員ほどこの譬えにピッタリとあてはまる職業はありません。在校生にしろ、卒業生にしろ、「あの先生はやさしいから」という生徒の言葉は真に受けて喜ぶべきものではありません。裏には「厳しく指導や注意をしない先生」という意味と「とことん生徒に関わることのない先生」という意味が含まれている場合が多いのです。時々、授業巡回をします。お昼御飯が終わった5時間目や6時間目になると眠気が襲ってきてうとうとする生徒が出るのは致し方のないことです。また、単調で面白みのない授業ではついつい居眠りをしてしまうものです。私たちも面白くない講演会では居眠りをしてしまいますので、生徒の気持ちがわからないでもありません。しかし、机に完全にうつ伏して寝ているとなると、気分が悪いのか怠学なのかどちらかです。気分が悪いのなら保健室に行かせてやらねばなりませんが、怠学ならばきちんと注意をしなければなりません。勉強をさぼっているとともに無礼な行為なのですから。これをビシッと注意して起こせるかどうかが生徒指導力であり、生徒指導力がなければ授業力も生まれません。生徒指導の上手い教員は授業も上手くいっています。先ず、教室への入り方、授業開始時の起立・礼、そして第一声、ここまでたぶんその授業の半分は決まるのではないでしょうか。次は肝心な授業内容ですが、スピーチと同じで、ポイントを2～3点に絞って生徒の反応を見ながらアドリブも加えて興味を引くようわかりやすく進める必要があります。声の大きさや抑揚、身振り手振りにも工夫が要ります。生徒への発問と生徒からの質問が行き交う授業は活気が出ます。そして、最後には今日の纏めをきちんとします。と同時にチャイムが鳴り、一斉に立って起立・礼で終了です。舞台の幕開けから幕を下ろすまで、満足のゆく授業が出来たかを毎回検証してほしいものです。上手くゆかなかったところがあれば、次の授業ではそこを直そうと考えねばなりません。一流の教師はまさに一流の役者でなければならないと思います。三流は検証も反省もなく観客を放っておいたままで、三文芝居を延々と演じ続けることになります。卒業生は、厳しかったけど生徒のために一生懸命だった教師のことは分かってくれています。後になってからでも大いに感謝しています。どんな教師になるか、「石の上にも3年」、新任の教員にはこれからの長い教員人生をどう演じきってゆく

のか真剣に考え頑張ってほしいと思います。企業でも同じですが、若い時ほど、研修効果は出ます。考え方が固まってしまうと容易には変われないものです。いい加減な授業をしたまま40歳、50歳になると、もうなかなか直せません。意欲も気力もなくなります。若い時に、上司がしっかりと指導をして鍛えなかったため、一人前の教師になれなかったことには同情はしますが、しかし、誰もその結果を許容はしてくれません。

203
2013/6/12

素直さの効用

先日、ある大学のアドミッションオフィスの課長さんがお見えになり、いろいろお話を伺った中で、就活で企業が注目する点のひとつに「素直さ」があると教えて頂きました。この方は、元は企業におられ人事の仕事をされていたので、特に採用については造詣が深いのです。ご自分の大学の学生がある大企業を受験し、面接で質問を受けた時、全く知らないことを聞かれたため、素直に「その件については、不勉強でわかりません」と答えたそうです。並み居る有名大学の学生が沢山受験しているので、多分落ちただろうと諦めていたところ、内定通知が届いたそうです。先方の話によると、知らないことを聞かれた場合、正直に「知りません」と言える学生は少なく、何とか自分なりの答えを出そうとするそうです。知らないことを「知りません」と正直に言ったこの学生に、その人事担当者は、「素直さ」を読み取ったのだそうです。アドミッションオフィスの課長さんは、以前は色んな資格を持っていることが就職に有利

だと言われていたが、今は逆になりつつあるとも言われていました。資格を売り物にする学生は敬遠されるようです。

企業の採用方針や人材に対する考え方は必ずしも同じではないでしょうが、最近はインターネットで採用情報を見てエントリーシート（ES）を提出するという方法での選別に限界を感じてきた企業も出てきたようです。人気企業になれば、エントリー数が膨大になるため、実質的に大学で選別せざるを得なくなります。目薬で有名な中堅の製薬会社であるロート製薬は、「ひとりひとりにしっかり向き合う」ことを基本方針に、学内セミナーを中心に、学生と会って双方のニーズが合致しているのかどうかを確認したうえで、それからESの提出を求めることとし、「脱ネット」採用企業として注目を浴びています。インターネットが普及する前に戻ったわけですが、やはり、Face to Faceが一番確かな方法だと気が付いたのだと思います。

写真教員採用とて同じです。私学は以前、縁故採用が多かったように聞いていますが、今はほとんどの学校が公募での採用になっ

ているのではないでしょうか。本校もここ2～3年、新規採用を増やしており、公募で面接と筆記試験を実施しています。専門教科の知識や理解があまりにもお粗末な場合は不採用にしていますが、基本は面接重視です。もっとも、一度の面接で、その人のすべてがわかるわけではありませんが、書類審査での予想と大きく違う場合があります。また、資格が多いのが良い教員でもありませんし、特に新卒予定者からあまり高邁な意見を述べられても反って信用できません。「素直さ」というのは言い換えれば「真摯さ」であり、「変化に対応できる」可能性を秘めているということだと思います。これは若者の特権だと思いますが、年齢を重ねても「素直さ」や「真摯さ」を失わない人もいます。私は、この6年間の学校改革を通じて、こういう人たちこそが組織を良い方向に変えてゆく原動力になり得ると実感しています。

204
2013/6/12

「民間校長3か月で辞任」に思う

大阪市の公募により小学校の校長に任命された民間人校長が、就任3か月で辞職したとのニュースに接し、「さもありなん」と思いました。この方は、十数年間、外資系の証券会社に勤めたのち、コンサルティング会社の専務を歴任した38歳の若手経営者でした。優秀な方だったのだろうと推測しますが、市教委の描く校長像とのギャップが埋まらなかったことが理由でおやめになったようです。生き馬の目を抜くような外資系の証券会社で鍛えられてきた人から見れば、職場環境も考え方も全く異なる公立の小学校の校務運営は前例踏襲主義に映り、歯がゆかったに違いありません。意気込んで改革に乗り込んだ38歳という若者には我慢が出来なかったのではないかと思います。

しかし、世の中、自分と同じ考えの人間ばかりではありません。自分の意思を通そうとすれば当然摩擦も起きます。時間をかけて説得し理解者を増やしてゆかなければなりません。高1ギャップで「学校やめたい病」に罹ってしまう生徒に、「何事も3日坊主はダメ。3日続けば、3週間、3週間続けば3か月にチャレンジし、そして3年続ければものになるから」と説得をしている私からすれば、わずか3か月での辞任はちょっとお粗末で無責任だといわざるを得ません。「見切り千両、損切り万両」とは、相場の格言ですが、教育は長期投資ですから、いかに元証券マンと言

えども、「石の上にも3年」の覚悟が必要だったと思います。公募による民間人校長のアイデアは、組織として仕事をする文化が薄い学校現場にマネジメント能力あるトップを据えることで、教育効果を上げようとの趣旨から生まれたものですが、それはあくまで手段であって目的ではありません。目的は、児童・生徒の成長と幸せのために資することでなければなりません。そして、この目的の達成を真剣に希求する信念ある人を校長にしなければなりません。素早く一定の成果を上げることでキャリアアップを図るつもりなら、校長と言う仕事は、決して割のいい仕事ではありません。「僕は忠義をするつもり、諸友は功業を成すつもり」という吉田松陰の一句を思い出しました。教育には頑固なまでの信念が必要で、それには泥臭さも伴います。彼は少しクール過ぎたのではないでしょうか。

205
2013/6/26

コミュニケーション・ツールの罠

森元首相が「イット」と呼んで失笑を買った時から10数年が過ぎ、IT（アイティ）即ち、Information Technology（情報技術）は益々進化し、ケイタイはスマホ時代、TwitterやFacebook、Lineなど次々に便利なコミュニケーション・ツールが現れ、電子黒板やiPadを授業に使う学校も出てきました。既にアメリカでは教科書がなく、全てパソコンの中に収納され、一人一台のパソコンで授業を行っている学校もあります。このような情報機器を使った授業の良し悪しは議論の余地があると思いますが、それはさておき、短期間でのITの進展には目を見張るものがあります。橋下大阪市長はじめ安倍首相など政治家も多くがTwitterやFacebookを利用して情報発信していますが、その発言が論争の素となり、ブログ炎上などに繋がることもしばしばです。

先日の復興庁参事官によるTwitterでの暴言問題は記憶に新しいところです。大人でもトラブルを起こすのですから、まだ未熟な高校生間でのトラブル続出は想定内のことです。件の参事官のような政治的暴言は、高校生段階では「死ね」とか「ウザイ」「キモイ」などと言う常套句が乱れ飛び、相手の心を甚く傷つけることになります。正直、本校においてもLineでのトラブルは時々発生します。生徒から教員への通報で発覚するのがほとんどですが、いかなる理由があろうとも、相手を誹謗中傷し名誉を著しく傷つけるような発言は、厳正に対処いたします。校長室は常にオープンなので、生徒が相談に来ることもあり、その場合、2時間、3時間と校長室で話を聴くときもあります。雨降って地固ま

るように、双方の生徒への対応には細心の配慮をすることは言うまでもありません。話を聴いて思うのは、ボタンの掛け違い、言葉足らずによる誤解などから感情が激してトラブルに至るケースが多いということです。自分の意思を正しく伝えることが出来ず、すぐ切れて激昂する傾向があります。当人に面と向かって言えないことを不特定多数に発信する行為は、数を頼みにする卑怯な行為だと思います。自分の思いや意見をTwitterやLineで短い文章で伝えることは、結構難しく、言葉を選び文章構成を考えないと上手くゆきません。国語力と論理的思考が必要です。また、顔を見ての話に比べると、どうしても全てを伝えきれないこともあり、読み手には、いわゆる行間を読むことも求められます。国語の授業で、小説など題材に、こういうことをもっと教えてほしいと思います。国語や社会には、実生活に活かせる材料がいっぱい転がっているのに、教科書の中だけの話で終わってしまっているのはいかにももったいないと思います。TwitterやLineやメールは、業務連絡には極めて有効なツールですが、複雑な問題については会ってじっくり話をすることに限ると思います。本来は、人間がその便益のために使いこなすべき情報機器に、人間が振り回され罠にはまっています。機器の操作に気が取られ、相手の立場を思いやるという余裕を失っているからなのでしょうが、一番の原因は、言葉を大事にしていないことではないでしょうか。

206
2013/6/27

トップの報酬

先日、就任後わずか3か月で公立小学校の校長を辞任した民間人校長につき感じたところを述べてみましたが、昨日の新聞報道では、「自分の経験を活かして英語教育をしようと思ったが、出来る環境ではなかった」ことや「給与が年功序列で校長として安すぎる」ことなども辞任の理由にあげており、これは初めからボタンのかけ違いがあったのだなと思いました。しかし、若いと言っても38歳ですから、もう少し教育現場の実情を勉強してから民間校長に応募すべきであったと思います。また、「不祥事を起こしたわけでない」ので、児童や保護者に謝罪する気はないと考えておられるようですが、これが事実であるなら、本当に校長の仕事や存在意義がわかっておられなかったのだなと残念に思います。企業の株主総会がピークを迎え、景気回復基調の中、特に円安効果もあり業績が急回復している自動車業界で、日産のカルロス・ゴーン社長の昨年の年俸が9億8800万円であったことが大きく取り上げられています。ソニーの前会長のストリンガー氏もそうですが、優秀な経歴と実績を持った外国人経営者を高額報酬で迎え入れることもグローバ

ル化の影響でそう珍しいことではなくなりました。件の3か月で辞任した元外資系証券会社出身の民間人校長さんもこれと同じような感覚の持ち主であったのかもしれません。つい最近まで日本では大企業のトップと言えども、年収は5000～6000万円ぐらいで新入社員の20倍から40倍と言ったところが相場でした。1000倍にもなる何十億円もの報酬をとる欧米に比べると格差はかなり小さかったのです。私は、優秀な経営者がその責任と業績に見合う高給を取ることや、出来る社員が出来ない社員より高い給与を貰うことは、当然だと思っていますし、基本的には、個々の企業とその株主の判断に任せるべきものと思いますが、しかし、欧米流の超高額報酬にはやはり釈然としないところがあります。組織はトップの器量によって変わりますので、トップの貢献度は確かに大きいのです。業種や規模によっては、トップの判断がほぼすべてを決めており社員は言われた通りに動いているだけという場合もあるかもしれませんが、通常一定規模以上の会社になれば、トップ一人でできることには限度があり、組織を構成する多くの人間が動くことで目的が達せられます。この目的達成に対する貢献度をトップと一般社員とでどうシェアするのが妥当なのかを考えますと、欧米流は行き過ぎのように思います。実際、スイスでは企業トップの高額報酬に歯止めをかける国民投票が行われ圧倒的多数の賛成で可決され憲法改正の動きが出ています。ドイツでも同様の動きがあるようです。経営は、きれいごとでは済まず、利益を確保しなければ給料も払えず投資も出来ず組織を死に至らしめてしまうので、時には非情な局面も避けられません。だからこそ、トップの姿勢が問われるのだと思います。JALを再建した稲盛和夫さんに多くの経営者が惹かれるのは、常に「動機善なりや、私心なかりしか」という指針を持って経営に当たってこられたからです。組織の経営を勝ち負けのゲームとして捉えるか、その中に働く人々の金銭面だけでなく精神面のやりがいや満足を最大化しようとするかの違いがあるのではないでしょうか。経営も教育も相通じるところがあります。

207
2013/7/1

働く笑顔のあなたは美しい

先日、二人の卒業生が職員室を訪ね、当時の担任と話をしていたので声をかけました。すると、そのうちの一人が、「職場で、私服姿の校長先生を何度か見かけているんですよ。」と言うので、詳しく聴いてみますと、私が住んでいる街のJRの駅にあるデパートの地下食品売り場にある、老舗として有名

な蒲鉾屋さんで働いているとのこと。私は、「声をかけてくれればいいのに。それじゃ、週末にでもまた行くよ。」と言いました。そして、昨日の日曜日に出かけてみました。他のコーナーでヨーグルトや果物をかごに入れた後で、いるかなと思いながらお店の前に行くと、いました。先日学校であった時と違い、きりっとして、ユニフォームも板についていました。「来たよ。」と言うと、「本当に来てくださったんですね。」と美しい笑顔で迎えてくれました。「折角だから何かもらおうかな。お勧めはなに?」と聞くと、揚げたての天ぷらをいくつか勧めてくれたので、一つずつ注文しました。後ろにいた店長に私のことを紹介してくれたので、「いつもお世話になっています。よろしくお願いします。」と挨拶をしましたら、「頑張ってやってくれていますよ。」と言ってくださいました。可愛がっていただいているようで安心しました。秤に乗せて料金を確認している彼女に、店長が目配せして代わってボタンを押しました。彼女が「少しですがおまけさせていただきました。」と言いました。「どうも有り難うございます。また来ます。」と、二人にお礼を言って立ち去りました。わずか数分のやり取りでしたが、笑顔で働いている卒業生に出会えて本当に嬉しく思いました。手渡されたアツアツの天ぷらの感触がいつまでも手のひらに残っていました。

208
2013/7/4

IT革命の矛と盾

先日、LINEによる生徒間のトラブルにつき言及を致しましたが、情報技術の発展の最大の特色は情報があらゆる垣根を越えて瞬時に知れ渡るということです。「革命」という言葉は英語では「revolution」で、①「産業革命」など、ある状態が急激に発展、変動することを意味する場合と、②「フランス革命」のように、従来の被支配階級が支配階級に取って代わり、社会組織を急激に変革することを意味する場合があります。IT革命にはこの両方の意味を兼ね備えていると言えます。現在、大規模なデモが起きているトルコやエジプトなど、現政府の施策に不満を持つ人々がFacebookなどのSNS（インターネット上での社会的ネットワークの構築）でつながっています。これは、2010年のチュニジアにおけるジャスミン革命に端を発したいわゆるアラブの春の延長線上にある動きです。専制政治を倒して民主主義を樹立しようとするものの、核となるリーダーがいない結果、付和雷同の烏合の衆となる危険性も孕んでおり、政権が打倒されたのちも混乱が続く可能性があります。エジプトは結局、

軍が介入しクーデターを起こしたようで、さらに民主主義から遠のきました。しかし、SNSの持つ機能が政権を倒すという革命的要素は十分に発揮しました。

一方、支配者と被支配者が入れ替わる革命に貢献するツールである情報技術が、逆に政権側の情報収集のツールとして使われていたことが明らかになったのが、今回の元CIA職員スノーデン氏の亡命事件です。グーグルが、誰と誰とがいつ何回通信していたかがわかる『メタデーター』を米政府に提供していた事実が発覚しています。国際社会においてスパイ行為は従来から行われておりましたが、3・11テロ以来、国の内外を問わず疑心暗鬼にならざるを得ないところがあり、味方をも疑うような場合も出ています。ロンドンの街角には数多くの監視カメラがあるのは2005年の地下鉄テロ事件で明らかになりましたが、日本でもカメラの設置が進み、監視社会になりつつあります。多くの企業でパソコンのアクセス履歴は監視されています。情報にフリーアクセスできるとともに、監視もされる、なんとも油断のならぬ世の中になってきました。IT企業は反体制側に矛を、体制側には盾を提供していることになります。

209 2013/7/5

「いじめ防止対策推進法成立」に思う

6月21日、参院本会議で、「いじめ防止対策推進法」が可決・成立し、今秋から施行されることになりました。大津の中学生のいじめによる自殺が大きな社会問題となり、この学校の対応に対して批判が集中しました。この事件では、従来の一般人が認識していたいじめの範囲を大きく逸脱し、犯罪行為にまで及んでいたことも明らかになりました。そしてそれ以降、全国でいじめ隠蔽とも取れる案件が明るみに出ています。この法律は第一章総則から第九章罰則までの四十三条からなるもので、法案提出理由には以下のように書かれています。

―「いじめが児童生徒等の尊厳を害するとともに、あらゆる児童生徒等の良好な教育環境を損ない、児童生徒等の適切な教育を受けて健全に成育する権利を害することに鑑み、児童生徒等をいじめることを禁止するとともに、いじめ対策に関し、基本理念及び国の責務等を明らかにし、並びに基本計画の策定その他のいじめ対策の基本となる事項、いじめ又はその兆候の発見及びいじめに関する事案への対処に関する措置、いじめ対策の実施の状況の把握及び評価等について定めることにより、いじめ対策を総合的に推進する必要がある。」これが、この法律案を提出する理由である。―

「人の嫌がることをしない」ことや「弱いものをいじめてはいけない」ということは人として当たり前のことであり、道徳の範疇であると考えますが、それを明確にするために法律を作らねばならない様な国になったのかと、情けない気持ちになりました。いじめられた生徒が銃を乱射するという事件があったアメリカではほとんどの州に条例があるようですが、道徳が廃れ法制化しなければならないのもグローバル化の影響なのでしょうか。この法律の骨子は、次の五項目です。①いじめ防止対策の組織を学校に常設する。②学校

は早期発見の措置や相談体制の整備を図る。③重大ないじめがあった場合、学校は速やかに事実確認、被害者側に情報提供を行う。④いじめた子に懲戒や出席停止などの措置を取る⑤重大な犯罪行為は警察に通報する。条文を読みますと、教育委員会は、「地域いじめ対策計画」を策定し、「地域いじめ対策委員会」を設置することになっています。学校にも「学校いじめ対策委員会」を置かなければならないと規定されています。もし、私が学校の内情に疎いままのビジネスマンであったとしたら、この法律制定という事実を案外素直に受け入れていたかもしれません。しかし、学校に来て7年目を迎え現場の事情に精通した私には、失礼ながら、当たり前のことをわざわざ法律を作り、既存の組織のPDCAを廻せばできることを、屋上屋を重ねて特別な組織を作ろうとしているように思えます。この法律の第四条にもあるように、「いじめがいずれの学校の児童生徒等にも起こり得るものであることを踏まえて」、学校では担任や学年団そして生徒指導部を中心に常に生徒の動向には注意を払っています。校務分掌によって組織も態勢も整っているのです。要は人の心構えの問題であり、トップ以下の教職員が、一人一人の生徒のためになるかどうかをそれぞれの行動基準に置いて教育活動に従事しているかの問題だと思います。本校においては、生徒対応の一次担当者は当然、担任ですが、生徒指導部や教頭、校長が常に校内を巡回し、生徒と話をする中で、積極的に生徒の状況把握に努めています。私も毎朝校門に立って登校する生徒に「おはよう」の挨拶をしていますが、その折に、いつもと様子の違う生徒がいれば、声をかけたり、担任に報告したりしています。また、直接、校長室に相談に来る生徒も沢山います。新校舎を建設した時、私の意向で、校長室は現在の場所に定めました。先日、ある私学の校長がお越しになりました時、「本館を入ってすぐ目の前にあったので、事務所かと思いました。」と言われました。本校の校長室は、1年生から3年生の30教室が入った4階建ての本館の玄関を入って目の前にあります。壁を隔てて隣が生徒相談室です。深刻な相談やお叱りがあれば、覗きに行きます。その場で話に入ることもあります。校長室の内扉は職員室に向かっていつも開けっ放しにしています。生徒は頻繁に職員室に入ってきますので、生徒と教員のやり取りがわかります。保護者からの電話に教員が対応しているのも聞こえます。気になる場合はすぐに事情を尋ねることができます。逆に教員も職員室の奥に校長がいるわけですから、気軽に相談に来れます。私の座っている位置からは職員室の窓越しに廊下が見え、そこを歩く生徒が見えます。目が合えば、愛想のいい生徒は、私に手を振ってくれます。こちらから手を振ったり、会釈をしたりする場合もあります。様子のおかしそうな生徒が廊下を歩いていれば、玄関側についている校長室のドアを開けて出てゆけばその生徒に追い付き、話を聴くことが出来ます。私は授業も

持っていませんしクラス担任もありません。ですから、気持ちに余裕を持って全体を見渡すことが出来ますので、忙しい担任が見えていないところをカバーできます。このような校長室の位置は、生徒指導にはベストのポジションだと思っているのですが、学校の常識からは外れているそうです。校長室はもう少し落ち着いた静かな場所にあるものだそうです。ちなみに私は理事長を兼務していますが、本校には理事室も理事長室もありません。校内を歩いて問題を探してくるのが私の仕事だと思っています。当初は古い教員に嫌がられましたが、今ではこれが本校の文化になっていると言っても過言ではありません。校長就任時、学校を良くするためには懇切丁寧な生徒指導の徹底であると思い、率先垂範でやってきました。本校の生徒指導部は非常に良く頑張っています。道路や電車内でのマナーに関する苦情にもスピーディーに対応し、当該生徒の指導をきっちり行っています。生徒間のトラブルにも適切な対応が出来ています。特に、いじめの兆しがあれば校長以下総力戦で慎重に対応しています。「悪い情報ほどいち早くトップの耳に入れる」ことを徹底していますから、隠蔽とは無縁です。それでも時には、残念ながら保護者から直接私に苦情や相談を頂くことがあります。私に言えば何とかなるのではと思って頂いている証なのですから、チャンスととらえて、お話を十分伺い、関係各人に指導並びに対応を指示しています。私を含め教員にもミスや落ち度はあります。失敗を失敗のまま終わらせずに、保護者と教員、生徒と教員のコミュニケーションの再構築を図るのが私の役目です。言ってもダメだと思われることほど残念なことはありません。でも、今までの経験で、そう思っている新入生や保護者もいます。ですから、私は、機会あるごとに「校長室はオープンですよ」と言い続けているのです。「話せばわかる」がモットーです。

ＯＥＣＤが行う学力調査ＰＩＳＡで好成績を出しているフィンランドの教育を学ぶために一年間現地の高校にインターンシップで行った東京のある私立高校の教員のレポートを読みました。一般財団法人私学研修福祉会が発行した「私学研修」という雑誌に掲載されていました。質の高い教育が出来る大前提に、学校設備や教員配置に対する国の投資の充実と校長や教員への権限移譲が挙げられています。その結果、特に小中学校では一クラス20名前後の少人数性の授業による生徒への個別対応が可能となっています。いじめや生徒間のトラブルに早期に気づき、丁寧な指導をしようと思えば、クラスは少人数で一人一人に目が届く余裕が求められます。そのためには、教員の数を増やさねばなりません。それにはコストがかかります。こういう所にこそお金をかけて頂きたいものです。日本の教育への考え方はフィンランドの対極にあるのではないでしょうか。今回の法律を見ても、委員会の設置や定期的なデーター収集と報告など新たな事務処理が増えそうです。文科省、教育委員会から管理も強まります。家庭や地域の教育力がだんだんと低下しているなか、40人学級で多種多様な児童や生徒を教育してゆくには相当なエネルギーが必要です。なかには適性のない教員もいますが、このままでは、日本の教師は、やる気のある者ほど仕事が集中し疲弊してしまうのではないかと心配です。本来は家庭教育の分野であることまで学校に依存しています。教科指導、クラス運営、クラブ指導で、実質的に休みが取れない

教員が沢山います。教員の子供への愛情と熱意に社会全体がおんぶにだっこ状態になってはいないでしょうか。フィンランド研修を終えたこの教師は総括の中で次のように述べています。「地理的条件にも恵まれず、侵略され続けた歴史を持つフィンランドであるからこそ、平等であり、協力していくことが大切にされる。フィンランドの人からは、国民みんなが協力してゆかないと、国が成り立たないという意識が感じられる。そして、家庭、学校での教育の重要性を多くの国民が認識しており、それが平等に与えられることに同意している。つまり、国として将来のビジョンがあってその上に教育制度が組み立てられている。」翻って、我が国の現状を見ると、グローバル人材養成にしても、このいじめ問題にしても、付け焼刃的で、本質から外れ、仏作って魂入れずの感が拭えません。

210
2013/7/12

第二の開国

10日の日経で、政府は成長戦略の一環として優れた能力を持つ外国人を呼び込むため、経営者や技術者を対象にした新しい永住権の創設を検討することになったと伝えています。通常、永住権を取得するには10年以上の在留歴が必要ですが、昨年5月、大学教授、技術者、経営者らを対象とした高度人材ポイント制度が創設され、必要在留期間が5年に短縮されました。これをさらに3年に短縮するとともに、配偶者の就労や家政婦の帯同も認める考えです。これにより、専門性の高い外国人の長期滞在や外資系企業の誘致と日本の研究開発力の向上を図ろうと言うのです。

一方、7月8日号の日経ビジネスでは「人材逃避」と題して、日本からの脱出組のみならず、日本への留学生すら日本企業を選択しない傾向が強いことを特集しています。その主な理由として、縮小する国内マーケットと硬直した新卒一括採用や年功序列型の人事制度が挙げられます。個人の成長に重きを置く外国人は、日本の人事制度はキャリアアップにつながらないと考えます。また、日本での教育がハンディキャップになると考えて、シンガポールやマレーシアの英国系インターナショナルスクールへ子供を通わせるために海外に移り住む教育移民も現れているとも伝えています。欧米では、学校教育段階から、エッセイやディスカッション、ディベートに慣れ親しみ、YES、NOをはっきり言い、

自分の意見を主張するのが当たり前の世界です。しかし、日本ではまだまだその場の空気を読むことが重要視され、意見を言う場合も先輩や上司の立場を配慮して控えめで無難な発言になりがちです。人と違うことを嫌う風潮も強く横並び意識は欧米の個人主義とは相いれません。欧米のように多様な人種の多様な考え方の社員を上手く使いこなし効率的な経営を行うことに全く不慣れです。このような日本企業で働くことは、外国人はもとより海外で教育を受けた日本人にとっても、人生の貴重な時間を無駄に過ごすことになると感じるようです。少子高齢化が進む中、成長戦略として、海外から優秀な人材を日本に引き入れることは、日本人に刺激を与える意味でも必要だと思いますが、制度だけを作っても意識が変わらねば実効は上がりません。青色発光ダイオードの製造方法の発見と開発で有名な元日亜化学の研究員で現在はカリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の中村修二さんは、あらゆる分野での規制緩和の必要性を訴えるとともに、国語を英語にしない限り状況は変わらないと述べています。英語の国語化論は、明治初年に初代の文部大臣に就任した森有礼が、また、第二次大戦後は憲政の神様と呼ばれた尾崎行雄が、唱えています。日本が行き詰まり、世界に門戸を広げながら再生して行かねばならない時期に、英語国語化論が出てきました。日本は、第二の敗戦とも言われた90年代のバブル崩壊からの失われた20年を経て、ようやく長期にわたるデフレ不況の出口に立ちかけています。過去二回と今回が異なるのは、我が国が人口減少期に入っていることであり、国内に外国人や外資を呼び込もうとしていることです。私は、民族の象徴であり、文化の源である日本語を捨てて英語を国語にすることなど賛成はできません。しかし、国内に外国人を呼び込もうとするならば、外国人が英語で日常生活に支障がない状況が用意できなければならないでしょう。シンガポールや香港では英語は公用語となっています。日本は、明治維新以来、国を開き世界との交易で発展してきました。その先兵は一部の官僚とビジネスマンであり、その他大勢の日本人は英語にも欧米流の考え方にも関心を示さずとも問題なくやって来られました。しかし、これからはそうはゆかなくなりそうです。英語力とともに英語圏のものの考え方を理解し多様性を受け入れる寛容の精神が国民の多くの層に浸透しなければ、外国人の招致は進まぬばかりか、優秀な日本人の海外逃避を加速するかもしれません。ただ、忘れてならないことは、「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」、国語と歴史への深い洞察力を併せ持っていなければならないということです。幕末に続く第二の開国が近づきつつあります。

211
2013/7/20

夢と希望のちがい

昨日、保護者懇談の後、二組の保護者の方から別々にお話を伺いました。一組目の方のお話を聴き始めたのは、12時半ごろだったと思います。二組目の方のお話を聴き終わったのは18時近くでした。改めて、「傾聴」することがコミュニケーションの基本だということを再確認した次第です。私はもともとしゃべることは得意ですが聴くことが下手でし

た。自分の意見をどんどん述べるタイプでした。この仕事についてから、相手の話をトコトン聴くことの重要性に気が付きました。とはいえ、灯台下暗しで、家ではまだその傾向があるので、注意をしないといけないと、遅まきながらも思っています。教師は教えること、喋ることが仕事なので、聴くより先に話してしまう傾向が強いのです。それは、生徒を思うあまりと言うことなのですが、残念ながら、逆効果になってしまう場合があります。保護者や生徒の悩みをじっくりと聴けば、当初の思い込みが間違っているのではないかと気づくこともあります。ところが、何とかして良くなってほしいと結果を焦るがゆえに、なぜそのような状態になっているのかの原因を究明することが疎かになってしまいます。原因究明には傾聴が欠かせないのですが、それを飛ばしてしまいがちです。原因究明は急がねばなりませんが、結果を出すことを急ぐ必要はない場合がほとんどです。いかに。苦しみから早く解放し楽にしてあげたいという思いがあったとしても、病巣がどこにあるのか十分な検査をせずに、思い込みで手術をしては元も子もなくなるのと同じです。「覆水盆に返らず」は実に残念で悲しいことです。

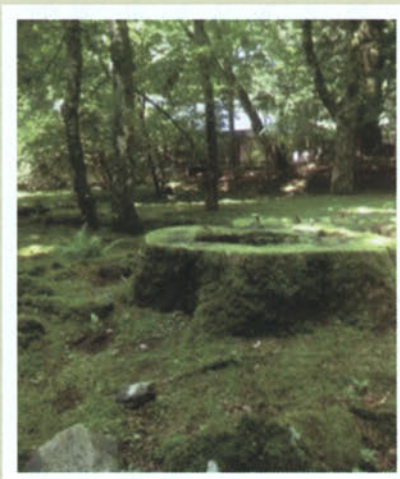
さて、今日は終業式でした。一学期の出来事を思い浮かべながら、「夢と希望のちがい」について話をしました。「私たちは、夢と希望と言う言葉を良く使うのですが、その違いを明確に認識しているでしょうか。小学生が「将来、野球選手になりたい」とか「Jリーガーになりたい」という夢を描く場合は多いでしょうが、それを実現できる人はあまりいません。私自身も、小学校、中学校等々、各段階で描いていた夢が実現したわけではありません。現状と夢には常に乖離があるものです。大人に近づけばそれは少しずつ縮小しますが、ハードルが高くなければ夢の意味はありません。夢は叶えようと努力するそのプロセスに意味があると言えます。夢が叶わなければ幸せになれないのでしょうか。もしそうなら、世の中大半の人が幸せではないということになります。ここに、希望の出番があります。上手くゆかなかったこと、失敗したことが大きければ大きいほど、それがすべてだとの気持ちになり、上手くいったことやプラスの点に目が行かないものです。自分の長所や良い状況が見えなくなってしまいます。ここを見つけ出す手伝いを我々教師がしています。それに気が付けば、その長所や利点を伸ばせて行けば、また新たな夢を描くことが出来るのではないでしょうか。私も「このぐらいの歳になったらこういうような生活をしたいな」と、ある夢をもっていました。しかし、人生とは平坦ではなく、上り坂もあれば下り坂もあります。そして、まさかそんなことになろうとは思いもしなかったということが起こってしまう「ま坂」もあります。その「ま坂」に遭ってその夢が実現できなくなってしまい

ました。暗い気持ちで落ち込みもしますが、朝、校門で挨拶を返してくれる生徒のみんなに出会うと、そこに希望を見出すことができ、別の夢を描くことが出来ます。教師は生徒に良かれと思って指導しますが、人によって方法が異なります。もし、その意味が分からなければ、私のところに来てください。私が通訳をします。また、悩みや嫌なこと困ったことがあれば、私のところに来てください。私はスーパーパワーではありませんから、みなさんの悩みをたちどころに解決などは出来ませんが、悩みを聴くことはできます。ダメもとで来てください。一人で悩むより二人で考えれば良い知恵が浮かぶかもしれません。話せば発散できるかもしれません。話しているうちに誤解が解けるかもしれません。そして、このことは、お母さんやお父さんにも伝えてください。気になること、困ったことがあれば遠慮なく私のところに来てくださいと、終業式の話で校長先生が言っていたと伝えてください。

212
2013/8/31

短くなる夏休み

猛暑の夏休みが終わり明後日から2学期が始まります。大阪市内の公立中学校は、今年から始業式を早め8月26日から2学期の授業が始まっています。寒冷地でもないのになぜ夏休みを短縮するのか、近隣校の校長先生にその理由を伺ったところ、大阪は全国学力調査の結果が芳しくないので、市長が躍起になっておられるようで、学力向上のためらしいのです。学力の向上は、学校教育のすべてではありませんが、けっして外せない重要なポイントであることは間違いありません。従って、本校においても生徒指導とともに学力向上を図ろうと悪戦苦闘しています。しかし、授業時間を増やせば学力が上がると考えるのは少々短絡的に過ぎると思います。学力の向上は、「やる気×勉強の質×勉強量」だと考えます。難関校の受験を目指す生徒達には「やる気」もあれば一定の基礎学力も備わっているものですから、勉強量を増やせば成績が伸びるという理屈は通ります。しかし、収穫逓減の法則は勉強にも当てはまり、効率的、効果的なスケジューリングが必要です。学校全体あるいは地域全体の学力を上げるとなると、夏休みを1週間繰り上げることにどんな意味があるのでしょうか。「授業量を増やすぞ」というメッセージにはなりますが、その1週間の授業で学力向上に効果があるとは思えません。「勉強の質」と「やる気」にこそ照準を合わせるべきではないでしょうか。そのために、夏休みを早く切り上げ一斉授業を開始するということではなく、生徒に合った特別な取り組みや個々の活動を通じて夏休み

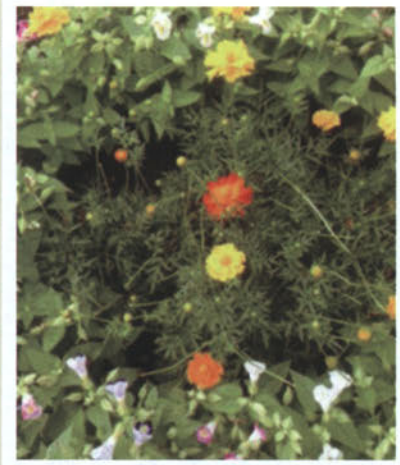


の有効利用を考えたほうがいいと思います。現場感覚の乏しい政治家や官僚はいつも制度をいじることで解決を図ろうとし、それが現場に混乱を生じさせ、当初の目的が達せられず、またシステムを変えるという一貫性のない、理念の感じられない教育行政が続くことになります。

213
2013/9/12

すべての道は生徒指導に通ず

猛暑の夏が終わり、朝夕は少し涼しくなってきたと思いきや、また残暑がぶり返してきました。一昨日の中学校向け入試説明会を皮切りに来年度入試に向けた広報活動が佳境を迎えます。これから、塾向けの説明会や中学生・保護者を対象にした学校説明会、個別相談会が12月末まで続きます。来年2月10日の入学試験を終え、併願者の戻りが確定し、最終の来年度入学生が決まる3月末まで気が抜けません。学校改革を始めた平成19年4月から6年間を振り返ってみますと、学校は随分と変わりました。平成19年度4月時点で757名であった生徒数は、平成25年4月では1068名となり、41・1%の増加となりました。一方、入学時と卒業時の生徒数の差から導き出す3年間での転退学率は、平成18年度卒業生（平成16年度入学生）の21・2%が平成25年度卒業生（平成22年度入学生）では8・7%に低下しています。一昨日の説明会で、この数字をお示ししたところ、「リタイア率が減っているのが大変すばらしいと思いました。安心して生徒に勧められます。」とアンケート用紙に感想を書いてくださった先生がおられました。評価いただいたこと大変うれしく思います。生徒数も多いが転退学者数も多い学校もあります。転退学率の激減は、本校の教員の生徒指導が進化し、かつ深化した証だと思います。生徒の成長を自分の喜びと出来る人、生徒のために骨折りが出来る人、そうすることに生きがいを見出す人でなければ、指導に身が入らず、効果が上がらないことは言うまでもありません。この6年間、忘れかけていた教師魂に再点火し、生徒との係りを増やしてきた教員が多かった結果、転退学率を下げることが出来たと考えています。教師魂にも程度の差はありますが、成功体験により魂に磨きがかかります。生徒も我々教師もともに成長できることはこの上ない喜びです。学校は、一人一人の生徒を大切にすると同時に、最大多数の最大幸福も実現しなければなりません。今後も「自立した社会に貢献できる女性を育てる」という使命を忘れることなく、6年間で築き上げてきた本校の生徒指導基準をしっかり守り、試行錯誤を繰り返しながらも、自立を促す指導を続けてゆきたいと思っています。そうすることが、本校で学ぶ生徒達のためになると確信しています。



ここ2～3年、新卒も含め若手の教員が増えました。多感な時期の多種多様な悩みや相談に適切に対応するには、熱意はあっても経験不足は否めません。学力向上も進路指導もすべての道は生徒指導に通じます。ベテランから若手への生徒指導の要諦の伝承がこれからの課題だと認識しています。私自身も生徒への声掛けとともに、若手教員にも積極的に声掛けをしています。最近は、デスクワークに追われる若手が多く、放課後も生徒に関わりが少なくなっているように思います。仕事の見直しをしなければなりません。

先日、2年生の学年集会が終わり、生徒たちが体育館から椅子を抱えて教室に戻ってくるのに出くわしましたので、「今日はどんな話だった?」と尋ねましたところ、「なんか、徹底ということなんだけど、50分間先生が喋りづめで、眠くなり頭に残っていない。」との答え。「そら、あかんな。話のポイントは3つぐらいに絞り簡潔に言わんとな。」と言うと、大きくうなずいていました。次の日、校内巡視していると、各クラスとも机にうつ伏して寝ている生徒が目につきました。猛暑の疲れが出ているのかもしれませんが、いつになく多いので、2年生の主任に「昨日、生活習慣やルールの徹底の話をしたんじゃないの?逆に悪くなってますよ。」と、ちょっと嫌味を言いました。この主任は本校の改革を担ってくれている大変信頼している気が置けない熱血教員なので、いつも本音で話が出来ます。ただ、話がくどいのが玉に傷です。哲学者パスカルの「パンセ」に次のような一節を見つけました。「雄弁とは物事を次のように話す術である。①話しかける相手の人たちが苦労しないで楽しく聴けるようにする。②彼らがそれに関心を抱き、従って自愛心にかられて進んでそれについて反省するようにしむける。」彼に早速紹介しようと思います。更にもう一つ少し長くなりますが引用します。「人を有益にたしなめ、その人に間違っていることを示してやるには、彼がその物事をどの方面から眺めているかに注意しなければならない。なぜなら、それは通常、その方面からは真なのであるから。そしてそれが真であることを彼にみとめてやり、そのかわり、それがそこからは間違っている他の方面をみせてやるのだ。彼はそれで満足する。なぜなら彼は、自分が間違っていたのではなく、ただすべての方面を見るのを怠っていたのだということを悟るからである。」校長室に沢山の生徒がクレームや相談にやってきますが、一方向からしか物事を見ていないと感じる場合が多々あります。その時はじっくり時間をかけて生徒の話を聴いてから、「こういう見方もあるよ」と違う角度から話をします。パスカルの言葉は生徒指導の要諦を言い表しています。

214
2013/9/13

バットマン・リターンズ はご容赦を

昨日、長崎県佐世保市にある名門の女子校の先生から大変ご丁重なお手紙を頂きました。私が、「好文木」の冊子をお送りしたことへのお礼のお手紙です。実は、今年の全国大会で佐世保に行った本校のワープロ部顧問が、「好文木を愛読されている先生にお目にかかったので、冊子を送りたいのですが、」と言ってきてくれたので、簡単な挨拶文を添

えてお送りさせていただいたのです。頂戴したお手紙によれば、2年程前の長崎県の生徒指導主事会で「好文木」が紹介されたことを自校の先生から聞かれたのがきっかけで、読んでくださっているとのことで、大変有難く思いました。先生は、「大学卒業と同時に今日まで私立高校に勤めており、井の中の蛙で大海を十分にはしりません。その私の不勉強さ故に、私と関わった生徒が育たないということがあっては決してならないと思いつつ毎日を過ごす中で、」と述べておられます。大変謙虚で熱心な先生だと思いました。確かに、私は、企業に勤務しておりましたので、学校の先生に比べれば、多少は実社会の動きに詳しいといえます。しかし、教育については全くの素人です。先生は、「井の中の蛙、大海を知らず」と謙遜されていますが、「されど、青空の深き」を知っておられるのではないでしょうか。先生のお手紙の行間から、生徒への思いの深さと教職に対する真摯なお気持ちが察せられます。このような教師のいる学校は羨ましいと思います。

今、この文章を書いております時、クラスルームから小笠原流礼法の授業を受けるために作法室に移動中の生徒の中で紙パックのジュースを飲みながら歩いている者を見つけました。校長室の私の椅子からは職員室越しに廊下が見えるのです。注意しようと出てゆくと、廊下にいた担任が、声をかけて注意しました。若手の中でもしっかりしている教員なので、さすがだと思いましたが、注意された生徒は、「わかってるって」と軽く受け流して行きましたので、私はその後ろ姿に「頼むぞ、ちゃんとやれよ」と一声かけました。そして、職員室に戻っていた担任に、「次の

時間、授業がないなら、作法室に行って見てきてくれる。そもそも、礼法の授業を受けようというのにジュースを飲みながら行くこと自体、間違っているということをしっかりと理解させなければダメだよ。」と指示いたしました。6年前に比べると格段に良くなったとはいうものの、蟻の穴から堤も崩れます。ダメなものはダメだとしっかり指導することは、生徒に嫌われるというリスクと隣り合わせになり、矛先が鈍るのも分かります。しかし、それでは優しいいい先生で終わるのが関の山で、一人前の教師にはなれません。注意された生徒が担任の話に関心を抱き、そして、自分の成長のためにと理解して進んで反省をすることができるのかどうか、指導力の見せ所です。たった今、礼法授業が終わり、担任が報告に来ました。こちらから聞かないと状況を報告しない教員もいますが、これもさすがに彼だけのことはあるなと思いました。「授業はみんなちゃんと受けていましたが、他にもジュースを持ち込んでいた生徒がいたので、今日の終礼時にクラスのみんなに歩きながら飲んだり、それを授業に持ち込んだりしないように徹底しようと思います。」と、言っ

たので、「それはちょっと違うのじゃないか。」と以下のような話をいたしました。「①そのような行為がいけないことを理解し、持ち込んでいない生徒がほとんどなのに、その子たちも含めて話をしたのでは、ちゃんとしている生徒たちにとっては時間の無駄ですよ。これは個別指導すべきだよ。②ジュースを持ち込んでいた生徒らは、そのことをどう思っているのかな。それはいけないことだと分かっていたけども飲みたい欲望に駆られて行ったものなのか、飲み歩きや持ち込みをいけないことだと思っておらず、学校の指導に納得していないのか、どちらなのか？　それによって指導方法や話の内容が変わるんじゃないか。言い放しじゃ効果はない。礼儀やマナーの意味をしっかり理解させて身に付けさせてこそ本当に生徒のためになる指導ですよ。」と。今回は、偶然にも初めて実況中継風の好文木となりました。

若手の教員が増えて学校に活気が出てきた半面、「校長やめろ。生徒指導部長やめろ。」とアンケートに書かれながらもダメなものはダメだというプリンシパルある指導を率先垂範徹底してきた結果、今日があるということを知らない教員が増えています。生徒指導の徹底の意味と必要性を理解してもらわねばならないと考え、明日、夕方から、若手を集めて生活指導主任からしっかりと話をしてもらうことにしました。何時までも限られた教員の手腕に期待していては長続きはしません。若手を育てなければなりません。バットマン・リーターンズはご容赦願いたい。

215
2013/9/30

現場から見えること

現場第一主義と言いますが、学校では生徒の声を聴くことに尽きると思います。最近も、授業や生徒指導について校長室に訴えがありました。一つは、あるクラスが授業中うるさくて勉強に集中できないというものであり、もう一つは、身だしなみ等につき自分たちばかり注意され、公平を欠いているというものでした。一つのクレームの陰には、類似の問題が多発している可能性が高いので、真剣に対応しなければなりません。

授業中やかましくなれば、当然、教科担当者たちは、「静かにしなさい」と注意はしているのですが、残念ながらそのクラスでは一向に静かになっておらず、常にざわついたままで2学期に入っていたのです。ついに、静かに勉強したい生徒たちがたまりかねて校長室に陳情に来たのです。教科担当には、専任教員もいれば非常勤もいます。ベテランもいれば新人もいます。全教科担当一人一人を呼んで状況を聴きました。新人さんは自分では手に負えないと、クラス担任や教頭に相談していました。しかし、担任や教頭が見に行くとおしゃべりはやみますが、いなくなれば

元に戻るのを繰り返しており、抜本的解決には至っていませんでした。ベテラン教員もまた、興味を引くように授業内容に工夫を加えたとは言うものの、状況に変わりはなく、ただ注意を繰り返すだけでした。注意をしても聞かないなら、イエローカードを出すように指示していましたが、それも躊躇していたようです。もっと早い時期に、各教科担当がそれをやっていてくれたら、やかましくしている生徒達を生徒指導部に呼んでその非を悟らせ態度を改めさせることが出来るとともに、迷惑を被っていた生徒達を救うこともできたはずです。騒いでいたほうも、それで迷惑を受けていたほうも、ともに救済しなければならないのです。制度を作っても適切に運用してくれなければ成果は上がりません。イエローカードに頼ることはプライドが許さないなら、そのプライドに見合うだけの指導をして成果を上げて頂かねばなりません。また、イエローカードを出すことで生徒と気まずくなることを気にしているとしたら、ダメなものはダメだというけじめある指導はいつまでたってもできません。非常勤講師や新任の教員には、十分な趣旨説明と指導が出来ていなかったのではないかと思いますが、制度の趣旨を十分理解しているはずのベテラン専任教員の無策ぶりには失望しました。イエローを出されて、喜ぶ生徒などいません。文句を言われることもあるでしょう。しかし、その時に、なぜそうしたのかをきちんと説明し生徒にわからせようとする熱意と手腕を期待していたのですが。私は、生徒たちからの陳情を聴きながら、これは完全に教科担当の責任であると思い、その生徒たちに頭を下げて詫びました。監督不行き届きの責任は私にあると痛感したからです。

50分の授業は、知識の切り売りに終始するのではなく、マナーや道徳も教えながら、将来の進路への気付きを与えるものでなければなりません。授業の上手な先生は生徒指導も上手い先生です。教科指導力と生徒指導力を併せたものが授業力です。この授業力が向上しなければ、学力は向上しません。同じ学力水準と同じ目的を持った生徒が集まる受験進学校ならば、教科指導力を高めれば学力が上がるかもしれませんが、学力も志望も幅広い生徒が集う本校のような学校では、総合的な授業力が必要とされます。最近、熱意ある若手の教員がどんどん増えてきているので、教科指導力の向上を図るため、自分の授業をビデオに撮り、それを教育担当のベテラン教員に分析してもらい、フィードバックを受ける取り組みを始めています。生徒指導力については、各主任、教頭そして校長によるOJTを日々行っています。若い先生は、熱意先行で、経験が少ないため指導力が未熟なので、生徒や保護者とのコミュニケーションが上手くゆかない場合があります。ここは、正直少し大目に見て頂きたいところです。しかし、それに甘えることなく、生徒や保護者から見れば、ベテランだろうが若手だろうが、専任だろうが非常勤だろうが、担任や教科担当であることに何ら変わりがないのだという認識をしっかりと持って頂かなければなりません。

身嗜み指導の一件については、「君らの言うことは、半分は正しいが、半分は間違っている。」と言いました。身だしなみの注意は、当然ながら、分け隔てなくしています。しかし、時には、教員にも見過ごしはありますし、どうしても、指導回数の多い生徒に注意が向くのも事実です。しかし、明らかにわかって

いるのに注意をしていなかったとなると、これは怠慢であり、公平を欠くと言われても仕方がありません。私が見ていても、上靴の後ろを踏んだままの生徒やジュースを飲みながらの生徒と平気で話をしている教員を見かけるときがあります。身だしなみの乱れが明らかに目に入る状況にもかかわらず、注意しない教員もいます。見たくないものは見ないようにしているのではないかとさえ思います。そこで、彼女たちの話にも理があると判断し、「不公平感を持たせたのは先生たちにも落ち度がある。もう一度、私から先生方にはきちんと話をする。」と、約束しました。「一方、君たちも、自らの行為の非を悟り、反省し、態度を改め、その上で自分の意見を言うべきだったのではないか。自分のことを棚に上げて注意の不当さを声高に叫ぶから、余計に聞き入れてもらえなかったのではないか。」と生徒に話しました。「身だしなみや態度が悪いからと言って、君の人格まで否定はしない。私は君の良さを少しは理解しており、そのことは君も分かってくれているのではないか。しかし、人は見た目で第一印象が決まる。身だしなみや態度をきちんとしないと、君の良さを分かってくれる人が増えないのは残念ではないか。」とも言いました。しかし、残念ながら、その場では納得は得られませんでした。後で教頭に聞くと、「半分はわかった」と言っていたそうです。今まで指導に携わった教員たちへの不信の念は拭い去ることはできなかったようで、今更ながら、丁寧な指導の重要性を認識しました。丁寧な指導とは、優しくすることではなく、道理をしっかりと教えるということです。道理を教えるには手間暇がかかり、それを省くと今回のような不満が溜まります。相手の立場に立って、相手の分かる言葉で話さなければ、コミュニケーションは成り立たないとは、このことだと思います。

6年間の学校改革は一定の成果を上げました。しかし、未だに、不安定であり、私はいつも、アリの一穴から堤が壊れる危機感を持っています。同じ危機感を全ての教員にも共有してほしいものです。PDCAサイクルが十分には機能していません。その理由を考えると、ドラッカーの言葉に行き当たります。『理想的な組織とは、会議なしで動く組織である』何も決めない無駄な会議が多すぎます。『人の気持ちを気にしなければならない状況は、最悪の人間関係である』主任クラスは遠慮せずに言うべきことは言い、指示すべきことは指示しなければなりません。同僚に気を使っているうちに生徒が置き去りになります。『組織の中の人間や組織単位の関心を、努力ではなく成果に向けさせなければならない』、「いってます」、「やってます」で仕事をした気になっていても、「額に汗して成果なし」では意味がありません。目標と手段を取り違えてはなりません。『仕事のためではなく成果のために働き、贅肉ではなく力をつけ、過去ではなく未来のために働く能力と意欲を生み出さなければならない』「成果」とは何か？　各々の生徒に関し、学力でもマナーでも教養でも自立心でも、入学時より高めて卒業させることです。そして、いかに生きるかという志を立たせることに尽きると思います。当たり前のことが出来ない子供が増えています。当たり前のことをできるようにするには、教師として当たり前のことを誰にもできないほど日々繰り返し、一貫性をもった指導をして行かねばならないのだと思います。

216
2013/10/2

若手育成に寄せて

若手教員にアドバイスをする時、例に出す私の経験談があります。それは、私が総合商社で働いていた1980年代後半の話です。当時私は25～26歳だったと思います。ある日、課長から次のような指示を受けました。「今、アメリカの高級百貨店の資材部長が東京に来ているらしい。日本の三越百貨店と同じような紙製の買い物袋を作りたいらしいので、うちの課の取引先の製袋メーカーに連れてゆき商談させたいので、明日までにその資材部長を探して連れてきてくれないか。」そのころは、日本では三越などの高級百貨店の紙袋を持って歩くだけでステータスを感じるような雰囲気があり、アメリカのその百貨店もそれを真似したいと考えていたのです。私は課長に「その方はどこにおられるのですか。」と尋ねたところ、「いやぁ、それが、どこにいるのかわからないんだ。ただ、娘さんがK製鉄に勤めていることは分かっているんだけど。」とのことでした。わかっているのは、資材部長の名前と御嬢さんの勤め先のみ。私は鉄鋼部に連絡し、大手製鉄メーカーのK社に事情を話して御嬢さんにコンタクトさせてもらえないか頼んでくれるようお願いしました。間もなく、鉄鋼部から連絡があり、今日、本人は休みを取っているとのことで、住所と電話番号を教えて頂きました。家に電話しても出ません。当時は携帯電話がない時代ですからそれ以上連絡の取り様がありません。しかし、諦めずにとにかく住居のアパートを尋ねてゆきました。1時間ほどアパートの前で待っていました。日が暮れたころに、数人の若者がやってきたので、もしやと思い話しかけると、彼女の友人でした。事情を話すと、彼女はお父さんと会うと言っていたことと、お父さんは確か新宿のホテルに泊まっていると彼女が言っていたということを聴きだせました。アメリカの高級百貨店の資材部長ですから、泊まるのはそれなりのホテルと判断し、新宿の有名ホテルを片っ端にあたると、3軒目でヒットし、無事、資材部長を捕まえてアポイントを取り、翌日、連れてくることが出来ました。「良く見つけてきたな。」と、その時ばかりは課長に褒められました。課長もダメもとで頼んだのかもしれませんが、成果を出せて嬉しかったことを今でも覚えています。とにかく、ミッションを果たすために駆けずり回った一日でした。ミッションを果たすためには、考えられることを全てやってみることが大事だという教訓をこの一件から得ることが出来ました。若手には、指示待ちではなく、与えられた条件下でミッションを果たすために、頭を使って考えられる手はすべて尽くすという癖を身に付けてほしいと思っています。

このアメリカの高級百貨店、名前をノード

ストロームと言います。その当時は知らなかったのですが、数年後、『ノードストローム・ウェイ～絶対にノーと言わない百貨店』という本が出ました。それを読み、顧客サービスの視点から経営を見直し、サービスを徹底するために顧客に接する機会の多い販売員の立場と意見を尊重し、売り場における全権を委譲し、顧客サービス第一の姿勢で行動する経営方針の百貨店であることを知りました。

ノードストローム従業員ハンドブックには次のように書かれているそうです。「Use good judgment in all situations. There will be no additional rules.」

217
2013/10/3

若手育成に寄せて 2

いつも私の好文木を読んでくださっている東京のある私学女子校の先生から、前回の好文木「若手育成に寄せて」について感想メールを頂戴しました。この先生は今までに複数の学校での勤務経験があるのですが、「任す」と言って、本当に最後まで任せてくださったのはただお一人の校長だけで、たとえ校長が、「自分が責任を持つから、精一杯考えて、君の好きなようにやってみなさい」と言ってくれても、いざやろうとすると、先輩教員などから、「それは本校の方針に合わない」とか「前例がない」とかでストップがかかり、梯子を外されたような挫折感を味わうこともしばしばだったそうです。

正直、本校でも似たようなケースはあります。たまたま、その担当者に私が近況を聞いたためにパイプの詰まりがわかり、急遽やり直しをさせたこともありました。その時私はその担当者に、「君が本当に生徒のためを思うなら、上司が動いてくれなければ、その上に、その上も動いてくれなかったら、私のところにどうしていいに来なかったのか。気の遣い方が間違っている。上司や同僚に気を遣うのではなく、生徒にこそ最大限の気遣いがいるのではないか。」と、たしなめたことがあります。

どんな組織でも、キーとなるのは中間管理職や中堅です。本来この層はトップと若手の良きパイプ役となり、若手育成の中核を担ってもらわねばならない層なのですが、時として、若手のやる気を削いでしまう障壁になっています。一つは、トップの考え方や真意を本当に理解できていない場合で、40～50代ともなれば、頑として自分のスタイルを変えようとしない人もいます。もうこれは論外でしょう。もう一つは、理解しているのだけれど、若手とのコミュニケーションにおいて説明が不十分な場合です。熱意ある若手の意見もすべてが適切だとは言えません。理想はそ

うだけれども現実を見れば、それをすぐに適用するのは反って混乱を招くだけで、急進的な手法より漸進主義で行った方が良い場合もあります。この辺りは事情に精通したベテランならではの判断なのですが、それを丁寧に説明し納得させることが必要なのです。それを怠ると、若手の良い芽を摘むことにしかなりません。教員の世界は、一人で幾つもの仕事を抱えている上、相手が生身の生徒ですから、教員の都合に合わせての業務遂行は難しいところがあります。そこで、つい忙しさにかまけて、生徒対応でも若手育成でも、言葉足らずになったり、話が中途半端になったりしてしまいます。旅行会社や銀行など一般企業の方々に話を伺っても、指示待ちで耐性のない若者とともに40～50代の中堅の弱さが話題に上りますが、若手育成には中堅の協力が不可欠なのです。本校では、改革の第一エンジンは中堅の主任クラスでした。今、第二エンジン（若手）に点火の時です。上述の先生のメール内容を真摯に受け止め、第二エンジン点火がスムースに行くよう、若手にも中堅にも細心の心配りをしたいと思います。

218
2013/10/9

ありがとう、演劇部

先週末の土曜日と日曜日の二日間にわたり、本校の文化祭「好文明華祭」が行われました。一日目を尼崎のアルカイックホールで行い、二日目を本校内で行うというパターンに移行して5回目の文化祭でした。アルカイックホールでは、第一部で、校内予選で勝ち抜いた6クラスがミュージカルやダンスなどを披露しました。第二部は、クラブのパフォーマンスで、今年も軽音楽、合唱、演劇、ダンス、吹奏楽の5つのクラブが日頃の練習の成果を発揮してくれました。今までは、第一部のクラスの演技のみ審査員が評価をし、最優秀賞と優秀賞を決めており、第二部のクラブはその対象にしていませんでした。しかし、今年は、演劇部に「校長特別賞」を出しました。

今年の演劇部は、「照明」というタイトルで、配役は5名、時間は15分でした。主人公の男性が、自分の生き方に迷い、周りの期待に副えない自分にどれほどの価値があるのだろうか悩み独白するのですが、お腹に新しい命を宿した妊婦や、本好きの少女、そして、一人の男と一人の紳士との対話を通して、自省と思索を深めてゆくという大変知的で哲学的な劇でした。主人公は言います。「今の僕に、一体どれだけの価値があるのだろう?——僕も昔は世間知らずで無垢な笑顔をしていたはずなのに——」妊婦は答えます。「貴方っていつも独りぼっちって顔して周りを見ようともしないのね。あきれた人。」また、主人公は言います。「よく分からない。だけど、一つ知ったことはある。人は大きくなるにつれ、自身の価値を作らなければいけないということ。」そして、「成長するにつれ、世間からの要望は強くなる。それに応えられない僕の価値は、どんどん無くなっていく。」それに答えて、男が言います。「お前に足りないのは価値とかそういうんじゃなくて、あと一歩を踏み込む根性だと思うぜ!」本好きの少女は言います。「だって、こんなに薄い紙の中に、楽しいと悲しいと嬉しいとびっくりと——とにかくたっくさん詰まってるんだよ!?」そ

して、紳士は言います。「いいかい坊や。〝考える〟は偉大だぞ。君は毎日考えているはずだ。」「君は色んなことを知っている。だからこそ自分が分からなくて困っている。自分の考えは、果たして本当に自分の考えなんだろうか？自分の考えを持たぬ自分が出した答えは本当にあっているのか？そして結局何もできず、自分が弱く無価値だからだと受け入れてしまう。今の君は、進歩することを止めてしまっているように見える。」「変化を恐れるな。変化は君を大きくさせる。」そして、最後に、紳士が言います。「さぁ、呼んでいるよ。夢は覚める。君の目で確かめるんだ。目を開けた時、君が感じた事こそが、君が考え、悩み、苦しんだ価値についての答えだ。さぁ、時間だ――」やがて夢から覚めた主人公は生まれたばかりの自分の子供を抱きかかえます。

世の中には、就活で悩む若者、リストラに苦しむ中高年と、世代を超えて自分の価値に疑問を感じずにはおられないシーンが多数見受けられます。「這えば立て、立てば歩めの親心」が、子供には負担に感じることもあるでしょう。1997年神戸で起きた小学生殺傷事件の犯人、酒鬼薔薇少年が提示した「透明な存在」について、上田紀行氏はその著書『生きる意味』のなかで、次のように解釈しています。「〝透明な存在〟の〝透明〟とは、他者から受け入れられるために〝自己透明化〟していった人間の〝透明さ〟ではないか。〝透明な存在〟は、自分自身をかけがえのない存在だと感じることが出来ないことであり、〝どこにでもいそうな私〟を生きる若者は、自分自身を愛し、誇りに思うという自尊心を持てない者だ。」知らず知らずのうちにLINEやTwitterの虜にされ、

他者の目を恐れながら生きている若者も増えています。そして、時に内に籠り、時に攻撃的になるという喜悲劇を演じています。　今回の演劇部の劇は、現代に生きる人間の心の葛藤を見事に表現するとともに、その先に自分サイズの未来を拓く一条の光を見出す前向きさが、見終わった後に深い安堵感をもたらしてくれました。舞台には、数か所に本が積まれ、椅子が置かれているだけでしたが、そのシンプルさがこの舞台のコンテンツを際立たせていました。タイトルの「照明」、深い意味はなく決まったと聞きましたが、私には、4人との対話が自分の心に光を当てる「照明」の役割を果たし、それにより、人間の「証明」を試みたと考えられます。

この劇が始まって暫らくは観客席の生徒たちのおしゃべりが聞こえておりました。ところが、そのおしゃべりが直ぐに止み、劇が終わるまでシーンと静まり返っていたのです。残念なことですが、ここ2年程、集会や観劇など静かにすべき時に、静かにできない生徒が多く、私の話の途中でも、小さなおしゃべりが聞こえ不快な思いをすることが多くなっています。「静かにしなさい」と注意して止

まったと思ったらまたしゃべるということが多く、今年のアルカイックでも、パフォーマンスの最中の私語が気になっていました。また、出演者を応援するために合の手を入れるのは結構なのですが、それにもタイミングがあります。のべつ幕無しに大きな声で声援を送るのは、演技の邪魔になり、他の観客の迷惑になるということがわかっていないようです。このような少々情けない状態であった１０００人近くの観客席を黙らせたのですから、この舞台の素晴らしさ、お分かり頂けると思います。　そして、この舞台の脚本と演出を、一人の3年生のマンガアニメーションコースの生徒がすべて行ったと知り、感激が倍増しました。主人公を始め5人の役者もそれぞれ実に味のある良い演技でした。15分の演技を見ながら、私も思わず引き込まれ、自分自身を顧みていましたが、多くの生徒たちも大なり小なり、ふと我を振り返ったのではないでしょうか?その振り返りの連続が静寂をもたらしたのだと思います。正に、言葉の力と演技力を発揮した、生徒の生徒による生徒のための演劇であったと思うのです。好文の希望をここに見た気が致しました。

219
2013/10/28

金木犀の香り

台風27号と28号が接近しつつある今朝、傘をさして玄関を出ると、秋冷の雨に仄かな香りが。傘を少し上げて見ると、庭の金木犀が橙色の花をつけていました。私はいつも金木犀の花の香りに、何故か何か懐かしいような切ないような気持になるのです。

昨晩は、ほぼ5年ぶりに懐かしい友人に会いました。東京から出張で来た彼とは、東京の予備校時代からの付き合いで、かれこれ35～36年になります。彼も私も同じ2浪で大学に入りました。彼はリース会社を振り出しに名だたる外資系金融機関を渡り歩き、金融法人部長や営業統括部長を務め、今回請われて9度目の転職で大手会計事務所に移りました。ホテルで夕食をともにしながら、近況報告や予備校時代や就職活動期の思い出話に花が咲きました。二人とも、浪人時代も就職時も勉強も努力も人一倍やったとお互い自負し合っていますが、思い返すも、その当時、悲壮感はなく、希望を持って歩んでいました。センター試験どころか共通一次の前の世代ですから、国公立も私立も大学はみな独自試験でしたし、公募推薦やＡＯ入試もほとんどなく、入試は各大学各学部一回きりでした。就活は、大学4年生の10月1日が正式な解禁日、夏休み頃から先輩訪問を始めていました。パソコンもインターネットもなく一人で何十社も受けることなどできませんでした。ＳＰＩテストなどの基礎学力試験

もTOEICもなく、面接のみの選抜。小学校や中学校で職業体験などしたことはなく、英語は中学に入って文法をしっかり学びました。総合商社に入りましたが、外国人との交渉はぶっつけ本番。悠長な時代でした。30年後の現在、学力低下解消とグローバル人材育成を掲げて、小学校での英語授業の必修化、センター試験廃止と達成度テスト（仮称）導入、職業体験、キャリア教育、インターンシップで即戦力の人材要求などなど、次から次へと「勉強せよ」、「早く大人になれ」の大号令。消化不良と落ちこぼれ量産を危惧します。教育とは学校も社会ももっと余裕をもって、もっと広くもっと深くもっとファジーに、ハートを磨くものでは？

「いかに生きるかという志さえ立てさせることができれば、人生そのものが学問に変わり、あとは生徒が勝手に学んでくれる」（『覚悟の磨き方～超訳　吉田松陰～』から）

翌日、同窓会に静岡からご参加くださった本校元教員の竹内雅子先生が坂根会長とご一緒に、本校にお越しくださいました。約40年前に本校で英語を教えておられました。校内をご案内させていただきましたが、特に冬芝が青々と茂るグランドと新校舎に大変感激されておられました。授業風景も廊下からご覧いただきました。特進コースの生徒たちの熱心な授業態度に感心されるとともに、ざわついたクラスには、「教科担当の授業力によりますね。」と、さすがは元教員らしい的確なコメントを頂きました。校内見学の後、校長室でお昼をご一緒しながらお話を伺いました。坂根会長も、ご卒業後、同時期に国語の教員として本校で教壇に立っておられたのですが、当時、商業科の女子校であった本校では、勉強が出来ない生徒はいたものの、授業中に寝るような生徒はいなかったとおっしゃっていました。たしかに、私が高校の時も、そうでした。授業がわからないからと言って、机にうつ伏せて寝るという大胆な行動に出る生徒はいませんでした。けじめが無くなったというか、我慢が出来なくなったというか。いっそう、真面目に静かに勉強したいと思う生徒と、そう思わない生徒に分けたクラス編成にしたらどうかとの話も出ました。実は、私も最近、それも一案かと思い始めています。後者については、じっくり時間をかけて、学ぶ姿勢を教え直してゆくべきかと。

校内見学を終えて帰路に就かれるお二人の後姿を校門にてお見送りしながら、「少子化で学校経営が厳しい昨今、共学化する学校もある中、改革を進め、生徒数も増えてきていることは大変うれしく思います。卒業した学校が無くなるほど寂しいことはありません。今後もどうか女子校として益々発展させてくださることを望んでいます。」との総会時の会長のご挨拶を思い出していました。卒業生にとって、「こころのふるさと」となる学園であり続けなければならないと、覚悟を新たに致した次第です。

220
2013/10/29

同窓会の思いを胸に

27日の日曜日、平成25年度の同窓会「白梅会」総会が開催されました。坂根会長がご挨拶の中で、本校の教育方針やキャッチフレーズ、また本年度当初の生徒総数などご紹介くださいました。ここ数年は、同窓会のみ

なさんが、体育祭や文化祭に参加してくださったり、ご寄贈下さったお雛様を季節が来れば本館ホールにお出し下さったり等、学校のために何かとご尽力いただいており大変感謝いたしております。準備のために学校で役員会を開催されるので、お目にかかりお話をさせて頂く機会も多く、学校改革の推移をつぶさにご覧いただいており、教育方針にも深いご理解をいただいておりますことが会長のご挨拶から知ることができ大変嬉しく存じました。出席者の方々から、感謝と激励のお言葉を沢山頂戴し、本当にありがたく思いました。

翌日、同窓会に静岡からご参加くださった本校元教員の竹内雅子先生が坂根会長とご一緒に、本校にお越しくださいました。約40年前に本校で英語を教えておられました。校内をご案内させていただきましたが、特に冬芝が青々と茂るグランドと新校舎に大変感激されておられました。授業風景も廊下からご覧いただきました。特進コースの生徒たちの熱心な授業態度に感心されるとともに、ざわついたクラスには、「教科担当の授業力によりますね。」と、さすがは元教員らしい的確なコメントを頂きました。校内見学の後、校長室でお昼をご一緒しながらお話を伺いました。坂根会長も、ご卒業後、同時期に国語の教員として本校で教壇に立っておられたのですが、当時、商業科の女子校であった本校では、勉強が出来ない生徒はいたものの、授業中に寝るような生徒はいなかったとおっしゃっていました。たしかに、私が高校の時も、そうでした。授業がわからないからと言って、机にうつ伏せて寝るという大胆な行動に出る生徒はいませんでした。けじめが無くなったというか、我慢が出来なくなったというか。いっそう、真面目に静かに勉強したいと思う生徒と、そう思わない生徒に分けたクラス編成にしたらどうかとの話も出ました。実は、私も最近、それも一案かと思い始めています。後者については、じっくり時間をかけて、学ぶ姿勢を教え直してゆくべきかと。

校内見学を終えて帰路に就かれるお二人の後姿を校門にてお見送りしながら、「少子化で学校経営が厳しい昨今、共学化する学校もある中、改革を進め、生徒数も増えてきていることは大変うれしく思います。卒業した学校が無くなるほど寂しいことはありません。今後もどうか女子校として益々発展させてくださることを望んでいます。」との総会時の会長のご挨拶を思い出していました。卒業生にとって、「こころのふるさと」となる学園であり続けなければならないと、覚悟を新たに致した次第です。

221
2013/10/31

決して昔に戻さない

先日、塾訪問の帰り道、ある私立高校の下

校時間に遭遇しました。女子はスカート丈が極端に短いか逆にファスナーを外して腰で穿いているかしており、ブラウスも第2ボタンから第3ボタンまで開けて、茶髪に化粧の子が大半でした。耳にピアスの男子もいましたが、女子の凄さが目に付きました。まともに制服を着こなしている生徒を探すのに苦労するような状態でした。凄まじいという言葉がぴったりの下校風景でした。本校に帰り着き、制服を普通に着こなして、「さよなら」と挨拶をして帰って行く生徒たちに出会って、ホッといたしました。

本校も、6年前は服装が乱れ化粧をしている生徒が結構いましたが、教員が一致団結し、生徒指導に励んだ結果、1年で状況を改善することが出来ました。その時期に、校名と制服の変更がうまく重なり、新生、好文学園がスタートし、更に身だしなみの改善に拍車がかかりました。大阪福島女子時代も、商業科はなやかなりし頃は、それなりの評価を頂いていた本校でしたが、平成7年、阪神淡路大地震により、時の理事長を亡くしてから、舵を失った船のごとく、少子化の波に翻弄され、生徒指導にも教科指導にも十分な組織力を発揮することが出来ず、生徒確保に汲々とする時代が続きました。平成19年、新体制が発足し、明確な教育方針を掲げ、教職員一丸となった改革がスタートしました。不幸な時代のレジームからの脱却を目指した改革も軌道に乗り、「もはや福女ではない」と宣言できるところまでたどり着いたのも、教員の努力の結果であると思います。お蔭で、近隣からの評価も高まり、生徒たちも自信を持つようになりました。

先日、中学生の家庭教師をされている先生が本校にお越しになりました。担当している生徒が中学校から好文を勧められているが、かつての福島女子であると聞き、心配になって見に来られたのです。不幸な時代の悪いイメージがなかなか抜けきらないのは誠に残念でなりません。担当者が、校内を隅々までご案内し、生徒たちの素の姿もご覧いただいた後、校長室にお越し頂いたのですが、開口一番、「いやあ、変わりましたね。素晴らしい学校になりましたね。ほんの数時間前までの懸念が払拭されました。百聞は一見に如かずですな。」とおっしゃいました。特進の授業や生徒たちの挨拶を褒めてくださり、明るい学校の雰囲気に満足していただけました。「今日、先生が見られたのは良い部分ばかりで、中にはまだまだ褒められたものではない部分もあるのです。」と申し上げたのですが、「それは分かっています。でも、よくここまでもってこられましたね。この学校は伸びると思います。」と激励してくださいました。

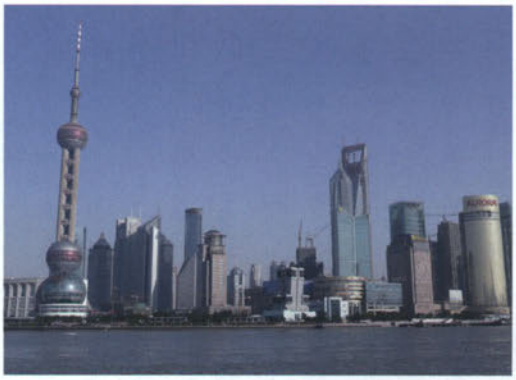
毎年新しい生徒が入ってきますので、指導を要する生徒も当然ながらいますが、その生徒たちは明らかに少数派となっています。ですから、生徒全体の身だしなみは良いレベルで保たれています。「服装の乱れは、心の乱れ」であり、生徒指導の基本は挨拶と身だしなみに尽きると、私は考えています。これが

出来て、初めて次の段階に進めます。上述のとある学校の下校風景を眺めながら、「もう、昔には戻りたくないな。もう一回、この状態から指導を始めるパワーはないよ。」と、同伴の生徒指導担当教頭に話すと、彼も大きく頷きました。気を緩めるとすぐに元に戻るという危機感を持って生徒指導に当たることが肝要だと心得ています。

222
2013/11/8

上海紀行

11月1日、2日と一泊二日で中国は上海に行ってまいりました。目的は、9月に理事長が本校を訪問してくださった現地の高校に伺うことでした。信男教育学園というこの高校は、歴史以外は日本の教科書を使い日本語で授業をしており、高校3年から日本の高校に留学し、日本の大学への進学を目指す中国では珍しい私立の学校です。世界の潮流は欧米の大学への留学であり、東大を頂点とする日本勢は乗り遅れたグローバル化に躍起となっているのが現状です。そのような中、何故、日本の大学を目指すのか、大いに疑問を感じ魯林理事長に伺いましたところ、「中国の学生は勉強は一生懸命にするが、道徳心や公共心がない。日本人を見習わせたいのです。」との答えが返ってまいりました。毎年夏、弓道の日中交流で北京師範大学珠海分校と聯合国際学院の学生を引率してこられる内藤敬先生も同じことをおっしゃいます。



中国は基本一人っ子政策をとっており、子供の教育を何よりも大切にしていると伺いました。親は自分たちのことは二の次にしてとにかく子供の教育にお金を掛けるそうです。子供に高い教育を付けることが経済的な豊かさをもたらし、幸せにつながるという考え方が健在です。また、昨今は大学の数も増え、進学率も上がってきているので、大卒の就職も厳しくなっており、北京大学や精華大学などの一流大学への競争が激化しているようです。大学進学率の向上と大学の二極化は世界的な傾向と言えます。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉があります。中国は、大連、北京、上海、深センなど沿岸諸都市は一見すると東京と変わりませんが、全国的には格差が大きく、とても衣食足りた状態とは言えません。北京や上海でも近代的な高層ビルの裏には窓から窓に棹を通して洗濯物を干しているような低所得者層の住居地域があり、格差は日本の比ではありません。お金持ちになっても3代続いて初めて品格が備わると言いますが、礼節を問う前に、お金を稼ぐことに忙しいのが今の中国かも知れません。

そういう激烈な競争社会から見れば、成熟

した日本は、落ち着いていてガツガツしていないが故に、マナーの良い社会に映るのだと思います。しかし、日本は貧しい時代にも礼節を重んじる美風がありました。日本人として誇りに思うところです。しかしながら、この美風にも陰りが見え始めたと感じます。家庭における教育力の低下と低年齢層にまで浸透したIT化の影響は、グローバル化の負の側面を際立たせ、道徳心や公共マナーを侵食しているのではないでしょうか。

2400万都市上海は、貧富の格差を飲み込みながら雪だるま式に経済発展の道をひたすら驀進中の感があります。物凄い活力を感じるものの、この国に住むのはしんどいなと思いました。

223
2013/11/12

今蘇る上司の言葉

最近、若い時、上司から言われた言葉をよく思い出します。「額に汗して成果なし」、この言葉の持つ意味がリアリティをもって迫ってくるのを感じます。言われた当時は、「一生懸命やっているのに、出来ないからといって怒られてもなあ。」と不満に思ったものです。しかし、どんな仕事にも達成すべき明確な目標があり、それを成し遂げなければ本当に仕事をしたことにはなりません。ドラッカーの言う「仕事のためではなく成果のために働く」とはそういうことです。最近、授業中、うるさくて困っている生徒たちからの陳情を受けて、非常勤も含め教科担当を呼んで話をしたことは既に述べた通りですが、その時、異口同音に「注意はしているんですが聞かないんです」との答えが返ってきました。経験の浅い若手の非常勤講師が言うならまだしも、ベテランの専任教諭の口からも同じ言い訳が出た時には、情けない気持ちになりました。「うるさくて授業に専念できない生徒のつらい気持ちが分からないのだろうか？調子に乗っておしゃべりしている生徒の心を変えてやろうという熱意はないのだろうか？プロフェッショナルとしてのプライドは無いのだろうか？専任として恥ずかしくないのだろうか？」と考えれば考えるほどほど腹立ちさえ覚えてまいりました。

成果主義が導入されたというものの、まだまだアメリカ流の実力主義に完全移行していない日本企業なら、年齢とともに役職が上がり仕事内容も高度になり責任も重くなるのが一般的ですから、年功序列賃金にも納得もゆきます。しかし、教師の仕事は、会社員と違い、新任もベテランも全く同じ内容です。担当教科を教え、担任としてクラス経営をし、クラブ指導をし、教務や生徒指導などの校務分掌に属します。ですから、経験を重ねるほ

どにすべてのスキルが高まり、後輩の指導ができるようになるのが順当なのですが、時には、給料の安い若手の方が良い仕事をしている場合があります。こうなると、野球選手と同じように、働きに応じた年俸制に移行したほうが公平ではないかとさえ思います。

1980年代、私は伊藤忠商事で働いていました。所属していた課は儲かっていませんでした。天下の総合商社なら、何十億、何百億の商売をしているので利益も大きいと思われるかもしれませんが、扱い商品により違います。私の課が扱っていた紙製品では、1キロ当たり何銭というコミッションの世界でした。儲からない課の仕事は結構厳しいものがあります。課長には、「儲からない時に仕事で鍛えられれば、君の将来のためになる」と励ましの言葉をかけて頂きながら、厳しく指導して頂きました。商社退社後、中小企業の経営に携わりましたが、当初、あまりの生ぬるさにイライラしたのを覚えています。時あたかもバブル全盛期でした。取引先の銀行の支店長が「今どきの若手行員は、土地の現地調査もせずに、地図だけを添付して、担保価値があるから融資を願いますと、稟議書を上げてくる」と、嘆いておられたのを思い出します。バブルに浮かれて、何をしても儲かる時代では、仕事の基本が疎かになります。苦しい時代にこそ、基本が身につくものです。

教員にも全く同じことが言えます。20年、30年前は本校でも毎年500人～600人の生徒が入学していましたし、どこの私学もボーナスは6か月という時代でした。そんな時代でも遅くまで生徒指導や教科指導に熱心に取り組む教師はいたに違いありません。そうでなければ、学校は疾うの昔に無くなっていたでしょうから。しかし、用事がなければ4時半になれば帰ってもいい状態で、楽をしようと思えばいくらでもできた時代でした。このような時代に、管理職や先輩教員から、きちんとした指導を受けずに教員生活を過ごしてくると、40歳や50歳になっても、成果のために働く（生徒の成長に寄与する）という意識が出来ていませんし、その力（生徒指導力、教科指導力）も身についていません。銀行なら、安易な審査で貸し出しをどんどん増やして言った結果、突然の金融引き締めで、不良債権の山が残り、自業自得といえますが、学校は、自業自得ではすみません。生徒の将来に影響を与えるからです。教員たちの言い訳を聞きながら、その本人たちもさることながら、必要な教育や指導をしなかった当時の管理職こそ大いに責任を問われるべきだとも思いました。

「良薬は口に苦し」とはよく言ったものです。私は、商社時代の上司に本当に感謝しています。ですから、今、本校で一生懸命に働いている若手教員には、この思いをしっかりと伝えてゆきたいと思っています。若い時には小さな失敗を沢山して、それから学んでゆけばよいのです。多少、生徒や保護者ともめることがあっても、私や教頭がバックネットの役割を果たします。安心して、思いっきり誠心誠意、生徒に関わってほしいのです。生徒のために立ち向かって負った向う傷は問いません。どんな仕事も熱意や情熱がなければ結果は出ないものですが、とりわけ教師と言う仕事は、熱意や情熱の有り無しが生徒にも保護者にも良くわかるのです。熱意や情熱がない教師が教壇に立てば、生徒を伸ばすどころか、スポイルし伸びる芽を摘んでしまうことになります。「生徒のために」という熱意や情熱を失った教師は、教壇を去るべきです。

それが、本当に生徒のためになるのですから。

224
2013/11/13

入試における人物重視論から考える

日曜の朝、たまたまスイッチを入れたテレビのニュース番組「報道２００１」で、下村文部科学大臣と橋下大阪市長が教育問題を論じておられるのを見ました。橋下市長は、センター試験を達成度テスト（仮称）に替えて、二次試験での小論文や面接を重視するという大学入試の改変を主導する下村大臣のリーダーシップを称賛する一方で、大阪府の高校入試を例に挙げて教育委員会をバッサリと切り捨てられました。橋下市長は、公立中学から各高校に提出される個人報告書を示して、各教科の評定が相対評価（各評価の割合が決められている）は大阪だけだと批判されるとともに、「総合所見欄が非常に小さく、この中で人物評価はできない。Ａ４で２枚から４枚ぐらい必要だ。人物重視の入試に変えるべきだ。」という内容の発言をされました。

大学の国際化やグローバル人材の育成と言った様々な要因が相まって、昨今、アメリカの大学入試システムへの関心が高まっています。「アメリカの大学入試はペーパー試験だけではなく人物重視だ」という見方には、「日本の大学は入るのは難しいが出るのは簡単。一方、アメリカの大学は入るのは簡単だが出るのは難しい。」という従来からの画一的なイメージ同様、少し誤解があるように思います。アメリカの入試では、教科の成績より人間性で判断するのだと思ったら、それは間違いで、ペーパー試験の成績に付けて加えて、様々な課外活動や経験から、論理的思考力や批判力、判断力、創造力、独創性などを見ようというものであり、ペーパー試験でもそれなりの高いレベルの得点をとることが前提になっています。所謂ＡＯ（admission office）入試です。日本のセンター試験に似たＳＡＴ試験で一定以上の成績を修めた上に、出願者の人物像を学校側が求める学生像と照らし合わせて合否が決まります。大学によって求める学生像は異なり、評価システムもかなり精緻なものとなっているそうです。日本ではＡＯ入試と銘打って、学生の早期確保に使う大学が多く、簡単な志望動機を書いたエッセイを出せば合格できるレベルのものだという認識がありますが、これは本来のＡＯの趣旨とはかけ離れています。昨年、特進生徒からの希望で、同志社大学のＡＯ入試の内容を点検したことがありますが、流石は同志社だけのことはあり、ハードルは相当高く、文化芸術スポーツや社会に関心を持って様々な活動に従事したり、あらゆるジャンルの本を読んだりしたうえで、そこから学んだことをレポートしなければならず、日頃から広く社会に関心を持ちアグレッシブな生活

習慣が身についていないとクリアーできない内容でした。　多くの生徒にとっては3教科の一般入試に照準を合わせたほうが、合格の可能性は高いと思いました。

高校入試の段階で、総合所見における人物評価をしようと思えば、絶対的多数の中学生の現状に鑑みれば、生徒会活動やクラブ活動での戦歴やボランティア活動などが中心項目にならざるを得ないと思います。それはそれで評価されており、就活時に体育会系の学生を選好するのと同じ扱いになっていると思います。高校入試段階で、人物評価重視を言いすぎると、生徒会やクラブ活動に従事しなければ、その評価が上がらないという強迫観念

が生徒や保護者に生じる可能性があります。生徒会やクラブ活動に従事していなくとも、真面目で優秀な生徒は沢山います。また、一人の担任が35人から40人のクラス生徒全員の人物評価にA4で2枚から4枚もの紙面を費やすことが現実的であるのかどうか、書ける内容やその評価の客観性や妥当性も含めて、甚だ疑問に思います。「人物重視」という言葉は、確かに耳触りの良いものですが、そもそも、15歳の中学生の「人物」を高校入試の合否に使うことができるほどに適切に評価できるものでしょうか。結局は、極端な例を除けば、学校間格差による相対評価、絶対評価の問題は別途解決を図るとして、やはり、一定の教科試験成績での判定がより公正で納得性が高いと思います。

欧米の学校は、学力に加えて、リーダーシップや独創性などを高く評価する傾向が強く、日本、韓国、中国など東アジアの学校は学力重視の傾向があるように思います。欧米は階級社会の中でエリートが社会を引っ張って行くという構図が長く続きました。支配層にはノーブレス・オブリージ（noblesse oblige）という言葉で表される、高い地位に伴う道徳的・精神的義務を自覚し、スポーツや芸術を通じて教養に磨きをかけ、ボランティアで社会に還元するという文化が育ったと思います。一方、アジアでは欧米ほど階級が固定せず、学問を身に付ければ出世できる素地がありました。中国の科挙制度はその代表でしょう。日本の戦前の高等文官試験もその流れを受けていたと言われます。また、欧米と一口に言っても、アメリカはヨーロッパの伝統社会と異なり、開拓精神にあふれ、競争的でアグレッシブな社会です。以前、あるスイス人に、「イギリスの大学でディスカッションを学んでから、アメリカの大学院でディベートを学べばいいですよ。」と言われたことがあります。このような文化の違いが、各々の大学入試にも影響を与えていると思います。従って、教育制度だけをアメリカ式に変えても、社会の仕組みが変わらず、思考パターンも変わらなければ、機能不全に陥るだけだと思います。

話しは変わりますが、『ローマ人の物語』などの著書がある作家の塩野七生さんが、グローバル化の現代での英語の重要性を十二分に認識されたうえで、あえて、行き過ぎた英

語熱に溜飲の下がるコメントを書いておられます。楽天やユニクロが社内の日本人同士の会議でも英語を使うと決めたことに対して、「自然に反する」無理を強いる決定だと。塩野さんいわく、「人間の能力の中でもあらゆる仕事にとって最も重要と思う「想像力」が、外国語と母国語とでは全く違う。想像力を自由に羽ばたかせたいと思えば、母国語にまさるものはない。なぜならば外国語は、所詮はよそ行きの言葉で、それゆえに人間性の自然に、多少なりとも反するものだからである。」

昨今様々な教育改革論議を考える上で、参考になるコメントではないかと思います。

225
2013/11/29

最近思うこと

来年度入試に向けた学校見学会・オープンスクールがいよいよ佳境に入ってきました。教育方針の説明やコース体験、クラブ見学など学校の実情を良く見てもらうのが目的ですが、中には、ミニ文化祭のような楽しい企画を盛り込んだプログラムで開催されている学校もあります。参加者を増やすために本校もやってみようかと考えたこともありましたが、学校の日常を見てもらった方が良いとの判断でやめました。

それでも、学校案内やパンフレットも含めて見学会はやはり「よそ行き」になります。だから、私は見学会で本校の良い所だけではなく至らぬ点も正直にお話をし、本音でしゃべります。そして、必ず、私の教育についての信念をお話します。時に「不確実性の時代を生き抜く力」、時に「挫折力」という言葉を使いますが、「教育とは、学校で習ったすべてのことを忘れてしまった後に、自分の中に残るものをいう。」というアインシュタインの言葉を引用するときもあります。これはまさに私の実感であり、「そして、その力を社会が直面する諸問題の解決に役立たせるべく、自ら考え行動できる人間をつくりこと、それが教育の目的といえよう。」と続く彼の言葉は、実にストンと胸に落ちるのです。

指導力のない教師は、「教育の成果は一朝一夕には出ない」という言い訳をするものです。教育には基礎学力のように短期的に成果が測れるものと、人格形成という長期的なものとがあり、アインシュタインの言葉は、その後者についていわゆる人間力に関して述べているのです。子供たちの人間力あるいは人格形成に大きな影響を与えるのは、先ずは親であり家庭でしょうが、教師の果たす役割も大変大きいものがあります。ですから、画一的な金太郎あめのような教師ばかりを量産してはならないのです。桜ノ宮高校の体罰問題以降、多くの学校で教師が委縮していると聞いています。セクハラやパワハラに関しても、何か一つ大きな問題が起きると、十把一絡げの議論になり、ここぞとばかりに対策マニュ

アルが出来ます。そして、腰が引けた指導しかできなくなってしまいます。

大阪府・大阪市では、私立高校の授業料無償化等、「機会の平等」を謳うとともに、大阪市の学校選択制の開始、学力テストの学校別結果の公表や公設民営学校構想など、学校に競争原理の導入を進めています。私も永らく民間企業で働いていましたので、橋下市長や中原教育長のお考えもわかります。本校に来た当初は、私学とは言え危機感のないのんびりした学校文化が歯がゆく、人件費や経費には大ナタを振るいました。とはいえ、財務等の情報開示も出来ていなかったので現状認識が出来ていなかったわけで無理からぬところもありました。また、成果を出そうという意欲が感じられず、PDCAの廻っていない校務分掌の考え方も随分と変えてきたつもりです。

しかし、対象が生身の人間であり、まだまだ未熟な生徒たちです。寄り添い共感しつつ適切な指導をして行くには教師の人間的な幅と膨大な時間がかかります。理屈だけで通用する世界ではありません。義理・人情・浪花節の必要な分野です。ここが、企業の論理とはぴたっとは一致しないところです。ミクロ的には成果を求めたPDCAサイクルを廻すことが企業同様必要ですが、マクロ的にはファジーさが必要なところがあります。現場に立てば良くわかります。もし、現場に立っても分からないとしたら、その人には教師としての資質がないと言っても過言ではないと思います。そういう人がトップに立つと、「自分の思ったことが出来なかった。」とか「給料が安すぎる。」とかいって3か月でおやめになった民間校長さんのようなことになり、教師も生徒も迷惑を被ります。

「教育論を語らせれば、みんながいっぱしの評論家になれる」とはよくいわれることですが、誰でも語れるものほど難しいものはないのではありませんか。現場経験のない政治家、官僚、学者などが、教育改革の名のもとに打ち出す政策を見るにつけ、現地で悪戦苦闘している兵隊の状況を知らぬまま作戦を立てていた大本営が思い出されます。外部から見ると、どうしても悪い所に目が行き、非効率さやさぼりやダメ教師を念頭に置いて改革論議が始まりますが、一生懸命頑張っている多くの教師に思いを馳せた教育改革が望まれます。子供を育てるためには、多様なキャラクターの教師が活躍できるステージを用意することが大事だと思います。型にはまったサラリーマン教師ばかりでは、「学校で習ったことをすべて忘れた後に、自分の中に何も残らない」学校教育の空洞化を招いてしまうと思います。

226
2013/12/3

寄り添う気持ち

先日テレビで、11月13日に行われたJALのグランドスタッフによる「空港サービスのプロフェッショナルコンテスト」の様子を見ました。4500名の全国のグランドスタッフの中から予選を通過した国内38空港、47名のグランドスタッフが参加し、「アナウンス審査」と「カウンターチェック審査」を行い、接客態度の優劣を競うものです。おもてなしの心を極めた優秀者には、福岡空港の代表者が、準優秀者には長崎空港と羽田空港の代表

者がそれぞれ選ばれました。飛行機が台風で遅延した時の乗客の苦情や、機内持ち込みを制限しなければならない時の説明等、いかに気持ちよくお客様に納得していただくかがポイントです。優秀者は、「これからもより一層お客様の心に寄り添った対応を心掛けたい」と語っていました。

このニュースを見ながら、生徒指導も同じだなと思いました。もちろん、生徒はお客様ではありませんが、コミュニケーションを成り立たせるという意味では、相手の気持ちに寄り添うことが大切です。私は、これを「傾聴」と「共感」という言葉で説明しています。相手の悩みや苦情にしっかりと耳を傾けて聴き、その苦衷を察し、自分もその立場になったら同じように思うのではないかと共感することができれば、相手とのコミュニケーションはほぼ成立したと言っても良いと思います。生徒指導もコミュニケーションが成立して初めて効果を発揮します。

先日、ある生徒から担任の遅刻指導に納得がゆかないという話を聞いたので、概略事情を聞いたうえで担任と話をしました。生徒とのやり取りの中で、担任の思いと生徒の受け取り方にギャップがあったにもかかわらず、そのギャップの解決ではなく、問題そのもので生徒を叱ったため、話しがかみ合わず、双方が意固地になっていました。担任と話をしましたが、最初はなかなか納得してくれません。担任は、その生徒の遅刻を無くそうという思いが前面に出過ぎて、生徒が担任とのやり取りの中で納得ゆかずこだわっている点を見ようとはしていませんでした。私は、「彼女は、遅刻してはいけないことや遅刻するときは事前に連絡を入れるべきことは十分理解しているよ。問題はそこではなくて、――。」同じことを何度か説明した後で、「もし君が、「ああ、そういう意味に僕が言ったことを理解していたのか。それは違うんだよ。僕はこういう意味で言ったのだけど、言葉が足らなかったな。きみならわかると思った。」と話をすれば、きっとあの子なら「わかりました」となったはずじゃないかな。」「君は、僕が額に汗して成果なしはダメだといつも言っているものだから、遅刻させないという成果を出そうと、焦ったのじゃないか?」と言うと、彼はようやく「そうかもしれません」と納得してくれました。彼は大変熱心な教師なのですが、少し押しが弱いところがあり、それをいつも言われるので、今回は少し強く出たとも言っていました。「急がば廻れで、傾聴と共感の姿勢で臨めば、事の8割は成ると思うよ。」と最後に付け加えました。

227
2013/12/6

「型」と「形」

最近、生徒指導をしていて、「常識が通じない」と痛感することが多くなりました。「そ

れは、おかしいだろう」ということが、理解できないのです。多くの教員が同様の思いを持っています。と同時に、本筋から外れた問題で、教員に反論し自分を正当化しようとするケースが多々見られます。この部分で応酬し合っていると、的を外した指導になりがちです。教員が生徒の理屈に押し負けてしまい、本質を正しく指導できないで終わってしまいます。物事に対しての共通認識が出来なくなっています。

常識と言うのは社会や組織あるいはグループでの共通認識と言ったものであり、それは時代とともに変化しますので、絶対的に正しいとは言えないものです。例えば、ジーンズは今でもカジュアルウエアーには違いありませんが、以前に比べれば随分と着用を許容される場面が増えました。結婚式は仲人を立てないのが一般的になりました。私が中学校の頃は、公立中学の大半が、男子は丸坊主でしたが、今は丸坊主にしている生徒が少数派になりましたし、女子の髪型の許容範囲も広がりました。本校の校則も時代とともに変化しており、極めて常識的なものなのですが、TPOを弁えない食べ歩き、飲み歩きなどが街中で常態化しており、大人社会がよりルーズになってきているため、指導し難くなっています。以前は、電話をしようと思えば公衆電話を探さねばならなかったのに、今は手元にあるのですから、何時でも何処でも誰とでも連絡がとれます。科学技術の発展は社会を豊かにし人類の幸福に役立つとともに、考えが浅く自制心のない人間を堕落させ、反ってコミュニケーションを阻害する諸刃の剣です。大人も子供も知らず知らずのうちにこの罠にはまってしまっています。礼儀作法や教養を身に付けさせる必要性を感じます。

本校では数年前から小笠原流礼法を授業に取り入れております。その教科書で、礼法の基本について、小笠原流三十一世宗家、小笠原清忠先生は次のように述べておられます。

〝武道や礼法の基本は、「心」と「体」の両面を大切にすることです。どのような心情も形に表れますし、形はまた心に影響を与えます。「かたち」には、「形」と「型」があります。「形」は生きており、心が通っていることが大切です。「型」は心が通わない鋳型であり、「形」ではありません。鋳型のように「型」に当てはめるということは、あくまでも手段に過ぎません。「形」とは、現実のさまざまな現象から多くの人々が経験によって、最も正しいというものを選び出し、それを取り上げたものです。外に表れた「型」をただ単に模倣するのではなく、その「型」が生じた心のよりどころを理解してはじめて、「形」となります。〟

表に現れているものが「型」であり、その「型」が言わんとするところが「形」なのです。「型」は手段であり、時代とともに変化しますが、「形」は不変とも言えます。まだまだ未熟な高校生に、「型」を通じて「形」を教えることは必要な教育活動です。そして鋳型は時代により変わりましょうが、社会通念上、人権を侵害しない範囲での「型」の選択権は

学校にあります。事の本質を見つめてしっかりと指導をして行きたいと思います。

228
2013/12/10

民間人校長について

先日の「NHKかんさい熱視線」で、大阪の民間人校長問題が取り上げられていました。今年春に採用された11名のうち、セクハラ問題で1名が辞任、思ったことが出来ないと言って辞めた人が1名、セクハラやパワハラで注意を受けた人が4名と、どうも評判が芳しくありません。番組では、教育長や専門の大学教授そして民間人校長さん達へのインタビューを通じてなぜそうなったのかを検証していました。

番組の結論は、①応募者が多く決定までに日数的余裕がなかったため、小論文で足切をした後の面接が、1次で10分、2次で15分と少なく十分人物評価が出来なかったこと、②本人の希望や能力に合ったポジショニングが出来ていなかった、即ち適材適所の人事配置が出来なかったことに集約されていました。

もともと、民間人校長採用は、民間の優れた経営手腕を取り入れて、公立学校の教育水準の維持向上を図り全国でも低位にある大阪の学力を向上するための施策として出てきたものです。生存競争が激しい民間企業と親方日の丸の公立高校とでは、発想に大きく違いがあることは言を俟ちません。しかし、問題の本質はそこにだけあるのではなく、制度にもあるのではないかと私は思います。公立高校の校長の任期はだいたい3年ぐらいです。銀行の支店長ならいざ知らず、同じ自治体内とは言え、全く異なる状況の学校に赴任して、短期間で、新しい試みを実施し成果を上げるには無理があり、改革の意欲が出なくなったとしても仕方がないのではないでしょうか。また、伺いを立てるべきことが多い割には教育委員会が機動性を持っているとは言えないことも周知の事実です。この状況を変えずに、いかに優秀な民間人を校長として登用しても成果が上がるものでしょうか。むしろ、この制度を変えさえすれば、教育のプロである教員出身校長が長期ビジョンを掲げてもっと活躍できるのではないでしょうか。

校長にも組織のトップとしてもちろんマネジメント力は必要です。しかし、やはり教育に対する理念を持ち、生徒児童にとって、教員にとって、そして保護者にとっても安心感を与え頼れるリーダーであることが大切です。そのためには、現場を熟知し、生徒児童のためにというある種、奉仕の精神が不可欠です。企業が業績拡大を求め、自己実現や高収入を求める人材をヘッドハンティングするのとはわけが違います。民間企業に勤めていて校長になった私ですが、7年間校長職を務める中で、公立・私立を問わず、プライベー

トを犠牲にして生徒のために頑張っておられる沢山の校長先生を見てきた正直な感想です。餅は餅屋といいますが、本物のプロには敵わないものです。年季が違います。民間校長の斬新な経営スタイルに期待することも結構だと思いますが、民間だから良くて公立出身だから改革に不向きと考えるのは間違いだと思います。市長は、高校入試で中学生の人物評価を論じる前に、校長選抜にこそ、「その意気やよし」と言える人物を選べる工夫をされるべきだと思います。

229
2013/12/11

採用、再び成績重視へ

12月8日の日経新聞に「採用、再び成績重視」という見出しの記事が載っていました。三菱商事やJT（日本たばこ産業）などの就職人気大企業15社が、就職希望の学生に大学での成績表の提示をインターネットの専用サイトを通じて課すことを決めたとのことです。

ここ10年程は、民間企業では採用選抜段階での成績の提出はしないことが一般的だったので、大きな方針転換となります。大学の成績を選好材料にしなかった理由は、大学で学ぶことが企業で求める能力に直結していないことや、大学ごと学部ごとまたは履修科目ごとに難易度が異なり、成績評価の価値に差があることなどが挙げられます。

今回、三菱商事などが大学の成績に再び注目し始めたのは、成績評価サイトを運営するNPO法人DSSの存在が大きいようです。DSSは全国の有力大学の授業内容に詳しく、企業に対して学生の成績を客観的に判断する情報を提供できると考えられています。

私が就職活動をしていた頃は、成績表の提示が求められていました。商社や金融は優の数がいくつ以上あったほうがいいとかメーカーならこうだとかいろんな噂がありましたので、3年ごろから真面目に授業にも出てしっかりノートを取りテスト勉強もするようになりました。英語版の経済学の教科書を読む経済英書という授業があり、担当の先生が変わったこともあり、一番前の席に陣取って自ら手を挙げて訳していたことを思い出します。今考えると、全く現金なものでした。

経済評論家で楽天証券経済研究所客員研究員の山崎元氏は、「DIAMONDO online」の記事で、企業が大学の成績に関心を示しだしたのは、大学の教育内容に価値を見出したからではないだろうと述べています。多くの大学でAO入試や推薦で入学した学生が増え、基礎学力が不足している者もおり、従来のように大学名や学部名の信頼性が薄れている反面、推薦やAOで入学した学生の中にも十

分な能力の学生がおり、入学形態だけの差で除外するのはもったいないので、入学後の大学の成績を見ようということになったのではないかと考えています。

また、山崎氏は、今も昔も学生の基礎学力が大学時代に向上することはないのが現状であり、高校時代の国語・数学・英語の3教科の弱点改善ができることが、ビジネスパーソンへの近道だと述べています。そしてそのビジネスパーソンの能力とは、①問題処理能力と②対人関係能力の2つで大半が説明できると言います。長年の民間企業での勤務と校長としての職務経験から、私も山崎氏の意見に全く同感です。論理的思考力とコミュニケーション能力は国語力に大きく係りますし、数学的センスを持っていることはどんな仕事にも有利です。英語が必要なことはグローバル化が進む世界において言うまでもなく、情報の収集と発信に欠かせません。企業が学生選抜時に、出身大学だけではなく、出身高校も見るという話も聞きますが、その理由はこのあたりにあるのだろうと思います。　高校時代、3教科の基礎をしっかりと学んでおく必要があることは間違いなさそうです。

230
2013/12/12

OPEN DOOR & OPEN MIND

昨日で期末考査が終わり、今日から21日の終業式まで授業がなく生徒が登校しないので学校は至って静かです。教員は職員室で成績処理や保護者懇談の用意に追われています

今朝、沢山頂いたみかんを、一人では食べきれないので、みんなに分けようと学校にもってきて、教頭さんに配ってもらっていたら、一人の1年生の生徒がみかんを手にお礼を言いながら校長室に入ってきました。どうやら、学年主任からもらったようでした。校長室のドアはいつも職員室側に向かって開け放たれているので、職員室に来た生徒は無理なく自然に校長室に入れます。

「休みなのに、今日は何の用事?」と尋ねると、出すのを忘れていた進路希望調査書を担任にもってきたとのこと。「まあ、お座り」と声をかけると、会議テーブルの椅子に腰かけ、みかんを食べながら話し出しました。この生徒は朝いつも笑顔で挨拶してくれる元気な子です。友達のことやクラスのこと先生のことなど色々話してくれました。私が抱いている感想とほぼ同じでした。生徒はなかなか良く見ているものです。

小学校から中学校まで友達や先生とよく喧嘩し、そのたびに校長室に連れていかれて怒られていたそうです。「うちではまったくそんなことないな」というと、「大人になった」とのこと。そして「校長はみんな偉そうで威圧的やった」というので、「叱るのも校長の役目やからな」と言うと、「そやけど、私のこと何も知らんのに怒られたら腹立つわ」と。「そりゃそやな」と私。「でも、一度、正義心

を出したことがあったんよ」と言って、次のような話をしてくれました。

ある時、一人の男子生徒が、数人の運動部の男子に膝蹴りを食らわされて虐められているのを見て、いたたまれず助けようとしたそうです。しかし、屈強な運動部の男子達相手なので素手では危ないと思い、椅子で防御したところ、運悪くそれが一人の頭に当たりこぶが出来たのです。それでまた、校長室に連れていかれて怒られたのです。「その時、校長先生は怒っただけで、褒めてはくれなかったの?」と聞きましたら、「うん」との答え。「僕なら、「よくぞ虐めを見て見ぬ振りせず勇気を出して助けたな。偉い!」と褒めてから、「でもな、手段は間違っていたな。過剰防衛や」と言うけどな」と言いましたら、彼女はニッコリ。私も、中学時代、掃除中にクラスメートにひどい目に遭わされ、頭に来てそのまま帰宅したら、翌日、担任に叱責されたので悔しくて反論したことがあるという話をしました。なんだか、彼女と同じ気持ちになっていました。

「何でそんなことしたんや!」と叱るばかりで、「どうしたんや?」と聴いてくれないので、教師や学校に期待することを諦めていたそうです。そして、「私の知っている校長室は、いつもドアがピッタリ閉まっていて、怒られる時だけ行くところやったけど、ここは違う。いつもドアが開いている」と彼女は言いました。そして、1時間余り話をして「ありがとう」と言って帰って行きました。「ああ、またいつでもおいで」と声をかけて送り出しました。

231
2013/12/13

小嶺流3つの目線

元国見高校サッカー部監督として、無名だったチームを全国高校サッカー選手権大会で6度の優勝に導いた小嶺忠敏さん（現長崎総合科学大学教授・サッカー部総監督）が、教育雑誌のインタビュー記事『指導者は人間教育が出来なければいけない』のなかで、「3つの目線」を使い分けることが大事だと述べておられます。非常に参考になることなので、記事から引用させていただきます。「1つは上から目線でビシッと厳しく、グランドでチームの約束事を教え込む目線。2つ目は対等な目線。技術を憶えさせて自由自在に動けるように育てる目線。3つ目は選手が悩んだり迷ったときに寄り添って話を聞いて励ましてやれる下からの目線です。指導者はこの3つの目線を上手に使いこなさなければいけません。指導する側もいろんな努力をしなければ選手たちに思いは伝わりません。努力する情熱を持った指導者は、すごく魅力的です。その魅力がなければ、選手はついてきません。」

私は、本校の生徒指導方針として次の3つを挙げています。①ダメなものはダメというプリンシパル（原理原則）ある指導②生徒・保護者とのコミュニケーションの深化③情報共有化と迅速な問題解決です。そして特にコミュニケーションの深化の中では「傾聴」と「共感」を大事にすべきだと考えています。小嶺さんのクラブ指導法は日常の生徒指導にも大いに役立ちます。小嶺さんの1つ目は私の①に該当し、小嶺さんの2つ目と3つ目が私の②に当てはまると思います。

授業を例にとりましょう。1つ目は、机の上に授業と関係ないものは出さないとか居眠りや私語はしないという授業を受ける上で必要な約束事はしっかりと守らせること。2つ目は、生徒の質問には丁寧に答えてやり、たとえ初歩的なことでも馬鹿にしないこと。そして、わかりやすい授業を心掛け学力向上を図ること。3つ目は居眠り等やる気のない生徒には放課後にでも声をかけ、何か悩みがないか聞いてやることです。この3つを上手に廻してゆけば、授業は成立します。

ときどき、生徒が「あの先生は上から目線でものを言うから嫌いだ」と言います。私が、「先生と生徒は立場が違うからな」と答えると、たいていが、「でも、わたしらのこと馬鹿にしてるし」と言います。これは、小嶺さんの指導法の「対等な目線」と「下からの目線」がないままの「上から目線」だけで生徒に接しているからです。即ち、日常の学校生活の中で、生徒の状況を理解しわかる言葉で話していないにもかかわらず、正論をぶつけるからです。一方、ダメなものはダメだとビシッと指導せずに、「君らの気持ちもわかるよ」と共感だけを示しても、指導の弱さを見透かされ、これまた信頼されません。「あの先生はやさしいけど、怒るとこわい」と言われるような教員になるよう心がけてほしいものです。

今朝から生徒指導をしていた悩める新任教員に、小嶺さんの言葉を紹介しながら上記のような私の思うところを話してみたところです。

232
2013/12/24

さよならキラキラワード

経営コンサルタントの横山信弘氏は、世の中の「綺麗ごと」を「キラキラワード」と名付けています。小さな労力で大きな成果を得ようとか、楽をしてお金を儲けたいなどと言ういわゆる射幸心を煽る言葉で、「仕事は好きなことをやるべきだ」とか「無理はしないほうがいい」とか「頑張らなくてもいい」といった類を例に挙げています。

こういったキラキラワードが氾濫し出したのは何時ごろからでしょうか。バブル期の前後ではないかと思います。バブル期には好きなことをしてもそれなりにやっていけ、嫌なことを無理にする必要はないと言える人もいたでしょう。バブルが崩壊して長期デフレに入ってからは、今日よりも明日が良くなる期待が持てなくなりました。努力しても報われない人が多くなり、イージー・ゴーイング（安易な行き方）の発想が生まれたのではないで

しょうか。

しかし、好きなことだけして食えるほど世の中は甘くありません。仕事には、1．やりたいこと2．やれること3．やるべきことの3つがありますが、順番は3のやるべきことが最初に来ます。たまに、「趣味は仕事だ」とか、「仕事が一番楽しい」と言う人がいますが、それはたぶん、3．2．1．の順番を踏んでその心境に至ったのではないでしょうか。また、楽しさの中には苦しさもあり、楽苦しいというのが本当ではないかと思います。成功者の話を聞くと、「頭のいい人は違う。根性のある人は違う。自分には無理だ」と思えてくるものですが、それは、式のない正解を見せられているからです。式を見れば悪戦苦闘の跡がわかり、自分も途中ぐらいまでならできるかもしれない、満点は無理でも部分点は取れるかもしれないと思えないでしょうか。

22日（日）で、今年のオープンスクールが全て終了しました。私は、中学生や保護者に向けて出来るだけ本音で話をしてきました。①人に無限の可能性はありません。努力しても必ずしも成功するとは限りません。でも、失敗は成功の元といいます。何もしなければ失敗もない代わりに成功もありません。②残念ながら、育ちも環境も異なる生徒が集まれば、生徒間のもめごとやトラブルは付きものです。エスカレートしていじめに発展することもあります。これは弱い人間の性ではないでしょうか。大事なことは、いじめた方にもいじめられた方にもコミュニケーションの重要性をしっかりと理解させ、ともに成長できるように適切な対応を迅速に行うことです。③学歴社会が現実です。でも、学歴だけで渡っていけるほど世の中は簡単ではありません。④友達を無理に作る必要はありません。作ることに苦しむぐらいなら孤独を楽しむことも

一つの生き方です。孤独を楽しむことが出来る人は強くなります。そして優しくなれます。⑤教育の基盤は家庭です。学校教育はその基盤があって活きるものです。家庭教育の基盤がない場合は、学校で原理原則から教え込まねばならず、少し厳しくなることを覚悟して頂かねばなりません。⑥学校で習った教科の内容は社会に出て使う機会が無くなれば、ほとんど忘れてしまいます。でも、問題に取り組む過程で訓練した頭は回転を忘れません。そこに勉強の意義があります。⑦そして、学校で習ったことをすべて忘れた後に、卒業生各々の心の中に何かを残せるかどうかが、学校の評価を決めるのではないかと思います。

平成7年、阪神淡路大地震により時の臼谷晴雄理事長を失った本校は、舵を無くした船のごとく、少子化の波に翻弄され、生徒指導にも教科指導にも十分な組織力を発揮することが出来ず、生徒確保に汲々とする時代が続きました。嘗て商業科華やかなりし頃、朝からそろばんを入れる音がパチパチと校舎の外にまで聞こえていたほど活気があった学校の評価は低下の一途をたどりました。中には優秀な生徒や真面目な生徒もいたにも関わら

ず、悪い面のみが強調される不幸な時代でした。当時の在校生や卒業生にはさぞや肩身の狭い思いをさせたことでしょう。平成19年、新体制が発足し、明確な教育方針を掲げるとともに、「それは本当に生徒のためになるか」を行動基準に定め、教職員一丸となって学校改革に取り組んでまいりました。そして、今、「福女」（大阪福島女子）レジームからの脱却を果たし、「もはや福女ではない」と宣言できるところまでまいりました。これからも、キラキラワードに惑わされることなく本音で勝負してゆきたいと考えています。

233
2014/1/6

日本史、必修へ

2009年2月27日の好文木で、「なぜ日本史を必修にしないのか?」と題した一文を載せましたが、どうやらようやく政府は日本史の必修化へ向けて動き出したようです。今年、文科省は中教審に諮問し、中教審が検討を開始し、2019年から2020年に必修化を目指す予定であると読売新聞が報じています。

1989年の学習指導要領改定で、社会科は地理歴史と公民に分かれ、地理歴史では世界史が必須とされ、日本史か地理は選択となりました。現在高校生の3割から4割が日本史を学んでいないと言います。1989年と言えばベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦が終結し、ソ連の崩壊を経て世界が情報化とグローバル化に向けて突っ走ることとなる切掛けの年でした。そしてまた日本がバブルの天井を付けた年でもあり、それ以降、失われた20年に突入することになります。このような現代史における歴史的転換期に、世界史のみを必修とし日本史を捨てたも同然の学習指導要領の改定を行ったことは、とても国際化の真の意味を理解していたとはいえない誠に残念な措置だったと思います。

今回遅まきながらも、日本史必修化への動きが、国際化とは単に英語を流暢に喋れるだけのことではなく、日本人としてのアイデンティティに基づく確固たる自己の確立が出来ることだと気付いたことによるものであるならば、大変結構なことだと思います。ただ、尖閣諸島など領土問題や総理大臣の靖国参拝による近隣諸国、特に中国や韓国との関係悪化の情勢に鑑み、国民の歴史認識の刷新を考慮しての措置であるとすれば、それはまたあまりにも偏狭な考えだと思います。

長野の諏訪中央病院名誉院長である鎌田實さんが、『○に近い△を生きる』（ポプラ社）という本を出されました。「正論」や「正解」に騙されるなとの副題が付いています。鎌田さんは「別解力」とも言っています。五木寛之さんでしたか、白か黒かでなくグレーゾーンが大事だということを言っておられたのと同じです。○か×か、白か黒か、はっきりつけられるならそれに越したことはないのですが、世の中はそう簡単には割り切れません。

友達関係、夫婦関係、親子関係から原発問題そして国と国の関係に至るまで、この発想は必要ではないかと思います。

尖閣諸島の国有化問題に言及した当時の中国大使丹羽宇一郎さんに対するバッシングは厳しいものがありました。商社の元社長だから、国益よりもビジネスを重視していると言わんばかりの論調がありました。しかし、丹羽さんの手記を読むとそうではないことがわかります。○に近い△を模索しての発言でした。

今、塩野七生さんの最新刊『皇帝フリードリッヒ二世の生涯　上・下』（新潮社）を読んでいますが、この13世紀に活躍した神聖ローマ皇帝は第6次十字軍遠征においても無駄な血は流さず、話し合いでイェルサレムを奪還し、部下にもイスラム教徒を抱え、自らもアラビア語で交渉したという国際人でした。一方、フリードリッヒを何度も破門にした教皇グレゴリウス9世は異端審問制度を作り、これが中世暗黒時代を象徴する魔女狩りに繋がっていきます。フリードリッヒ2世は○に近い△を求め、グレゴリウス9世は○か×かの選択しか眼中になかったのではないかと思います。フリードリッヒ2世はルネッサンス前夜の非常に開明的な君主でしたが、一般的に政治家は国民受けを狙ってか、○か×かハッキリものを言う人が好まれる傾向にあり、得てしてグレゴリウス9世のように教条主義に陥りやすいものです。

TOEICの得点で人事政策を進めるのが国際化だと勘違いしているのではないかと思える企業がマスコミ等で持て囃されているように見受けられますが、これもまた、○か×かの極端な例ではないかと思います。英語は話せないより話せる方が良いのですが、それだけでグローバル人材の必要十分条件を満たすわけでは全くありません。

実社会では○か×かでは解決しない難問が山積しています。グローバル化が進めば進むほど歴史に学ぶ必要性はますます高まってくると思います。コミュニケーションにはその手段としての一定の英語力は必要ですが、理念としての歴史観こそ必要なのです。グローバル人材の育成を言うなら、国史である日本史と世界史を共に必修にすべきだと思います。

234
2014/1/15

新春雑感

1月9日付の日経新聞は一面トップで、東南アジア諸国で賃上げが広がっていると報じています。日本企業の進出が加速する中で、従業員の賃金に上昇圧力がかかることとなり、日本の製造業にとってコスト増となり

ます。ベトナムでは法定最低賃金を1月から15％前後引き上げるそうですし、カンボジアは18年にかけて段階的に最低賃金を倍増する計画です。ここ数年、日本企業は反日デモや人件費の高騰、環境問題に直面している中国への集中投資を見直し、「チャイナ・プラスワン」戦略を進めていますが、マレーシアの賃金は既に中国並みの年間約８０００ドルになっています。

そして、国際面では、日米欧の大手企業によるアフリカへの直接投資の裾野が広がっているという記事を載せています。天然資源だけではなく、金融や消費財、サービス分野でも大型投資が増えています。安倍首相も首相として8年ぶりのアフリカ諸国歴訪の旅に出ました。私の大学のゼミの友人でアジア経済研究所上席主任研究員の職にある平野克己君が、日経オンラインの「学問のススメ」というコラムで池上彰さんと「アフリカビジネス」について対談しています。アフリカ経済の第一人者である彼の分析によれば、インフラ整備、消費マーケット育成、工場移転という日本がアジア開発援助で行ってきたプロセスはアフリカでは通用しないと言います。アフリカでは食料自給率が極めて低く、物価が高いのです。先ず、農業革命を進めなければならないとのこと。

人口密度が低く鉄道などインフラの整備も非効率な現状では、アフリカが東南アジア並みに経済発展するにはかなり時間を要すると思いますが、増大する人口と飽くなき経済発展願望を満たすべき最後の大陸がアフリカではないでしょうか。コップの水はいよいよ満杯に近づきつつあるように思えます。満杯になった時どんな世界となるのでしょうか。

科学技術の進歩は経済発展をもたらし、経済発展は生活を豊かにし高学歴化が進みました。しかし、情報技術の進歩は、医者や弁護士、会計士など従来は社会的地位も収入も高かった専門家の仕事内容にも更なる専門化と細分化をもたらし、コンピューターに置き換えられる仕事が増え仕事内容の二極化が進み、専門家集団内での格差をも広げつつあります。先進国では、親の代より豊かになれると感じている子供世代は減少しているようですが、わかるような気がします。ハードルが高くなり過ぎたのではないか。アベノミクスの成長戦略にどうしてもバラ色の人生を予感できないのは、この点にあるのだろうか？リーマンショック以来久しぶりの円安・株高による景気回復期待が高まっている２０１４年の幕開けをぼんやりとした不安とともに迎えました。

235
2014/1/18

センター試験日に思う

今日から2日間、センター試験です。本校でも特進コースの生徒たちが受験します。先ほど担当教員から、全員が無事に試験会場に入ったとの報告を受けたところです。みんなに配った大阪天満宮の合格鉛筆のご利益がありますことを祈るばかりです。

今日、明日は厳しい寒波で西日本や関東でも山間部は雪とのこと。インフルエンザも流行し出しています。季節を考えると秋入学も悪くないと思えてきます。

大学進学率が高まる中、長引く不況と産業構造変化の影響もあり、大卒の就職率も低迷

が続き、学歴に対する信頼性が大きく揺らいでいるように感じます。

従来から「学歴無用」の例に出されるのは、いわゆる裸一貫で事業を起こし成功した人や匠の技で勝負する職人さんです。パナソニックの創業者、松下幸之助さんや田中角栄元首相、宮大工の西岡常一さんなどがその代表でしょう。彼らは学歴の恩恵は受けずに自分の人生を切り拓き自立と社会貢献を成し遂げました。しかし、それはとてつもない努力の積み重ねとある種の才能に恵まれた結果だと思

います。従って、その足跡から学ぶことは必要であり大いに役に立ちますが、彼らを真似ようとしてもそう簡単に出来るものではありません。

学歴が社会での成功の決定要因にはならないという視点で教育や社会を論じる学者や評論家に、東大卒などの高学歴者が沢山含まれています。「自らは優位に立ちながら」と思うと、その主張には賛同できるものの少し違和感を覚えるときがあります。大学進学率が高まる一方で大学間格差が広がり、一部の難関大学卒でなければ大企業への就職はほぼ不可能なのが現実です。変化の激しい昨今、大企業が必ずしも幸せをもたらしてくれるとは限りませんし、中小企業やベンチャー企業にもやりがいのある会社はあるでしょうが、給与の高さ、研修や福利厚生の充実度などを考慮すると、大企業で正社員として勤務するメリットは今なお存在しています。

また、最近は、日本の大学を卒業後、欧米の一流大学でMBAを取得し、大手外資系企業に入社したり、自ら起業したりするというパターンも増えてきました。欧米の一流大学のMBAは実践を重視した勉強に重点が置かれているので、ここで学んだという学歴は実力養成に有効に働いていると言えます。

学歴とは、どの大学で何を学んだか、即ち学校歴と学習歴の総和です。一般的に難関大学ほど教育の質も研究の質も高いものですから、そこで学んだということは、その人の力を測る基準になります。それは、基準の一つに過ぎないものの、実績がない時期にその人の潜在能力を推測するためにはかなり大きなウエイトを占めます。従って、学歴によって職業選択の自由が制限されることはやむを得ないことであり、世の中の大半の人にとって「学歴は関係ない」のではなく、大いに関係があることになります。しかし、一旦企業や研究機関に入ってしまえば、実績がものを言います。ところが、この実績がものを言う部分だけを取り上げて、だから学歴は関係ないというのは、入口を通過できた人たちの中でだけ通用する理屈なのです。

「学歴が全てではない」というのは事実でありますが、「学歴は関係ない」というのは真実ではありません。「東大卒でもダメな人がいる」と言うのは事実ですが、それは東大卒に意味がないことにはなりません。東大に

入るために一生懸命勉強したことや、東大でしっかり学んだことは、その人に知的にも精神的にも力を付けますし、その後の人生の選択の幅を広げます。「学歴は関係ない」という言葉が、一生懸命勉強することを忌避するための方便に使われるとしたら、それはキラキラワードだと言わざるを得ません。結果はどうあれ、一生懸命勉強したことが何の役にも立たないということはなく、何事も一生懸命にやれば、そこから学ぶことがあるものです。

3年間、一生懸命勉強に励んだ特進コース生の前途に幸多かれと祈らずにはおられません。

236
2014/1/27

木組み、人組み

前回の好文木で、例に挙げた西岡常一さんは、法隆寺金堂や薬師寺の金堂、西塔などの復興を果たし、最後の宮大工の棟梁と言われた人です。1995年4月に86歳で亡くなられましたが、晩年に聞き書きとしてまとめられた『木のいのち木のこころ』を読むと、人間も木と同じという西岡さんの話から、教育や人材育成そして組織論に至るまで、実に有益な示唆を与えられます。

西岡さんは、明治以来、西洋の学問が入ってきて、経験を信じず、学問を偏重するようになったと言います。現場で経験を積み、実際に木の特徴を熟知した西岡さんは、再建の会議で、本はよく読むが実際のことには疎い学者としばしばぶつかったそうです。「学者があって建造物があるのではなく、建造物があって初めて学問がありますのや。何でも計算や形に当てはめて考えるから物事が逆さまになりますのや。」と述べています。自然や生き物は必ずしも論理だけでは説明しきれない部分があります。コンクリートや鉄なら耐用年数は計算できますし、規格に合った製品がいくらでも作れます。しかし、木は生きているので、計算通りにはゆかないというのです。

飛鳥建築や白鳳の建築は、棟梁が山に入って木を自分で選定していたそうで、「堂塔建立の用材は木を買わず山を買え」という口伝があるそうです。また、「木は生育の方位のままに使え」とも言います。山でも南斜面に生えている木は細いが強く、北側の木は太いが柔らかい、陰で育った木は弱いというように、育つ場所で木の性質も変わります。曲がった木は曲がったなりにその性質に応じて組み合わせることで1000年以上持つ木造建築が出来ているのです。「木組みは木の癖組み」とも言われる所以です。

「適材適所といいますが、いいところばかりではなしに、欠点や弱点も生かしてその才

能を発揮させてやらなならんのです。人を使うにはそれだけの心構えがいるってことですわ。木を見るのも難しいですけども、人を見るのも難しいですな。」と述べていますが、全くその通りだと思います。

私も校長として毎年校務分掌を決めることに頭を悩まします。「適材適所」は言うは易し、行うは難しです。必要な部署は決まっていますが、適材となると全てが埋まりません。専門知識は豊富だけれどもマネジメントは苦手という人もいれば、生徒指導はなかなか渋いが授業はあまり面白くない人もいます。出来る人には仕事が集中し、一人何役にもなってしまいます。ですから、現有勢力の中からベストの組み合わせを考えねばなりません。「木組みは木の癖組み」ならぬ「人組みは人の癖組み」です。

「木の癖組みは工人たちの心組み、工人たちの心組みは匠長が工人らへの思いやり、百工あれば百念あり、これをひとつに統ぶる。これ匠長の器量なり。百論ひとつに止まる、これ正なり」癖のある職人を使う棟梁の心構えを表した口伝です。これは全ての組織にも通用するものだと思います。そして、「百論をひとつに止めるの器量なき者は謹み惧れて匠長の座を去れ」の口伝について、「木の癖が読める、腕がいい、計算が出来る、これだけではだめなんですな。棟梁と言うからには工人に思いやりをもって接し、かつ心をまとめなければならんのです。諸職工の心構えが完成してこそ建物の完工という結果がいただけるんです。」と述べています。実に腸に染みる西岡さんの言葉です。

237
2014/1/30

国語強靭化計画

文藝春秋2月号の「やっぱり日本の英語教育はおかしい」と題した「ミスター円」こと元大蔵省国際金融局長の榊原英資氏と立教大学特任教授の鳥飼玖美子さんの対談記事は、英語力の前に日本語力を鍛える必要性が語られています。従来からの私の持論を裏付けるもので、特に、日本の文法偏重への批判に対しての鳥飼さんの「実は今は全く逆の問題が起こっており、文法を軽視しているので読むことが質量ともに減り語彙力も乏しくなっている」との反論には全く同感です。また、「英語力だけで採用したってしょうがない。仕事には人間力が必要で、やはり、日本語がうまい人が英語も上手くなる。」という榊原さんの意見にも納得です。

本校においても、特別チームを編成し、国語強靭化計画を進めようと考えています。それは、学習指導要領における言語能力の開発（読む・書く・聞く・話す）においてまだまだ創意工夫が足りないと考えるからです。英語や数学に比べると、国語は一見すると教えにくい科目と思われがちですが、逆にいくら

でも工夫が出来る科目であり、それだけに教員の授業力が試される教科です。授業力向上のために、昨年より教育担当者による個別指導を進めており、新人、若手のスキルアップが徐々に進んでいます。

学習指導要領を読むと、知識だけの習得だけではなく、考える力の育成を要請しています。即ち、考えながら読む、考えながら書く、考えながら聞く、考えながら話すことが大事であり、そういう習慣を身に付けることができる授業にしなければなりません。漢字を知らないからと言って、漢字ばかり覚えさせ、漢字のテストに明け暮れていては、いつまでたっても本丸には近づけません。

漢字は文章を読むための道具です。高校生にもなれば、漢字や英単語は教えるものでも、教わるものでもありません。自分で覚えるものです。覚えないのは、覚える必要がないと思っているからで、覚える必要性を感じさせる工夫が必要です。文章を読む、文章を書く機会を増やすべきだと思います。大学受験の小論文や大学でのエッセイの準備です。指導側の手間はかかりますが、それを厭うようでは学力向上は望めません。ディスカッションやディベートを成立させるためには、自分の意見を正しい日本語で正確に伝えること、人の意見をきちんと聞きとれることが必須条件であり、そのためには論理的な思考力、即ち、筋道立てて物事を考える力が不可欠です。この力が付いてこそ、他の教科における学力向上も可能となり、コミュニケーション能力や人間力を育てる基盤にもなるのです。学力の源は国語力です。日本語力なくして、どうして外国人との間で英語でまともなディベートが出来るでしょうか。LINEでのトラブルが絶えませんが、これとて言葉の持つ意味が理解できていない、相手の立場に立って考えることが出来ない、想像力が働かないことから生じています。このことを再認識し、広がりある国語の授業を目指したいと考えています。教科書を教えるのではなく、教科書で教える国語の授業の構築が急務だと考えています。

238
2014/2/1

新人研修始まる

早いもので今年も一月が過ぎました。今朝は、新年度採用の教員のうち常勤講師5名が事前研修に来ています。4月初めにまとまった研修をしますが、朝読の様子を見たり、教科の授業を見たりしながら心の準備をしても

らう趣旨で呼びました。教科主任や学力向上委員長、教頭らから色々レクチャーを受けていますが、私からはひとこと、「最初が肝心、けじめある授業でスタートする様に」と、昨年の失敗例を挙げて訓示しました。

学力向上担当教員による授業力アップの研修経過は逐一報告を受けています。強靭化せねばならない国語科ですが、昨年入ったばかりの新人教員の指導案が随分と改善されてきました。実に熱心に教材研究をし、教科書の記述ではイメージできないものについては写真入りのパワーポイントも作っている先生もいます。何より、その意欲は大いに買うことが出来ます。

私が高校に入ったころ、戦後最大と言われた永大産業の倒産が世間を騒がせました。その後紆余曲折を経て永大産業は再生しましたが、当時、ワンマン創業者の作った社訓が話題になりました。いわく、「知恵のある者は知恵を出せ、知恵のない者は汗をかけ、知恵も汗もない者は静かに会社を去れ」「好きなことだけやればいい」とか「無理はしなくていい」というようなキラキラワードが市民権を得て久しい昨今では言うに及ばず、高度成長期のイケイケドンドンの時代にあっても強烈な社訓で批判的に取られました。

しかし、よくよく考えると、知恵がなくても一生懸命やる人は生かされるということで、知識偏重ではない苦労人の創業者の考え方が窺われます。そして、意欲がない人間はその場から退出すべきということも当然のことです。変化に対応できず、不満を抱くだけで、自己改革が出来ない人間は消え去るのみ。意欲満々で4月から本校で働こうとしている新任教員と話をしながら、一人前の教師になれるように厳しくそして丁寧に育ててゆきたいと改めて感じました。そうすることが、生徒のためにそしてまたその教員本人のためにもなるのですから。

239
2014/2/4

先生といわれるほどの

新人研修が断続的に行われています。授業展開のポイントを学力向上担当者からレクチャーを受けています。教科指導については、教育実習で少し経験しただけで、多少他校での経験があっても体系的な指導を受けた人は少ないだけに、大変熱心に聴いています。中には一般企業に勤めていて教職は初めてという人もいます。概してこういう人の方がマナーが良いのは企業社会の常識がある程度身についているからでしょう。

4月最初の授業で勝負は決まります。気負って高飛車に出ると拒否されますし、嫌われないようにと気を遣いすぎるとなめられます。その後の授業がきちんとコントロールできるかどうかは最初の授業がカギを握っています。生徒の側にも、学力や意欲に差があり、同じ教員が授業を行ってもクラスによって上手くゆく場合とそうでない場合があります。授業力の評価は、教員の能力と生徒の学力・意欲という二つの変数から成り立っています。中間層の評価はその変数によってぶれますが、良い先生とダメな先生は生徒という変数にはほとんど影響されずはっきり分かれます。

ダメな先生の授業とはどのようなものか、私なりに考える例を挙げてみましょう。①授

業開始と終了時の起立・礼などのけじめが付けられない②授業の指導案がなく、漫然と進めている③声も内容も一本調子で、どこが大事か、何がポイントかわからない④黒板と教科書にしか目がいかず、生徒の反応を確認せずに授業を進める⑤授業中の居眠りや私語に適切な注意や指導をしない⑥生徒の質問に具体的に答えられない、抽象論でごまかす。⑦板書がきちんとできない⑧漢字や英単語のテスト、穴埋めプリントなど創意工夫が少なくて済む手法を多用する⑨覚えさせるだけで考えさせない⑩なぜこの勉強をすべきか生徒に理解させられていない。学力あるいは意欲の高い生徒から、未だ目標を見出し得ていない生徒まで多くの生徒が直接校長室に相談や陳情にきましたが、その内容と私自身が授業を見学した中から導き出したのが、この結論です。ダメな授業の反対を心掛ければ良い授業に近づきます。まさに反面教師です。最初から良い授業は望めません。誰でも失敗しながらも努力と経験を積み重ねて進歩するものです。しかし、①自分の欠点を認め他人の意見に耳を傾ける謙虚さがない②成果（生徒の成長）のために働く意思がない③勉強不足で基礎力がない人は何時まで経っても授業力は向上しません。大切なのは学ぶ真摯さと教えを乞う謙虚さです。教員は担当クラスに入れば良くも悪くも独壇場となります。客観的な批評を受けにくい環境にあるので、独りよがりになりがちです。日ごろから自省のチャンスを設けることが大切です。

生徒指導とは、校則違反を注意することではなく、生徒の心に火をつけることです。そのためには、教師自身に人間的魅力がなければならず、「技術」ではなく「こころ」が大事です。以前、こんなことがありました。生徒に挨拶の大切さを説き、奨励しているにもかかわらず、きちんと挨拶をしない教員がいました。そのことを注意しましたところ、自分ではしているつもりだと言います。尚も注意をしましたら、翌日、これ見よがしに校長室に入ってきて、ニッコリともせず怖い顔で大声で挨拶をしてきました。「そんな取ってつけたような挨拶はしなくていい」といいましたら、「でも、こうしなければいけないんでしょう」といいます。当時、新人で礼儀正しい教員がいて、朝来ると、校長室を覗いて笑顔で挨拶してゆく若者がいたのです。彼は自分の意志でそうしていました。むしろ私はそこまでしなくていいと思っていましたが、止めさせる理由もないので、こちらも気持ちよく挨拶を受け挨拶を返していました。それを見て、私がそうさせているとでも邪推したのでしょうが、私はそんな権威主義者ではありません。人それぞれのやり方で挨拶をすればいいのです。表情やしぐさでその「こころ」は読めます。校門で挨拶をしていると、元気に大きな声で挨拶をする生徒もいれば、はにかんで頷く生徒もいます。気持ちが通じれば

よいので、こうすべきと言ったマニュアル等ありません。そういうことも理解せず、腹いせ紛れともとれるような挨拶をされても良い気はしません。そんなことも分からない人に生徒の心は読めず生徒指導はできません。当然、良い授業は出来ません。上司に対する礼節を弁えておらず社会人としても失格です。

教師は、学卒後、すぐに「先生」と呼ばれ、呼びあい、相手はいつもこどもです。企業の様に大人同士の仕事ではないので、鍛えられず社会常識も欠如しがちです。これではこどもを教育することなど到底できません。しかし、自分がそういう環境にあることを意識して、自分を磨く努力を積み重ねている人は魅力的な教師になっています。スマイルズは『自助論』のなかで、「手本とすべきは、黙っていても生徒に一番人気のある教師だ」と述べています。「先生といわれるほどの馬鹿でなし」という江戸の川柳、自戒を込めた座右の銘としてほしいものです。

240
2014/2/5

如月のころ

2月生まれにもかかわらずと言うべきか、2月生まれだからと言うべきかはわかりませんが、私は一年のうちでこの如月のころが最も苦手です。小さい頃から風邪を引きやすく寒さには弱く、夏でも上着を脱ぎません。「校長は紳士ですから」と言ってくれる先生もいますが、要は単なる虚弱体質なのです。ですから、しんどそうな顔をして遅刻してくる生徒には、「どうした?大丈夫?しんどかったら無理するなよ」と、ついつい甘い声をかけてしまうのです。

昨晩、神崎川から吹き付ける冷たい川風に肩をすくめながら早足で千船駅に向かっていました。前方を歩いていた二人組の生徒に、「さよなら」と声をかけて追い越そうとしましたら、「あ、校長先生!」、振り向くと、以前、校長室で放課後に2時間ほど話をした生徒でした。「ああ、君か?今日は遅いね」という

と、「クラブに行ってたんです」と答えました。「え、クラブ入ったの?」と聴くと、「いえ、前から入ってたんですがずうっと行ってなくて」とのこと。そして、「先生、どうですか?」と聞くので、「あぁ、あの件? 相変わらずだよ」と答えました。「あの件」とは、彼女といろいろ話した中でポロッと漏らした私の極めて個人的な内容の話です。「先生、また遊びに行っていいですか?先生と話をしていると楽しいので」と言ってくれたので、「ああ、いいよ。いつでもおいで」と答えて駅に急ぎ

ました。

わずか2～3分の短い会話でしたが、とても嬉しい気分になり、寒さで早まっていた歩みがさらに速くなりました。遅刻が多く、冴えない雰囲気の時が多かった彼女が、クラブに行きだし、友達と楽しそうに話しながら二人で帰っていること。私のことを気遣って「先生、どうですか?」と阿吽の呼吸で尋ねてくれたこと。また一緒に話をしたいと言ってくれたこと。小さな事かも知れませんが、ここころが暖まりました。

今朝も、新年度採用の非常勤講師の先生が授業見学と打ち合わせに来ました。一人は航空会社に勤めていた人で、教壇に立つのは初めてです。授業見学の後、少しお話をしましたが、不安とヤル気が入り混じり新鮮な感じを受けました。思えば7年前、校長に就任した時の私も同じ気持ちだったのでは。新しいことにチャレンジするというのは適度な緊張感があって良いものです。

午後からは、保護者がお越しになりました。御嬢さんの学校生活には大変満足してくださっており、ご自分の経験を活かしてお役にたちたいとの有難いお話を頂きました。ご自身の高校時代のお話やお仕事上の経験などいろいろお伺いできました。親と教師は同じだと思いました。子供のためを思って先走って道案内をし、近道を行かそうとするものです。私自身も、自分の息子に対する先走った気持ちを反省し、生徒に対応しているところがあります。親の言うこと、教師の助言も随分経ってから理解できるものです。直ぐにわからせようと焦ってもダメです。その時が来ればわかるものです。でも、だから、その日のために言い続けなければならないのでしょう。

通勤電車の中で、『「考える力」をつける本』（轡田隆史、三笠書房）を読んでいます。おもしろそうだと思って本屋で手に執り読みだしてから、著者紹介を見て、轡田（くつわだ）さんが、朝日新聞の元論説委員で、テレビ朝日系の「ニュースステーション」で久米宏さんの相手方としてコメンテーターを務めておられたことを思い出しました。読み始めると、轡田さんの顔が浮かんできます。同じ大学の同じ学部の大先輩であることもわかり、親近感が湧いてきました。親近感を感じたのはそれだけではありません。プロローグに、「中学一年生のある朝、登校の途中で、猫が朝日を浴びてのんびり眠っているのを見て、うらやましいなと、羨望の念に堪えられなかった。」という一文を見つけたからなのです。実は私も全く同じように思ったことがあり、学生時代に「猫はいいな」という即興詩を作り、友人に笑われたことがあるのです。轡田さんによれば、そのあと、考えることを辞めようと試みたのですがそれが出来ず、人間が考えるのを辞めるのは死ぬときであると悟ったそうです。それからしばらくしてフランスの大哲学者デカルトが「われ思う。ゆえにわれあり」と言っているのを知って仰天したと書いています。私もほぼ同じ思考回路で同じ結論に達しました。「好文木」を書き続けている理由の一つはここにあるのかもしれません。

241
2014/2/6

NHK経営委員会と教育委員会

NHKの会長会見での発言に続き、経営委員の相次ぐ言動が波紋を広げています。委

員のお一人である小説家の百田尚樹氏については、その著書『海賊と呼ばれた男』や『永遠のOゼロ』の主人公の品格ある生きざまに少なからぬ感動を覚えていただけに、伝えられていることがすべて事実であるとすれば残念な気持ちが致します。籾井会長の「個人の意見を述べたまで」と言う発言にも違和感を覚えました。会長会見は会長としての立場で発言すべきでありそこで個人的意見を述べるのは筋違いです。総理や大臣など政治家もしばしば「個人としての立場で」ということを言われますが、食べ物やファッション、音楽などの趣味嗜好は結構ですが、政治的信条となると個人と公人の立場を使い分けるのは

筋が通らないのではないでしょうか。公人としてその言動を行えば混乱を招くから控え、個人として行えば混乱は招かず認められるというのは、独りよがりな考えで、「一物二価」と同様の発想に思えます。

経済学では、自由市場経済において同一市場の同一時点における同一商品は同一価格であるという「一物一価」の法則があります。ところが、土地の価格は時価、路線価、固定資産評価額とおなじ一筆の土地でも三種類、非上場会社の株式価格の評価も純資産価額、類似業種比準価額、配当還元価額などがあり、相続や事業承継等で誰がどのように取得するかで適用される価格が変わります。これを称して「一物二価」と言います。官僚が考え出した政策的な制度で、わかりにくい上に納得性に欠ける部分もあります。「一物二価」は官僚のご都合主義の典型ではないかと思います。

また、2011年の大津市で起きた中2いじめ自殺事件において同市教育委員会の無責任体制が批判を浴びたことをきっかけに、教育委員会の改革議論も喧しくなっています。教育委員会のメンバーである委員は首長が議会の同意を得て任命し、その互選で委員長を選出します。事務執行を行う教育長も委員からの選出です。委員長は非常勤で、教育長は常勤です。このシステムが無責任体制になると判断し、改革論議がスタートしました。中央教育審議会は、首長を執行機関とし教育委員会を付属機関に格下げの案を出しました。これに対しては、教育の政治的中立性が担保されないという反対意見が出ています。そこで、自民・公明両党は、教育委員会は教育行政の決定権がある最終責任者（執行機関）という立場に残し、教育委員長と教育長を統合した常勤の代表委員を首長が任命するという案を提出しました。

しかし、私は、首長がトップの任命権を持とうが持つまいが、また、トップがたとえ常勤になろうが、現場と乖離して日常の様子が分からない人や組織に決定権を持たせること自体が矛盾だと考えます。一つの教育委員会が見なければならない学校がいくつあるでしょうか。それらの多くの学校の生徒の状態や課題などが正確にわかるとは思えません。ましてや、いじめと言う極めて生徒の日常に起因した問題に関して迅速で適切な判断など

行えるはずがありません。それが出来るのは、現場の長たる校長とその学校の教員です。現場が分からない組織や個人に大きな権限を与えると、責任回避のために現場への締め付けに走るのが常です。報告のための報告が増え、肝心の生徒に対するかかわりの時間が無くなってしまいます。そうなれば、最も熟知していなければならない現場の教師が生徒状況の把握が出来ず、教育活動に支障をきたすことになります。有名無実な組織の改編に時間を費やすことは教育行政の浪費であると思います。個々の学校の自立を図り、現場のトップたる校長に権限と責任を付与すべきだと思います。

一方、NHKに関しても最高意思決定機関とされる経営委員会の委員は両議院の同意を得て内閣総理大臣が任命し、委員長は委員の互選で決まります。委員長は非常勤です。会長、副会長、専務理事、理事から成る理事会が業務執行を行っています。これまた、教育委員会とよく似た構図です。理事会の構成メンバーや選出を吟味すれば、理事会だけで事足りるように思え、経営委員会が必要なのか疑問に思います。

教育委員会委員もNHK経営委員会委員もともに現場から遠く名誉職的色彩が強いにもかかわらず、両委員会とも最高意思決定機関と位置付けられているところにこそ構造的矛盾があるのです。

242
2014/2/8

氷雨の朝

昨晩から雪がちらつき今朝は積もるとの天気予報だったので、覚悟を決めてベッドから起き上がると、暖房を入れたままなのに部屋はいつもより寒く、外気温の低さが判りました。バスルームで歯を磨きながらルーバー窓を少し開けてみると、大粒の雨が横殴りに降っています。「雪ならまだ趣もあるのに雨か」と諦め、濡れてもラインがとれにくいズボンを選びブレザーの下にベストを着込みコートにマフラーと手袋の完全防備で門を出ました。

家々の屋根は薄らと雪化粧をしています。

手袋をしていても指の先がしんしんと冷えてきます。アスファルトの道はシャーベット状で、滑らないように気をつけながら坂道を下りました。阪神電車の駅まで早足で約20分。駅手前の朝6時からやっている喫茶店でモーニングを食べるのが私の日課です。ここまで歩けば、真冬は体が冷えますし、真夏は首筋や額が汗ばみます。休憩にちょうど良い場所です。今朝も熱いコーヒーで体を温めました。

電車はいつも6時56分発の各駅停車に乗り座って本を読むのを習慣としていますが、今日は土曜ダイヤ、3分遅れてきた6時59分発の直通特急に乗り込みました。西宮で座れ、いつものように本を読み、尼崎で各駅に乗り

換えました。各駅停車の座席に座り再び本を開こうとしながら、周りに目をやると、右前方にいつもいる本校の運動部の生徒が座っていました。左前方に目を移した時、「おやおや?」スカートの下に体操服の長ズボンを穿いた生徒がスマホで音楽でも聞いているのでしょうか、下を向いて座っています。少し離れていましたが、体操服のズボンを穿いている以外は服装も乱れておらず、それだけに違和感を覚えるとともに、「ブルータスおまえもか」最近はこのようないわゆる埴輪ルックで登下校の生徒は本校にはいないと確信していただけに、とても残念な気持ちになりました。車窓の外はまだ雨が降っています。「外は冬の雨まだやまぬ　この胸を濡らすように」という懐かしい『氷雨』の歌詞が頭に浮かんできました。

電車が千船駅に到着するのを待って、その生徒に近づき声をかけました。「おはよう。寒いのは分かるが、その格好はダメ。駅のトイレで脱いでから学校まで行きなさい。」と指導しました。プラットフォームから階段を下りながら学年と名前を聞くと素直に答え謝りました。トイレで着替えるのを待って一緒に学校まで歩きながらいろいろ話を聴きました。遠くから通っていること、クラブもやっていること、希望する進路のことなど、5～6分の間にその生徒に関して多くのことが分かりました。「君がだらしない生徒ではないことは一目見てわかる。遠くから頑張って通っているのも偉いと思う。だからこそ、今日の格好は実に残念だ。」と私が言うと、彼女は反省した様子で「すみませんでした。これからはしません。これは指導になりますね。」と言うので、「僕がきちんと指導したのだからこれでいい。担任の先生には僕から伝えておくよ。」と答えました。学校に着き笑顔で分かれて校内に入ると、芝生のグランドが雪で凍ったように真っ白になっていました。

一時間目が終わり、入試前の大掃除が始まりました。暫らくして廊下に出ようとすると、スカートの下に体操服のジャージを穿いて雪遊びをしている生徒を見つけました。大掃除はジャージに着替えることになっていますが、スカートはとらなければこれまた埴輪ルックです。徹底ができていません。その上、掃除をせず遊ばせてしまっているようでは困ります。教員はそれぞれの場所で掃除をしているのですが、こういった生徒が目に入らないのか注意もできていません。早速、生徒指導部長に指示を出し、身嗜みを整えさせるとともに生活指導主任が校内放送で注意を呼びかけました。若手教員は自分で一生懸命掃除をしていますが、掃除することが目的化し、掃除を通じて生徒指導をすること、教育をすることが分かっていないようです。それをまた中堅やベテランが十分指導できていないところに問題があります。具体的な局面を捉えて具体的に指導してゆかねばなりません。「君はアリになれるか?　君は人間になれるか?　君はトンボになれるか?」これは伊藤忠商事元社長の丹羽宇一郎氏が「黙ってコツコツ働き、物事を複眼的に見て、人間としての心を育てること」の大事さをビジネスマンに説いた言葉ですが、教師にとっても同じく必要なことなのです。

243
2014/2/10

教員免許証

去る1月31日に開かれた第6回の文部科学省の「教員免許更新制度の改善に係る検討会議」において、文部科学省が運転免許証をモデルとした「教員免許証」の導入と携帯義務を提案したと、2月3日の全私学新聞が報じています。教員が自身の教員免許状の有効期限を把握しにくいことから年間100人前後が免許状の失効と言う憂き目に遭っている現状を改善しようという趣旨です。

教員免許更新制度は平成21年4月からスタートしました。文部科学省のホームページにはこの制度の目的を次のように述べています。「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技術を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです。」そしてわざわざ、教員として不適格な者を排除する目的ではないことを強調しています。教員免許の有効期間は10年とされ、満了日の2年2ヶ月から2か月前までの2年間で、大学などが行う講習を受講し修了しなければなりません。内容は、必修領域として教育の最新事情につき12時間以上、教科指導、生徒指導については選択で18時間以上、合わせて30時間となっています。この制度は以前から検討されていたようですが、学力低下や教員の質が問題となっていた平成12年頃に具体化し、第一次安倍内閣の教育再生会議の提言に基づき教育職員免許法を改正して翌年からの導入が決まったものです。

全私学新聞

教員免許更新 失念時で失効

カード化した「教員免許証」導入

携帯義務化、への関係者の意見等を検討

無くす改善策検討

文科省検討会議

私学の経営と教育に役立つ新聞です。

本校教員も順次講習を受講し修了しておりますが、受講前と後とで教育活動における技術が向上し成果が上がったとは全く認識できません。他校からもこの制度のお蔭で教員の質が向上したという話は聞いたことがありません。運転免許証は、交通違反を起こせば減点と罰金が取られ負のインセンティブが働き、今度はゴールドを目指そうと考え、更新の意味はあると思いますが、教員免許は有効期間中に減点もなければ罰金もなく、ただ講習を受ければいいだけの制度です。不適格者の排除もありません。以前から公立私立を問わず初任者から中堅まで研修は数多くあり、屋上屋を重ねるものではないでしょうか。教員として最も必要な生徒指導力は知識や技術をいくら聴いても日々の生徒との係りという実践を通じてしか身につきません。形ばかりの講習で、教員が自信と誇りを持って教壇に立て、社会の尊敬と信頼が得られるとはとても思えません。また、医師や弁護士、公認会計士に更新制度がなくなぜ教員にだけ更新制度を導入する必要があったのかも理解できません。にもかかわらず、運転免許証に倣って、教員免許証を発行し携帯を義務付けようという考えと、委員からの免許証携帯義務への疑

問に対する「免許証不携帯で授業が出来ないということはない。免許証を学校に預けてしまっては教員本人が有効期限等の確認を怠るのではないか」との同省の説明に至っては、実効性の薄い制度を作り、それによって生じる不備をカバーするためにまた新しい手間をかけるというコストパフォーマンスを度外視した官僚的発想の典型だと言わざるを得ません。

244
2014/2/13

ユーフォリア

最近、企業と組んで実戦さながらの商品開発やプロジェクトのプレゼンテーションをインターンシップのプログラムに取り入れる大学が増えています。例えば、立教大学は味の素との産学連携によるグローバル時代の人材育成と銘打ち、経営学と英語力の融合を目指したビジネスプロジェクトを立ち上げています。また、多文化で多様な価値観の持ち主とのコミュニケーション能力を養うなかでグローバル人材を育てようとしている秋田国際大学や立命館アジア太平洋大学、早稲田大学国際教養学部など海外留学生を交えて英語で授業を展開する大学の人気も高くなっています。

週刊ダイヤモンドの2014年就職人気企業ランキングによれば、文系男子では住友商事が1位となり、三菱商事（2位）、伊藤忠商事（3位）、丸紅（5位）、三井物産（10位）と大手総合商社5社がすべてトップ10に入っています。理系男子（1位、日立製作所）や文系女子（1位、東京海上日動火災）においても大手商社の人気は高く、学生のグローバル企業志向の強さを窺い知ることが出来ます。そして、このアンケート調査対象は国公立93大学と私立24大学であり、約780校ある大学の15%に過ぎません。言い換えれば、学生の多くが大企業に就職できる大学はこのぐらいに限られるということでしょう。

採用側の企業は成績重視に方向転換しつつあり、ターゲット校を10～30校設ける企業が50%と言われ大学による選別を強める傾向にあります。日経新聞2月12日の記事によれば、大卒の理科系社員の基礎学力不足を解消するため補習に取り組む製造業もあります。日本精工は社内に大学院並みのカリキュラムを学べる教育機関を新設し、日立建機は毎年新入社員に高校レベルの物理と数学の基礎問題からなる学力試験を課し、4月と7月に2回実施し、4月の結果が悪かった社員には参考書などを配布して自主学習を促します。その結果、7月の試験では基礎を理解していない社員はほぼゼロになると言います。パナソニックでも技術系の新入社員対象に「ソフトウエア」や「電気系」など4種類の講座を用意しています。東京大学生産技術研究所の藤岡洋教授は、「大学全入時代となり、入試の選抜機能が低下したことが大卒者の質の低下につながっている」と指摘しています。

グローバル化により企業も大学も国際間の激烈な競争にさらされ二極化が進んでいます。ゆとり教育と規制緩和で、勉強しなくても大学生になれる時代が続いていますが、英語のbe動詞を教えるカリキュラムを組むなどとても大学教育のレベルとは言えない大学もあり淘汰が進むと予想されます。高校や中学でも早期に職業意識を持たせるべくキャ

リア教育が推奨され、グローバル人材育成を睨み英語が小学校から正課となります。グローバル化は本来は多様化のはずなのですが、グローバル人材養成の掛け声の元、定型化した教育内容となるのは日本的特徴でしょうか。小学校から大学までの16年間、ひたすら就職に向かう一本道を叱咤激励して走らされると思うと、私なら息苦しくなります。まさにグローバル化という妖怪が日本を徘徊していると言えるでしょう。

人は自立しなければなりません。職業は人生の背骨です。従って、学校教育の結果としてそれなりの職業に付けることは望ましいことですが、就活に成功するだけのための教育というのでは「心」は育ちません。入社試験を突破するためなら、ある程度のマナーや常識と成績でこなせます。僅かな面接でその人の価値は測れませんから、つまるところ学歴や文化・芸術・スポーツなどの実績で決めるしかないのです。多種多様な人材をと言いつつも大きなリスクを取らない企業は数値化と定式化された基準での人材採用になります。しかし、就職してからは、知識や技術だけでは限界があります。地位が上がればマネジメント力は人間としての品格や幅の問題になります。逆に、思うに任せぬ境遇に落ちた時も不遇をかこつのではなく新たな希望を見出す力が必要です。これらは数値化できぬ教養の分野です。論理的思考は大切ですが、論理が必ずしも正しいとは限りません。直感を養うことも必要です。この力をつけるのが学生時代であり、読書や芸術鑑賞、スポーツそして恋愛などを通してセンスを磨きます。横道にそれたり立ち止まったりする余裕が要ります。アメリカは大学の学部時代にリベラルアーツを学び大学院で専門分野を学びます。日本では、大学の教養課程が徐々に削られ、細分化された専門分野の勉強が増えているように思います。大学は象牙の塔であってはなりませんが、さりとて実学一辺倒になれば専門学校と変わらなくなります。バランスが大事です。最近の日本は、グローバル化熱に浮かされすぎてユーフォリア（陶酔的熱狂）にあるように思えてなりません。

夏目漱石は明治以降の欧化に警鐘を鳴らし、金や名誉や見栄にまみれる人々を苦々しく見つめていました。そして、そのような時代についていけない高等遊民を主人公に多くの小説を書きました。政治学者の姜尚中氏は、『こころ』の登場人物である「K」も「先生」も親友に裏切られたり親友を裏切ったりしたことで良心の呵責に耐えかねて自死を選んだのではなく、時代そのものに殉死したのではないかと解釈しています。「生きている意味とは、時代と共に生きる感覚のことで、その感覚がずれると、人は生きている意味が解らなくなる。信じられるものが無くなり、そして死にたくなる。」と。

1988年、当時の三共が発売した栄養

ドリンク「リゲイン」のテレビCMソング「勇気のしるし」が一世を風靡しました。〝♪黄色と黒は勇気のしるし、24時間働けますか、リゲイン、リゲインぼくらのリゲイン、アタッシュケースに勇気のしるし、遥か世界で戦えますか、ビジネスマン、ビジネスマン、ジャパニーズ・ビジネスマン♪〟この歌はバブル期のサラリーマンをテーマにしていましたが、奇しくもこの歌の流行の直後から経済は縮小に向かいます。ちょうど私もそのころ商社を退職し大阪に戻ってきました。間もなくバブルは崩壊し、株も不動産も暴落し、潰れるとは思いもよらなかった大銀行や証券会社、ゼネコンが倒産しました。そしてその後20年に亘る長期不況に突入しました。阪神淡路大震災と東日本大震災という2回の大災害は日本と言う国の地理的リスクを顕在化させました。東京電力福島原発事故は目に見えぬ放射能の恐怖を感じさせています。少子高齢化が進み格差が広がりかつての一億総中流意識は消滅しました。正規社員と非正規の格差拡大、小学生のうつ病罹患、2年連続3万人を下回ったものの高止まりをしている自殺者数とそれに占める若者の増加などを考えますと、漱石の時代にだぶります。「アベノミクスで経済再生」、「東京を世界一の都市に」と言う首相や新都知事の言葉もむなしく響きます。親の代より子供の代が豊かになれるという希望もしぼみつつあるのではないでしょうか。右肩上がりの時代同様の勇気はちょっと取り戻す（リゲイン、regain）ことはできそうもないと思います。グローバル化のユーフォリアから距離をおいて、右肩下がりの時代の生き方を粛々と考えなければならないのではないでしょうか。

245
2014/2/14

オリンピックを考える

バレンタインデーの今日、家を出るときはみぞれ交じりだった雨が、電車に乗ったころから雪に変わり、学校に着くと、校庭は真っ白に雪化粧しており、今年2回目の雪の日となりました。地域によっては、白い悪魔となる雪も、生徒たちにとっては心高ぶらせる天からの贈り物のようで、雪だるまを作ったり雪合戦をしたりはしゃぐ姿が散見されました。

雪不足に泣くソチで開催中の冬季オリンピックでメダルを逃がした選手の態度につき、慶応大学講師の竹田恒泰氏が、国費でオリンピックに出場しているにもかかわらず、予選落ちしたのにへらへらして「楽しかったです。いい思い出になりました。」はあり得ないと批判したのをきっかけに賛否両論が噴出しています。竹田氏は、また、選手がメダルを噛むのは品位に欠ける、国歌斉唱時に聞くだけでなく歌うべきだ、日本では胸に手を当てる習慣はない等々、注文を出しています。

「負けて申し訳ないと思わねばならないとしたら、スポーツは国民と選手の義務と圧力の交換になる」とか、「選手はお国のために競技しているわけではない」という意見がある一方で、「メダルを逃した選手は税金泥棒」という意見も出ており、元陸上日本代表の為末大氏からは、国費負担の強化費は欧米や中国に比べても極端に少なく、お金をかけずに結果だけ出せというのもいかがなものかとの反論もあります。

私の記憶の中で鮮烈なイメージで残っているオリンピックは、1964年の東京オリンピックと1972年の札幌冬季オリンピックです。私はまだ子供だったので、週刊誌ネタは目に入らず、純粋に選手を応援していました。また、高度経済成長期でありましたので、国民全体としても高揚感があったように思います。その後、日本はアメリカに次ぐ世界第二の経済大国に登りつめ、オリンピックもどんどん商業化され華美になってゆきました。選手もテレビCMに起用されたりタレント扱いされたりするようになり、国民も選手も少し「いい気」になっていったのではないでしょうか。2010年バンクーバー・オリンピックでスノボー選手の腰パン姿が批判されたのはその表れの一例だったと思います。

かつては、選手自身にも国威発揚の気持ちが強く、国民の税金でオリンピックに出場できているということへの感謝の気持ちがあり、また、送り出す国民の側にも自分たちのために頑張ってくれているという選手へのねぎらいの気持ちが強かったのではないでしょうか。しかし、最近は、「日の丸を背負う」という意識と選手自身の「自己実現」いう意識とのバランスが、国民の側でも選手の側でも微妙に変化してきているように感じます。それがゆえに、上記のような様々な意見が出てくることになったのだと思います。2020年の東京オリンピックに向かっても、国民も選手も各々違う思いをもって臨むことになるでしょう。

ただ、スポーツの基本は規律であり礼節であると考えます。これを無くしては単なるエンターテインメントになってしまいます。選手一人一人のそしてチームの自覚が求められます。これは高校のクラブ活動にも言えることであり、指導者の教育が問われるという点でも同じだと思います。

246
2014/2/16

IT化、欧米流の落とし穴

2月17日号の日経ビジネスの特集「昭和な会社が強い～スマホ・パソコンを捨てる～」は、「私用でスマートフォンを使わない社員に月額5000円を支給する会社」、「3年前にすべての営業担当者からパソコンを撤去、処分した会社」、「朝9時半にならないと

パソコンの電源が入らない会社」等々ＩＴ化や最新理論に頼らず、平成の潮流に背を向けて逆に効率を上げている中小、中堅企業を紹介しています。

これらの企業の社長は決して旧時代の経営者ではなく、キャノン電子の酒巻社長などは、親会社のキャノン時代に米アップル創業者のスティーブ・ジョブズ氏らと次世代コンピューターを開発したこともあるＩＴの専門家です。彼らが口をそろえて主張しているのは、コミュニケーション力の低下です。パソコンメールで社内や客先とコンタクトをとっても感情表現が出来ず上手く意思が伝わりません。相手方のところまで出向く手間を省くことがコミュニケーションを阻害しています。デジタル依存が進むと社員の思考力も弱くなり情報に対して受け身となり自分では何も考えなくなると言います。家電店の社長「モノを売るのが仕事の営業がオフィスでパソコンとにらめっこでは売り上げが伸びるわけがない」といいます。

平成に入り、多くの企業は、業務の効率化と社員の意欲向上ならびに職場環境の近代化に邁進してきましたが、その中身は主に以下の５つにわかれると記者は述べています。①ＩＴ化②ネットワーク化③欧米流労務管理（成果主義、フレックスタイム制度）④組織のフラット化⑤科学的経営（どぶ板営業や勘と経験の排除）しかし、米ヤフーは、「人は多人数でいる方がよりイノベーティブになる。最高のアイデアは異なるアイデアが合わさって生まれる」との理由で、在宅勤務禁止を打ち出しました。成果主義については、評価の納得性に対する不満がある一方で、無難に達成しやすい目標を掲げることでリスクを取らず楽が出来るという面もあります。また、フラットな組織では、権限委譲が進まず、責任回避の体質を生み、一人のリーダーに仕事が集中し、組織が機能不全に陥るという欠点が指摘されています。さらに、データー管理、数値化こそが科学的経営であるとの考えが浸透し、勘や経験は非論理的で旧世代の遺物だという風潮も強まりましたが、それが日本企業の活力低下につながったと考える人も多いようです。

最近は本校でも教職員一人一人に1台のパソコンが与えられています。教材研究やパワーポイント作成など授業にとっても便利で役立つというメリットがあります。しかし、ついつい不必要な情報まで見ることもあるでしょうし、そこまでやらなくても良い資料造りに没頭して時間が過ぎるということもあります。その分、生徒にかかわる時間が少なくなります。「教師がパソコンとにらめっこしていて生徒指導が出来るか」ということにならないとも限りません。また、無駄な会議は省略すればよいのですが、やるべきミーティングまで省いてしまい、意思疎通が上手くゆかなくなる事象も起こっていることも事実であり、大いに反省をしなければいけないと感じます。フラットな組織と言えば、校長をトップに頂き他は全て並列といういわゆる鍋蓋組

織の学校現場がまさにそうであり、人が育たないというその弊害は従来から指摘されてきたことです。私は校務分掌の長に中間管理職としての自覚を促し、権限とともに責任も認識してもらおうと努力してきましたが、なかなか根付きません。特に、年長者や同僚に対する遠慮と若手や新人に対する押しの弱さが指導の不徹底さを招いています。これと同じことが企業でも起きているわけです。

学校現場は企業に比べ近代化が遅れ、ぬるま湯だとの批判もあり、IT化が進められ、企業的経営手法が取り入れられてきていますが、その企業において、理想と現実とのギャップが呈され始めていることを考慮すると、我々もまた、IT化の功罪を再検討すべき時に来たのではないかと思います。

247
2014/2/19

だてマスクに潜む危険

今朝の産経新聞ニュースは、「「だてマスク」すっぴん隠しで人気　ファッション化が拡大するマスク市場」とのタイトルで、家庭用マスク市場の驚異的な伸びを伝えています。平成25年度の出荷金額は239億円に達する見込みで、これは平成15年度の3倍です。また輸入も含めた生産枚数は平成24年度で23億1200万枚にも上るそうです。以前は、風邪を引いてから人にうつさないために着用していたマスクが、最近は、花粉症対策やインフルエンザ、風邪の予防に加えてPM2・5対策である防塵などに使われ

目的が多様化しています。それに加えて、衛生以外の用途として、いわゆる「だてマスク」が流行しています。すっぴん隠しや防寒用にも使用され、メーカーも花柄や刺しゅうなどおしゃれ感覚をくすぐる製品を作っています。この記事の中で特に注目すべきは、聖学院大学人間福祉学部こども心理学科の藤掛明準教授の分析です。「人と関わると、笑顔を見せるとか怒りを表すとか関係性を決断しなければならないが、マスクをすると表情が見えないのでそうした人間関係を保留することが出来る。現代青年の対人恐怖がそこにはある」と指摘。また「現代の若者はメールやSNSなど人と直接接しない多様なコミュニケーションに慣れており、そうした文化が根底にあるのではないか」とのこと。

「だてマスク」については、本校生徒にもここ1～2年、増えてきており、以前にも好文木で書きました。また、耳にイヤホンをして音楽を聞きながら登下校する生徒も多くなっています。これは周りの音が全く耳に入らず大変危険なのですが、他者との交渉を断とうという意思表示でもあるように感じます。今朝も校門で生徒を迎え、私たちが「お

はよう」と挨拶をしても、マスクにイヤホンで無反応で通り過ぎて行く生徒が何人かいました。挨拶はお互いを認め合う大事な行為なのです。それを拒絶しているということを理解させねばなりません。人としての基本であり、教育の第一歩なのです。

コミュニケーション（communication）は情報の伝達・報告という意味ですが、元となるcommuneには親しく交わる（語り合う）という意味があります。科学技術の発達はメールやSNSなどツールを介した間接的なcommunicationを容易にはしましたが、face to faceの心と心が触れ合う直接的なcommuneを遠ざけてしまっています。イヤホンとだてマスクは、「言わざる」、「聞かざる」の姿勢を象徴しています。そのうち、見えるものも見えなくなり「見ざる」状態になってしまいます。人間社会は他者との関わり合いで成り立っています。多種多様な考え方の人間とどのように上手に付き合ってゆくかの繰り返しです。にもかかわらず、それが出来ない人間が増えてきたなら、孤立化が進みます。マルクスは人間が自己のつくり出した生産物や制度によって支配され、次第に人間性を喪失してゆく状況を「疎外」と呼びました。時代を超えて、搾取や苦役ではなく便利でときに楽しませてくれるツールが、子供たちの中に疎外を生み出しつつある状況はさらに危険だと思います。

248
2014/3/1

平成25年度卒業式式辞

361名の3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。今日はみなさんに、私から最後のメッセージを送ります。

2011年4月、みなさんを迎えた入学式から早や3年の月日が流れ、就職へ、進学へと新たな一歩を踏み出す時が来ました。この3年間を大過なくすごせた人もいれば、失敗を繰り返し挫折しそうになりながらも卒業にたどり着いた人もいます。1月半ば、一人の生徒から手紙をもらいました。その中には卒業を間近かに控え、将来への様々な不安と恐れが綴られていました。人には自分ではどうにもできない環境があります。彼女はこの3年間をまさに悪戦苦闘の末に乗り越えてきました。私は彼女への返事の中で、今の彼女の姿を「カッコいい」と書きました。そして、「私はいつも「カッコ良く」生きたいと思っている。お互い一緒にカッコ良く生きる努力をしよう」と呼びかけました。カッコ良く生きるとは、自分を大事にし、自分を磨き、自分を諦めないことだと私は思っています。

さて、地球規模の自然災害の多発とグローバル化の進展により不確実性が高まっています。政府は、少子高齢化が進む日本経済の成長には女性の力が不可欠であるとし、女性の社会進出を促進する方針です。企業における女性管理職の割合は欧米では平均30～40％ですが、日本では4・9％と極めて低い状況にあります。これを2020年までに30％に増やそうという「20・30計画」を立てています。企業も相次いで管理職に占める女性の割合の数値目標を掲げ始めています。昇格教育プログラムや3年間の長期休暇制度の導入の検討も始まっています。結婚や出産をしても、会社を辞めることなくよりフレキシブル

な働き方が出来る日が来るのもそう遠いことではないでしょう。これにより、一世帯を二つの収入で賄うダブル・インカムがさらに定着してゆくことと思います。昨年、フェイスブックのCOO（最高執行責任者）シェリル・サンドバーグさんの『LEAN IN』という本が話題になりました。アメリカにおいてすら女性が男性と対等に働くにはまだクリアーしなければならない障壁がありますが、先端企業の経営者として、仕事と家庭の両立に果敢に挑戦している姿はやはりカッコよく感じました。これからは、日本においても、LEAN IN即ち一歩踏み出す志ある女性にとっての活躍の舞台は広がるものと思います。

不確実性の時代を生き抜くうえで最も大切な武器は、何でしょうか。資格やスキルは確かに強味にはなります。しかし、世の中は千変万化し専門化と細分化がさらに進みます。一旦取った資格や身に付けたスキルも直ぐに陳腐化してしまいます。常に学ぶ姿勢と自分の頭でとことん考える習慣をつけることこそが最も大事なのです。

パソコンや携帯電話など情報機器は大変便利ですが、それらに依存しすぎると、情報の取捨選択が出来ず、自分の頭で何も考えなくなってしまいます。人と人とのコミュニケーションに有効なツールとして開発された情報機器が、逆にコミュニケーションを阻害するという負の側面が目立ち始めています。この点に気が付き、社員にスマホの使用を禁止したり、営業担当者の机からすべてのパソコンを撤去、処分したりして、face to faceのコミュニケーションを復活させ、業績を上げている企業もあります。IT化の流れは止めることはできません。情報機器に使われるのではなく使いこなす思慮深さが求められます。

さて、この春から、あるいは大学や専門学校卒業後、みなさんは自立するために働くことになります。働いて収入を得なければなりません。お金は人が生きて行く上ではなくてはならない大切なものです。しかし、お金のためだけに、自分のためだけに働いていると、「こんな仕事は面白くない」とか「もっと収入のいい仕事がしたい」とか、不平不満が溜まりやすくなります。働くという言葉には傍を楽にするという意味もあり、人を楽にさせたい、人を幸せにしたい、人を喜ばせたいという気持ちを持って働く人は成長します。成長すれば、より責任の重い仕事を任されるようになり、収入も増えてゆきます。昔と違い、転職は当たり前になりましたが、少しかじっただけで自分に合わないからと言って次々に職を変えてもキャリアアップにはならず収入も上がりません。キャリアアップを図ろうとすれば、今の職場でスキルアップしなければなりません。そのためには最低3年は辛抱して仕事に取り組む必要があると思います。逆に言うと、最低でも3年間は勤められるよう

な仕事内容と会社をファースト・ジョッブに選ぶことが大事なのです。

私は大学卒業後7年間、総合商社に勤務し、仕事のイロハをみっちり仕込まれました。私のいたこの会社で、社長、会長を歴任し、後に中国大使に就任した丹羽宇一郎さんはビジネスマンの心得を次の言葉で表しています。「君はアリになれるか？　君はトンボになれるか？　そして君は人間になれるか？」アリのように黙ってコツコツ努力して働いてください。トンボの目で物事を複眼的に見る習慣を身に付けてください。そして、人として優しく強い心を育ててください。これはけっしてビジネスマンにだけ必要なことではありません。どんな仕事に就こうとも、誰にとっても必要な視点です。「君はアリになれるか？　君はトンボになれるか？　そして君は人間になれるか？」、自問自答しながら、これからの人生をカッコよく歩んで行ってください。みなさんの健康と幸せを心から祈りつつ、私の式辞といたします。

249
2014/3/3

卒業式を終えて

卒業式も7回目となると、式辞をどうしようかと悩みました。卒業生に贈る言葉は、3年間で学んだことと今後の指針となる事柄であり、そう毎年ころころ変わるものではありません。卒業生は毎年変わるのですから、同じ話をしても良いのですが、それではちょっと手抜きの様に思います。また、大変有難いことに、西淀川区内の地元4中学校の校長先生が毎回の卒業式に出席してくださっているのです。そして、私の式辞を大変興味を持ってお聞きくださり、中にはメモを取っておられる校長先生もいらっしゃります。そこで、今回もまた話す内容の吟味を直前まで行いました。

式辞には、①好文学園の教育方針②最近の社会問題③生徒との具体的な係わりが解るエピソード④私自身の体験談⑤識者の体験談、等を構成要件に入れるように心掛けています。今回の実際の式辞には、ホームページに掲載した内容に急遽付け加えた部分がありました。というのも、式当日の朝、校長室のデスクの上に生徒からの手紙が置かれたからです。

「3年一同より」と書かれていた手紙の内容は次の通りでした。「校長には、入学から卒業までの間たいへんお世話になりました。校長はすごい身近な校長やなと思いました。今までの校長は、体育館の前でべらべら話をしている存在やったけど高校に来て、朝、門で生徒を迎えたりしていてびっくりしました。校長やからこそ今の好文を作り上げたんやと思います。過ごしやすかったです。3年

間有難うございました。」この手紙を読んで、これは3年生の数人の生徒の気持ちを代表して一人の生徒が書いたものだろうと思いました。そしてその生徒は私が結構かかわりを持った生徒だろうと想像できました。「校長先生」と言わずに「校長」というところに、やんちゃさとともに親近感を抱いてくれている温かみを感じたのです。

式辞の最後で、この手紙を読みあげ、「ありがとう」と素直に嬉しい気持ちを伝えました。そして、次のように述べました。「この手紙には1箇所まちがいがあります。今の好文を作ったのは私ではありません。みなさんの先輩とみなさん自身です。好文学園とは校長でもなければ、教職員でもなく、校舎でもありません。あなた達生徒なのです。今の好文学園の評価を作ったのはあなた達なのです。だから、みなさんは自信を持って卒業していってください。みなさんの健康と益々の活躍を祈ります。」

250 2014/3/5 ビットコイン

先日、マウントゴックスという会社が倒産し、ネット通貨ビットコインが話題に上っています。ビットコインとは何なのか、新聞を読んでもテレビで説明を聞いても今一つ良く解らなかったのですが、〝YAHOOニュースの小暮太一のやさしいニュース解説〟で、イメージが湧きました。小暮さん（ビジネス作家）の解説によりまと、ビットコインはネットショッピングで使われる「ポイント」のようなもので、手に入れるには、それを扱っている会社に口座を作り、そこに送金します。「ポイント」を買うイメージです。買ったビットコインは、その口座の中に入っており、その口座から出し入れする感覚で支払いや受け取りをします。ネット銀行と同様です。ところが、このビットコインには資産運用の意味合いもあります。即ち、ビットコイン自体が株の様に値上がり、値下がりします。

ビットコインは中西哲史と名乗る人物によって投稿された論文に基づき、2009年に運用開始されたと言われており、誕生から謎に包まれています。中央銀行や政府のコントロール下にもなければ、信用の裏付けもありません。また、採掘と言われるコンピューター上の複雑な認証作業を経て、新しくビットコインを取得することもできるようです。システムの中でビットコインの総量も規制されていると言います。ビットコインは銀行を通さずネット上で数字を移し替えることで簡

単に移動でき手数料もごくわずかで済みます。

このビットコインの口座を管理しているマウントゴックスが倒産しました。マウントゴックスの説明によれば、誰かが不正にシステムに侵入し、ビットコインを引き出してしまった、いわゆるハッキングが原因だということです。ただ、利用者から預かった現金28億円もなくなっているらしく詳細究明が待たれます。

各国政府は、麻薬取引や脱税など資金洗浄に利用されることを恐れており、今回の事件をきっかけに、規制が強化されそうです。日本政府はビットコインを通貨ではなく、モノと認定し、貴金属同様に売買益に課税する方針を打ち出しました。

発行者や管理者が誰なのか良くわからなく、取引所の信用も測り得ないにもかかわらず何千万単位のお金をビットコインにつぎ込んでいる人がいることが不思議でなりません。信用の裏付けがないモノに、なぜ巨額の資金を投ずるのでしょうか。例え、キプロスやアルゼンチンのように、国の信用が揺らいでいるとしても、ビットコインなら信用できるという根拠がどこにあるのでしょうか。国ですら信用が無くなればその国の発行する通貨や国債は暴落します。バーナンキFRB前議長や一部の金融専門家は、ビットコインを将来有望だと肯定的に受け止めているのですが、私は極めて懐疑的です。

「私に一国の通貨の発行権と管理権を与えよ。そうすれば、誰が法律を作ろうとそんなことはどうでもよい。」とは、ロスチャイルド金融財閥の祖、マイヤー・アムシュル・ロスチャイルドの言葉です。通貨発行権は王権にも勝る価値があるということであり、金融を支配するものが世界を支配するということです。

IT化の進展が、人々の生活の基盤を、現実社会、現物主義からインターネット上の仮想社会へ移行を進めてきました。その結果、ブラックボックスのコンピューターが生み出す仮想通貨ビットコインが生まれました。コンピューターに通貨発行権と管理権を委ねたわけです。小学生からスマートホンを持ち歩き、ネット漬けの子供たちが増えています。LINEやFacebookでのトラブル、ブログ炎上も相次ぎ、言葉は軽くなり感情は希薄になっています。この部分では既に我々はコンピューターに支配されて自分の頭で考えることから逃走していると言えるのですが、今回はそれがお金の分野にまで及んだようです。

米投資・保険会社バークシャー・ハサウェイのCEOで世界的な投資家のウォーレン・バフェットは、コカコーラやP&Gなど優良企業への長期投資を通じて安定して高収益を上げています。彼の投資スタンスは次の4点に集約されます。①事業内容が理解できるもの②長期的に業績が良い③経営者に能力がある④株価が魅力的な価格である。彼は企業の決算書を詳細に読み込み、自分の頭で理解し判断できる企業にしか投資をしていません。金融街と程遠い地元ネブラスカ州オマハ在住のため「オマハの賢人」と呼ばれているこの84歳の老人は、「ビットコインは投機的で通貨の基準を満たしていない。10年後、20年後には無くなっていてもおかしくない。」と発言しています。

251
2014/3/13

若者の厳しい現実

三月も半ばとなったにもかかわらず、寒い日が続いています。大手企業の春季労使交渉ではトヨタなどがベースアップに相当する賃金改善に応じ、ヤマトは運賃の一斉値上げに踏み切るとの報道があり、給料アップと物価上昇が取りざたされ、アベノミクス効果が宣伝されています。この20年、大手企業は、正規従業員の大幅削減と不採算事業の売却で巨額の赤字を計上し、ようやく反転攻勢の準備が整ったように見えます。しかし、円安、株価上昇もアベノミクス効果と言うよりはアメリカの景気回復の影響が大きく、円安による燃料価格の高騰や新興国の人件費の上昇などコストアップ・インフレを上手く吸収して、成長分野を開拓できるかが鍵になると思います。また、今回の賃上げはたぶんに安倍政権の要請に意識的に答えようとしたものではないかと思います。13日の日経新聞は一面トップで、「ベア回答7割に～業績回復追い風」との記事を掲載しています。このタイトルだけを見れば、7割の企業がベースアップを回答しているように受け取れますが、詳しく読むと景色は随分変わります。国内の主要企業対象にアンケートを実施し、有効回答を得た企業は101社です。そのうち、賃上げを回答したのは52社で、ベアを実施するのがほぼ7割の36社という話です。7割の実態は上場企業で超一流の大企業36社なのです。

今、アメリカやヨーロッパでは若者の失業が大きな社会問題になっています。ウクライナ出身のアメリカのジャーナリスト、リヴァ・フロイモビッチは1976年から2000年生まれを「Y世代」と名付け、「End of The Good Life」のなかで、親世代より豊かになれそうにない欧米の若者の実態を描いています。彼の両親は1981年に旧ソ連からアメリカに移住し、アメリカンドリームの恩恵に浴しました。しかし、Y世代にはもはやアメリカンドリームは期待できないと言います。貧富の格差は拡大し、アメリカの所得者の上位10%（年収11万4000ドル以上）がアメリカ全体の所得の半分以上を手にし、上位1%が全体の5分の1以上を受け取っているという最新の調査データーが示されています。これは世界大恐慌以来最高の値だそうです。大学を卒業し学位を取得しないと就職口が狭まるので、多くの学生は教育ローンを組んで大学に進みます。欧米では大学院の価値が高いので大学院へ進むとなると更に総額が増えます。ところが、イギリスの国家統計局の資料によると、1990年代初頭の大卒と比べ、卒業に漕ぎ着けてもなかなか就職できないという学生が増えているのです。何とか就職できても、自分が身に付けた教育レベルよりはるかに下回る仕事に甘んじなければならない場合もあり、数百万円から1000万

円を超えるローンの返済に40歳近くまでかかってしまうことになります。先進国はどこも高齢化が進み、高齢者への福祉や医療に優先的に税金が回り、教育費が削減傾向にあります。補助金が減る大学は学費を値上げすることになり、ローンを抱える学生にとっては弱り目に祟り目です。

昨日、連携大学のアドミッションオフィスの担当者がお越しになったので、この話をしたところ、日本でも欧米と同じ状況になりつつあるようです。その大学の学生も大半が奨学金に頼っており、4年間で目いっぱい借り入れると返済は700万円になり42歳にならないと完済しない計算になるとのこと。また、責任を取る必要がなく正社員より高い時給がもらえる派遣をあえて選択する若者も増えているそうです。フロイモビッチ氏は、自らもY世代に属す28歳で、両親が養ってくれたようには自分の子供を養えないばかりか自分自身も養えないのではないかと思っています。私も同じように感じています。私自身は既に57歳ですから、なんとか持ちこたえられそうですが、子供たちには私が過ごしてきたのと同じ生活は与えられないと思うと、申し訳なくもあり寂しくもあります。既に我々の足元でもEnd of The Good Lifeは現実のものとなっているのです。

理想形の人口ピラミッドが大きく崩れ、高学歴化とIT化が中間層の仕事を奪い、非正規雇用がそれに拍車をかけ、若者が経済的安定を入手できなくなり、更なる少子化につながるという悪循環を断ち切らねば、若者の半数が失業しているスペインのような状況になることも現実味を帯びてきます。「頑張ってしっかりと勉強をすれば、未来は明るい」と言えた時代は過去のものとなり、「頑張ってしっかりと勉強しなければ、沈み続ける」と言わなければならない時代を迎えたのでしょう。

252
2014/3/27

新入社員のタイプ

新入生383名の入学が決まり、クラス分けが完了し、時間割の調整に入っており、新学期を待つばかりとなった職員室には静かな時間が流れています。

今春の新入社員は、「安全運転の自動ブレーキ型」と、日本生産性本部が発表したと日経新聞は伝えています。頭の回転は速いものの、困難な壁はぶつかる前に未然に回避する傾向があるそうです。知識も豊富で就職活動も手堅く進め、情報収集能力にもたけて、人を傷つけない安心感もあると分析しています。ただ、安全運転も結構だが、前向けに挑戦して失敗の中から学ぶ経験をしてほしいと訴えています。

生産性本部は長年にわたり毎年、新入社員の特徴を纏めています。そこで、過去の新入社員のタイプ一覧を振り返って見てみました。昨年平成25年度は「ロボット掃除機型」で、均一で小まめに動き回るが段差（プレッシャー）に弱く、裏返るともがき続けるので、能力を発揮させるためには環境整備（フォローや丁寧な教育）が必要とのこと。平成22年度は、性急に関係を築こうとすると直前まで心のバーが開かない「ETC型」。平成19年度は、景気回復で久々の大量採用だが、氷河期と異なり、細かい損得勘定が働き、早期

転職が予想される「デイトレーダー型」でした。平成12年度（2000年）の「栄養補給食品型」は、ビタミンやミネラル（語学力やパソコン活用能力）を豊富に含み、企業の体力増強に役立ちそうだが、直射日光（叱責）に弱く、賞味期限（試用期間）内に効果（ヤル気）薄れることありとは、言い得て妙です。

ちなみに、私が大学を卒業し就職した昭和56年度（1981年）は、「漢方薬型」で、煎じ方悪ければ、効き目なく副作用が生じるとの評になっていました。その年度に流行ったモノからタイプ名を取っているのが多いのですが、私が就職時に漢方薬ブームであったのかどうかは覚えていません。しかし、「煎じる」というところに、ある程度時間をかけて育てようという採用側の覚悟が見て取れますし、「漢方薬」のようにじわじわ効果が表れてくることを是認し、長い目で育てようという姿勢も窺い知れます。確かに、私の当時の上司は、「10年間は給料を払って仕事を教えるようなもの。11年目からようやく会社に利益をもたらせてくれると思っている」と言っていました。今、同じ会社に私の甥が勤めていますが、こんな有難い言葉はたぶん聞いていないと思います。グローバル化により、「漢方薬」から即効性のある「抗生物質」へニーズが変化しました。抗生物質にも副作用はあり、強烈なアレルギー反応を示し、嘔吐やめまいの症状が現れます。

本校もここ2～3年、毎年新規採用があり、新卒の若者が教員として入ってきています。「今どきの若者は」という言葉は良く聞きますが、さてさて、自分の新入社員時代を思い出すと、あまり偉そうなことは言えません。

253 2014/3/29 ユニクロ店舗全員経営に学ぶ

今、ユニクロが経営大転換を図ろうとしています。国内店舗に勤めるパートタイマーとアルバイト3万人のうち、学生アルバイトなど短期に勤める従業員を除く半数以上、16000人を正社員化し、スタッフが主役の経営に切り替えます。急成長を遂げる海外マーケットに比して国内は飽和状態にあります。柳井正会長兼社長は3月11日に開かれたファーストリテイリングの「FRコンベンション」で4100人の従業員と役員を前に「店長」が主役だった経営から「スタッフ」主役の経営に180度の方針転換を宣言しました。国内の正社員は、地域限定型のR（リージョナル）社員と国内転勤可のN（ナショナル）社員、海外勤務にチャレンジするG（グローバル）社員の3つに分け、従業員の希望に応じた長期雇用で、ノウハウの蓄積と生産性の向上を図ります。

また、内部の調査によれば、優秀な店長はスタッフを巻き込むことが出来、パートやアルバイトが自律的に働いているとのこと。そこで、売り場を最も知るスタッフに一定の権限を与え、商売を任せ、店長とスタッフ間のコミュニケーションを密にし、活気をもたらそうと考えています。

安定した給与と社会保障を与え、雇用の継続を担保することにより、従業員のやる気を出させ、結果として業績アップを狙おうとの考えです。世界市場で生き残りをかけて、スペインのインディテックス（ZARA）、スウェーデンのヘネスアンドマウリッツ（H&M）、アメリカのギャップ（GAP）などグローバルアパレル企業と戦うためには、店長のみならずスタッフを巻き込んだ店舗全員経営が必要だとの結論に至ったようです。

グローバル企業ユニクロと小さな私立高校、好文学園とでは、月とすっぽんですが、組織運営という点では、このユニクロの方針転換に込められた考え方は大いに参考になります。教職員のやる気の総和が学校活力に反映しますし、やる気を出させるためには安定した給与と雇用が基盤になることも同じです。そして、組織力を発揮するためには教職員間のコミュニケーションを密にすること、そして、一人一人が創意工夫して仕事に当たることもまた同じです。学校にはいわゆる正社員である専任教諭と専任への試用期間的意味合いを持つ期限付き雇用契約の常勤講師そして非常勤講師の3パターンがあります。専任比率を上げると人件費を圧迫するので、非常勤の比率を高める学校もありますが、授業コマ数を充足することはできますが、担任や校務分掌を持ってもらうことが出来ないので、生徒指導面での戦力ダウンにつながります。生徒への手厚い対応を考えれば専任比率を高める必要があります。

柳井会長は、「ブラック企業という批判を受け、変えるべきところは変えないといけないということだが、基本的な考え方は全く変えません。特に労働集約的な産業で甘い企業で成功している企業は一社もないと思う。」とも述べています。学校もまた労働集約型であり、少子化がさらに進む中、甘い組織では生き残っては行けません。専任が充足すれば、そう毎年新しく採用を行う必要は無くなります。私立は転勤がありませんので、長期スパーンで物事を考えられるメリットがある反面、マンネリ化し、ぬるま湯化するデメリットもあります。これを防ぐために、人事評価制度を導入していますが、ドラスティックな給与格差は付けにくく、有効性に疑問符が付きます。柳井会長は、以前は全社員にグローバル社員になることを求めていましたが、「僕は1人ずつの人を説得したら変えられると思ったんですよ。でも人はやっぱり自分の過去とか自分の経験とか自分の能力とかいったことで変えられない人もいる。でも変えられ

ない人を否定してもしょうがないということなんです。だから変えられなくてもこつこつ頑張っている人は、それはそれとしてやっぱりいい人生だなと言ってもらえるようにしたい。」と述べています。私も全く同感です。できなくてもそれなりに一生懸命にやっている人にはそれなりに報いてあげたいと思います。但し、開き直って変わろうとする人の足を引っ張るような人はお引き取り願いたいと思います。厳しい経営環境に思いを致しながら、4月2日の新人研修の準備を進めています。

254
2014/4/5

平成26年度入学式式辞

383名の新入生のみなさん、入学おめでとうございます。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。入学に当たり、みなさんに好文学園で学ぶ3年間の意味についてお話をしたいと思います。

義務教育を終えたみなさんは、大人への階段を少し速度を上げて登ってゆくことになります。なぜ速度を上げなければならないかと言えば、高校を卒業して就職しようと考えている人は社会に出るまであと3年しかないのです。また、大学に進学しようとする人も将来の職業をある程度考えたうえで進路先を決めねばならず、この3年間は密度の濃い過ごし方が要求されます。

大人の必要条件は「自立」です。自立には二つの側面があります。一つは経済的自立でありもう一つは精神的自立です。経済的自立は社会の中で然るべき働き場所を得て自活できることです。精神的自立は、考え方や好みの違う人間とも上手くやって行ける寛容さです。これはけっして付和雷同を意味するものではありません。自分なりの考えをしっかりと持ったうえで、他人の意見にも耳を傾けその立場に一定の理解を示せる度量が求められるのです。精神的自立は「言うは易し行うは難し」で、年齢的に大人であってもなかなか達成できるものではありません。「人生は一生勉強」と言われる所以だと思います。

高齢化とグローバル化が若者の働き方に変化をもたらしています。私がみなさんの年齢のころは、高校や大学を卒業すれば、正規社員として雇用されるのが一般的でしたが、今では非正規雇用の割合が増えています。総務省統計局の最新のデーターによれば、15歳から34歳までの若者の28%が非正規の仕事に従事しています。日本企業においては、給与や社会保障、教育研修制度、雇用の安定など圧倒的に正規従業員に比べて非正規の派遣やパート従業員は不利な立場に置かれているのが現状です。経済的自立を確実にするために

は正社員としての雇用を獲得することが望まれます。

好文学園では、一人一人の生徒が将来、自立出来ることが、幸せな人生の第一歩であると確信し、1年次から進路を見据え、良き社会人となるための勉強を始めてまいります。「人は見た目が9割」と言われます。見た目がいまいちでも素晴らしい才能や人間性を持ち合わせている人もいますが、他人に評価されねばそれも生かすことが出来ません。人の印象は会って6秒で決まるとも言われます。

きちんとした身なりできちんとした挨拶が出来ることが、自分を生かす道を拓く突破口になります。

勉強はできるに越したことはありませんが、点数にこだわるのではなく、自分の頭で一生懸命に考えることが大事なのです。若いみなさんの頭は知識を吸収したくてうずうずしているはずです。新車のエンジンと同じで、使い始めに多少の負荷をかけておかなければ走らなくなってしまうのです。しっかりと脳を活性化してください。難しい問題も初めから諦めずチャレンジしてください。考える力を育む最も有効な方法は本を読むことです。LINEやTwitterでのトラブルが後を絶ちませんが、情報機器は基礎力が備わった人が使えば、効率アップにつながりますが、そうでない人が使えば自分の頭で何も考えることが出来なくなるだけでなく、時には人を傷つけてしまいます。

人は失敗や挫折を経験し、それらから学ぶことで成長します。国語的には「成功」の反対語は「失敗」が正解ですが、人生では「成功」の反対は「何もしないこと」なのです。夢を叶えよう、幸せを掴もうと思えば、人は変わらなければなりません。ところが、変われない理由をあれこれ見つけて自己弁護に終始しがちです。変わる勇気を持ってください。「過去と他人は変えられないが、自分と未来は変えられる」のです。

これからの3年間で、でこぼこ道や曲がりくねった道でも難なく走れるような強靭な足回りと耐久性あるエンジンを備えた、即ち、挫折力を身に付けた人間になれるよう努力してください。少子高齢化の進む日本では女性の社会進出がますます期待されています。その環境も徐々に整ってゆくものと思われます。志を高くもって女子力を向上させようではありませんか。あなたがた一人一人の幸せのために。みなさんの健闘を祈ります。

255
2014/4/6

卒業生の思いに

この時期になると、今年の卒業生たちが、大学や専門学校の入学式帰りに学校に戻って

きます。昨日も一人の卒業生が職員室に来ておりました。何人かの教員と話をした後、最後に校長室のドアを叩きました。招き入れ椅子を勧めると、その椅子ごと私の傍に寄ってきて、少し口ごもりながら話しだしました。「私、校長室に入ったの初めてです。校長先生に話をしたいと思いつつも躊躇したまま3年が経ってしまいました。今日も学校に来るつもりはなかったのですが、専門学校の入学式で話を聴いていたら、校長先生が卒業式の式辞で話されたことを思い出し、好文学園に寄ろうと思ったのです。」と。どうやら、専門学校の校長も私と同じようなことを式辞の中で述べられたようなのです。先生方に食べてもらおうと買ってきてくれたドーナツが1つ残っており、「食べてください。」と差し出してくれたので、「ありがとう。頂くよ。」と言って箱から採り出したら、紙ナプキンをそっと机に置いてくれました。その何気ないしぐさがとても大人びて優しく嬉しく感じました。

「入学当初、校長先生は私に声をかけてくださいましたが、覚えておられますか。」と訊ねてきたので、「覚えているよ。一階の階段下の椅子のところだったよね。お母さんと心細そうに立っていたじゃない。」と答えると、嬉しそうな顔をしました。彼女は好文学園へは不本意入学でした。家も少し遠いので、結構な額の定期代と授業料を出してまで行く価値があるか入学してからも思っていたそうです。クラスの他コースの生徒たちと上手く付き合えなかったり、休みがちになったりしていました。学校のルールや先生たちの話も、「どうしてそんなことしないといけないのか。」疑問におもたことも沢山あったと言います。

3年間同じだった担任のサポートもあり、無事卒業し、行きたかった服飾系の専門学校に進学しました。卒業式を終え、春休み学校に行く必要が無くなりゆっくり過ごしていたら、好文学園でのことが思い出されたそうです。「電車の中で、スカートを短くしたり、だらしなく制服を着ている他校の生徒と、好文学園の生徒を見比べると、やっぱり制服はきちんと着る方が美しいと分かりました。」また、「元気な体育コースの生徒とは上手く付き合えないと考えていましたが、それは自分の思い込みで、自分から変われば良かったと思います。みんないい子ですものね。」としみじみと語ってくれました。「お辞儀の仕方がいいと、私、褒められたんです。」と言いながら、私の机の上に置いてあった小笠原流礼法入門の教本を見つけて、「これです。このお蔭です。」と指差しました。

彼女は、「私、好文学園の卒業生として学校案内等に名前を載せてもらいたいのです。」と言いました。「もちろん、OKだよ。」と言うと、「デザイナーとしてちょっとは自信が持てるようになったらお願いします。」と

言いました。私は、「その時は、好文学園の制服のデザインを頼むよ。」と言いました。彼女は「え、本当にいいんですか。がんばります。そして校長先生が着れるような服も作ります。」と目を輝かせていました。「その日を楽しみにしているよ。」と答えながら、目頭がジーンと熱くなりました。卒業してまだ日が浅いにもかかわらず、彼女は好文学園に感謝の気持ちを抱くようになっていました。そして最後に、「私はクラブに入っていなかったので、今の気持ちを後輩に伝えることが出来ません。好文学園で最後まで頑張るように卒業生が言っていたと、この私の気持ちを是非在校生に伝えてください。」と言ったので、「来週の始業式で、全校生徒に私からしっかり伝える。」と約束しました。校長室をあとにする彼女の後姿に、幸多かれと心から祈らずにはおられませんでした。

256
2014/4/8

新学期始まる

昨日の始業式、前回の好文木で紹介した「卒業生の思い」を全校生徒に伝えました。少しはおしゃべりする子もいるかなと覚悟しておりましたが、予想に反して、みんな静かに話を聴いてくれました。首を伸ばして私の方を見つめている生徒もいました。1000人の中でどれだけの生徒が本当に理解してくれたかはわかりませんが、結構多くの生徒が真剣に受け止めてくれたのではないかと思います。やはり、身近で具体的な話題には吸引力があったように思います。

新学期になって、2年生も3年生もほとんどのクラスが変わりました。やっとクラスメートと仲良くなり上手くいっているのでクラスを変えないでほしいという生徒からの要望もありましたが、一方で、どうもクラスが上手くゆかず、特に授業に集中できないので、クラス替えをしてほしいという声もありました。心理学者のアルフレッド・アドラーは「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」と言っていますが、全くその通りだと思います。そして、人は変わる勇気を持たねばならないのですが、なかなか踏み切れません。各学年の主任や副主任と話をし、そのチャンスを提供するためにもクラス変えをするのが妥当だとの結論に至りました。コースの人数と特性でこの対象に入らないクラスもあったのですが、そこは了承願いたいところです。

今朝はまだ寒かったのですがだんだん気温

も上がり良い天気になりました。桜は花が散り葉桜となり、替わってもみじが小さな葉を付けだし、新緑の季節の到来を告げています。昼休み、生徒たちがグループ毎に芝生の上でお弁当を楽しんでいます。みんな笑顔なのでつい声をかけたくなりました。「小さなお弁当箱やね。それで足りるの?」、「私、体は大きいけど、お弁当は小さいの（笑い）」等など。今日のように暖かくなると、芝生の表面の温度は高くなりますが、その下の土はまだ少し冷たく、座った時にちょうど良い感じになります。これが人工芝だとこうはいきません。真夏などは暑くて座れないでしょう。やはり天然芝ならではのリラクゼーションのひと時です。

257
2014/4/9

春うららの休日

先週の日曜日、前夜からの雨が上がり晴れて暖かくなったので、久しぶりに拙宅の庭掃除をしました。カシやシイなどの常緑樹は、春になると古い葉を一斉に落とし、新しい葉と生えかわります。秋は落ち葉にも趣があるので、しばらくは赤、黄、茶の落ち葉を庭に留めておきますが、この時期は次々に咲き出す花や新芽の邪魔になるので直ぐに掃除に取り掛かりたくなります。

重い腰を上げて庭に出ると、石南花（シャクナゲ）が綺麗に咲いていました。随分前に軽井沢からの帰りに植木屋さんで買い求めたものです。遠くから見ると大きな一つの花に見えますが、ツツジの花が固まって咲いた感じです。赤いヤブ椿も花をつけ出していましたが、今年は小輪の白の侘助がたくさん花をつけています。鉢植えを地植えにして数年が経ちだいぶ背丈も伸びました。侘助は茶花として好まれる椿で、茶人、笠原侘助に由来するとも言われている一輪挿しに似合う小ぶりの椿です。

春うらら、一心に落ち葉掃除をするのも楽しいものです。ただ、あとで、足腰にきますが。最後に手水鉢の水を入れ替え、すっきりとした庭を眺めながら枝垂桜の梢でなく鶯の声を聴きながら、ウッドチェアーに腰かけて、しばしボーとした時間を過ごすのが私のストレス解消法です。

ドリョクニマサルテンサイナシ
努力に勝る天才なし

チャンスメーカー
好文学園女子高等学校
KOUBUN GAKUEN GIRLS' HIGH SCHOOL

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 3-8-22
TEL.06-6472-2281 FAX.06-6472-2365
URL.http://koubun.ed.jp/